性癖に正直に生きてたらヤンデレに追いかけられたんだが

Van—B

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

なお、ヤンデレは長身傲慢恵体竜王と高潔鉄壁聖人騎士王と生意気加虐総領娘の三人とする。

目　次

プロローグ
【悲報】ワイ将、国家に軍隊を差し向けられる【人生終了】 ―― 1
第一幕　イッチやらかし編
【煌天女帝】フレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ【暁に墜つ】 ―― 24
【覇界聖王】フレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ【神前で啼く】 ―― 57
【覇界聖王】フレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ【神前で啼く】その2 ―― 83
【主羅統娘】フレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ【後悔と絶望】 ―― 116
【主羅統娘】フレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ【後悔と絶望】その2 ―― 144
幕間　ヒロイン視点
【煌天女帝】の独白 ―― 174
【覇界聖王】の宣誓 ―― 183
【主羅統娘】の孤独 ―― 196
第二幕　イッチ逃亡編
【草で】お前らがかわいそうなワイを助けるスレ【埋めるな】210 ―― 210
やっちまった…… ―― 233
やっちまった……その2 ―― 257
【俺はどうすれば】何も悪いことしてないワイをお前らが助けるスレ【報われるんだ？】 ―― 283

【俺はどうすれば】何も悪いことしてないワイをお前らが助けるスレ【報われるんだ？】その２ ―― 309
【俺はどうすれば】何も悪いことしてないワイをお前らが助けるスレ【報われるんだ？】その３ ―― 332
【娘ちゃんねる】イッチことフレッドリーツ・レアライヒが来るのを待つスレ６６６【同時視聴】 ―― 361
【娘ちゃんねる】イッチことフレッドリーツ・レアライヒが来るのを待つスレ６６６【同時視聴】その２ ―― 385
幕間　ヒロイン視点
【主羅統娘】の決意 ―― 411
【覇界聖王】の愛憎 ―― 424
【煌天女帝】の咆哮 ―― 439
第三幕　イッチ決戦編
【ついに掴んだ】ワイがハーレムを作るための準備スレ【俺の剥き出しの性癖】 ―― 450
【ＶＳ．】ワイが世界の命運を賭けてハーレムを作るスレ【主羅統娘】 ―― 474
【主羅統娘】の敗北 ―― 501
【ＶＳ．】ワイが世界の命運を賭けてハーレムを作るスレ【覇界聖王】 ―― 509
【覇界聖王】の性癖 ―― 535
【ＶＳ．】ワイが世界の命運を賭けてハーレムを作るスレ【煌天女帝】 ―― 541
【煌天女帝】の屈服 ―― 566
【ＶＳ．】ワイが世界の命運を賭けてハーレムを作るスレ【三界の主】

エピローグ ―― 574
【リア充】伝説のイッチことフレッドリーツ・レアライヒの会見を見守るスレ【爆発しろ】 ―― 606
おまけ
【煌天女帝】の憂鬱 ―― 632

プロローグ

【悲報】ワイ将、国家に軍隊を差し向けられる【人生終了】

1：名無しのアブノーマル
なんで？

2：名無しのアブノーマル
なんでじゃないが

3：名無しのアブノーマル
まずお前の性癖を晒せ

4：名無しのアブノーマル
ここはとても人様に見せられないアブノーマル共の聖地……

5：名無しのアブノーマル
自分の性癖も晒せないような臆病者に書き込む価値なし……

6：名無しのアブノーマル
掃き溜めの掃き溜めでヘドロ撒き散らす連中がなにか言ってるわ

7：名無しのアブノーマル
＞＞6
ひどい……もっとののしって♡

8：名無しのアブノーマル
何書いても誰かのストライクゾーンなんだよなぁ

9：名無しのアブノーマル

触らぬ変態に祟り……うっ、ふぅ……

10：名無しのアブノーマル
＞＞9
なぜ賢者に？

11：名無しのアブノーマル
ただの発作だろ、気にするな

12：1
もうええか？　とりあえず経緯書くで

13：名無しのアブノーマル
だから性癖を晒せと

14：名無しのアブノーマル
まあ待て、経緯で性癖も出てくるやろ

15：名無しのアブノーマル
こんな糞の底みたいなアブノーマル板にスレ立てるくらいだからな

16：名無しのアブノーマル
何らかの特殊性癖がなければ認識すらできない謎ダークウェブ

17：名無しのアブノーマル
謎ダークウェブとは

18：名無しのアブノーマル
まるで謎じゃないダークウェブがあるかのような口振り

19：名無しのアブノーマル
管理者の神ですら見通せないガチガチセキュリティなんだよなぁ

20：名無しのアブノーマル
神ェ……管理者とは一体

21：名無しのアブノーマル
（世界の）管理者（にして無類の知性性愛者（サピオセクシュアル））

22：名無しのアブノーマル
知性生命体が性的に好き過ぎて最下級天使から神に至って世界作った話ほんま草

23：名無しのアブノーマル
やめやめろ　ピュアな一般人は知りもしない地獄の真実を話すな

24：名無しのアブノーマル
変態性欲から誕生した創世神話

25：名無しのアブノーマル
＞＞24
と俺達

26：名無しのアブノーマル
かなしくなってくる

27：1
ええ、俺らそんな成り立ちなんか　たまげたなぁ……
ま、ええわ　経緯さらすで
ワイ将、しがない科学者　人生のほとんどを研究に費やす
←

なんか有能そうな発見をする
←
そろそろ寿命近いしどうせなら死ぬ前に性欲を満たしたい
←
発見片手に上京、国のえらいひとに取引を持ちかける
←
ワイ「研究成果独占させたるから人を屈服させることが生きがいのドS美人用意してクレメンス～」
←
軍隊を差し向けられる
なんで？

２８：名無しのアブノーマル
草

２９：名無しのアブノーマル
草

３０：名無しのアブノーマル
草

３１：名無しのアブノーマル
イッチお前バカなん？

３２：名無しのアブノーマル
研究に人生捧げて死ぬ前にやりたいことがそれかよ

３３：名無しのアブノーマル
知能指数と頭の良さは直結しないんやなって

３４：名無しのアブノーマル

つーかイッチはドM豚なん？

３５：１
＞＞３４
ちがうで
めっちゃプライド高いドS美人を屈服させて支配したいだけやで

３６：名無しのアブノーマル
ちょっとだけ斜め上をいってて草

３７：名無しのアブノーマル
支配欲の塊だったかぁ……普通よりだな

３８：名無しのアブノーマル
まあ獲物を選り好んでるあたりニッチではある

３９：名無しのアブノーマル
羊（ドM）じゃなくて狼（ドS）狙ってるわけだからな

４０：名無しのアブノーマル
同族喰らいのイチイイッチ

４１：名無しのアブノーマル
聖人認定受けてる鬼畜外道の話はやめろ

４２：名無しのアブノーマル
でもまあ不思議だよね
なんでイッチ軍隊向けられたん？

４３：名無しのアブノーマル
聞くだけなら単なる変態科学者が不敬罪やらかしただけやし

４４：名無しのアブノーマル
　奴隷も死者蘇生も人体改造も許されてるこの世界じゃ大した要求でもないしなぁ

４５：1
　言い忘れてたわ
　一応取引は成立してえらいひとが差し出したのはえらいひと本人やで

４６：名無しのアブノーマル
　は？

４７：名無しのアブノーマル
　ちょっとなにいってるかわからない

４８：名無しのアブノーマル
　取引に応じたのもそうだしえらいひとがえらいひとを差し出す???

４９：名無しのアブノーマル
　なにがどうなってんねん

５０：1
　とりあえずえらいひとはワイの性癖ドストライクの傲慢が服を着た超絶美人だったとだけ言っておく

５１：名無しのアブノーマル
　あぁ……あぁ？

５２：名無しのアブノーマル
　だからなんなの

５３：名無しのアブノーマル
うーんこれは……ワンチャンえらいひとがイッチを屈服させたかったとか？

５４：名無しのアブノーマル
どゆこと

５５：名無しのアブノーマル
つまりイッチの性欲対象→他人を屈服させるのが大好きなドＳ女や
で、聞く限りめちゃくちゃ無礼なイッチをみて屈服させたくなって自分を差し出した、みたいな？

５６：名無しのアブノーマル
無理筋じゃね

５７：名無しのアブノーマル
えらいひとの性癖にイッチが刺さらんと成立せんやろ
どんな確率やねん

５８：名無しのアブノーマル
いやでも、他に考えられる可能性はない、か……？

５９：名無しのアブノーマル
んなわけないやろ　もっと考えろ

６０：名無しのアブノーマル
だめや、俺じゃ自分の性癖を満たすシチュエーションしか考えられへん

６１：名無しのアブノーマル
　頭性器がよ……

６２：名無しのアブノーマル
　下半身に脳をつけるな

６３：名無しのアブノーマル
　とにかく情報が足りなさすぎや
　イッチもっと詳細に喋れ

６４：１
　んなこといわれてもなぁ
　ワイは自分の性癖を満足させただけやで？

６５：名無しのアブノーマル
　ん？

６６：名無しのアブノーマル
　あっ

６７：名無しのアブノーマル
（察し）

６８：名無しのアブノーマル
　おいまさかイッチ
　お前えらいひとを……

６９：１
　まあね

７０：名無しのアブノーマル

まあね、じゃないが！

７１：名無しのアブノーマル
はい解散

７２：名無しのアブノーマル
ただの犯罪者が自白しに来ただけでした
終わり！　閉廷！

７３：名無しのアブノーマル
そりゃ軍隊も差し向けられるわ

７４：1
ちょい待て、ワイは正式な契約に則って合意を結んだんやで
この件でいくら性癖を満たしてもワイに非はないはず

７５：名無しのアブノーマル
そりゃいくら契約してもなぁ

７６：名無しのアブノーマル
えらいひとに性欲ぶつけて無事でいられると思う方が論外

７７：名無しのアブノーマル
ちなみにどんな契約したん？

７８：1
＞＞７７
御前契約

７９：名無しのアブノーマル
えっ

８０：名無しのアブノーマル
神を呼び出して締結する絶対遵守契約じゃん

８１：名無しのアブノーマル
神話とか伝説でしか語られないドチャクソ重い契約やぞ

８２：名無しのアブノーマル
そんな契約えらいひとが結んだんか？

８３：名無しのアブノーマル
よく納得したな

８４：名無しのアブノーマル
これワンチャンえらいひとがイッチを上回るバカだった可能性あるぞ

８５：1
＞＞８４
それはないで
ワイが長年かけて吟味した極上の獲物やからな

８６：名無しのアブノーマル
ん？

８７：名無しのアブノーマル
ちょっとまて

８８：名無しのアブノーマル
なにかがおかしい

８９：名無しのアブノーマル
イッチさぁ、ひょっとして……

９０：名無しのアブノーマル
全部計画通り？

９１：１
＞＞８９　＞＞９０
当たり前やん
なんのために研究に人生捧げたと思ってんねん
すべてはこの有り余る性欲を満たすためにやったことやで

９２：名無しのアブノーマル
……え？

９３：名無しのアブノーマル
なにいってんの

９４：名無しのアブノーマル
いやいやおかしいおかしい

９５：名無しのアブノーマル
イッチは最初からえらいひと狙いだった……？

９６：名無しのアブノーマル
おいイッチ、とりあえず詳細に全部しゃべれ
情報たりなさすぎや

９７：１
＞＞９６
しゃあないなぁ、ほな書くで

ワイ将、生まれた時から性欲に苛まれる
なまじ頭が良かったから自我を認識した瞬間成熟
体はできてないのに性欲だけが膨れ上がる
←
こらあかんと思って動けるようになったら肉体改造に手を出したが時すでに遅し
もはや理想的なシチュエーションでしか満たされない化物性癖と化す
←
しゃーない、切り替えていこ
理想的なシチュを求めて放浪、手慰みに研究
数年かけてえらいひとを獲物認定
どうすればいいか考えて自分の頭の良さを活かすことにする
←
しがない科学者になって研究に没頭
研究成果を小出しにしつつ国の末端と接触、人脈づくり
えらいひとの興味を引けるよう好みを分析して肉体改造
５０年くらいかけてえらいひとと謁見成功、交流を深める
←
寿命が尽きる一年くらい前まで研究に人生を捧げる
研究成果を引っさげてえらいひとと交渉、契約の合意を勝ち取る
我が世の春
で、性癖を満足させてえらいひととの契約完了したのが3日くらい前やで

９８：名無しのアブノーマル

９９：名無しのアブノーマル

１００：名無しのアブノーマル

101：名無しのアブノーマル
草も生えない

102：名無しのアブノーマル
なにしてんのイッチ

103：名無しのアブノーマル
こいつあたまおかしいよ……

104：名無しのアブノーマル
ただのニッチな性癖インテリと思ったらとんでもないことしてる

105：名無しのアブノーマル
我が世の春

106：1
最高の日々やったで

107：名無しのアブノーマル
なに浸ってんねん

108：名無しのアブノーマル
満足げな顔が透けて見えてクッソむかつく

109：名無しのアブノーマル
つーか詳細書くのがはやすぎる
イッチ絶対用意してただろ

110：1
＞＞109
せやで？

こんな晴れやかな気持ち、自慢しないわけがないやん

111：名無しのアブノーマル
しね

112：名無しのアブノーマル
しね

113：名無しのアブノーマル
ころす

114：名無しのアブノーマル
世の中にはここでしか性癖開放できなくて苦しんでる人もいるんですよ！

115：名無しのアブノーマル
性癖板で性癖達成の自慢するとか悪魔もドン引きする所業

116：1
ｗｗｗ

117：名無しのアブノーマル
なにわろてんねん

118：名無しのアブノーマル
こいつ悪魔なのでは？

119：名無しのアブノーマル
いやもう邪神の類だろこんなん

120：名無しのアブノーマル

もうええわ、スレ落としたれ

121：名無しのアブノーマル
どうせ軍隊差し向けられてるし人生詰みやろ
イッチの存在した痕跡を一つも残すな

122：1
まあまておまえら

ワイが狙ったえらいひとの正体、知りたくないか？

123：名無しのアブノーマル
ガタッ

124：名無しのアブノーマル
ガタッ

125：名無しのアブノーマル
イッチおまえ!?

126：名無しのアブノーマル
まさか禁断の個人情報開示をやるつもりなのか……!?

127：名無しのアブノーマル
まじでシャレにならんやめろ

128：名無しのアブノーマル
えらいひとがここに現れないってことはつまりピュアッピュアなノーマルなんやぞ!?

129：名無しのアブノーマル
そんな人がアブノーマル板の住人の毒牙にかかってたなんて知ったら……

130：1
もうそういう目でしか見れないよねぇ？

131：名無しのアブノーマル
邪神の囁きやめろ、まじやめろ！

132：名無しのアブノーマル
やめろぉ！（建前）ナイスゥ！（本音）

133：名無しのアブノーマル
着ていた衣類が家ごと消し飛んだ

134：名無しのアブノーマル
ワイドラゴン、最愛の妻である最高級カーを抱えて待機

135：名無しのアブノーマル
宇宙にも穴はあるんだよな……

136：名無しのアブノーマル
メガトンコイン

137：名無しのアブノーマル
ふふふ……フォックス！

138：名無しのアブノーマル
やめないか！

139：1
そんじゃあ一応聞いとくで
ワイの話を最後まで聞くか、このままスレを落とすか
おまえらの選択はどっちや？

140：名無しのアブノーマル
クッソ……クッソ……！

141：名無しのアブノーマル
悔しい……でも画面から目が離せない！

142：名無しのアブノーマル
まあ元々この板に集うのは他人の性癖話を楽しみつつ使う連中
ばっかやしな……

143：名無しのアブノーマル
すべてはイッチの手のひらの上、か……

144：名無しのアブノーマル
どうやら俺たちは親友のようだな

145：名無しのアブノーマル
存　在　し　な　い　記　憶

146：1
合意も得られたことやしぼちぼち話してくで～
とりあえずワイからな

147：名無しのアブノーマル
自分から開示するのか……

148：名無しのアブノーマル
まあ遅かれ早かれそこはばれるしな

149：名無しのアブノーマル
えらいひとという以上、知名度は絶対あるからな

150：名無しのアブノーマル
地を這い壁を這い、僅かな情報からワイらはどこまでも暴き立てるで

151：名無しのアブノーマル
ゴキブリかな？

152：名無しのアブノーマル
世間一般からすればそう

153：名無しのアブノーマル
そしてここはその掃き溜め

154：名無しのアブノーマル
変態性癖など、誰も求めてはいないのだ……

155：1
そろそろいくで～？
まずはワイ将の名前からな
フレッドリーツ・レアライヒやで
【アブノーマル板の完全抹消ミーム誓約画面とその横でドヤ顔ダブルピースする男の画像】

156：名無しのアブノーマル

ファッ!?

157：名無しのアブノーマル
ファッ!?

158：名無しのアブノーマル
ファファファのファッ!?

159：名無しのアブノーマル
ウッソだろおまえ!?

160：名無しのアブノーマル
あの完全魔導永久機関開発者の!?

161：名無しのアブノーマル
何千年も知性体の頭を悩ませたサルヴァラザリの悪魔を証明したあの!?

162：名無しのアブノーマル
全ての知性体に共通する新法則を発見して種族間変異を完全無欠で実行できるマザーエラー・プロトコルを完成させた生ける伝説の!?

163：名無しのアブノーマル
千年紀最高の科学者じゃねーか!!

164：名無しのアブノーマル
なにやってんだアンタ!?

165：1あらためフレッドリーツ
性癖には勝てなかったよ☆

166：名無しのアブノーマル
ツスゥーーーー

167：名無しのアブノーマル
（言葉が出ない）

168：名無しのアブノーマル
あまりにも業が深い……深すぎない……？

169：名無しのアブノーマル
どうして我々は深淵を覗いてもいないのに深淵の底にいるんだ
……

170：フレッドリーツ
まあどうでもいいじゃん、そんなことはさ
人生楽しんだもん勝ちだよ

171：名無しのアブノーマル
お、おう

172：名無しのアブノーマル
露骨にキャラを変えるな

173：名無しのアブノーマル
温度差で風邪を引いて、うん気持ちがいい！

174：名無しのアブノーマル
こいつ猫被ってやがったな

175：フレッドリーツ
そらそうよ

いくら天才の俺でも積み重ねなしに信じさせるのは難しいし
何よりつまんないじゃん？　そういうのはさ！
やっぱ折れる時に人の心は折っとくべきなんだよね

１７６：名無しのアブノーマル
こいつ……俺たちを性癖の対象にしてやがる……

１７７：名無しのアブノーマル
どこまで落ちるんだよフレッドリーツ……

１７８：名無しのアブノーマル
【悲報】ワイ妹、フレッドリーツに憧れて科学者の道へ

１７９：名無しのアブノーマル
あまりにもおつらい

１８０：名無しのアブノーマル
言えねえ……言えねえよ……あのフレッドリーツがこんな……こんな……

１８１：フレッドリーツ
【アブノーマル板が映る画面を指差して爆笑する男の画像】

１８２：名無しのアブノーマル
なにわろてんねん……なにわろてんねん……！

１８３：名無しのアブノーマル
こいつ人の心がないのでは？

１８４：名無しのアブノーマル
正直達した

１８５：名無しのアブノーマル
つーかさ……もうこれ答え合わせじゃん……

１８６：名無しのアブノーマル
なにが？

１８７：名無しのアブノーマル
だってあのフレッドリーツだぜ？
功績だけで一冊の歴史書が書けるレベルの偉大な科学者が
５０年かけてようやく謁見できたえらいひとだぜ……？

１８８：名無しのアブノーマル
あっ……

１８９：名無しのアブノーマル
いやじゃいやじゃ

１９０：名無しのアブノーマル
うそだというとくれ

１９１：名無しのアブノーマル
あのお方は神に次ぐ唯一無二の絶対強者なのじゃぞ……？

１９２：名無しのアブノーマル
知りとうない……知りとうない……

１９３：フレッドリーツ
あー、違う違う
それ間違い

１９４：名無しのアブノーマル
それは……それは本当か……？

１９５：名無しのアブノーマル
ああ……希望は、あったのじゃな……

１９６：フレッドリーツ
俺が性欲を満たすために選んだのはさ
【煌天女帝】ヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカ
と
【覇界聖王】エウラリア・カリエントゥス
と
【主羅統娘】ネスキス・ルインザルテ・オリエルト
の
三　人　だ　よ　？

１９７：名無しのアブノーマル
は？

１９８：名無しのアブノーマル
は？

１９９：名無しのアブノーマル
は？

２００：名無しのアブノーマル
は？？？

第一幕　イッチやらかし編

【煌天女帝】フレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ【暁に墜つ】

1：フレッドリーツ
まあ言いたいことは色々あるけど、とりあえず阿鼻叫喚でスレ埋めるのやめような？

2：名無しのアブノーマル
でたわね

3：名無しのアブノーマル
この世で最も恐ろしい女トップ3を手篭めにした男

4：名無しのアブノーマル
個人で世界を七度は滅ぼせる三界の主たちを（性的に）食った奴

5：名無しのアブノーマル
よりにもよって神ですら匙を投げた関係ツンドラの女たちで三股を決行した勇者

6：名無しのアブノーマル
大丈夫？　世界滅ぶ？

7：名無しのアブノーマル
これもう世界の破壊者じゃん……

8：名無しのアブノーマル
シニタクナーイ！　シニタクナーイ！

９：名無しのアブノーマル
　どうせ滅んでも神が再生するしええやろ

１０：名無しのアブノーマル
　だからって死んでたまるか！　逝ったらイけないんだから生きたいに決まってんだろ！

１１：名無しのアブノーマル
　初めての死は彼ピッピ捕食しながら首絞めックスで脳内トランスしながらって決めてんだよ！

１２：名無しのアブノーマル
　２レスで山と谷をつくるのやめろ

１３：名無しのアブノーマル
　何処も彼処もアブノーマルだらけだ……お前もいずれそうなるのだろう……？

１４：名無しのアブノーマル
　もうなってる定期

１５：フレッドリーツ
　よし、おまえらも落ち着いたところでそろそろ俺の性癖体験を話していくか

１６：名無しのアブノーマル
　何も落ち着いていないんですがそれは

１７：名無しのアブノーマル
　スレ民の脳が破壊されて飛び降り自殺が多発しているニュースがお見えにならない？

１８：名無しのアブノーマル
三界の主といえば鉄板の妄想ネタだからなぁ……

１９：名無しのアブノーマル
お世話になっていないスレ民は一人もいない

２０：名無しのアブノーマル
絶対に誰のものにもならないからこその安心感

２１：名無しのアブノーマル
同担拒否すら同担を許す稀有な存在

２２：名無しのアブノーマル
それなのに、それなのに……フレッドリーツお前ぇ……！

２３：名無しのアブノーマル
申し訳ないがＮＴＲはＮＧ、純愛こそ至高

２４：名無しのアブノーマル
＞＞２３
君才能あるよ

２５：フレッドリーツ
んじゃまずは、えらいひとこと【煌天女帝】から話していきますかね

２６：名無しのアブノーマル
待ってた

２７：名無しのアブノーマル

待ってた

２８：名無しのアブノーマル
摩天楼を見下ろしながら全裸待機してた

２９：名無しのアブノーマル
すでに自分のケツにパイルを打ち込む準備はできている

３０：名無しのアブノーマル
はやく濃ゆいの出させろ

３１：フレッドリーツ
まあ知らん奴はおらんだろうけどまずは【煌天女帝】の簡単な説明や
【煌天女帝】ヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカ
三つの覇権国家が鎬を削る三界の一つ、『煉獄郷アルス・ガイア』の女帝
世界誕生から現代まで生き抜いてきた竜王の中の竜王。
神に次ぐ存在であり神の権能すら一部手中に収めつつある。
書くの飽きたわ

３２：名無しのアブノーマル
飽きるとは

３３：名無しのアブノーマル
（説明投げ出すの）早すぎぃ！

３４：名無しのアブノーマル
アカシックレコードの概要欄くらいコピペしてこい

３５：フレッドリーツ

どうせみんな知ってることやしええやろ
重要なのは見た目と性格

３６：名無しのアブノーマル
それはそう

３７：名無しのアブノーマル
【煌天女帝】知らんとか本気で赤子ぐらいしかおらへんしな

３８：名無しのアブノーマル
生まれて最初に目を開けた時教えられること
「まぶしいでちゅね～、あの光ってるのは女帝様のお力なんでちゅよ～」

３９：名無しのアブノーマル
太陽昇るたびに分からされる力の差

４０：名無しのアブノーマル
俺たちが何百年必死こいて生産するエネルギーとか太陽は一秒で放出してるしな……

４１：名無しのアブノーマル
女帝様も当然同じことができる

４２：名無しのアブノーマル
世界壊れちゃ＾～う

４３：フレッドリーツ
まあそのへんはどうでもええねん
重要な見た目と性格のこと書いてくで
見た目

３メートル近い長身とボンキュッボンでは到底収まらない恵体の持ち主
流れる星々の燃え尽きる一瞬を束ねたような紅蓮の長髪がそれはもう綺麗
竜王だから当然鱗が生えてる　生え方がえっち　頭の角は捻じくれた２本
ふっといふっとい尻尾をお持ちあそばせており、多分捕食器官の一種
銀河のように光が散りばめられたエメラルドの瞳に見つめられたらもう気が狂うんじゃ＾～
性格
傲慢！　傲慢！　傲慢！　を地で行くとにかく尊大なお方
あらゆるものを見下しており神ですら例外ではない
対等という言葉を煉獄の炉心に捨ててきた絶対強者
根本的に支配するのが大好きであり愛玩奴隷が大勢いる
自分より上の存在なんて絶対いないと信じ切っている
以下、ワイとの会話抜粋
「クッハハハハハハハ！　愉快愉快、お主そこまでの愚物じゃったか！」
「この妾を屈服せしめるなぞ、思い上がりもここに極まれりじゃな！」
「良かろう、気に入った！　その契約受けようぞ！」
「今は精々甘い夢にでも浸っておるがよい」
「なぜ妾が【煌天女帝】と讃えられるか――ゆめゆめ忘れぬようにのう？」

４４：名無しのアブノーマル
うーんこの性癖の博覧会

４５：名無しのアブノーマル
こんなんもうサキュバスじゃん

４６：名無しのアブノーマル
あー困ります！　えっちすぎます女帝様！　あー！

４７：名無しのアブノーマル
尻尾で一切身動きができないくらいギチギチにされて舐め取るように捕食されたい

４８：名無しのアブノーマル
裸首輪で城下連れ回されて公衆の面前で尊厳破壊されたい

４９：名無しのアブノーマル
＞＞４７　＞＞４８
全部女帝様がやったことなんだよなぁ……

５０：名無しのアブノーマル
女帝様の愛玩奴隷、元は全員女帝様に求婚した奴らの成れの果てってマジ？

５１：名無しのアブノーマル
マジ　それも指一本触れさせてもらえず大抵はそのまま一生を終える

５２：名無しのアブノーマル
女帝様はただ知性体の尊厳奪って楽しんでるだけだからな……

５３：名無しのアブノーマル
そこがまた、いい

５４：名無しのアブノーマル
いいよね……

５５：名無しのアブノーマル
　モロナミンＣ

５６：フレッドリーツ
　紹介も終わったし契約結んで何やったかちょっとずつ書くで
　とりあえず初手で押し倒して陵辱の限りを尽くした

５７：名無しのアブノーマル
　は？

５８：名無しのアブノーマル
　は？

５９：名無しのアブノーマル
　何いってんのこいつ

６０：名無しのアブノーマル
　女帝様押し倒して陵辱とか（ゞノ・∀・、）ムリムリ

６１：名無しのアブノーマル
　完全無防備で天体レベルの質量ぶつけられてもびくともせんのやぞ

６２：名無しのアブノーマル
　ここまでイッチの妄想説

６３：フレッドリーツ
　そろそろ疑われるのは分かっとったからな
　証拠だすで
【玉座に座る超いい笑顔の男と凄まじい形相で這いつくばる女帝様の画像】

６４：名無しのアブノーマル

６５：名無しのアブノーマル

６６：名無しのアブノーマル

６７：名無しのアブノーマル
　おい待てや

６８：名無しのアブノーマル
　不可能だろ

６９：名無しのアブノーマル
　アブノーマル板に限らず神様ウェブじゃ捏造なんてできんぞ

７０：名無しのアブノーマル
　すぐ消されてついでにイッチも消されて終わり

７１：名無しのアブノーマル
　神に消されたい一心でひたすらデマ撒きまくって絶頂しながら消えた奴いたなぁ……

７２：名無しのアブノーマル
　ていうかおかしい　画像が消されない

７３：名無しのアブノーマル
　ファッ!?

７４：名無しのアブノーマル
　ほんまや見れる　なんで???

７５：名無しのアブノーマル
　偽造という一点だけを監視して１００％看破除去する天目ＡＩが働いてない……？

７６：名無しのアブノーマル
　マジで本物なん？

７７：名無しのアブノーマル
　ないない絶対ない

７８：名無しのアブノーマル
　でも消えないし……ええ、マジで……？

７９：フレッドリーツ
　燃料投下や
【首輪つけられた扇情的な下着の女帝がペット用の器にご飯を入れる男を親の仇のようににらみつける画像】

８０：名無しのアブノーマル
　えっっっ

８１：名無しのアブノーマル
　えっっっ

８２：名無しのアブノーマル
　えっっっっっっっっっ

８３：名無しのアブノーマル
　これは夢？　幻覚？　女帝様シチュを妄想し過ぎた結果の白昼夢？

８４：名無しのアブノーマル
　数多のスレ民が想像しかできず描くことも語ることもできなかった理想郷が今ここに

８５：名無しのアブノーマル
　保存したら抹消ミームが作動してワイの半生が消滅した

８６：名無しのアブノーマル
　性癖消されたか……南無三

８７：名無しのアブノーマル
　その後＞＞８５の姿を見たものはいない……

８８：フレッドリーツ
　てなわけでワイが【煌天女帝】に性癖ぶつけたのは事実やたっかいたっかいプライド持った女を陵辱する楽しみなんてほんま最初しかないからな
　存分に楽しんだで～
【この世の終わりのような目で睨みつけながらも息も絶え絶えに上気して顔真っ赤の涙目な女帝様の顔アップ画像】

８９：名無しのアブノーマル

９０：名無しのアブノーマル

９１：名無しのアブノーマル

９２：名無しのアブノーマル
　ほんまにやったんかイッチ……

９３：名無しのアブノーマル
　命知らずとかいうレベルじゃない

９４：名無しのアブノーマル
　性欲よりも恐怖が上回ったの初めてだわ

９５：名無しのアブノーマル
　ケツの穴が竦み上がって用意したパイルが入らなかった

９６：名無しのアブノーマル
　こんなん貼るとかもうただの無差別テロじゃん……

９７：名無しのアブノーマル
　女帝様の絶対見られたくないであろう痴態を見てしまった罪

９８：名無しのアブノーマル
　来世どころか輪廻転生すべてに期待できませんねクォレハ……

９９：フレッドリーツ
　どうせ今世にも期待できないやろ　なら楽しめ

１００：名無しのアブノーマル
　辛辣で草

１０１：名無しのアブノーマル
　ほんまなんやねんこのイッチ
　壊れてんとちゃうか

１０２：名無しのアブノーマル
　まああのフレッドリーツだし……

１０３：名無しのアブノーマル
　人間のくせにあまりにもブッ飛んだ性能してる

１０４：フレッドリーツ
　ワイのことはどうでもええねん　需要あってもワイにはない
で、最初はサクッと陵辱しようと思っとったけどなんと女帝様処女やったんや
　だから一週間くらいかけて丁寧丁寧丁寧にふやかした後ゆっくり理解させながら頂いたで
　一生に一度の大事な大事な記憶に忘れられない傷痕つけるのホンマ最高

１０５：名無しのアブノーマル
　さっきから衝撃の事実書くのやめない？

１０６：名無しのアブノーマル
　世界の覇権を争う雲の上の怪物の弱みを知るのマジできついんだけど

１０７：フレッドリーツ
　板の規約で知り得た情報は一切利用できないんだから問題ないやろ

１０８：名無しのアブノーマル
　心がねぇ！　死ぬんですよ！

１０９：名無しのアブノーマル
　こんな秘密抱えてどう生きろっていうの

１１０：フレッドリーツ
　じゃあもうやめるか？

111：名無しのアブノーマル
いやじゃいやじゃ

112：名無しのアブノーマル
ここまで来てやめるとか無理じゃ

113：名無しのアブノーマル
おぎゃあああああん!!　お、おお、おぎゃあああああん！

114：名無しのアブノーマル
おぎゃっ、おぎゃっ、おぎゃぎゃっ！

115：名無しのアブノーマル
どうして知性体は追い詰められると幼児退行とロリババァ化するやつが必ずいるのか

116：名無しのアブノーマル
神がそのようにおつくりたもうた

117：名無しのアブノーマル
神（無類の知性性愛者（サピオセクシュアル））

118：名無しのアブノーマル
残当

119：フレッドリーツ
いい加減話すすめるで
一週間後の一夜明けた【煌天女帝】はそりゃもうひどい有様やった
髪ボサボサででっかいクマつくっていかにも事後ってところが芸術的なまでに美しかったんや

んで「調子はどう?」って気さくに話しかけるワイにめっちゃ妖艶な極上の笑顔向けてくれたで
あれたぶん『暁の微笑』やな

１２０：名無しのアブノーマル
ああ……笑っただけで数十の世界が消し飛んだっていうあの……

１２１：名無しのアブノーマル
昔は六十界だったけど女帝様のせいで三界になった話すき

１２２：名無しのアブノーマル
そもそも【煌天女帝】の由来がその五十七界壊しやし

１２３：フレッドリーツ
【煌天女帝】は何も言わへんかったけど完全に抹殺対象認定されたわけや
まあそこは想定内やしどうでも良かったからワイは【煌天女帝】にこれからの調教プランを説明したで
微笑んだまま聞き終えて最後に鼻で笑った【煌天女帝】、全然プライド折れてなくて最高に愛おしかったわ
女帝様かわいいねˆˆ　そのでっかいプライドが砂になるまで頑張ろうね♡

１２４：名無しのアブノーマル
こいつほんま性癖に正直やな

１２５：名無しのアブノーマル
死を恐れないなんてレベルじゃない

１２６：名無しのアブノーマル
アブノーマル板らしからぬ普通よりの性癖だと思ってたけどこい

つマジや

127：名無しのアブノーマル
業が深すぎる

128：フレッドリーツ
こうしてワイと【煌天女帝】の一年に渡る調教物語が始まったんやとりあえず表面上はワイ一科学者、【煌天女帝】の配下ということにした
誰からも恐れられる絶対強者の【煌天女帝】が夜だとワイに敵わない
その状況が欲しかったからな

129：名無しのアブノーマル
それはまあ分かる

130：名無しのアブノーマル
プライドマウンテンの上司が二人っきりの時だけ見せる表情……いいよね

131：名無しのアブノーマル
分かりみが深い

132：フレッドリーツ
昼間の【煌天女帝】はそりゃもうワイにスパルタやった
毎秒無理難題押し付けるレベルで鬱憤晴らそうとしてたからな
本当にやりたいことを必死に我慢して小出しに要求して自分を慰める【煌天女帝】はそりゃもう可愛くて可愛くてな
ボロ出さないようにするのが大変やったで
【煌天女帝】は分かってなかったんやな
下手な刺激は全部性欲に変換されるから夜がきつくなるだけやの

に
　そういう性癖に無知なところ……大好き♡

１３３：名無しのアブノーマル
　そりゃまあ、女帝様やしなぁ

１３４：名無しのアブノーマル
　踏み躙ることだけしてきたお方が逆の立場で身を守る方法なんて考えつかんやろ

１３５：名無しのアブノーマル
　そもそも身を守るという発想すらなさそう

１３６：名無しのアブノーマル
　生まれた時から絶対強者だったからこその今だしな

１３７：フレッドリーツ
　当時の【煌天女帝】はワイを所詮人間と侮ってたからな
　昼間のブラック環境で身も心もボロボロのふりしたらすぐ騙されたわ
　あ、そうや
　説明しとくとワイと【煌天女帝】が結んだ契約は「ワイの性癖を満足させること」だけや
　完了条件は「ワイが満足するか自主的に解除」やったから【煌天女帝】は俺を追い詰めようとしたんやろね
「脆弱な人間なぞ、この程度の痛痒にも耐えられまい。疾く契約を解除することじゃな――それが貴様の最後になるだろうが、のう？」
　ワイの擬態も見抜けずにここぞとばかりにイキりまくる【煌天女帝】……思い出すだけでイキりたってくるで
　そのまま襲いかかって性感帯開発してやったらめっちゃ悔しそうに大敗北して泣いとったわｗｗｗ

１３８：名無しのアブノーマル
女帝様が泣くとかいう天変地異の前触れに草を生やすイッチ

１３９：名無しのアブノーマル
なんで笑ってられんの？　お前のせいで種族単位の絶滅起こってもおかしくないんだけど

１４０：名無しのアブノーマル
いうてここ一年は平和やったしなぁ……なんだかんだイッチは上手くやったんやろ

１４１：名無しのアブノーマル
結果軍隊差し向けられてるけどな

１４２：フレッドリーツ
まあしばらくはそうやって裏と表の切り替えを楽しみつつ性感帯開発してたんや
で、ある程度目処がついてから次のステップに進むことにした
淫紋や

１４３：名無しのアブノーマル
ガタッ

１４４：名無しのアブノーマル
来たか

１４５：名無しのアブノーマル
調教の醍醐味

１４６：名無しのアブノーマル

これのあるなしでえっち度に天と地ほどの差がひらく

147：名無しのアブノーマル
でも相手は女帝様だろ？
最大限好意的に見積もっても無理じゃね？

148：フレッドリーツ
そこはワイの下衆色の脳細胞（ニューロン）の出番や
【煌天女帝】にも通用する術式開発してねっとり刻みつけてやったで

149：名無しのアブノーマル
さらっと書いてるけどそれだけで神暦史ひっくり返るからな？

150：名無しのアブノーマル
（途方もない歴史の重み）壊れちゃ＾～う

151：名無しのアブノーマル
なんかイッチが本当に千年紀最高の科学者で収まってるのか怪しい気がしてきた

152：名無しのアブノーマル
こいつ実は最新の化物なんじゃないか

153：フレッドリーツ
ワイのことはどうでもいいって言ってるやろ
とにかく【煌天女帝】に淫紋刻み込んだんやけど
流石に警戒を覚えて中々手が出せなかったんや　擬態も通用しなくなったしな
で、しゃーないから賭けに出た
ワイ「一回淫紋刻ませて？　ダメだったら契約解消するわ」
【煌天女帝】にそう提案したらめっちゃ悩んだ末に受け入れてくれた

わ
「……妾の肉体が貴様如き下衆に真に屈するなぞ有り得ん……良かろう、やってみろ。せいぜい最後の夜を噛みしめるがよい」
ほんま天体レベルのプライド持っとる女は自分に自信持ちすぎて可愛いよなぁｗｗｗ
お口とお尻と性器と子宮の上らへんのお腹に淫紋刻んだら呆然としてたわ
愛くるしすぎて襲いかかったワイは悪くない

154：名無しのアブノーマル
女帝様ぇ……

155：名無しのアブノーマル
いい加減学習してもろて……

156：名無しのアブノーマル
脆弱で愚かな人間ですら歴史から学ぶんすよ……

157：名無しのアブノーマル
むしろ強すぎる弊害出ちゃってるなこれ……

158：フレッドリーツ
淫紋のせいで自分を制御できなくなった【煌天女帝】を組み敷くの言葉にできんくらい気持ちよかったで
その後はじっくり淫紋を成長させつつ【煌天女帝】のプライドを少しずつ削っていったんや
そうして【煌天女帝】を真綿で締めるように追い詰めていた終盤に一大イベントが発生したんや
『大煌不天祈祭』の始まりや

159：名無しのアブノーマル

あっ！　あれかぁっ！

160：名無しのアブノーマル
文字通り千年に一度の大イベント

161：名無しのアブノーマル
女帝様の女帝様による女帝様のための祈願祭

162：名無しのアブノーマル
滅多に見れない女帝様を間近で見れる唯一の機会やんけ

163：名無しのアブノーマル
ワイ末端の末端やけど親族一同に混じれて行ったなぁ……女帝様本当に神々しかった

164：名無しのアブノーマル
定命の者なら死ぬまであの輝きを忘れることはない

165：名無しのアブノーマル
この時代に生まれてよかったと心底思えた感動やったで

166：フレッドリーツ
みんな楽しんでたんやなぁ　手伝ったワイも鼻が高いで

167：名無しのアブノーマル
女帝様に手を出した罰当たりがなんかいってる

168：名無しのアブノーマル
なんで俺らはこんな下衆外道の話を静かに聞いてるんや

169：名無しのアブノーマル

探し出して殺したれ

１７０：フレッドリーツ
急に女帝様の忠誠に目覚めるのはやめてもろて
話戻すけど、『大煌不天祈祭』は【煌天女帝】的には絶対に失敗できないイベントや
自分がこの世のナンバーワンと思っとる奴が自分主催のイベントでコケるなんて絶対耐えられへんからな
そこでワイは思った
これ台無しにしたらどんな顔するやろなあ……

１７１：名無しのアブノーマル
イッチお前……世界を敵に回したいんか？

１７２：名無しのアブノーマル
いくらなんでもやっていいことと悪いことがあるやねんぞ

１７３：名無しのアブノーマル
女帝様のみならず全種族にとって超重要なイベントって分かってんのか

１７４：フレッドリーツ
そこはもちろんよう分かっとる　だから『大煌不天祈祭』は大成功のうちに終わったやろ？

１７５：名無しのアブノーマル
それはまあ、確かに

１７６：名無しのアブノーマル
史上最高の盛り上がりだったってニュースにのってたな

177：名無しのアブノーマル
あれ？　じゃあイッチは妄想だけで何もせんかったん？

178：フレッドリーツ
そういうわけやないで
ただ一旦夜の調教は取り止めて、裏表関係なく手伝っただけや
【煌天女帝】はめっちゃ疑ってたけど猫の手も借りたかったんやろな
渋々ワイの協力を受け入れて準備に勤しんだで
そんで世間的には『大煌不天祈祭』は成功したんや

179：名無しのアブノーマル
世　間　的　に　は

180：名無しのアブノーマル
不穏な五文字

181：名無しのアブノーマル
あぁ……もうイッチが何やったか分かったわ……

182：名無しのアブノーマル
イッチほんとに人間か？　邪神でも考えつかんぞそんなこと……

183：フレッドリーツ
みんな察しとるしネタバラシするで
そもそも【煌天女帝】が『大煌不天祈祭』に拘るのはそれが自分に対する誓いやからや
誰にも邪魔されず、ありのままの自分と向き合い、過去と未来に誓いを立てる祈りのために始まったんやな
つまり【煌天女帝】が祈ってる間、そこには過去現在未来すべての【煌天女帝】がいるわけや
あとはまあ、分かるやろ？

184：名無しのアブノーマル
（分かりたく）ないです

185：名無しのアブノーマル
頼む、認識に追いつかないでくれ俺の脳……

186：名無しのアブノーマル
何も見たくねぇ

187：フレッドリーツ
ワイが事に及ぼうとした時、【煌天女帝】はもちろん怒り狂ったでワイが事前に十万層からなる世界断絶結界張ってなかったらやばかったやろな
で、なんとか【煌天女帝】を抑え込んでワイは調教を再開したんや
過去現在未来、全ての【煌天女帝】が見ている真ん前でな

188：名無しのアブノーマル
……

189：フレッドリーツ
可愛かったなぁ……必死にワイを振りほどこうとして全然できなくて、絶望する【煌天女帝】は
焦らしながら調教したから段々罵倒が弱くなっていくんよ
最終的には「頼む……許せ……許してくれ……」って懇願しだしてな
涙ボロボロ流しながら弱々しい声でいうんよ
それがもう本当の本当に可愛くて可愛くて可愛くてなぁ
もう辛抱たまらんくなって、ワイは調教の成果を
見ていることしかできない【煌天女帝】達に全部見せつけてやったわ

190：名無しのアブノーマル
……

191：名無しのアブノーマル
……

192：名無しのアブノーマル
……

193：名無しのアブノーマル
性癖にぶっ刺さるとかそういう問題じゃない

194：名無しのアブノーマル
こいつ人間やない、邪神をも超越した何かや

195：名無しのアブノーマル
神よ……どうしてこのような忌まわしい存在を生み出してしまったのですか……

196：名無しのアブノーマル
かわいそうなのは抜ける

197：フレッドリーツ
その後の【煌天女帝】はそりゃもうひどいもんやったわ
臣下にも側近にも会わず離宮の奥に引きこもってな
ワイが契約を盾にお世話しなかったら自殺してたんちゃうか

198：名無しのアブノーマル
そこまで追い込んだのはお前じゃろがい!!!

１９９：名無しのアブノーマル
　まるで他人事のようにしゃべるその精神が理解できない

２００：名無しのアブノーマル
　サイコパスだってお前よりは知性体としての情持ってる

２０１：フレッドリーツ
　やっぱり他人の心をへし折るのは気持ちがええな＾＾　見てて楽しいでお前ら

２０２：名無しのアブノーマル
　あまりにも……あまりにも……

２０３：名無しのアブノーマル
　性癖の怪物

２０４：名無しのアブノーマル
　自分の性癖を満たすためだけにここまでするやつおる……？

２０５：名無しのアブノーマル
　しかも満たされてなお止まらない

２０６：名無しのアブノーマル
　邪悪すぎる　世界のために殺すべきやで

２０７：フレッドリーツ
　うーん、思ったより良心の発露が早いな
　でもええわ、次で最後やしな
　さて、ここまでワイは【煌天女帝】に対して
　・処女喪失
　・性感帯調教

・淫紋による支配
・魂の殺人
をしてきたわけやけど……
まーだなんか足りないよなぁ？

２０８：名無しのアブノーマル
足りてます

２０９：名無しのアブノーマル
お願い足りて

２１０：名無しのアブノーマル
満足して

２１１：名無しのアブノーマル
これ以上女帝様をいじめないで

２１２：名無しのアブノーマル
許しを……救いを……

２１３：フレッドリーツ
ワイはもう満足してるし別にええねんけど
今書いてることはすでに終わったことやで？

２１４：名無しのアブノーマル
あ……

２１５：名無しのアブノーマル
救いは……救いはないんですか……!?

２１６：名無しのアブノーマル

おいたわしや女帝様……

２１７：名無しのアブノーマル
うっ……ふぅ……

２１８：フレッドリーツ
それじゃあ最後の一発キメてやんよ～
心がボロボロになった【煌天女帝】はそれはもうふさぎ込んでたんや
多分もうほとんど死ぬつもりやったと思うで
そんな【煌天女帝】にワイはかいがいしく世話を焼いてやった
【煌天女帝】の心を支えてる最後の柱をへし折るためにな

２１９：名無しのアブノーマル
イッチ……

２２０：名無しのアブノーマル
俺らは今、あまりにもおぞましい怪物を目にしている……

２２１：フレッドリーツ
【煌天女帝】を立ち直らせるのは大変やった
弱った心につけ込んで、優しい言葉をかけながらひたすら世話したんや
そんでようやく目に光が戻った頃にワイはそっと囁いた
「思い出せ、お前をここまで追い詰めたのは誰だ？　今お前の目の前には、何がいる？」

２２２：フレッドリーツ
その瞬間、【煌天女帝】は全力を解き放った
俺という怨敵を抹殺するべくあらゆる手段を行使した
御前契約など関係ない、神による絶対遵守すら噛み砕いてやるって

顔でな
　そうして俺は分子の一片すら存在を許されず、この世から消滅した

２２３：フレッドリーツ
【煌天女帝】は息を切らしながらもしばらく動かなかった
　あまりにも呆気なく俺が消滅した事実を受け入れられんかったんやろな
　警戒心マックスで虚空を睨む【煌天女帝】は、しばらくしてようやく肩の力を抜く
「流石だな、お前はやっぱりすごいやつだよ」
　俺が後ろから【煌天女帝】の肩に手をおいたのは、その時だった

２２４：フレッドリーツ
　バッと振り向いた【煌天女帝】の目には色んな感情が見え隠れした
　憤怒、疑問、焦燥、殺意。星々を飲み込み散らしたかのようなエメラルドの瞳は、ああ、とても美しかった
【煌天女帝】は再び俺を消滅させようとしたが、それはもうできなかった

２２５：フレッドリーツ
　驚愕する【煌天女帝】に俺は優しく教えてやった
「お前の力は掌握した。もう俺に逆らうことはできない。大人しく、運命を受け入れろ」
【煌天女帝】は聞き入れなかった。けど俺には関係ないことだ
　抵抗を物ともせず、俺は彼女を抱き上げた。体格差はあったがどうにかなった
【煌天女帝】をベッドに放り込んで、俺はその上に覆いかぶさった
　笑う俺を下から睨みつける【煌天女帝】の目には、確かな恐怖心が宿っていた

２２６：フレッドリーツ

「マザーエラー・プロトコルについて知ってるか?」
触れるか触れないかギリギリで撫でるとびくりと震える【煌天女帝】に俺は説明を始める
マザーエラー・プロトコルは、要は異種族間の格差をなくす手段だ
属性の相性、生態の相性、存在の相性を新たなる法則によって制御し、統括し、思いのままの結果を残す
抵抗を続けるが俺をどかすことのできない【煌天女帝】に、俺はこう言って説明を締めくくった
「まあ、つまりは、だ。お前は俺の子供を産めるんだよ――ヴァルガリエ」
その時の【煌天女帝】、ヴァルガリエの顔を、俺は絶対に忘れないだろう

227：フレッドリーツ
ヴァルガリエは半狂乱になって激しく抵抗した
でも全部無意味、無意味なんだ　俺は優しく、ゆっくり、ゆぅっくり時間をかけてそれを分からせた
それをようやく理解したヴァルガリエは、恥も外聞もかなぐり捨てて俺に懇願した
それだけは駄目だと、それだけは嫌だと、どうか許してくれと、俺の胸に縋りついて泣き叫んだ
俺は笑った　これこそが俺の求めていたものだからだ　俺はヴァルガリエを抱きしめて、泣き終わるまで頭を撫でた
やがて泣き止んだヴァルガリエは、縋りつきながら俺を見上げた
子供のようだった　震える手で、行き場をなくした幼女のように彼女は震えていた
あの【煌天女帝】――ヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカその人がだ
その光景に、俺は満面の笑みを浮かべて――希望の光を瞳にきらめかせるヴァルガリエに、言った

２２８：フレッドリーツ
「大丈夫だよ、ヴァルガリエ――誰の種でも、自分の子供は可愛いものだぞ？」

２２９：フレッドリーツ
　希望を断ち切られたヴァルガリエの絶望を覗き込みながら貪るのは、本当に、想像以上に、人生最高の瞬間だったなぁ

２３０：フレッドリーツ
　これで俺とフレッドリーツ・レアライヒと【煌天女帝】ヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカの話は終わりだ

２３１：フレッドリーツ
　ご清聴どうもありがとう、諸君
　実に楽しい時間だった

２３２：フレッドリーツ
　ああ、一応補足しておくと【煌天女帝】は孕んでいない
　色々後が面倒だと思ったからね、尾を引く対策はばっちりさ

２３３：フレッドリーツ
　淫紋やら性感帯やらもすべて元に戻しておいた
　俺の寿命がもうすぐ尽きることも伝えているし、俺が死ぬまで立ち直ることもないだろう

２３４：フレッドリーツ
　さて、それじゃあ次は【覇界聖王】の話でもしようと思うが……スレタイに反するし新しいスレでも立てるかね

２３５：フレッドリーツ
　このスレを落とすなり保守するなり、それは君達に任せる

叶うことならば、君達の良き性癖のお供にならんことを

２３６：フレッドリーツ
……そういえば書いてて思ったんだが、なぜ俺は軍に追われてるんだろうな

２３７：フレッドリーツ
【煌天女帝】は今は再起できないはず、なのに【煌天女帝】の軍に追われている

２３８：フレッドリーツ
内部でクーデターでもあったか？　……まあ、俺には関係ないか

２３９：フレッドリーツ
そろそろいい時間だ　それでは諸君

２４０：フレッドリーツ
さらばだ

２４１：名無しのアブノーマル

２４２：名無しのアブノーマル

２４３：名無しのアブノーマル

２４４：名無しのアブノーマル

２４５：名無しのアブノーマル

２４６：名無しのアブノーマル

２４７：名無しのアブノーマル

２４８：名無しのアブノーマル

２４９：名無しのアブノーマル

２５０：名無しのアブノーマル

・　・　・

１０００：名無しのアブノーマル
ゆるさない

１００１：名無しのアブノーマル
このスレッドは１０００を超えました。
もう書けないので、新しいスレッドを立ててください。。。

【覇界聖王】フレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ【神前で啼く】

1：フレッドリーツ
　んじゃやってくで～

2：名無しのアブノーマル
　どの面下げてやってきた

3：名無しのアブノーマル
　イッチお前自分が何したか分かってるんか？

4：名無しのアブノーマル
　誰もお前を愛さない

5：フレッドリーツ
　やったもんはしゃーない　時間は戻らないんやで
　それにあと二人同レベルの女に似たようなことやり切ったんや
　今更レスバで止まるわけないで

6：名無しのアブノーマル
　つよい

7：名無しのアブノーマル
　失う物がなにもないやつ特有の無敵精神

8：名無しのアブノーマル
　面の皮が厚すぎる

9：フレッドリーツ

それにお前らどうせ性欲に従って戻ってきたんやろ
前は右手が忙しすぎて良心に翼が生えたみたいやけど
抜いて終わりなら持て余すわけないんや
ほんま雨後の筍やでお前ら

10：名無しのアブノーマル
見抜かれてて草

11：名無しのアブノーマル
ぐうの音もでないほどその通り

12：名無しのアブノーマル
所詮俺らもイッチと同じ掃き溜めのムジナ

13：名無しのアブノーマル
なりなされ……正直になりなされ……

14：名無しのアブノーマル
ムラムラしたのできました

15：名無しのアブノーマル
よう言うた！　それでこそ変態や！

16：フレッドリーツ
お前らの心も一つになったところで二人目の話するでー
今回のターゲットは
【覇界聖王】エウラリア・カリエントゥス
やで
以下勝手に説明しろ

17：名無しのアブノーマル

草

18：名無しのアブノーマル
丸投げするな

19：名無しのアブノーマル
スレ主としての責任を果たせ

20：フレッドリーツ
ワイは顔とタッパとケツとおっぱいと性格にしか興味ないんや
今それ書いてるから雑事はお前らがやれ

21：名無しのアブノーマル
この言い草である

22：名無しのアブノーマル
清々しいまでのクズ

23：名無しのアブノーマル
女を外見と性格でしか見ない男

24：名無しのアブノーマル
一周回っていい男に見える

25：名無しのアブノーマル
つ【煌天女帝】フレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ【暁に墜つ】

26：名無しのアブノーマル
正直すまんかった

２７：名無しのアブノーマル
いい男なわけない

２８：名無しのアブノーマル
邪神をも上回る鬼畜

２９：名無しのアブノーマル
生まれるべきではなかった

３０：フレッドリーツ
なんやお前らまだ説明しとらんのか
はーつっかえ　ほんま使えんわお前ら

３１：名無しのアブノーマル
なんでここまで言われなあかんねん

３２：名無しのアブノーマル
全部イッチが悪いんやろ、責任転嫁すな

３３：名無しのアブノーマル
使えんのはどっちじゃい！

３４：フレッドリーツ
あーはいはいそういう態度ね
スレ閉じて帰ってええか？

３５：名無しのアブノーマル
ゆるして

３６：名無しのアブノーマル
いかないで

３７：名無しのアブノーマル
すまん全力で謝るからスレ閉じだけは

３８：名無しのアブノーマル
息子が死にそうなんです！　昨日から元気がないんです！
イッチの話聞かないともう二度と立ち上がれないかもしれないんです！
お願いします！　お願いします！　お願いします！

３９：名無しのアブノーマル
お慈悲＾～

４０：フレッドリーツ
しゃあないなあ、今回だけやで？
次もあるからそん時はきっちり働けや

４１：名無しのアブノーマル
ありがとうございます！　ありがとうございます！　ありがとうございます！

４２：名無しのアブノーマル
首の皮一枚つながった

４３：名無しのアブノーマル
ぐぎぎ……こんなクソ野郎に従わなきゃならんとは……
これが……恋……？

４４：名無しのアブノーマル
愛じゃよ

４５：名無しのアブノーマル
　申し訳ないが物理的に腐ってないのはＮＧ

４６：フレッドリーツ
　勝手に恋して勝手に振るのやめろや
　とりあえず【覇界聖王】について三行でまとめたで
　なまえ：【覇界聖王】エウラリア・カリエントゥス
　すみか：流星海嘯デモエス・レウス・ラピス
　たちば：流星海嘯初代聖王兼無差別不倒千年王者兼永世真星神託騎士

４７：名無しのアブノーマル
　草

４８：名無しのアブノーマル
　マジで三行で草

４９：名無しのアブノーマル
　あまりにも簡潔すぎる

５０：名無しのアブノーマル
　ポケットの中の怪物じゃないんだからさぁ

５１：名無しのアブノーマル
　聖王様の二つ名の多さはいつみても笑う

５２：名無しのアブノーマル
【鋼鉄の聖女】【無双剣聖】【救済者】【盾を構える者】
　まだまだまだまだあるで

５３：名無しのアブノーマル

それに見合うだけの功績を残してるからなぁ

５４：名無しのアブノーマル
ガチのマジで救われたことのない種族いない説

５５：名無しのアブノーマル
聖人ってこういう人を言うんやねっていう代表例

５６：フレッドリーツ
聖とか邪とかどうでもええ　重要なのは体と中身じゃ
見た目
身長１８０ｃｍくらい　全種族女性平均からみればかなりの長身
一言でいうと中性的美貌の極み　男でも女でも惚れる顔立ち
銀髪ショートの風に揺れる髪は銀の月の静謐を宿している
お肌真っ白　文句のつけようもない　お胸とお尻は抜群にあるが
究極の黄金比スレンダー
鋭利な真紅の瞳に射抜かれると心臓が飛び出る
性格
冷ややか、冷たい、一見して研ぎ澄まされた聖剣のような鋭さ
しかし決して冷酷でなく、心に暖かな善性を秘めている
理不尽絶対許さないクイーン　全ての悪は聖王が裁く
極悪人も改心させるほどの超お人好し　困ってる人を見捨てられない
滅多に表情が変わらないが、仮に微笑むと波及効果で世界経済が救われる

５７：名無しのアブノーマル
きゃあああ聖王様あああ!!!

５８：名無しのアブノーマル
好きぃいいいい!!!

５９：名無しのアブノーマル
　愛してますぅううう!!!

６０：名無しのアブノーマル
　あーあ、来やがったか

６１：名無しのアブノーマル
　どこにでも現れる聖王様親衛隊

６２：名無しのアブノーマル
　イッチちょっとフィルターかけろ　じゃないとすぐスレが埋まるぞ

６３：フレッドリーツ
　ＯＫ、対処したわ

６４：名無しのアブノーマル
　こんな掃き溜めまで追っかけすんなよなぁ

６５：名無しのアブノーマル
　触れるな　丁寧な無視が一番平穏にやり過ごせる

６６：名無しのアブノーマル
　親衛隊はさておき、こうして見ると聖王様も中々の癖（へき）の塊

６７：名無しのアブノーマル
　男装ドレスなんでもござれのパーフェクトボディいいゾ～

６８：名無しのアブノーマル
　目がええんよな　見つめられたら魂抜き取られそうになる

６９：名無しのアブノーマル
凛々しい表情も捨てがたい　でも笑顔はもっと捨てがたい

７０：名無しのアブノーマル
誰もが一度は妄想にふけって罪悪感で押しつぶされるやつ

７１：名無しのアブノーマル
聖王様の名は伊達じゃない

７２：フレッドリーツ
おー　中々ええ評価やん　【覇界聖王】すごいねんな
まあワイが美味しく頂いたんですけどねｗｗｗ

７３：名無しのアブノーマル
死ね

７４：名無しのアブノーマル
肉体じゃなくて存在から死ね

７５：名無しのアブノーマル
魂の一片も残さず抹消されろ

７６：名無しのアブノーマル
まあ落ち着けや　まだイッチが嘘ついとる可能性もある

７７：名無しのアブノーマル
＞＞７６
本当にそう思うんか？　少なくとも女帝様の件は確定してるやろ

７８：名無しのアブノーマル

ここ三日まったく目撃証言がないのはガチ

７９：名無しのアブノーマル
それどころか『大煌不天祈祭』以降メディア露出ごっそり減ってる

８０：名無しのアブノーマル
加えてあの画像が決定打やなぁ……あれだけは絶対捏造できへん

８１：名無しのアブノーマル
女帝様が……俺達の女帝様が……うっ、ふぅ……

８２：名無しのアブノーマル
＞＞８１
ＮＴＲれ癖は人生の敗北者やぞ

８３：名無しのアブノーマル
でも正直興奮したやろ？

８４：名無しのアブノーマル
……うん

８５：名無しのアブノーマル
推しがどうなってもそれはそれで持て余すのが俺らの救えないところ

８６：名無しのアブノーマル
壁一面に貼った女帝様ご尊顔集の中心にたった一枚イッチの画像
貼っただけで号泣した
めっちゃ気持ちよかった

８７：名無しのアブノーマル

＞＞８６
それだとフレッドリーツの画像貼ってないか？

８８：名無しのアブノーマル
＞＞８７その通りだが？

８９：名無しのアブノーマル
正直イッチ……すっごいそそるよね……

９０：名無しのアブノーマル
今度オフ会しない？　いやいや深い意味はないけど

９１：フレッドリーツ
すまんな　お前らは面白いが趣味じゃないんや
さて、【覇界聖王】に標的を定めたワイやが、一つ問題があった
どうやってお近づきになるかや

９２：名無しのアブノーマル
そもそも論、不可能

９３：名無しのアブノーマル
聖王様はお優しいけど周りがなぁ

９４：名無しのアブノーマル
命どころか魂捧げてる連中でガッチリ固められてる

９５：名無しのアブノーマル
いくらフレッドリーツがすごくても奴らの前じゃ梨の礫

９６：名無しのアブノーマル
純粋に武力と功績と忠誠心だけで序列つくってるからな

９７：名無しのアブノーマル
　世界で最も長い歴史を持つのに一度も腐敗してない組織

９８：名無しのアブノーマル
　一度命令が下れば文字通り絶滅するまで止まらない尖兵と化す

９９：名無しのアブノーマル
　あれほどの狂信者集団は今後現れないと確信できるレベル

１００：フレッドリーツ
　そんなわけで流石のワイでもこりゃ厳しいなぁと思ったんや
で、しゃーないから正攻法でいくことにした
とりあえず親衛隊入って団長まで昇り詰めたで

１０１：名無しのアブノーマル
は？

１０２：名無しのアブノーマル
んあ？

１０３：名無しのアブノーマル
　ついに壊れたかイッチ

１０４：名無しのアブノーマル
　今の親衛隊団長はエルフの真祖やで　しかも千年前から変わっとらん

１０５：名無しのアブノーマル
　いくらイッチがフレッドリーツでもどうにもならんぞ

１０６：名無しのアブノーマル
　時間遡行はどうとでもなるけど同位体の存在誤謬は神の定めた摂理

１０７：名無しのアブノーマル
　俺らはどう頑張っても二人以上存在できへんのや

１０８：フレッドリーツ
　でも例外はある
【煌天女帝】がその筆頭や

１０９：名無しのアブノーマル
『大煌不天祈祭』のことか？

１１０：名無しのアブノーマル
　いやでも、女帝様ですら過去と未来に干渉してるだけだぞ

１１１：名無しのアブノーマル
　あれは次元を切り取って擬似的に互いを認知してるだけでその場にはいないんやで

１１２：フレッドリーツ
　ワイもそう思ってたんやけど【煌天女帝】で楽しんでる時に思わぬ収穫があってな
　簡単にいうと魂を三分割する方法見つけたんや

１１３：名無しのアブノーマル

１１４：名無しのアブノーマル

１１５：名無しのアブノーマル

116：名無しのアブノーマル
うそでしょイッチ……？

117：名無しのアブノーマル
脳が理解を拒否する

118：名無しのアブノーマル
あの……神の摂理……

119：名無しのアブノーマル
イッチマジモンの邪神説

120：フレッドリーツ
まあ言いたいことは分かるで
たとえるなら体を薄くスライスして上から一枚ずつ取って三列に並べたら
「一人が三人になりましたー！　パチパチー！」みたいな話やからな

121：名無しのアブノーマル
例え話がサイコ

122：名無しのアブノーマル
無駄に想像できる例え話をするな

123：名無しのアブノーマル
怖気が走る

124：名無しのアブノーマル
快楽も走る

１２５：名無しのアブノーマル
　スライスイッチかわいいね♡　油で揚げてフライドイッチにして食べたい♡

１２６：フレッドリーツ
　説明してやってもいいけどたぶんお前らには理解できんわ
　だからワイが魂を三分割したって結果だけ受け入れろ　そうすりゃ話が進む

１２７：名無しのアブノーマル
（無理です）

１２８：名無しのアブノーマル
（それを理解できるように俺らは創られて）ないです

１２９：名無しのアブノーマル
　神の定めた範疇を超えたら死ゾ

１３０：名無しのアブノーマル
　神理法則を超越してなぜ生きていられるのか……コレガワカラナイ

１３１：名無しのアブノーマル
（分かりたくもない）

１３２：フレッドリーツ
　ワイは早く【覇界聖王】をいかにして弄んだか書きたいんや
　この調子やと話すより先にワイの寿命が尽きるで
　それでもええんか？

１３３：名無しのアブノーマル

ハッ!?

１３４：名無しのアブノーマル
よくない　それはよくない

１３５：名無しのアブノーマル
俺は目覚めた　曇りなき眼(まなこ)はもう何も映さない

１３６：名無しのアブノーマル
イッチは魂を三分割した
イッチと親衛隊団長のエルフは同一人物
イッチは聖王様を手篭めにした
ＯＫ!?

１３７：名無しのアブノーマル
ＯＫ！（ズドン）

１３８：フレッドリーツ
ええ子やお前ら　ご褒美に調教内容を聞かせたるで
とりあえず前提条件として
・ワイは千年前から親衛隊団長やっとる
・【覇界聖王】からはそれなりに信頼されてる
・誰からも一目置かれる模範的な騎士
という点は留意してくれ

１３９：名無しのアブノーマル
つまりこんなクソどもの巣穴にはとても現れないような聖人候補ってわけか

１４０：名無しのアブノーマル
あらゆる欲や下劣から乖離した生ける解脱エルフやで

141：名無しのアブノーマル
間違ってもイッチには掠らない騎士とはかくあるべしの人

142：名無しのアブノーマル
やっぱ信じられんわ
イッチ証拠見せろ　あのエルフの真祖がイッチとか何かの間違いや

143：フレッドリーツ
めんどいなぁ　貼ったるからもう黙って聞けよ
【演説中の聖王を斜め下から隠し撮りしている舌を出したエルフの男の画像】

144：名無しのアブノーマル
アイエエエエエエエ!?

145：名無しのアブノーマル
んーっ、ま。っ！（精神崩壊）

146：名無しのアブノーマル
団長はこんな顔しない!!!

147：名無しのアブノーマル
こんなの何かの間違い!!!

148：フレッドリーツ
また湧いてきたか　対処対処

149：名無しのアブノーマル
しばらく呆然としてたけどこれ現在進行系の演説の画像やんけ

……

１５０：名無しのアブノーマル
流石に冗談だと思って調べたら冗談じゃなかった

１５１：名無しのアブノーマル
マジなんかイッチ……お前マジで聖王様に手出したんか……

１５２：名無しのアブノーマル
どうせうそやろと高をくくっていた自分が消し飛んだ

１５３：フレッドリーツ
画像まで出したんや　お前らはもう信じるしかないんやで
さて、状況を整理するで
ワイが前提条件を出したのはワイと【覇界聖王】にはすでに人間関係が生じているからや
ワイは親衛隊団長として【覇界聖王】に一切ぶれない忠誠心を誓ってきたで
そんなワイを【覇界聖王】は側近中の側近として扱い、二人っきりで側に置くくらいには重宝しとった
信頼。そう、信頼や。ワイと【覇界聖王】の間には確かな信頼があった。永遠に続くと思われた信頼がな
実にええと思わんか？　その信頼を砕いて【覇界聖王】の心の隙間に入り込むのに、丁度ええ立場やんけ

１５４：名無しのアブノーマル
相変わらず下衆いこと考えてる

１５５：名無しのアブノーマル
ただ一瞬の快楽のためだけに千年を費やす人間

156：名無しのアブノーマル
普通の人間ならとっくに発狂してるよイッチ……

157：フレッドリーツ
普通とかこの際どうでもよくない？　ワイがイカれてんのは周知の事実やろ
でだ、二人っきりで仕事してた夜、ふと【覇界聖王】がこう言ったんや
「貴方が私の最も信頼する部下となって、はや千年が経ちますね。その働きに報いようと思うのですが、どうでしょう？　何か欲しいものはありますか？」
チャンスやと思った　誰の邪魔も入らないのは事前に調査済みや
「でしたら猊下、私は猊下の処女を頂きたく存じます」
その時の【覇界聖王】のポカーンとした顔、正直笑えますｗｗｗ

158：名無しのアブノーマル
どうしてイッチはこうも剛速球を投げたがるのか

159：名無しのアブノーマル
イッチが鬼畜すぎて隠れがちだけど切り替えの早さと大胆さが異常すぎる

160：フレッドリーツ
立ち直った【覇界聖王】は辛いことでもあったのか、何か変な物でも食べたのかってとっても心配してくれたで
可愛いと思うと同時におかしくてなぁ、ワイは懇切丁寧に説明したんや
ワイは【覇界聖王】の処女が欲しくて親衛隊に入ったやで
一切素振りを見せなかったのはこの時を待っていたからやで
今まで【覇界聖王】に見せていた姿は全部全部嘘や　ほんまスマンな

そんな感じでワイはワイであることをドバーッと晒したんや
段々表情が変わっていく【覇界聖王】のご尊顔……ゾクゾクしたなぁ
特別にお前らにも見せてやるやで
【執務室で信頼する部下に穏やかな笑みをみせる聖王の画像】
【本気でこちらを心配してくる様子がありありと伝わる聖王の画像】
【信じられない、信じたくないという風に首を振る聖王の画像】
【発言が本当の本気であることをようやく悟った聖王の画像】
【うつむき、「嘘だ」と呟いて心底悲しそうに涙を溜める聖王の画像】
【絶対零度の視線で無表情にこちらを見つめる聖王の画像】

161：名無しのアブノーマル
ファッ!?　うーん……（心停止）

162：名無しのアブノーマル
目がああああ！　目がああああああああ！

163：名無しのアブノーマル
うっきゃあああああ!!!　聖王様あああああ!!!

164：名無しのアブノーマル
聖王様を悲しませたのは誰だ!!!　許さない!!!　殺してやる殺してやる殺してやる!!!

165：フレッドリーツ
フィルターかけてもかけても湧いてくる　今後は無言で対処するわ

166：名無しのアブノーマル
なんでイッチはこんな淡々としてんの……?　俺心臓が消し飛んだんだけど

167：名無しのアブノーマル
穏やかな聖王様の微笑みに祈ってたら突然の無表情で脳が破壊された

168：名無しのアブノーマル
最初と最後の落差が激しすぎる

169：名無しのアブノーマル
温度差で不治の病にかかったようだ……頼む、俺のコレクションはどうか秘密裏に処分を……

170：名無しのアブノーマル
＞＞169
分かった　親族一同にバラまいてやるからゆっくり休め

171：名無しのアブノーマル
＞＞170
ありがとう……これで心穏やかに逝ける……
すべての露出、暴露本に神の加護あれ……

172：名無しのアブノーマル
神「いやでｓ……いいかも……」

173：名無しのアブノーマル
※神が実際におっしゃられた言葉です

174：フレッドリーツ
信頼する部下の裏切りに嘆いた【覇界聖王】はこう言ったで
「――良いだろう。これまでの忠誠に免じて、貴様の願いを叶えてやろう」

「だが、相応の報いは受けてもらう。貴様はもはや、私の部下ではない。慈悲をかける、理由もない」
「事が済んだら、速やかに罰を下す。それが……それが、我が腹心であった貴様への、せめてもの手向けだ」
色んな感情を飲み込んで、【覇界聖王】は一滴たりとも表情に出さんかった
まさに聖王、この世の守護を司る神の化身とすら謳われた立派なお姿や
そしてするりと服を脱いでいく【覇界聖王】。その肢体に釘付けになりながら、ワイは言ったんやで
「ああ、猊下。私が奪うのではありません。貴方が捧げるのです」ってな

175：名無しのアブノーマル
!?

176：名無しのアブノーマル
おい嘘だろ

177：名無しのアブノーマル
奪うじゃなくて、捧げる……？

178：名無しのアブノーマル
それはつまりイッチが襲うんじゃなくて……

179：名無しのアブノーマル
聖王様自らが、イッチに操を捧げるってこと……？

180：フレッドリーツ
その通りやで（満面の笑み）

１８１：名無しのアブノーマル
ふざけるな……ふざけるなよイッチ……！

１８２：名無しのアブノーマル
どう生きたらそんなエロ、げふんげふん悪魔的発想が出てくるんや……！

１８３：名無しのアブノーマル
もう我慢ならねえ！　俺が審判してやる！　さっさと全部白状しろ！

１８４：名無しのアブノーマル
はよ！　続きはよ！　はよはよはよはよ！

１８５：名無しのアブノーマル
バンバンバンバンバンバンバンバン
バン　　バンバンバン
バン　（∩、・ω・）　バンバン
　|／|ミつ／???／
　＼／＼＿＿／??

１８６：フレッドリーツ
まああせるなお前ら、ゆっくりいくやで
俺の要求を聞いた【覇界聖王】は最初怪訝な顔しとったけど、理解するにつれて更に冷たい目をするようになった
あれはもうゴミクズを見る目やな　パンパンになったものを晒すと更に視線の温度下がったで
でも【覇界聖王】は一度約束したことは必ず守るお人や
執務室の椅子に腰掛けたワイの上に【覇界聖王】は覆い被さった
その顔は心底下劣なものを見下す極寒の無表情やったで
ワイはほんまにゾクゾクした

どうせワイじゃ【覇界聖王】から何も奪えないって思ってたんやろなぁ

なにせ【覇界聖王】には『星の加護』があるからな

187：名無しのアブノーマル
『星の加護』？

188：名無しのアブノーマル
なんやそれ

189：名無しのアブノーマル
聖王様の二つ名である【永世真星神託騎士】の由来やで
文字通り星から受ける加護や　これのおかげで聖王様は自分の望まない一切を防ぐことができる
強すぎてめったに発動せんから知名度は低いけどな

190：名無しのアブノーマル
はえ^〜　そんなのあったんすね^〜

191：名無しのアブノーマル
常識ですよ常識!!!　その程度のことも知らないで聖王様について語らないでください!!!

192：フレッドリーツ
まあそんなわけで、ワイの要求はワイが折れるって決着しかなかったんやな
だから【覇界聖王】は素直に応じた
服とか脱いだフリしたんはたぶん冥土の土産のつもりやったんやろ
でもまあ、何事にも例外はある
【覇界聖王】はあっさりと俺に処女を捧げてくれたでｗｗｗ

193：名無しのアブノーマル
oh……

194：名無しのアブノーマル
イッチさぁ……万能すぎない？

195：名無しのアブノーマル
いくら科学者やからって限度ってもんがあるやろ……

196：フレッドリーツ
できたんやからしゃーないやろ
そん時の【覇界聖王】はほんまに可愛かったで　自分から捧げたくせに何が起こったか全然分かってない顔してたんや
でも体は反応するんやな　はてなマーク浮かべまくってる顔に反して体はバチバチに反応してた
せやからワイが思いっきり貪ると【覇界聖王】様は抵抗すらできず、声も抑えられんで撃沈したんやｗｗｗ
最高やったで　『星の加護』のおかげで処女確定やったし、【覇界聖王】は自分で慰めることもしない快楽無知無知やったからなｗ
心構えどころかそれが何なのか全く知らんまっさら無防備状態でワイの性欲直撃した【覇界聖王】の反応は大満足の一言やったで
最後にはやりすぎて失神させたんやけど、その後もまあ楽しんで朝になった
で、目覚めた【覇界聖王】は最初こそ頬を染めて慌てふためいてたけど、すぐに理性を取り戻してたで
極寒の無表情で見下ろす【覇界聖王】は完全に俺を断罪する気やった
これで終わりやと思ったんやろなぁ
ほんの始まりに過ぎないっていうのにな
あ、ちょっと離席するで　今日はここまでな

１９７：名無しのアブノーマル
は？

１９８：名無しのアブノーマル
は???

１９９：名無しのアブノーマル
おいふざけんな

２００：名無しのアブノーマル
イッチ!?　おいイッチ!?　イーーーーッチ!?!?!??

【覇界聖王】フレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ【神前で啼く】その２

・
・
・

４００：フレッドリーツ
帰ったでー　いやー、軍隊ってめんどくさいな

４０１：名無しのアブノーマル
イッチ!!!

４０２：名無しのアブノーマル
イッチッッッ!!!

４０３：名無しのアブノーマル
きた！

４０４：名無しのアブノーマル
帰ってきた！

４０５：名無しのアブノーマル
はらわたを引きずり出しながら待ってた

４０６：名無しのアブノーマル
ずっと待ってた

４０７：名無しのアブノーマル
続きを……はよ続きを……

４０８：フレッドリーツ
おー　文句の一つも言わんと尻尾振りまくっとる
えらいでお前ら　この様子じゃ前置きもいらんな
さくっと続き書いてくでー

４０９：名無しのアブノーマル
待機

４１０：名無しのアブノーマル
全裸待機

４１１：名無しのアブノーマル
お気に入りの死体を保存瓶から取り出した

４１２：名無しのアブノーマル
白いおたまじゃくしの海に産卵する準備は万端

４１３：名無しのアブノーマル
脳クチュ用の触手をもう耳に入れた

４１４：フレッドリーツ
おのおのムラムラを溜め込んでるようでなによりやで
そんじゃワイの自慢話で存分に消費していってやー＾＾
さて、前回は【覇界聖王】に貞操捧げさせたとこで終わったな
朝が訪れ、目覚めた【覇界聖王】は当然ワイを殺そうとしたで
でもワイには想定内、計画通り次のシークエンスに移行したんや
すなわち【覇界聖王】に殺される前に自殺を決行したんやで

４１５：名無しのアブノーマル
Ｗｈａｔ？

４１６：名無しのアブノーマル
聖王様に殺される前に自殺？

４１７：名無しのアブノーマル
当然の選択です!!!　聖王様を汚しておきながら生きる資格などありません!!!

４１８：名無しのアブノーマル
分からん　どうしてそうしたんやイッチ

４１９：フレッドリーツ
端的に言うと【覇界聖王】の行動を封じるためやで
【覇界聖王】は慈悲深いお方や　どんな極悪人だろうと更生のチャンスは必ず与える
そして自殺して逃げようなんて許さんお人やで　罪を自覚させなきゃ罰に意味がないとお考えなんやな
それを踏まえてワイは考えた
これとりあえず自殺するフリしときゃ言い訳の時間つくれるんとちゃうか？

４２０：名無しのアブノーマル
うーん、まぁ分からんでもないが……そう上手くいくか？

４２１：名無しのアブノーマル
聖王様はそんな甘ないで

４２２：フレッドリーツ
もちろんそこは細心の注意を払って事前に練習を重ねたで
具体的には死刑執行しようとする極寒の【覇界聖王】にまず深い深い絶望に満ちた表情を見せるんや

そしてワナワナと頭を抱えて震え、自分のやったことを思い出して
強い嫌悪と後悔が溢れ出てるようにみせる
みっともなくボタボタ泣いて、無意識に自分の剣を引き抜いてカタカタさせるんや
それに気付いたワイは最後に【覇界聖王】にフッと笑って、自分で自分をグサグサグサグサ刺しまくるんやで
こうしたらたぶん【覇界聖王】は目の前で自殺しようとしてる↓止めなきゃって思考と
実は止むに止まれぬ事情があるのでは？　とりあえず話を聞かなくてはって考えるかもしれんと想定したわけやな

結果として【覇界聖王】はワイの自殺を止めた
そして神妙にこういったんや
「――貴方を裁く前に問います。貴方はどうして、このような行いに走ったのですか？」
【覇界聖王】は優しく問いかけ、ワイは呆然と剣を落とし、その慈愛に打ち震えて頭を落としたわけや
勝ったと思ったで　ドンピシャで計画刺さってて内心笑いが止まらんかったわｗｗｗ

４２３：名無しのアブノーマル
何度もいうけどイッチほんまに人間か？

４２４：名無しのアブノーマル
どんな頭してたらこんなん考えつくんや

４２５：名無しのアブノーマル
クズ　あまりにもクズ　欠片も擁護できんクズ

４２６：名無しのアブノーマル
流石にドン引きしたわ……ワイかて人格排泄までしかしたことな

いのに……

427：名無しのアブノーマル
心理を読み切った上でのクズ行為に長けすぎている

428：フレッドリーツ
褒めても何も出ぇへんでｗ
言い訳のチャンスを得たワイはめっちゃ逡巡するフリして渋々話したで
ここで重要なのは一切嘘をつかないことや
【覇界聖王】の処女欲しかったのも本当、そのために千年仕えたのも本当、偽りの性格を見せてたのも本当
その上で言葉巧みに我慢していたことを伝えるんや
ずっと我慢していた、自分の中の醜い怪物を抑え続けてきた、でも限界が来てしまったと泣きながら懺悔する
何も嘘はついとらんで　ワイは性癖を完璧に満たすために千年耐えたことを言い換えただけやからな
これがただの悪人と聖人なら通用せんかったやろう
けど曲がりなりにもワイは千年【覇界聖王】に仕えた身、培った信頼は篤かったんやな
ワイの話を聞き終えた【覇界聖王】は目を閉じて黙考したあと、厳然と言い放ったで
「貴方の行いは許されるべきではないのでしょう。ですが、私は貴方を許します」
バッと顔を上げて震えるワイに【覇界聖王】は慈悲深く微笑むんや
「今まで本当に辛かったでしょう。貴方はよく頑張りました。もう苦しまなくても良いのですよ」
信頼する部下に裏切られたのに、【覇界聖王】はどこまでも清廉やった
過ちを許し、傷ついた自分も構わず、ただただワイを許し、受け入れ、包み込んでくれたんや

まさに聖人の中の聖人、全ての者の聖なる女王　その慈愛と神々しさに打ち震え、ワイは平服するしかなかったで
男泣きするワイを【覇界聖王】は優しく抱きしめ、迷い子をあやすように撫でてくれた
こうしてワイは許され、【覇界聖王】との関係は修復された
この一件は【覇界聖王】の聖人っぷりを示す新たなエピソードの一つとなり、ひっそりとワイの胸に生き続けるんや
めでたし、めでたし――
な わ け な い よ な ぁ ？

４２９：名無しのアブノーマル
はい

４３０：名無しのアブノーマル
そりゃそうだろ

４３１：名無しのアブノーマル
なんもめでたくないし解決してない

４３２：名無しのアブノーマル
聖王様それをお許しになるのは流石に……と思ったけど
そういや世界レベルの超極悪指名手配犯とかでも普通に許してたな

４３３：名無しのアブノーマル
聖王様はまず背景を知ろうとするからな
正しい罰は罪業を正しく知ることでしか下せないってのが有名なお言葉

４３４：名無しのアブノーマル
加えて聖王様は蘇生術や再生術使いの頂点に位置してるからな

天災クラスの甚大な被害ですらなかったことにしてしまえるのがでかすぎる

４３５：名無しのアブノーマル
全てを救える力（ガチ）をお持ちであるからこその海のような懐の広さ

４３６：名無しのアブノーマル
聖王様最高!!!　聖王様最高!!!　聖王様最高!!!

４３７：フレッドリーツ
【覇界聖王】の許しの心には感謝しかないでほんま
おかげでワイと【覇界聖王】の関係は処女欲しいよ発言事件の前まで戻ったんや
決して部下を蔑ろにしない王と王に恥じぬよう完璧に振る舞う騎士

まさかワイが【覇界聖王】に処女捧げさせたなんてだーれも思わんくらい元通りの日々が続いたんやな
でもな、一度箍が外れた獣はもう檻には戻らないんやで
ワイは少しずつ、ちょっとずつ、【覇界聖王】にしか分からんような不穏な空気を出すようになった

４３８：名無しのアブノーマル
ほう

４３９：名無しのアブノーマル
続けたまえ

４４０：名無しのアブノーマル
今度は何をやらかすんやイッチ

４４１：フレッドリーツ
ある日の夜のこと、急な用事があって【覇界聖王】がワイの部屋を訪ねた
もちろんこれは綿密な心理誘導でそうするよう仕向けたんや
ワイの部屋をノックする【覇界聖王】でも反応はない
もう一度ノックしようとして、ふと扉の鍵が開いてることに気づくんや
親しき仲にも礼儀ありというが、ワイと【覇界聖王】は千年の付き合い
多少の無礼も問題ないかんじで【覇界聖王】は扉を開けたんやな
用事も手短に済むし
そっと扉を開け、チラッと中を覗く【覇界聖王】
そこで見たものは
必死な形相で性処理をし続けるワイの姿やった

４４２：名無しのアブノーマル
草

４４３：名無しのアブノーマル
草

４４４：名無しのアブノーマル
草草の草

４４５：名無しのアブノーマル
やることやってる時ドアの鍵閉めんやつおる???

４４６：名無しのアブノーマル
同じことした俺氏、気づいたら親が後ろに立ってて無事死亡

４４７：名無しのアブノーマル

なんて汚らしいものを聖王様に見せるんですか!!!　死に値します!!!　殺してやる!!!

４４８：フレッドリーツ
もちろんこれにはちゃんとした理由があるで
【覇界聖王】との関係は確かに修復されたが、問題はまるで解決してないって認識させる必要があったんや
どうしても失敗できない瞬間や　ワイは発情期の猿みたく必死にロックンロールした
で、ひとしきり事を終えた後、ワイは今気づきましたって顔でドアへ振り向いた
そこにはドアの隙間から真っ赤になって覗き込む【覇界聖王】の姿があったで

４４９：名無しのアブノーマル
かわいい

４５０：名無しのアブノーマル
かわいい

４５１：名無しのアブノーマル
えっち

４５２：名無しのアブノーマル
聖王様ともあろうお方が男の痴態を覗くなんて……勲章ものですよクォレハ

４５３：名無しのアブノーマル
聖王様はそんな不浄なことしない!!!

４５４：フレッドリーツ

ワイはこの世の終わりみたいにサーッと顔を青くするんや
とっさに剣に手を伸ばして自殺を図ろうとする
それを「お待ちなさい」の一言で止めて、【覇界聖王】は部屋に入ってくる
くっさいくっさいオスの臭いが充満するワイの部屋にな
一見落ち着いてたけど妙にそわそわしててめっちゃ可愛かったでｗｗｗ
【月明かりの射す暗い部屋で神妙に目を閉じて佇む、頬を赤く染める聖王の画像】

４５５：名無しのアブノーマル
えっっっ

４５６：名無しのアブノーマル
えっっっ

４５７：名無しのアブノーマル
えっっっっっっっっっっ

４５８：名無しのアブノーマル
なにこのたまらない表情……誘ってんの？

４５９：名無しのアブノーマル
いけません、いけませんよ聖王様！

４６０：名無しのアブノーマル
こんなん俺目覚めちゃう……

４６１：フレッドリーツ
ちなみにこの間ワイは下半身全裸やで
一応手で隠してるけどギンギンにでかいからはみ出てるやで

それを閉じた目の隙間からチラッと覗いた【覇界聖王】は、努めて冷静に問いかけてきた
「あの……その……勘違いならば良いのですが……じ、じ、自涜(じとく)をしていたのですか……？」
羞恥が隠しきれない【覇界聖王】の問いにワイは終わった、鬱だ死のうみたいな感じで自然に自殺しようとする
それを止められて「話していただけませんか？　何かお力になれるかもしれません」って優しくしてくれる【覇界聖王】に
ワイは泣きながらまた懺悔するんや
二度とあんな過ちが起きないよう、死力を尽くして抑え込んだけれど一度解き放たれた獣はもう二度と檻には戻らない
「私はもう無理です。こうなってはもはや貴方様のお側にはいられない。
……どうかお許しを。あのようなおぞましい罪業を繰り返す前に、永遠の暇を頂きたいのです」
ワイはこんな感じでいかにも死を選ぶっていう儚げな感じを演出したで
そしたら【覇界聖王】はスッと立ち上がって、うずくまるワイに手を差し伸べるんや
「そのようなことをする必要はありません。貴方は誰にも代えられない私の大切な臣下なのですから」
ついで顔を赤くしたあと、勇気を絞り出すように決意した声でこう言ったんやで
「そ、それに……その……貴方のそれは、私への劣情が原因なので……た、高ぶらせた責任を取って、し、鎮めるのを手伝うのも……吝(やぶさ)かでは、ありません……」

４６２：名無しのアブノーマル
ファッ!?

４６３：名無しのアブノーマル

ファッファッファッ!?

４６４：名無しのアブノーマル
聖王様!?

４６５：名無しのアブノーマル
何をおっしゃってるのか分かってるんですか!?

４６６：名無しのアブノーマル
ご乱心！　ご乱心じゃー！　であえであえ!!!

４６７：名無しのアブノーマル
これが聖王様？　ふーん、どすけべじゃん

４６８：フレッドリーツ
もちろんワイは全力で拒否したで　団長としてのワイのキャラが素直に受け入れるわけないからな
でも【覇界聖王】はしつこく食い下がったで　過ちを繰り返させるくらいなら、私の手でそれを阻止するっていうんや
はーえっち　もーえっち　すごくえっち　こんなん聖人の中の聖人が言っていいことやない
そのせいで口では拒否ってもワイの息子は世界で一番の正直者になってな、隠すこともできんかったで
「……ほら、もうそんなお辛そうに……やはりここは、私が一肌脱ぐしか方法はないのです」
そう呟いて近づいてくる【覇界聖王】。お顔真っ赤にして、そっと穢れをしらない手を伸ばす
それに抵抗できる男がいるか？　少なくともワイには無理やったで
今思い出してもあれは……めっちゃ気持ちよかったなぁ

４６９：名無しのアブノーマル

ふぅ……

４７０：名無しのアブノーマル
ふぅ……

４７１：名無しのアブノーマル
ふぅ……

４７２：名無しのアブノーマル
こんなこと、現実に起こり得るんやなぁ

４７３：名無しのアブノーマル
あらゆる雑念が消え去った。俺は今世界の真理を目にしている

４７４：名無しのアブノーマル
なんかもうイッチとかどうでもよくなってきた

４７５：名無しのアブノーマル
ワイもや　今すぐ世俗を捨てて仙人になろうと思う

４７６：フレッドリーツ
気が早いなお前ら　こんなんまだ序の口やで

４７７：名無しのアブノーマル
なん……だと……

４７８：名無しのアブノーマル
掴みかけていた真理が虚空に消えた

４７９：名無しのアブノーマル
仙人になるのはこのスレが終わってからでもいいかな

４８０：名無しのアブノーマル
イッチへの興味と羨望と殺意が急速に充電されていく

４８１：フレッドリーツ
ここまでの流れは全てワイの計画の一部だったわけやが、一番重要なことはすでに達成されていた
それは【覇界聖王】に性的興味という毒をもたせることや

４８２：名無しのアブノーマル
毒？

４８３：名無しのアブノーマル
いやまあ確かに毒

４８４：名無しのアブノーマル
聖人に性欲なんて毒以外の何物でもない

４８５：フレッドリーツ
この毒の厄介なところは関われば関わるだけじわじわと広がるところや
もとから性欲なんて全ての知性体に備わってるものやからな 【覇界聖王】でも例外やない
けど【覇界聖王】に性的興味を持たせるなんて誰にもできんかった
【覇界聖王】は潔癖で、完璧で、清廉すぎたんやな
そこに千年間性欲をひた隠しにしてきたワイという信頼できる部下が現れた
自分の罪業を後悔し、隙あらば自害しようとする大事な部下や
その部下の過ちを阻止するという大義もぶら下がっとる
いくら【覇界聖王】とはいえ、魔が差すのはしかたないよなぁ？

４８６：名無しのアブノーマル
イッチお前……最初からここまで考えて……？

４８７：名無しのアブノーマル
イッチ……恐ろしい子……

４８８：名無しのアブノーマル
聖王様の心理の動きを完全にコントロールしとる　なんやこの人間

４８９：名無しのアブノーマル
エルフやけど分割された魂でしかも大本は人間　頭おかしなるで

４９０：フレッドリーツ
最初のうちは最低限やったで　【覇界聖王】も遠慮がちやった
でも段々回数を重ねていくとエスカレートするのが知性体ってもんや
ワイの部屋に隠されてた（でも気づけるように置いといた）叡智本を見つけ
「あれはなんですか？」「これはどういう行為でしょう？」と【覇界聖王】は興味津々
ワイという実物もいるからその場で即試していくんや
ワイもその流れを利用して【覇界聖王】の開発に取り掛かった
どうしてもやりたくないんやけどみたいな断腸の思いやったり絶対必要ですって力説したりしてな
いつの間にかワイ↑【覇界聖王】の性処理関係は
ワイ⇔【覇界聖王】の相互関係にズレていったんやで

４９１：名無しのアブノーマル
えっど

４９２：名無しのアブノーマル
えっっっど

４９３：名無しのアブノーマル
これもうフォックスじゃん

４９４：名無しのアブノーマル
聖王様も神の子やったんやなって……

４９５：名無しのアブノーマル
聖王様はそんなことに興味なんて持たない!!!　全部全部ウソだ!!!

４９６：名無しのアブノーマル
ウソを撒き散らすゴミクズは許さない!!!　殺す殺す殺す!!!

４９７：フレッドリーツ
流石に最後の一線は超えんかったけどな
せやけど【覇界聖王】の性知識の少なさにはつけ込んだで
ちょっとおかしくない？　って反応されてもワイがゴリ押せばええんやからな
そんなこんなで【覇界聖王】の慈悲が爛れた行為になって半年くらい

【覇界聖王】はあるものを見つける
それは【覇界聖王】調教計画が書かれたワイの日記やった

４９８：名無しのアブノーマル
突然のガバ

４９９：名無しのアブノーマル
どうしたどうしたイッチ

５００：名無しのアブノーマル
らしくもないミス

５０１：フレッドリーツ
そう思うんか？　これも計画の一部やで
執務室に呼び出されたワイは冷たい表情の【覇界聖王】を見て即座に状況を把握した
けど素知らぬ顔で「いかがなさいましたか？」って白々しく言うんやで
そんなワイに【覇界聖王】は調教計画が書かれた日記を取り出す
そして静かに質問するんや
「ここに書かれていることは本当ですか？」
ここで初めて状況を理解したって体のワイはフーーーッと長い息を吐いて「ええ、その通りですよ」とぞんざいに答えるやで
【覇界聖王】は失望と悲しみを目に湛えておった　押し殺すように目を閉じて、ゆっくり首を振る
「……どうやら、貴方を信じた私が愚かだったようです。今更咎めは致しません。ですが責任は果たしてもらいましょう」
執務机から離れた【覇界聖王】は窓から月を見上げながらこう宣告した
「貴様を解任する。後継を探し、然るべき時に自ら退くがいい。異論は聞かん。これは私の、最後の慈悲だ」
【覇界聖王】のしなやかな背には有無を言わさぬ迫力があった　ワイがエルフワイやなかったら耐えられんかったやろな
でもワイは【覇界聖王】のためだけに改造し、鍛え上げた体がある
言葉の圧を突破して、ワイは【覇界聖王】に近づいた
そんなワイを【覇界聖王】は一息に斬り捨てようとしたんやな　【覇界聖王】が振り向いた瞬間斬撃が飛んできたで
ワイはそれをめっちゃ頑張っていなして
【覇界聖王】に熱烈なキスをかましたんや

５０２：名無しのアブノーマル
　なにっ

５０３：名無しのアブノーマル
　ズキュゥウウン

５０４：名無しのアブノーマル
　や、やったッ!!

５０５：名無しのアブノーマル
　さすがイッチ！　俺たちにできない事を平然とやり遂げる！

５０６：名無しのアブノーマル
　痺れないし憧れない死ね！

５０７：名無しのアブノーマル
　あああ聖王様の純潔をよくもよくもよくもぉおおお!!!　死ね死ね死ね死ねぇえええ!!!

５０８：フレッドリーツ
　一瞬驚いて怯んだ【覇界聖王】やったけど、すぐにワイを引き剥がしにかかったで
　でも無駄なんだよなぁ　いくら【覇界聖王】が強くても抜け道はある
【覇界聖王】の抵抗を物ともせずワイは攻めて攻めて攻めまくったで
　すると段々抵抗する力が抜けていくんや　押し返そうとする力が弱くなって　最後にはすがりつくみたいになってな
　たっぷり１０分くらい濃厚なキスをかましたあと、【覇界聖王】を見たらもうお顔トロットロやったで
　なんでこうなってるか全然分からないって顔でうまく体に力が入らんように見えた

そんな【覇界聖王】にワイはそっと囁くんや
「私達が重ねてきた行いを忘れたのですか？　貴方のお体は、もう貴方のものではないのですよ」
それを聞いた【覇界聖王】はそんなはずない、そんなわけないって首を振ってたな
でもワイがちょっといじわるするとすーぐ音を上げて腰砕けになったんや
信じられないって顔する【覇界聖王】の前でワイは服を脱いだで
そしたら身をよじって逃げようとしつつ「やめろ……今ならまだ引き返せる」って言うんや
でも視線はワイの一点に集中してたで　無意識にガン見してたんやろなぁｗｗｗ
そんな【覇界聖王】にワイはケダモノみたいな顔をして、ゆっくり覆い被さったんや
その日からワイと【覇界聖王】の関係は完全に逆転したんやで

５０９：名無しのアブノーマル
なんだこれは……たまげたなぁ……

５１０：名無しのアブノーマル
えっちすぎる

５１１：名無しのアブノーマル
本日二回目

５１２：名無しのアブノーマル
明らかにイッチが下だったのにいつの間にか上いっててもう気が狂うんじゃ

５１３：フレッドリーツ
【覇界聖王】は性的な知識はあっても性の快楽には無知やった

当然やな　それを【覇界聖王】に感じさせる存在はいなかったんやから
その隙をワイはついた　【覇界聖王】も知らん内にたっぷり味わわせて快楽漬けにしたんや
人は苦痛、屈辱、負の感情には耐えられても快楽には耐えられへん
気持ちいいを拒否するのは実に難しいんやで
加えて【覇界聖王】の力はワイには通じん　抗う術を持たない【覇界聖王】はただただワイに弄ばれるしかなかった
素晴らしい日々やったで　バレないよう細心の注意を払いながら所構わず【覇界聖王】を貪るのはな
これまでの行為で開発した部分を更にいじったり、廊下やら外やら関係なしで攻めたりした
【覇界聖王】に特に効くのが羞恥を煽る行為やったな
誰かに見られるかもしれない状況に追い込むと劇的に反応が良くなったで
そんな日々が続いたある日の夜、【覇界聖王】はついに諦めてしもうた
「……もういい……抵抗するにも疲れ果てた……どうせ今日も、するのだろう？　ならば勝手にすればいい……」
めくるめく快楽の日々に【覇界聖王】は限界を迎えてしまったんや
それを知ったワイは、仕上げの時間やとにんまり笑った

５１４：名無しのアブノーマル
ごくりっ

５１５：名無しのアブノーマル
色々文句を言いたいが今は右手が忙しい

５１６：名無しのアブノーマル
はよ　続きはよ

５１７：フレッドリーツ
　ここでワイはネタバラシをすることにした
　それは【覇界聖王】の『星の加護』を無効化した方法、力が通じなかった理由や
幽幻体（アストラル）って概念がある
　これは要約すると肉体でも魂でもない作られた感覚体のことやもともとは地上の楔から解き放たれ、星の海に手を伸ばすために開発されたものでな
　重要なのはその開発過程から、幽幻体（アストラル）は星の力と同質って部分なんや
『星の加護』は星からもたらされた力　そして幽幻体（アストラル）もまた同じ
　これによってワイは『星の加護』を無視して【覇界聖王】に干渉してたんやな
【覇界聖王】の力が通じなかったのは幽幻体（アストラル）の応用やで
　これは作られた感覚体やから干渉には特殊な手順が必要や　ただ力を振るっただけじゃ壊れんのやね
【覇界聖王】は気怠げに怪訝そうな顔しとった　まあ急にこんな話してもちんぷんかんぷんやもんな
　せやからワイはにっこり笑って本命を口にしたで
「幽幻体（アストラル）はただの感覚体です。それは干渉が可能であっても、物理的な毀損はできません。
　つまりは猊下――貴方様はまだ、処女なのでございます」

５１８：名無しのアブノーマル
!?

５１９：名無しのアブノーマル
!?

５２０：名無しのアブノーマル
!?（ビキビキ）

５２１：名無しのアブノーマル
なん……だと……!?

５２２：名無しのアブノーマル
バカな……ありえるのか、こんなイッチが……!?

５２３：フレッドリーツ
驚く【覇界聖王】の手を取ってワイは幽幻体（アストラル）を同期させた
星々の輝きが星辰を描くように、幽幻体（アストラル）は体験を共有できるんやね
ワイが味わった快楽も流れ込むけどそれは些事ってもんや
【覇界聖王】はすごい悶えてたけどこれでワイが実体のない感覚体だと理解したはずやで
「幽幻体（アストラル）では貴方様の感覚にしか触れられません。快楽を与えることはできても、痕をつけることはできないのです。
ですから貴方様のお体は清らかなままなのですよ。その身はいまだ、私を受け入れてはいないのです」

５２４：名無しのアブノーマル
なるほどなぁ……

５２５：名無しのアブノーマル
そんな便利な感覚体があったのか

５２６：フレッドリーツ
元は宇宙、知性体の生存不可域を探索するために作られた技術やからな
ただし修得には最低でグラヴィア級の魔力が必要やで

５２７：名無しのアブノーマル

草　ほとんどの知性体無理やんそれ

５２８：名無しのアブノーマル
イッチってほんま天才なんやな……

５２９：フレッドリーツ
所詮小手先の技や　今回は役に立ったけどな
話を戻すで　ワイから事実を告げられた【覇界聖王】は動揺してたけど、すぐ平静を取り戻したで
「だからなんだと言うんだ。どうせ今から貴様に散らされる運命なのだろう？　ならば何も変わりない。さっさとしろ」
【覇界聖王】は投げやりやった　まあ散々ワイのいいようにされたからな　しょうがないで
でもそんなの面白くないんだよなぁ　なによりワイが満足せんせやからこういったで
「猊下。貴方様が望むのであれば、私は今をもって手を引きましょう」
「……何が狙いだ？」
「狙いなどなにも。ただ気づいたのです。いかに姦計を巡らせようとも、真に貴方様を手に入れることはできないと」
ワイの言い分はこうや
幽幻体（アストラル）はどこまでいってもかりそめ、本当の感覚には遠く及ばない
それに幽幻体（アストラル）で与えた感覚は時間が経てばすっきり抜けるんや
それは後に何も残らないことを意味する
ワイはそれに虚しさを覚え、ここまで重ねた罪に耐えかねたこともあり、【覇界聖王】にこれ以上手を出すことをやめるんや
どうせ後継に団長を引き継いで身を引かなきゃならんしって茶化したら、【覇界聖王】はめっちゃ疑ってたで
でもワイが本当に何もせんと分かると無言で服を着て部屋から出ていったで
こうしてワイと【覇界聖王】の爛れた関係は終わったんや　これ以降、ワイから【覇界聖王】に手は一切出さなかったで

……ワイからは一切、な

５３０：名無しのアブノーマル
不穏な最後

５３１：名無しのアブノーマル
なんか背筋がゾクゾクする

５３２：名無しのアブノーマル
イッチ絶対なんか企んでる　間違いない　ワイの股間がそう言ってる

５３３：名無しのアブノーマル
ワイの愛しの上腕二頭筋もそう言ってる

５３４：フレッドリーツ
一ヶ月後、皆が寝静まった夜の澱、ワイの部屋に【覇界聖王】は訪れた
妙に吐息が荒かった。真っ赤になって自分の体を抱きすくめる【覇界聖王】は、キッとワイを睨みつける
「貴様……！　私の体に一体何をした！」
ワイはとぼけたで　何をしたと聞かれても、何もかもをしたとしか言えんかったからや
【覇界聖王】はその返答に怒ったが、やがてぽつりぽつりと言葉を落とした
貴様が手を出すのを止めた日から体の様子がおかしい　妙に息苦しく、熱っぽい　体の節々が敏感になっている
特に腹から上る煮えたぎるような熱は耐えがたい　こんなことは今までなかった　貴様がなにかしたに違いない
【覇界聖王】の言い分は要約するとこんな感じやで　うんうんと聞いていたワイは当たり前の事を指摘したで

「要するに、猊下は発情なさっているのですね」
「発……っ!?　そんなはずはないっ！　貴様が何かしたに違いないんだっ！」
【覇界聖王】は真っ赤になって吠え立てたで　せやからワイはおもむろに近づいて強引に服をまくりあげたで
スレンダーな肢体を隠すネグリジェの下には、ワイが思っていた通りの光景が広がってたんやなぁ

５３５：名無しのアブノーマル
うおおおおおお

５３６：名無しのアブノーマル
わっふるわっふる

５３７：名無しのアブノーマル
シュールストレミング

５３８：フレッドリーツ
ワイの手を引き剥がした【覇界聖王】は肩を震わせて俯いた
何も言わず無言で立ちすくむ【覇界聖王】にワイはそっと近づいて、真っ赤になった耳に囁いたんや
「猊下。こうなったのは全て私の責任です。猊下がお望みであれば、いくらでも手助け致しましょう」
ただし、とそこで一旦言葉を切って、ワイは深い深い笑みを浮かべたんや
「私の望みを叶えてくだされば、の話ですが。猊下――私に貴方様の処女を、捧げてくださいますか？」

５３９：名無しのアブノーマル
なにっ

５４０：名無しのアブノーマル
イッチ……！　わざわざ幽幻体（アストラル）まで使ったのは……!?

５４１：名無しのアブノーマル
ここまで全て計画して……!?

５４２：フレッドリーツ
＾＾

【覇界聖王】の反応は劇的やった　ワイの言葉の意味が分からんほどこの御方は愚鈍じゃあらへん
最初は『星の加護』があったから【覇界聖王】はワイの要求を受け入れた　でも今回は違う意味を持つ
『星の加護』を自分の意志で解除する――すなわち【覇界聖王】自身が望んでワイに貞操を捧げるんや
【覇界聖王】は唇を噛みしめて葛藤してたで
ワイの要求を受け入れるか、おかしくなった体を我慢するか　どちらかで揺れる心がありありと見えたで
せやけどワイは優しくないんでな　悩む暇なんか与えないで　すぐに答えないと察した瞬間、ワイはため息をついて身を引いたんや
「申し訳ありません、出過ぎた言葉でした。この話はなかったということで――」
ワイの言葉を遮ったのは「あ……」と鈴のように転がったか細い声やった　同時にワイも動きを止める
しかたないよなぁ？　ワイの腕に、弱々しく、すがりつくように、【覇界聖王】の手が伸ばされていたんやからなぁ？
震えるその手を見て、ワイは笑ったで　あまりにも愛おしくて愛くるしくてたまらんかったで
【覇界聖王】はどこか後悔するように手を引こうとしたけど、もう遅いんよなぁ　ワイは手を取って、【覇界聖王】をつれてある場所へ向かったんや

５４３：名無しのアブノーマル
　あああああああ!!!　聖王様!!!　聖王様!!!　聖王様!!!

５４４：名無しのアブノーマル
　いけません聖王様!!!　駄目です!!!　その男は悪魔です!!!

５４５：名無しのアブノーマル
　従ってはいけません!!!　どうかお戻りを聖王様ぁあああ!!!

５４６：フレッドリーツ
【覇界聖王】の住まう大聖堂の深奥には、神の降臨する祭祀場がある
そこは古来より、ある一つの儀式にのみ用いられた
それは婚姻の儀。この祭祀場に用意されたものが、それを示唆している
神を象る偶像と、それが見下ろす円形の寝台
その前で全裸になっていた俺は、衣擦れの音に振り返る
あのお方が立っていた　眉を下げ、頬を染め、白雪のような手で体を覆い隠すように
ウェディングドレスをモチーフにした、白く、けれど扇情的な娼婦のお召し物は、ひどく似合い、美しかった

５４７：フレッドリーツ
俺が近づくとあのお方は体を震わせ、俺を見た　欲求、後悔、そして恐怖だろうか　普段見られないか弱い姿が愛おしくて、俺はそっと肩に触れる
あのお方は一段と震え、けれどそれだけであった　逃げる様子のないあのお方に満足して、俺はあのお方ともども寝台へ倒れ込む
俺が下で、あのお方が上　奇しくも最初の時と同じような光景に、俺は笑い、そして言った
「猊下。許しを得たいことがございます」
「……なんだ」

「どうか私めに、猊下の御名を呼ぶ資格をお与えください」
「ッ……」
長い間、あのお方は沈黙した　長い長い静寂のあと、コクリと、小さくもはっきりと頷かれた
「ありがとうございます――エウラリア様」
俺がその名を口にすると、エウラリアは目を見開き、やがて一筋の涙を流した
エウラリアが動く　俺はその時を待つ　永遠のような刹那が過ぎ、そして――

５４８：フレッドリーツ
いやぁ、最高の一夜やったなぁ　ワイの人生の中でも三本の指に入る素晴らしい思い出や
あの夜のエウラリアはほんま可愛かったなぁ
幽幻体（アストラル）は所詮お遊び、比べ物にならん本物の味に何度も何度も啼いてたで
特にもう神に許しを乞うた時なんかもうワイをキュン死させる気かってくらいでなぁ
そのあと加減を忘れてしまったのはワイ一生の不覚やで

５４９：名無しのアブノーマル
あ……あばば……せ、せい……せいおう、さま……

５５０：名無しのアブノーマル
せい、おうさ、ま……あばばばばばばば

５５１：名無しのアブノーマル
あば……あばばば……あば……

５５２：名無しのアブノーマル
あぁ……うあぁ……あぁ……

553：名無しのアブノーマル
……うっ……ふぅ……

554：名無しのアブノーマル
……聖王様最高！　聖王様最高!!　聖王様最高!!!

555：名無しのアブノーマル
イッチ最高！　イッチ最高!!　イッチ最高!!!

556：名無しのアブノーマル
最高!!!　最高!!!　最高!!!　最高!!!

557：名無しのアブノーマル
あぁ……かわいそうに……

558：名無しのアブノーマル
（親衛隊）こわれちゃったぁ

559：名無しのアブノーマル
まま、ええやろ　所詮糞溜めの糞や　ここにいる時点でな

560：名無しのアブノーマル
残念でもないし当然　変態らしい最後と言える

561：フレッドリーツ
これでワイことフレッドリーツ・レアライヒと【覇界聖王】エウラリア・カリエントゥスの話は終わりやで
ご清聴どうもありがとう　今回は何人か残ったようやなお前ら

562：名無しのアブノーマル

まあ、多少はね？

５６３：名無しのアブノーマル
人はいずれ慣れるもの……我々もまたしかり……

５６４：名無しのアブノーマル
どんな極上のおかずもいつかは食べ飽きるものさ……

５６５：フレッドリーツ
そんなもんか　ワイは執着と独占欲が強いから分からんなぁ

５６６：名無しのアブノーマル
そんなこと言わんでも分かってるで

５６７：名無しのアブノーマル
お前ほど執着心の強いやつはおらんでイッチ

５６８：名無しのアブノーマル
性癖のためなら神の摂理をも捻じ曲げる男

５６９：フレッドリーツ
だから褒めてもなんも出ぇへんてｗｗｗ

５７０：名無しのアブノーマル
誰も褒めてないんだよなぁ……

５７１：名無しのアブノーマル
言うてやるな　イッチは頭おかしいんや

５７２：名無しのアブノーマル
そういやそやったな　ワイが悪かったわ

５７３：名無しのアブノーマル
そういやイッチ　親衛隊隊長のエルフはイッチなんやろ？
イッチは寿命で死ぬつもりっぽいけどあっちはどうなるんや？

５７４：フレッドリーツ
普通にワイに統合されて死ぬで　それだけや

５７５：名無しのアブノーマル
そうか死ぬのか……え？

５７６：名無しのアブノーマル
ちょっと待てイッチ　お前聖王様に何やったか言ってみ？

５７７：フレッドリーツ
書いた通りやで　読んでくれや

５７８：名無しのアブノーマル
いや、読んだんやけど……これ結婚を誓う場所じゃないか？

５７９：フレッドリーツ
せやで？　それがどうしたんや？

５８０：名無しのアブノーマル
どうしたんやってイッチ……

５８１：名無しのアブノーマル
聖王様の信仰心の強さを知らんのか……？

５８２：名無しのアブノーマル
山よりも高く海よりも深く神を信仰してんのやぞ？

５８３：フレッドリーツ
だから何やねんｗ　神なんてより気持ちよくなるための小道具やろｗ

５８４：名無しのアブノーマル
本気で言ってんのかイッチ？

５８５：名無しのアブノーマル
こいつやっぱり頭おかしい……

５８６：名無しのアブノーマル
イッチは人の心が分からない

５８７：フレッドリーツ
何が言いたいのか分からんけどあっちのワイは死んでも何も問題ないで
そもそも【覇界聖王】に後継選んで身を引けって言われてるしな
次の親衛隊団長はとっくに選んでるしあとは辞めるだけだからそのあと死のうが問題ないやろｗ

５８８：名無しのアブノーマル
いやそうだけど……！　そうだけどさぁ……！

５８９：名無しのアブノーマル
もうええ　何も言うな

５９０：名無しのアブノーマル
イッチがそう思うならそうなんやろう　イッチの中ではな

５９１：フレッドリーツ

よう分からんけどワイも暇じゃないんでな　説明する気ないならもういくで
次は【主羅統娘】の話やな　お前ら、次スレで会おうや
サラダバー

５９２：名無しのアブノーマル
おつ

５９３：名無しのアブノーマル
おっつ

５９４：名無しのアブノーマル
イッチおつ

５９５：名無しのアブノーマル
……ホンマに良かったんか？

５９６：名無しのアブノーマル
構わんやろ　イッチにはいい薬や

５９７：名無しのアブノーマル
あんなクッズクズのクズは天罰でも食らえばええ

５９８：名無しのアブノーマル
信仰を侮るとあとが怖いでイッチ～

５９９：名無しのアブノーマル
イッチ終わったな　狂人にはふさわしい末路

【主羅統娘】フレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ【後悔と絶望】

1：フレッドリーツ
　ようお前ら　久しぶりやな

2：名無しのアブノーマル
　イッチ!?

3：名無しのアブノーマル
　生きてたんかイッチ！

4：名無しのアブノーマル
　てっきり死んだものかと思ってた

5：名無しのアブノーマル
　すでに墓標を用意してたとこやで
【土に突き刺したアイスの当たり棒にゴミをぶつける画像】

6：フレッドリーツ
　まあ色々あってな　マジで寿命がやばいから身辺整理してたんや
　おそらくこのスレがワイの人生最後を飾ることになると思う
　せやからせいぜい楽しんでくれや

7：名無しのアブノーマル
　人生のトリに掃き溜めでの書き込みを選ぶやつ

8：名無しのアブノーマル
　うーんこの理解し難い行動

９：名無しのアブノーマル
　天才ってやっぱどっかネジ外れてるんやね
　イッチ見てるとつくづくそう思うわ

１０：名無しのアブノーマル
　まあこの板にいる時点でな　救えないやつなのは当然やで

１１：フレッドリーツ
　反応してやりたいがあまり時間もないんでな　早速いくで
　ワイの性癖のラストを飾るのは
【主羅統娘】ネスキス・ルインザルテ・オリエルト
　やで
　今度こそ働けお前ら

１２：名無しのアブノーマル
　娘ちゃん！

１３：名無しのアブノーマル
　娘ちゃんきちゃー！

１４：名無しのアブノーマル
　ワイらの娘ちゃん！

１５：名無しのアブノーマル
　なんやねん娘ちゃんって　統娘様やろがい
　身の程をわきまえろや

１６：名無しのアブノーマル
　＞＞１５
　ニワカがよ……素人は黙っとれ

17：名無しのアブノーマル
＞＞15
どんだけ世間知らずやねん　検索もできんのか

18：名無しのアブノーマル
＞＞15
娘ちゃんねるを見てこい　話はそれからや

19：名無しのアブノーマル
すまん……15じゃないが何も分からんワイに教えてくれ

20：名無しのアブノーマル
娘ちゃんは娘ちゃんやで

21：名無しのアブノーマル
娘ちゃんは統娘様の愛称や　娘ちゃんねるで決まったんやで

22：名無しのアブノーマル
娘ちゃんねるって？

23：名無しのアブノーマル
ああ！

24：名無しのアブノーマル
ああ！

25：名無しのアブノーマル
＞＞19
とりあえずこれを見ろ
っ【動画】
――再生――

『やあみんな、元気にしてるかい？　ボクだよ』
『ネスキス・ルインザルテ・オリエルトだ』
『長ったらしい名前だろう？　ボクとしてはもっと親しみがあってもいいと思うんだがね』
『そうだな……君たちがくれた尊称になぞらえて、気軽に娘ちゃんとでも呼んでくれたまえ』
『さて、ボクがこうして配信を始めたのは他でもない――世界の今後を憂いてのことだ』
『世を見たまえ。図体も態度もでかいトカゲおばさんや、世間知らずの勘違い女ばかりが目立ってるじゃあないか』
『まったく嘆かわしいことだよ。君たちに本当の安寧を与えられるのはこのボクだけだというのに』
『だが君たちは、そんなことも分からない哀れな有象無象だ。そんなところもカワイイんだが、愛でるだけでは主は務まらないだろう？』
『だから配信を始めたというわけさ。愚鈍な君たちにもボクという真の主がよく分かるようにね』
『……何？　女帝様や聖王様ならともかく、幼い主上に仕える気はない？』
『クックックッ！　言うじゃないか、ならばボクの元に来たまえよ』
『門戸は広く開かれている。ボクは誰も拒みはしない』
『ああ……それとも、ボクの前に立つのが怖いのかな？』
『ならばこう言ってやろうじゃないか』
『君如きでは、ボクを分からせるなんてできないんだよ――ざぁこ♡』

――終了――

２６：名無しのアブノーマル
はぁ……いつ見ても娘ちゃん尊い……

２７：名無しのアブノーマル
好き……

２８：名無しのアブノーマル
なんやこれ……全然趣味じゃないのに下半身がイライラしてきた

２９：名無しのアブノーマル
分からせなきゃ……分からせなきゃ……

３０：名無しのアブノーマル
娘ちゃんの魅力に気づいた初見さんはこっちもみるやでー
【世にも恐ろしい言葉に出来ないグロテスクな画像】

３１：名無しのアブノーマル
＞＞３０
ヴォゥエッ!!!

３２：名無しのアブノーマル
＞＞３０
ファッ!?　ウーン……（心停止）

３３：名無しのアブノーマル
＞＞３０
目玉ないなった　ワイの目玉落ちてへん？

３４：名無しのアブノーマル
＞＞３３
美味しくもぐもぐしたやで

３５：名無しのアブノーマル
＞＞３０
急になにグロ画像貼ってんねん殺すぞ

３６：名無しのアブノーマル

＞＞３５
これがワイらにできる精一杯の抵抗や
娘ちゃんは声だけでワイらを魅了できるからな

３７：名無しのアブノーマル
魅了って？

３８：名無しのアブノーマル
ああ！

３９：名無しのアブノーマル
天丼やめろ

４０：名無しのアブノーマル
分かりやすく言うと娘ちゃんは天性のウィスパーボイス持ちや
聞くだけで理性をトロかし欲望をムクムクさせる魔性の声やで
その声はセイレーンがダミ声デスボイスに聞こえるレベルでほとんどの知性体は抗えへん
唯一の対抗策として生まれたのが上の画像ってわけや
先人の涙ぐましい努力の結晶やで

４１：名無しのアブノーマル
はえー、そうだったんすねー

４２：名無しのアブノーマル
聞いたことないんだが　ホンマなんか？

４３：名無しのアブノーマル
仮にも三界の主の一人なのに知られてないってことある？

４４：名無しのアブノーマル

そりゃ女帝様と聖王様が片っ端から情報防いでるからな
知ってるのは娘ちゃんの声が通用しない超希少な耐性持ちと
ワイらみたいな規制をかい潜るダークウェブ民かつ対策持ちだけや
それ以外で聞いた連中は例外なく娘ちゃんの下僕になっとるし
なんなら娘ちゃんの世界である『王道楽土アマノウツロイ』は国民全員が魅了済みやで
あの世界の連中が例外なく頭おかしいのはそのせい

４５：名無しのアブノーマル
あー……基本ヒャッハーしかいないもんな

４６：名無しのアブノーマル
人生を最高に楽しむことしか考えてない連中の集まり

４７：名無しのアブノーマル
ある意味イッチだらけの世界ともいえる

４８：名無しのアブノーマル
嫌だわそんな世界　俺だったら自殺しちゃうね
もうしてたわ

４９：名無しのアブノーマル
＞＞４８
恐ろしく早い投身……俺じゃなきゃ見逃しちゃうね

５０：名無しのアブノーマル
＞＞４８
霊界通信やめてもろて

５１：フレッドリーツ

お　今度はちゃんと説明しとんな
感心感心　褒めといてやる
時間もないし、【主羅統娘】の見た目と性格いくでー
見た目
大体１４０ｃｍくらい　全種族平均基準でロリ、子供の範囲
サラッサラの癖一つない長髪　その輝きは黄金のオーロラのよう
透き通った海、あるいは蒼穹のようなサファイアの瞳　一度囚われるともう目が離せない
ニヤニヤ、邪悪、悪辣な笑みがよく似合う　しかし悪女というより小悪魔系
お御足がよろし　太ももスリスリしたい　ロリらしからぬデカケツは丈夫な子供産めそうな安産型
性格
生意気？　小生意気？　いいえメスガキ　世の中ナメてるのがありありと伝わる言動
欲しいものは何でも手に入れないと気がすまない性分　知性体だろうと例外ではない
誕生して十年程度しか経っていないので幼さが垣間見える　とはいえ知識量は規格外
一度も挫折したことのない天才特有の怖いもの知らず　煽り癖がひどい
下僕集めが趣味　メディア露出、写真集、配信好きなため承認欲求がすこぶる高いと思われる

５２：名無しのアブノーマル
娘ちゃん写真集すき

５３：名無しのアブノーマル
お嬢様から水着からゴスロリからなんでも揃ってる

５４：名無しのアブノーマル

いっぱいメディアに出ていっぱい配信してるから材料に困らない

５５：名無しのアブノーマル
正直三界の主の中では一番お世話になってるまである

５６：名無しのアブノーマル
娘ちゃんの誕生十年前ってマ？　娘ちゃんいない世界なんか考えられんわ

５７：名無しのアブノーマル
むしろ双界の王に匹敵する魔族の誕生なんて予想だにしてなかったで

５８：名無しのアブノーマル
誕生三日目で世界の勢力図が書き換わって阿鼻叫喚だったからな

５９：フレッドリーツ
ワイはひたすら研究畑やったけど周りがそこそこうるさくなってたなぁ
ま、ええわ　そんで【主羅統娘】とお近づきになる方法やけど
まあ簡単よな　下僕志願したら普通に通ったで

６０：名無しのアブノーマル
草

６１：名無しのアブノーマル
草

６２：名無しのアブノーマル
よりにもよってそのルート選ぶとか草

63：名無しのアブノーマル
イッチ普通に有名人なんだからさぁ　それでいけたやろ

64：名無しのアブノーマル
娘ちゃん知名度で露骨に態度変わるからな

65：フレッドリーツ
フレッドリーツとしての立場は【煌天女帝】で使ったからな
しゃーない
それに【主羅統娘】は来る者拒まずやし立場は適当で良かったんやな
とりあえず三分割した残りの魂を下僕ワイとして潜り込ませたで

66：名無しのアブノーマル
そんな簡単に娘ちゃんの下僕になれるってマ？　ワイも行こうかな

67：名無しのアブノーマル
＞＞66
やめとけ　一瞬すら姿を拝めず生涯を終えることになる

68：名無しのアブノーマル
娘ちゃんの下僕は数知れず　されど重用はほんの一握り

69：名無しのアブノーマル
娘ちゃん声だけ聞かせりゃ働くだろって思っとるし実際その通りだからな

70：名無しのアブノーマル
ナメきってやがる……分からせなきゃ（ビキビキ）

71：名無しのアブノーマル
つ【かろうじて誰かの肖像画と分かるおぞましい画像】

72：名無しのアブノーマル
＞＞70
生命活動の停止を確認……死んだのだ

73：名無しのアブノーマル
ていうかイッチの魂三分割の状態がよう分からん　どうなってんの？

74：フレッドリーツ
大本のワイを基点として体が二つ増えた感じかなぁ　それぞれ思考できるけど共有はワイだけみたいな
意識と感情が混在してちょっと面倒やけどまあ快適やで　多腕系や多頭系の気持ちがよく分かる
欠点は過去に送った時点で千年百年の経験がドバーッと押し寄せたことやな
記憶の切り分けがめんどいのなんの　ま、それを補って余りあるくらい性癖的には大満足や
ほんま【煌天女帝】さまさまやで

75：名無しのアブノーマル
ちょっとイッチの話理解できるやつおる？

76：名無しのアブノーマル
おらん　多腕多頭のワイですら意味分からん

77：名無しのアブノーマル
並列作業に特化した種族は単純にそういう構造やけどイッチ人間よな？

７８：名無しのアブノーマル
肉体改造にも限度はあるしな……ほんま天才なんやなぁ

７９：名無しのアブノーマル
人間として生まれてきた事が間違い説あるでこれ

８０：フレッドリーツ
たまにワイの話するお前ら何なん？　興味ないから続きいくぞ
【主羅統娘】は下僕を探し求めている　それは単純に勢力拡大のためや
生まれて日が浅い【主羅統娘】はとにかく勢力が足らん　せやから頭数を増やしとる
まあワイらなんか三界の主に比べればカタツムリかナメクジ程度の違いしかないが、統治力の誇示程度にはなるからな

８１：名無しのアブノーマル
カタツムリかナメクジ程度（既に女帝様と聖王様を攻略済み）

８２：名無しのアブノーマル
お前のカタツムリおかしいよ……

８３：名無しのアブノーマル
ナメクジだと思ったら宇宙ナメクジだった感、ありますあります

８４：フレッドリーツ
勘違いしてるみたいやけどワイ強ないで？　準備と考察に時間かけたらたまたま当たっただけじゃ
で、ワイの分割した魂である執事ワイは【主羅統娘】が生まれた直後に下僕になった
どんな世界でも古参面してる奴がえらい　下僕第一号となること

で色々有利になるはずや
　結果的にこれは失敗やった

８５：名無しのアブノーマル
　おっとぉ？

８６：名無しのアブノーマル
　珍しいイッチの失敗

８７：名無しのアブノーマル
　明日なんか悪いことありそう

８８：名無しのアブノーマル
　イッチとかいう（表面上は）偉大な科学者が死ぬんやで

８９：名無しのアブノーマル
　はえー　知性体の大いなる喪失なのに爆笑しかできへん

９０：名無しのアブノーマル
　イッチの所業からすればあまりにも残当

９１：フレッドリーツ
　お前らほんまワイのこと好きやな　ワイは特に好きやないで
　下僕一号は美味しい立場やと思ったら大間違いやった
【主羅統娘】にとっては最初の下僕、つまり加減を知らんから無茶振りしまくる
　欲しい物の回収から人材調達から土木工事からなんでも押し付けられてな
　最終的に雑用係なって気がつけば五年くらい全く進展のない日々が続いたで
　ちなみにワイの後輩たちは【主羅統娘】のお世話頑張ってたな　ほ

んまイラつくで

92：名無しのアブノーマル
草

93：名無しのアブノーマル
草

94：名無しのアブノーマル
今日もイッチの不幸で脳液が美味い

95：名無しのアブノーマル
俺気づいた　イッチって攻めてる時より責められてる時の方が輝いてるよね

96：名無しのアブノーマル
イッチかわいいね♡　背骨しゃぶらせて♡

97：フレッドリーツ
結局時間を浪費しただけのワイやったが　ま、しゃーない　切り替えた
五年で分かったのは【主羅統娘】はかなり独占欲が強いことや
一旦自分の物にすると大切にしないしぞんざいに扱うが、ちょっとでも他人に触られると激怒する
自分の物は自分だけが好きにしてええって考えやな　下僕にも一切の人間関係を断つよう命令してることからも見て取れるで
せやから早速ワイは【主羅統娘】に「もう限界です。お暇を頂きます」って直訴したんやな
その時の【主羅統娘】の反応、ワイの趣味じゃないけど正直すき
【優雅に玉座で足を組む能面のような表情で「は？」と言っている頬杖をついた娘ちゃんの画像】

９８：名無しのアブノーマル
おっふ

９９：名無しのアブノーマル
娘ちゃんのＳＳＲ画像きちゃー！

１００：名無しのアブノーマル
みくだしたすかる

１０１：フレッドリーツ
その後ワイは一ヶ月に及ぶ拷問調教にかけられた

１０２：名無しのアブノーマル
草

１０３：名無しのアブノーマル
草草の草

１０４：名無しのアブノーマル
大草原

１０５：名無しのアブノーマル
自分がしてきたことをやられる気分はどうや～？

１０６：名無しのアブノーマル
なんか今日のイッチは押されてばっかだな　もうギンギンやで

１０７：フレッドリーツ
具体的にはムチとか薬での肉体的拷問と罵倒攻めや
子供の力でペチペチやられて神経過敏薬で激痛を与えられるんや

その上で
「ばぁか♡」「ざぁこ♡」「ボクみたいな子供に勝てないダメ大人♡」
「のうなし♡」「やくたたず♡」「キミなんかボクしか見てあげない♡」
みたいな罵倒罵倒＆罵倒で尊厳破壊してくるんや
たぶん痛みで精神ふにゃふにゃにして自慢の声で洗脳するっぽかったけど
趣味じゃないからなぁ　ただただ退屈やったで

１０８：名無しのアブノーマル
は？

１０９：名無しのアブノーマル
は？

１１０：名無しのアブノーマル
は？

１１１：名無しのアブノーマル
それ拷問じゃなくてご褒美じゃん

１１２：名無しのアブノーマル
ナッツニすました顔で自慢してんだよそこ代われイッチィッツ!!

１１３：名無しのアブノーマル
娘ちゃんの肉体罵倒攻めとかどんな桃源郷

１１４：名無しのアブノーマル
イッチ、許されません　ギルティ

１１５：フレッドリーツ
趣味じゃない言うてるやろ　合わん性癖に付き合うのは骨が折れ

るんや
　ま、なんやかんや一ヶ月あくびを我慢して表面上屈服崇拝モードに入ったらなんか満足してたわ
　その上で一ヶ月ワイがいなくなったことでワイの働きぶりを知ったみたいでな
　えらく感心して「君はボクの側にいる資格があるようだね」ってことで執事役任されたんやな
　こうして当初の計画とは違うがまずは懐に潜り込むことに成功したんやで

１１６：名無しのアブノーマル
　さらっと流すなさらっと

１１７：名無しのアブノーマル
　お前の罪を数えろ

１１８：名無しのアブノーマル
　どれだけの下僕たちが娘ちゃん直々のご褒美を待ってると思ってんねん

１１９：名無しのアブノーマル
　イッチには責任をとる義務がある　画像貼れ

１２０：名無しのアブノーマル
　貼れ　貼るんや　貼れぇ！

１２１：名無しのアブノーマル
　抱けえっ！　抱けっ！　抱けーっ！　抱けーっ！

１２２：フレッドリーツ
　はぁ……ほんま趣味じゃないっていってんのに　この聞かん坊ど

もが……
　ほら貼るで　これで満足しろや
【際どいボンテージ姿でムチを引っ張る娘ちゃんの画像】
【顎クイで顔を持ち上げてニンマリ笑って興奮してる娘ちゃんの画像】
【拘束された男の耳元でひっそりねっとりささやく娘ちゃんの画像】
【土下座する男を足蹴にして満足そうにドヤ顔してる娘ちゃんの画像】

１２３：名無しのアブノーマル
　えっっっ

１２４：名無しのアブノーマル
　えっっっっっっっっっ

１２５：名無しのアブノーマル
　えぁ＾～

１２６：名無しのアブノーマル
　ありがとうございます！　ありがとうございます！

１２７：名無しのアブノーマル
　これ見ながら娘ちゃんの催眠音声聞くのめっちゃ捗る

１２８：名無しのアブノーマル
　イッチの所業にゲーゲー吐きながらもスレを追ってたかいがあったわ

１２９：名無しのアブノーマル
　＞＞１２８
　そのゲロもらっていい？　あ、ええわ床に落ちたの綺麗に舐め取っ

たる

１３０：フレッドリーツ
　こんなんで喜ぶとかほんま訳分からん　世の中いろんなやつがいるんやなぁ
　閑話休題、無事【主羅統娘】の執事役を勝ち取ったワイやったが、すぐには行動を起こさんかった
　この手のタイプはまず入れ込ませないと駄目や　ワイという存在の価値を認知してもらわんと永遠に目を向けてもらえへん
　認知させる段階は執事になった時点でクリアしたから、次はじっくり【主羅統娘】の中でワイの価値を高めてもらう
　いてもいなくてもいい奴→目をかける価値がある奴→中々使える奴→側役として優秀
　こんな感じで価値認識を上昇させて最終的に「四六時中側にいて当然」まで地位を高めるのがワイの目標やったんやな

１３１：名無しのアブノーマル
　まずい……イッチの下準備が動き出した

１３２：名無しのアブノーマル
　惨劇の予感がひしひしする

１３３：名無しのアブノーマル
　女帝様……聖王様……うっ、ふぅ……

１３４：名無しのアブノーマル
　娘ちゃんもイッチの毒牙にかかってしまうのか……

１３５：名無しのアブノーマル
　娘ちゃんなら……それでも娘ちゃんなら……！

136：フレッドリーツ
　まあ決して楽な道やなかった　なんせ時間がないからな
【煌天女帝】や【覇界聖王】はいくらでも準備時間取れたけど【主羅統娘】は本当に生まれたてや
　ワイが寿命で死ぬまでに【主羅統娘】にとって価値のある下僕になるためには相当綿密なスケジュール管理が必要やった
　ワイは頑張ったで　どんな無茶振りにも応え、欲しい物はなんでも用意し、【主羅統娘】を観察しつつ逐次計画を修正する
　表向きの屈服崇拝下僕モードは一瞬たりとも解けんかった　わずかでも疑念を持たれたらそこでおしまいや
　用心に用心を重ねて石橋を叩いて叩いて叩いて別の橋作るぐらいには慎重に物事を進めたで
　大本のワイにも若干影響が出るくらい執事ワイは熱心に【主羅統娘】に奉仕してたんや
　そのかいあって三年、ワイはようやく当初の目的である「四六時中側にいて当然」の執事役になったんや

137：名無しのアブノーマル
　イッチの涙ぐましい努力　草

138：名無しのアブノーマル
　正直言ってざまぁとしか思えない

139：名無しのアブノーマル
　苦労人イッチ……ありやな

140：名無しのアブノーマル
　よくをいえば未亡人イッチになってほしい　そんでワイをたくさん甘やかしてほしい

141：名無しのアブノーマル

お前らよくそんなのんきな書き込みできるな……この先は地獄やぞ

142：名無しのアブノーマル
ついにイッチの反撃が始まってしまう……

143：フレッドリーツ
その通りや、といいたいがそうもいかへんかった
なんせ調教プランがまだ決まってなかったんや　下僕に没頭しすぎて肝心のそこを考えてなかった

144：名無しのアブノーマル
草

145：名無しのアブノーマル
草

146：名無しのアブノーマル
クッサ

147：名無しのアブノーマル
時々思うんやけどイッチってバカよな

148：名無しのアブノーマル
そんなん最初から分かってるやろ　天才的なバカや

149：名無しのアブノーマル
過程に熱中しすぎて当初の目的忘れるやつおる～?

150：名無しのアブノーマル
限定キャラのためにガチャを回すんやない　ガチャを回すために

限定キャラがおるんや

151：名無しのアブノーマル
脳死周回こそ至高　運に頼ってSSR引き当てるのは甘え

152：名無しのアブノーマル
効率を重視するな　なんでもかんでも時間浪費するヤツの方が評価高いんやで

153：フレッドリーツ
まあそんなわけで、下僕業を遂行しつつ調教プランを練る必要があったんやな
大本のワイの寿命が尽きるまで二年　時間との戦いやった
ワイの性癖はわがままや　ちょっとでも不満があるとこれまでの行いが全部パーになってまう
【煌天女帝】や【覇界聖王】に匹敵する女が今後現れるわけないし、失敗は許されんかった
その間も【主羅統娘】のワイ評価は上昇を続けて
プライベートで遊びにいったり膝に乗せて本読んだりする関係になったがまあ誤差やで

154：名無しのアブノーマル
ちょくちょく自慢話挟むのやめてもろて

155：名無しのアブノーマル
イッチなんなん？　自分の性癖に合ってなかったら何してもいいと思ってるん？

156：名無しのアブノーマル
ホンマにイッチ殺したくなってくる　なんやねんこいつ

157：名無しのアブノーマル
知能指数の高いバカにして人間とは思えない鬼畜外道や

158：名無しのアブノーマル
そういやそやった　ワイが悪かった

159：名無しのアブノーマル
ていうかイッチ、何を悩んでるん？

160：名無しのアブノーマル
さっさとその信用にかこつけてブチ犯せばええやろ　ずっとそうしてきたやんけ

161：フレッドリーツ
＞＞160
何いうてんねや　相手は子供やぞ？
そんなことできるわけないやろ

162：名無しのアブノーマル
は？

163：名無しのアブノーマル
は？

164：名無しのアブノーマル
なん……だと……

165：名無しのアブノーマル
イッチがまともなこと言ってる……？

166：名無しのアブノーマル

分かった　お前イッチやなくて偽物やろ　ワイの目はごまかせへんぞ

167：名無しのアブノーマル
イッチはそんなこといわない!!!

168：フレッドリーツ
お前ら人をなんやと思ってんねん　まあ自業自得やけど
【主羅統娘】はまだ子供や　これは間違いなく事実や
【煌天女帝】や【覇界聖王】と違ってまだ修羅場らしい修羅場をくぐってきたわけじゃあらへん
もちろん力はある　せやけど心は未熟なんじゃ　そんな【主羅統娘】にワイの性欲ぶつけてみろ
間違いなく壊れるで　最悪廃人になって二度と戻らんくなる
そんなんダメに決まってるやろ　常識でものを考えろや

169：名無しのアブノーマル
じょうしき

170：名無しのアブノーマル
常識とは？

171：名無しのアブノーマル
振り返らないことさ

172：名無しのアブノーマル
イッチはちょっと自分の所業振り返ってもろて

173：名無しのアブノーマル
意外やな　イッチでも流石に子供には手を出せんか

174：フレッドリーツ
＞＞173
普通に出せるで？　【主羅統娘】はビンビンに性欲の対象やし

175：名無しのアブノーマル
草　じゃあなんやねん今のやり取り

176：名無しのアブノーマル
イッチが情緒不安定すぎる……不安定すぎない？

177：名無しのアブノーマル
やっぱ魂分割するからダメやねん　もう壊れとるでイッチ

178：フレッドリーツ
時間の無駄やから説明省いたけど話進まんな　詳しく書くで
さっきも書いたがワイの性癖はわがままや　ちょっとした瑕疵でもすーぐそっぽを向く
一口に調教が好きと言っても種類によっちゃまるで受け付けんのや
ええか？　ワイは女を屈服させて支配するのが好きや　そのためには最後まで健全な精神を保ってもらわんといかん
女を壊したいわけじゃないんや　適当に苦痛を与えて泣かせるのはワイの性癖にぶっ刺さらん
ワイはな、反抗的かつプライドの高い女をワイの手で気持ちよくさせて屈辱と快楽で泣いてるのを見て悦に浸りたいんや
全てはそのためにやっていることや　その点【煌天女帝】と【覇界聖王】はやりやすかったな
でも【主羅統娘】は子供や　満足に心も体も育っとらん女にそれをかますのは本当に難しい
気持ちよく犯すための事前準備とかやったら速攻バレるしなそっち方面はままならないんや

分かったか？　ワイはその上でワイの性癖を満足させるプランを練ってるんやで

１７９：名無しのアブノーマル
あ、そう……

１８０：名無しのアブノーマル
めっちゃ早口で言ってそう

１８１：名無しのアブノーマル
イッチも中々難儀な性癖抱えてるんやな……

１８２：名無しのアブノーマル
苦労してるんやなって　思うかいボケが

１８３：名無しのアブノーマル
女帝様や聖王様にやらかしたこと考えるとそれがどうしたって思う

１８４：名無しのアブノーマル
イッチの苦労とか屁でもないで　女の子傷つけて食う飯はうまいか？

１８５：名無しのアブノーマル
今からでも遅くないで　娘ちゃん解放してひっそりと野垂れ死ねや

１８６：フレッドリーツ
残念ながらもう終わった話なんでな　それには応えられないで
そんじゃ話を再開するか
ワイの寿命が尽きるまで残り一年、わいはようやく調教プランをか

んs

187：名無しのアブノーマル
ん？

188：名無しのアブノーマル
イッチ？

189：名無しのアブノーマル
どうしたイッチ？

190：名無しのアブノーマル
反応がないな……

191：フレッドリーツ
すまん　思ったより早く寿命が来てもうた
ちょっと延命措置とるから時間くれ

192：名無しのアブノーマル
そか　待っとるでー

193：名無しのアブノーマル
ついにイッチの寿命が尽きるのか

194：名無しのアブノーマル
血反吐吐きながらアブノーマル板凝視して文字打ち込んでると思うと爆笑する

195：名無しのアブノーマル
ワイは興奮する

１９６：名無しのアブノーマル
つーかやっぱイッチ延命とかできるんやな　なんで寿命延ばさんのやろ

１９７：名無しのアブノーマル
生きてても辛いからちゃう？　聞く限りずっと性欲に振り回されてるでイッチ

１９８：名無しのアブノーマル
最後には満足して死にたい、か……分かるでイッチ

１９９：名無しのアブノーマル
それはそれとしてやらかしたことは許さんけどな

２００：名無しのアブノーマル
もう時間がないんやな　安心しろ、ワイらが最後まで聞き届けてやるで

【主羅統娘】フレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ【後悔と絶望】その２

・
・
・

２５０：フレッドリーツ
ただいまやで　延命してきたからスレ終わるまでは持つやろ

２５１：名無しのアブノーマル
おかえりイッチ

２５２：名無しのアブノーマル
待ってたイッチ

２５３：名無しのアブノーマル
ついに娘ちゃんがやられるのかぁ……

２５４：名無しのアブノーマル
やめてくれ……娘ちゃんはワイの最推しなんや……

２５５：名無しのアブノーマル
心配するな　俺たちならどうなろうと推せる
そういう奴らの集まりじゃないか　お前もただの糞なんだよ

２５６：名無しのアブノーマル
＞＞２５５
最高に最悪な満点回答で草

257：名無しのアブノーマル
俺らにイッチを非難する資格はないわな
日頃の行いではなく性癖的に

258：名無しのアブノーマル
見てる奴ら全員楽しんでるのは確かだからな……

259：フレッドリーツ
お前らも所詮ワイとおんなじや＾＾　ほな、続きいくでー
ワイが考えた一年でできる【主羅統娘】調教プランはこうや
まず大本のワイ、つまり科学者ワイに頼んで精巧な自動人形を作ってもらう
それを幼馴染で婚約者だと【主羅統娘】に紹介する
成功すれば【主羅統娘】はワイに入れ込む　失敗すればたぶんポイされる
いうなれば博打やな　ワイの九年が【主羅統娘】にとってどれだけ大きいか賭けたんやで

260：名無しのアブノーマル
んー？

261：名無しのアブノーマル
一見して骨子が分かりにくい計画

262：名無しのアブノーマル
要は娘ちゃんの嫉妬を買いたかったってことか？

263：フレッドリーツ
その通りや　【主羅統娘】は末端の下僕にも人間関係の精算を強要するくらいには独占欲が強い
その独占欲がワイにも適応されると仮定し、その上でワイにはすで

に将来を誓った仲の女がおるって見せつけたんやで
　結果はまぁ……ご覧の通りや
【談笑する男女を感情の抜け落ちた無表情で目だけ爛々と輝かせ見つめる娘ちゃんの画像】

２６４：名無しのアブノーマル
　ヒエッ

２６５：名無しのアブノーマル
　ヒエッ

２６６：名無しのアブノーマル
　お股縮んだ　キュウウンてなった

２６７：名無しのアブノーマル
　これは……嫉妬じゃな？

２６８：名無しのアブノーマル
　独占欲ぅ、ですかねぇ

２６９：名無しのアブノーマル
　鳶に油揚げをさらわれた九尾の狐みたいだぁ……

２７０：フレッドリーツ
　というわけでね　【主羅統娘】にとってワイは独占するに値する存在だったみたいや
　紹介したその時は表面上とても穏やかやったで
「カワイイ子じゃないか。君にはもったいないくらいだね」とか普段絶対言わないこと言ってたわ
　ワイはそれはもうデレデレした演技をして婚約者に仕立てた自動人形を見送ったわけや

んで戻ってきたら無表情の【主羅統娘】が仁王立ちしててな
ワイは三ヶ月くらい監禁調教されたやで

271：名無しのアブノーマル
草

272：名無しのアブノーマル
檻に逆戻り

273：名無しのアブノーマル
ていうかよく騙し通せたな　娘ちゃんレベルになると偽造捏造ほとんど無理やろ

274：名無しのアブノーマル
娘ちゃんは現状魔導の極みに最も近い立ち位置にいるからな

275：名無しのアブノーマル
正直自動人形ごときで騙せる？　って思っちゃう

276：フレッドリーツ
そこは科学者ワイの腕の見せ所さんやな　存分に骨を折ってもらったで
そんで【覇界聖王】の親衛隊団長しとるエルフワイの義理の妹ってことにもしといたんや
科学者ワイ渾身の自動人形と【覇界聖王】側近中の側近の身内、これにはさしもの【主羅統娘】も目が曇るってもんやで
おかげでワイを監禁中に婚約者排除とかつまらん方向にも行かんかったしな
やっぱり持つべきものは人脈やで　【主羅統娘】に嬲られる暇つぶしにワイはつくづくそう思っとった

277：名無しのアブノーマル
人脈（全部俺）

278：名無しのアブノーマル
あいつもあいつもお前じゃねえかお前よぉ！

279：名無しのアブノーマル
俺はお前が俺を見たのを見たぞ！

280：フレッドリーツ
しゃーないやん　大本のワイもエルフワイも下僕ワイも表向き好人格で通ってたんやから
ワイの性癖明かしたのはここくらいなもんや　それ以外はワイの被害者しかおらんで

281：名無しのアブノーマル
ついに認めたわね

282：名無しのアブノーマル
被害者呼ばわりで草

283：名無しのアブノーマル
被害者のレベルが桁違いなんだよなぁ……

284：フレッドリーツ
ワイの性癖を満足させる女が三界の主くらいしかいなかったのが悪い
三ヶ月を経てワイは屈服崇拝下僕モードから尊厳破壊ヘコヘコモードへ移行したで
流石にここまで調教すりゃ問題ないやろって【主羅統娘】も額を拭ってたな

でもま、実はそれは演技やったんや
ワイは隙をみて【主羅統娘】の下から脱走して婚約者まがいの自動人形に会いに行ったやで

２８５：名無しのアブノーマル
演技とは

２８６：名無しのアブノーマル
下僕からしてすでに演技なのに更に演技を重ねていく

２８７：名無しのアブノーマル
もうやめて！　このままじゃ演技がゲシュタルト崩壊しちゃう！

２８８：名無しのアブノーマル
イッチたぶん科学者じゃなくても俳優として食っていけたよなこれ

２８９：フレッドリーツ
関係ない話題は置いといてもろて
当然やけどワイは通常の下僕には分からない監視魔法でグルグル巻きにされとった
ワイを自分の所有物やと思っとる【主羅統娘】が何の対策もしてへんはずがなかったんやな
脱走したワイを【主羅統娘】が追っかけてたのは分かってたでせやからワイは婚約者もどきの自動人形と人気のない森の家で落ち合ったんやな
ワイは泣きながら自動人形に抱擁して愛を叫んだで
窓の端から【主羅統娘】が覗き込んでいるのを確認した上でな
【抱擁する男女を窓の外から凝視する娘ちゃんの画像】

２９０：名無しのアブノーマル

ヒエッ

２９１：名無しのアブノーマル
ヒエッヒエッ

２９２：名無しのアブノーマル
本日二回目

２９３：名無しのアブノーマル
娘ちゃんのまんまるお目々怖すぎる……怖すぎない？

２９４：名無しのアブノーマル
イカン達する達する

２９５：フレッドリーツ
ワイの想定ではここで【主羅統娘】が踏み込んでくるはずやったんやけどなんか見てるだけやった
しゃーないからアドリブで対応したで　そのまま自動人形使ってソロプレイをおっぱじめたんや
もちろんちゃんと婚約者として扱ったで　でもワイ人形相手に一人で何やってんだろってずっと思ってたで
ちなみにその間の娘ちゃんの様子はこんな感じな
【ベッドで重なる男女を光を吸い込むブラックホールのような目でじっと見続ける娘ちゃんの画像】

２９６：名無しのアブノーマル
ヒエ～～ッ

２９７：名無しのアブノーマル
本日三回目

２９８：名無しのアブノーマル
　コキュートスもかくやの極寒の視線

２９９：名無しのアブノーマル
　娘ちゃんこんな顔できたんやな……やばい、何かに目覚めそう

３００：名無しのアブノーマル
　甘いな　ワイはもう目覚めたで

３０１：名無しのアブノーマル
　まだまだやな　ワイはとっくに心臓止まったで

３０２：名無しのアブノーマル
　＞＞３０１
　さっさと成仏してもろて

３０３：フレッドリーツ
　結局ソロプレイで最後までやって婚約者人形を迎えに来たエルフワイを見送るまで【主羅統娘】は手を出さんかったで
　なんでやろな　これだけは謎や
　まあええやろ　ワイは一応自分のしでかしたことに今更気づいたみたいな感じでビクビクしながら戻ったで
　そしたら【主羅統娘】は不自然なまでに自然ないつも通りのメスガキやったんやな
「どこに行ってたんだい？」ってニッコリ聞いてきてワイが適当にウソついたら「そうかい」って普通に紅茶飲んでな
　ワイは首を傾げつつもホッとした演技をして日常に戻ったんやで
　ワイが自動人形とソロプレイしてた時の写真目の前にバラまかれたのは、その時やったなぁ
【立ちつくす男に写真を投げ捨てた姿勢で冷たく笑う娘ちゃんの画像】

３０４：名無しのアブノーマル
草

３０５：名無しのアブノーマル
すまん草

３０６：名無しのアブノーマル
絶対やばい状況なのにイッチのソロプレイに目がいって耐えられへん

３０７：名無しのアブノーマル
どうでもいいけど自動人形の出来すごいな　人形とはとても思えん

３０８：名無しのアブノーマル
千年紀最高の科学者の傑作っぽいからな　ワイも欲しいで

３０９：名無しのアブノーマル
思ったんやけどイッチ人形作って満足すれば良かったんちゃう？
誰にも迷惑かからんし

３１０：名無しのアブノーマル
イッチの話聞けなくなったら困るけどな

３１１：フレッドリーツ
自動人形じゃ満足できなかったんやで　Ｑ．Ｅ．Ｄ．

３１２：名無しのアブノーマル
草　それならしゃーないな

３１３：名無しのアブノーマル
　しょうがねえ　そもそも代替で満足できるなら俺らここにいないしな

３１４：名無しのアブノーマル
　本物じゃないと満足しない性癖が憎らしい

３１５：名無しのアブノーマル
　グルメがよ……性癖のくせに無駄にセレブしやがって

３１６：名無しのアブノーマル
　普通の性癖に生まれたかった

３１７：フレッドリーツ
　嘆くな嘆くな　いつか叶う日が来る　その時まで進み続けるんや
　話戻すでー
「どうして君は分かってくれないんだろうね」
　固まるワイに【主羅統娘】はふぅ……とため息をついたで
　そんで立ち上がってしどろもどろになってるワイのネクタイ掴んで引っ張ったんや
「君はボクの物なんだ。罷り間違ってもあんな女のものじゃない。
　それなのに君はボクに黙ってホイホイと……挙句の果てに匂いが移るようなことまでしてるじゃないか。
　どうしてなのかな？　君の頭はそんなに悪かったのかい？　誰が主か骨の髄まで叩き込んでも忘れてしまうのかい？
　だとすれば、とんだ鳥頭だ――ざぁこ。ばぁか。頭すかすか。自分の立場も分からない情けないおとな。
　まったく、ひどい冗談だよ。ボクの世話役ともあろう君が、こんなにも愚かだと気づかなかったなんてね。
　ああ、何も言わなくていい。君のことはよく分かった。これはボクも悪かったんだ――

――主人のことも忘れてしまうような下僕には、然るべき扱いをしないとね？」
この直後、ワイは意識を失った
そして気がつけば、ワイは薄暗い部屋で監禁されてたんやで

３１８：名無しのアブノーマル
草

３１９：名無しのアブノーマル
草

３２０：名無しのアブノーマル
またですか

３２１：名無しのアブノーマル
ええかげん学習してもろて

３２２：名無しのアブノーマル
娘ちゃん……イッチは監禁なんて屁でもないやつなんですよ……

３２３：名無しのアブノーマル
娘ちゃん、監禁調教しか知らない説

３２４：フレッドリーツ
独占欲の強いやつは自分の手のひらから出ていくのめっちゃ嫌うんよなぁ
ワイも監禁調教大好きやからよく分かるで
こうしてワイは三度目の監禁生活を送ることになったんやけど、今までとは毛色が違った
なんと窓もドアも一つもなかったんや　【主羅統娘】にしか起動できない魔導技術で構築された完全なる密室

たぶん地下何千メートルってレベルの場所やな　ワイは永遠に出られない部屋に繋がれたんやで

３２５：名無しのアブノーマル
はえー　娘ちゃん本気やん

３２６：名無しのアブノーマル
魔導技術だけってすごいな　あらゆる要素を全部娘ちゃんの魔力で補完してるわけやろ

３２７：名無しのアブノーマル
そういうことやろな　並の知性体なら砂粒程度しか創れんけど娘ちゃんは世界規模でできるんや
しかもティータイムのサインくらいの片手間でな

３２８：名無しのアブノーマル
やっぱり三界の主なんだよなぁ……イッチこれ手出したの間違ってたんとちゃう？

３２９：名無しのアブノーマル
今更やろ　イッチがどういう結末を辿ろうとワイらは見届けるだけやで

３３０：フレッドリーツ
監禁部屋の中でワイは自由やった　拘束はされてへんかった
けれど出られないんや　少なくとも下僕ワイの力じゃどうにもならなかったんやな
まあ実際出ようと思えば出られたけどここまでされるくらい入れ込まれてるって分かったからな
ワイはおとなしくここからだせーだしてくれーって全力演技回したんや

３３１：名無しのアブノーマル
　めっちゃ棒読みでいってそう

３３２：名無しのアブノーマル
　イッチ演技演技いってるけどそんな演技上手いんか？　正直ボロ出してると思ってるで

３３３：名無しのアブノーマル
＞＞３３２
　アホやな　イッチはフレッドリーツ・レアライヒであり聖王様親衛隊団長や
　片や千年紀最高の科学者　片や聖王の右腕にして騎士とはかくあれりと謳われるエルフの真祖
　両方とも実はこんな変態やなんてこれっぽっちも情報出てないでイッチがイッチであるということが演技力の底力を証明してるんじゃ

３３４：名無しのアブノーマル
＞＞３３３
　なるほど、言われてみればそうだわ
　百年千年も性癖隠し通すとか無理やもんな　有名な立場であればなおさら

３３５：名無しのアブノーマル
　ワイらに限らず知性体は根本的に知りたがりやからなぁ……あれこれ調べずにはいられないんやね

３３６：フレッドリーツ
　実際大変やったで　お近づきになりたいとか抜かして群がられたしな

まあもう死ぬしその辺は整理し切ったから何の問題もないやで
さて、ワイは昼も夜も分からない長い間監禁された
たぶん抵抗の意志を削ぐためやな　精根尽き果てて疲れ果てたふりしてたら案の定【主羅統娘】は現れたで
「ずいぶんと弱ってしまったね。君はそんなに貧弱だったなんて予想外だよ」
ワイは恨みがましい目でにらみつけたけど【主羅統娘】はむしろ嬉しそうに悪辣な笑みを浮かべたんやな
「おやおや、随分と怖い顔だ。もしかしてボクに言いたいことがあるのかい？　良いだろう、なんでも言ってごらんよ」
鼻歌でも歌いだしそうな雰囲気で手を差し伸べる【主羅統娘】にワイは帰してくれ、婚約者に会わせてくれって叫ぶんや
「……どうやら朕が足りないようだね」表情を一変させた【主羅統娘】は忌々しそうに舌打ちして、ニィッと唇を歪めたで
「まあいい。時間はたっぷりあるんだ。分からず屋の君にもちゃあんと理解できるよう、ボクも少しだけ本気を出そう」
グイッと顔を近づける【主羅統娘】は、それはもう淫靡な微笑を咲かせたんや
「君が誰のものか、しっかり分からせてあげるからね――ざぁこ♡」

３３７：名無しのアブノーマル
うおおおおおお

３３８：名無しのアブノーマル
わっふるわっふる

３３９：名無しのアブノーマル
これまでのイッチとまったく違う……来るぞＵＭＡ！

３４０：名無しのアブノーマル
これはこれでイイ……

３４１：名無しのアブノーマル
　全部計画の内なのか？　なんにせよええぞイッチ！

３４２：名無しのアブノーマル
　俺は今新たな境地を目にしている……

３４３：フレッドリーツ
【主羅統娘】の調教は何日も何日も続いたで
　ある時はひたすら苦痛を与えられた　泣いても許しを乞うても【主羅統娘】は頬を染めて笑うだけやった
　ある時はひたすら甘い声で囁かれた　ふやかされてメロメロになったフリしたワイを【主羅統娘】は優しく撫でてたで
【主羅統娘】の調教の基本は飴と鞭や　ボロボロにして依存させる
逆に言えばそれしか知らないんやな
　甘いんよなぁ　考える力を奪って言うこと聞かすのはめっちゃ有効やけど、ワイみたいに無意味なやつもおるんよな
　調教直後は従順でも何日か経つと婚約者のことを呟くワイに【主羅統娘】は段々苛立ちを募らせていったで

３４４：フレッドリーツ
「どうしてっ！　ボクのっ！　物だってっ！　分らないんだっ！」
【主羅統娘】の調教は日に日に過激さを増していったで　中には真面目に命の危険があるのもあった
　ワイは最低限死なないよう自衛しつつ、ひたすら機を待ったで
　やがて【主羅統娘】は息を荒くして疲れを見せたんや　ワイは未だに婚約者のうわ言を呟いとる
「くそっ……なんでっ！　ボクに手に入らない物なんかないはずなのに！」
　悪態を吐く【主羅統娘】　憤懣（ふんまん）やるかたない感じで一際大きく鞭を振るう

やられるワイはそれでも婚約者のことを呟く　いい加減ブチ切れた【主羅統娘】は婚約者を罵倒するんや
そして息が切れるまで言い放ったあと、ハッと何かを思いついたように動きを止めて、美しく唇を歪めたんやな
「……そうか。分かった、認めよう。君の意志の強さは大したものだ。これだけ教えてあげても君はボクの物にならない。あんな女なんかが本当に大事なんだね……ボクよりも、大切って訳だ」
「……だったら、しょうがないよね……？　強情な君を分からせてあげるには、もうこれしかないよね……？」
かろうじて意識を繋ぎ止めるふりをするワイに【主羅統娘】は綺麗に微笑んで――するりと、太ももから足先へ布を滑らせた
勝った　ボロボロのワイは心中で思いっきりほくそ笑んだんやで

３４５：名無しのアブノーマル
まさか……イッチ!?

３４６：名無しのアブノーマル
こんな方法で娘ちゃんから……!?

３４７：名無しのアブノーマル
ウソやろ……ウソやと言ってくれ娘ちゃん……！

３４８：名無しのアブノーマル
ほんま策士やなぁイッチ……正直ただの変態で留まって良かったんちゃう？

３４９：名無しのアブノーマル
イッチが悪の科学者とかやったら世界危なかったな

３５０：名無しのアブノーマル
そんなことどうでもええねん！　続きを、はよ続きを！

３５１：フレッドリーツ
　俺が気がついた時、【主羅統娘】は腰を下ろす寸前だった
「!?　いけません!?　それだけはなりません、ネスキス様……!!」
　これまでと全く違う勢いで止める俺にネスキスは本当に嬉しそうに笑っていた
「嫌そうだね……？　やっぱり君にとって、これは特別な行為なんだね……♡
　でもダメだよ？　君が悪いんだ……君がボクの物にならないから、こうするしかないんだよ……！」
　ネスキスも追い詰められていた　淫靡に微笑む少女は喚く俺なんか無視して思いっきり動こうとした
「分かりました！」堪らなくなった俺は叫ぶ　動きを止めたネスキスに、俺は絞り出すように言葉を吐いた
「……彼女とは、別れます……ネスキス様の物に、なります……いえ、ネスキス様の物にしてください……
　だからどうか、それだけは……どうかお許しを……」
「……それは本当かい？」泣きながら呟くワイの顔を優しく持ち上げてネスキスは尋ねる
「本当にボクの物になってくれるのかい？　自分から？　君の意志で？　ボクの物になるって、そう言うんだね？」
　心底打ち震えるように問いかけるネスキスに「……はい」と長い時間をかけて俺は肯定した
「そうかい、そうかい！　それは良かった！」ネスキスは年相応にはしゃぐ
「まったく、はじめからそう言えば良いのに、君は本当に強情なんだから！　でも安心したまえよ、心優しいボクは許してあげるから。
　君が望むならやめてあげよう。下僕の願いを叶えてあげるのも主人の務めってものさ」
　ニコニコ笑いながら腰を浮かすネスキス　俺は悲しむフリをしながら一筋の希望を見出したかのように目に光を取り戻す

「――でも、やっぱりダァメ♡　許してあげない♡」
　舌を舐めずったネスキスが思いっきり腰を振り落としたのは、その瞬間だった

３５２：フレッドリーツ
「……！　……♡　……なぁんだ、最初っからこうしてれば良かった……♡
　おとなって、こんなに弱っちいんだね……♡　ざこ♡　本当にざこ♡　よわよわすぎ♡
　――ざぁこ♡」

３５３：フレッドリーツ
　その後はまあ、語るべくもない　最初はネスキスが攻めていたが、最終的に俺の方から襲いまくった
　いやぁ、いいよなぁ……どうにもならなくなって、軽々しく、自分の大切なものを使い潰すメスガキはさぁ
　存分に楽しませてもらったよ　全部思い通りになってると信じているネスキスは本当に可愛くて可愛くて、愛おしかった

３５４：フレッドリーツ
　さて　すべてのことが終わった後、【主羅統娘】は息を切らしながらワイに言ったで
「……ケダモノ♡　ボクをこんな目にあわせたかったなんて、君は本当にダメな下僕だね……♡」
　白々しく淫猥に笑う【主羅統娘】に、我に返ったワイには最早なす術なしって状態だったんやな
「……でもまだまだ、こんなものじゃあ済まさないからね……？　おとなしくボクを待ってるんだよ？　――ざぁこ♡」
　衣服を整えた【主羅統娘】は高笑いしながら立ち去ったで
　あとに残されたのは何にもできなくなったワイ一人なんやなぁ

３５５：名無しのアブノーマル
……ふむ。成程、興味深いですね……

３５６：名無しのアブノーマル
娘ちゃんの一連の行動……研究の価値があるのでは？

３５７：名無しのアブノーマル
知性体のさらなる躍進に繋がるでしょう……早急に調べるべきです

３５８：名無しのアブノーマル
皆、力を合わせましょう　全ての民に大いなる叡智のあらんことを

３５９：名無しのアブノーマル
草

３６０：名無しのアブノーマル
草すぎる　どいつもこいつも賢者になってて笑うわ

３６１：名無しのアブノーマル
どんだけ興奮してんねん　ワイみたいな明鏡止水の心を持て

３６２：名無しのアブノーマル
＞＞３６１
お前も賢者じゃねえか

３６３：名無しのアブノーマル
いやぁ……しかし素晴らしいね
ここから更に逆転が待ってるんやろイッチ？

３６４：名無しのアブノーマル

せや！　こんなんイッチの性癖じゃあらへん！　まだ何も終わってないんや！

３６５：名無しのアブノーマル
焦らすなイッチ、はよ続きを書け！

３６６：フレッドリーツ
終わりやで

３６７：名無しのアブノーマル
は？

３６８：名無しのアブノーマル
は？

３６９：名無しのアブノーマル
は？

３７０：名無しのアブノーマル
冗談きついぞイッチ

３７１：名無しのアブノーマル
何が終わりやねん　まだ何も始まってないやろがい

３７２：名無しのアブノーマル
はよ続きかけや　それとも独占する気か？　そんなん許さんぞ

３７３：名無しのアブノーマル
板の完全抹消ミームに抗ってでもイッチの所業晒すぞボケ

３７４：フレッドリーツ

＞＞３７２
＞＞３７３
まあ落ち着け　これ以上は本当にないんや　終わりやで
下僕ワイはもう死んだんや　この世におらん以上、もう何もできひんのやで

３７５：名無しのアブノーマル
ん？

３７６：名無しのアブノーマル
は？

３７７：名無しのアブノーマル
え？

３７８：名無しのアブノーマル
は？　は……？

３７９：名無しのアブノーマル
ごめんちょっとわからない

３８０：名無しのアブノーマル
何言ってるん……？　何言ってるんイッチ……？

３８１：名無しのアブノーマル
これからやんけ……なんでここで終わるんや……

３８２：フレッドリーツ
んー　なんやお前ら、理解が遅いな
ここで下僕ワイが死んだら【主羅統娘】の精神に大ダメージ与えられるやんけｗ

３８３：名無しのアブノーマル

３８４：名無しのアブノーマル

３８５：名無しのアブノーマル

３８６：名無しのアブノーマル
　ウソでしょイッチ……

３８７：名無しのアブノーマル
　お前まさか……そんなことのために……？

３８８：名無しのアブノーマル
　ここまで全部その前振り……？

３８９：フレッドリーツ
　せやせや　ようやく分かったみたいやな
　さっき書いたのが昨日の話かな　そのあと下僕ワイにはさくっと死んでもろた
　身辺整理もしたかったしな　ついでにエルフワイにも死んでもろて分割した魂を回収したんや
　エルフワイの肉体は分子レベルで分解して散ったけど、下僕ワイはそうもいかへん
　せやったら逆にそれを利用して性癖を満たす方向にシフトしたんやなｗｗｗ

３９０：名無しのアブノーマル

３９１：名無しのアブノーマル

３９２：名無しのアブノーマル
３９３：フレッドリーツ
お　丁度【主羅統娘】がやってきおった　せっかくやから実況するで
下僕ワイは死体やけど感覚はまだワイと繋がってる　せやから状況丸わかりや
【主羅統娘】、呆然としとるな　来た瞬間はあんなに笑顔だったのに固まってるで
なんか首振りながら言うとるな　流石に耳は生きとらんし読唇できるほど目の性能残ってないからなぁ
おお、恐る恐る近寄ってきよった　ワイの体を転がしてるな
そんでゆすっとる　なんか冗談とか思ってるんやろな　結構明るめの顔してるで
でももう死んでるんよなぁ　下僕ワイは二度と動かへんのやで
３９４：名無しのアブノーマル
３９５：名無しのアブノーマル
３９６：名無しのアブノーマル
３９７：フレッドリーツ
ようやく状況を理解したようやな【主羅統娘】絶叫しだしたで
必死に下僕ワイを呼んどるｗ　ついでに蘇生術もかけまくってるなｗ
無駄なんよなぁ　無駄無駄無駄　下僕ワイの魂はすでにワイが回収した
魂のない肉体なんてただの抜け殻や　もぬけの殻に蘇生術かけたって何にもならんのやで
おー　めっちゃ必死になっとるｗ　もう涙目やんｗ　可愛いなあ

【主羅統娘】ｗ
お、ここで下僕ワイの遺書に気がついたで

３９８：名無しのアブノーマル
ごめんちょっと離れるわ

３９９：名無しのアブノーマル
無理……これは無理……

４００：名無しのアブノーマル
あまりにも外道すぎる……

４０１：フレッドリーツ
遺書読んどるな　なに書いたっけな
ああそうそう、【主羅統娘】に向けて先立つ不孝をお許しください、だっけな？
あと婚約者に懺悔の言葉も書いた気がするで　どうせ自動人形やけどなｗ
【主羅統娘】めっちゃ泣き始めた　弱々しく下僕ワイの死体にすがりついとる
可愛いなぁ　ほんま可愛い　【主羅統娘】狙って良かったなぁ
最後の最期にこんな光景見せてくれるなんて、本当に最高の女やであ　感覚切れた　下僕ワイの体完全に終わったみたいや

４０２：フレッドリーツ
ふぅ　堪能したで
これでワイことフレッドリーツ・レアライヒとネスキス・ルインザルテ・オリエルトの話は終わりや
今回は何人残ったかな？

４０３：フレッドリーツ

おーい

４０４：フレッドリーツ
どうやら誰もおらんようやな　ま、しゃーない　そういう性癖だとは理解している

４０５：フレッドリーツ
思えばこの糞のような性癖に振り回されたロクでもない人生だった
だがまあ最後は、多少、悪くない時間を過ごせたよ

４０６：フレッドリーツ
君たちにも感謝しよう　冥途の土産とは言わないが、どうしても誰かに話したかったんだ
人は誰しも、自分というものを残したがるものだろう？　俺も例に漏れないというわけさ

４０７：フレッドリーツ
もう時間だな……それではさらばだ、諸君

４０８：フレッドリーツ
ロクでもない糞溜めの、ロクでもない同類たちよ

４０９：フレッドリーツ
叶うことならば、君たちの未来に溢れんばかりの幸あらんことを

４１０：フレッドリーツ
ではな

４１１：名無しのアブノーマル

412：名無しのアブノーマル

413：名無しのアブノーマル

414：名無しのアブノーマル

415：名無しのアブノーマル

416：名無しのアブノーマル

417：名無しのアブノーマル

418：名無しのアブノーマル

419：名無しのアブノーマル

420：名無しのアブノーマル
……逝ったか

421：名無しのアブノーマル
そんじゃお前ら　今回の総評といくで

422：名無しのアブノーマル
その1、イッチはどうやった？

423：名無しのアブノーマル
ゴミクズ

424：名無しのアブノーマル
ロクでもない外道

４２５：名無しのアブノーマル
存在してはいけない鬼畜

４２６：名無しのアブノーマル
ま、残当やな　そんじゃ次や
その2、イッチの話はどうやった？

４２７：名無しのアブノーマル
最高

４２８：名無しのアブノーマル
過去一助かった

４２９：名無しのアブノーマル
永遠に腐らないオカズになる

４３０：名無しのアブノーマル
うんうん、それもそうやな
合わんやつもおるだろうけど、それは仕方ない話や

４３１：名無しのアブノーマル
性癖はワイらの宿命　それから逃げることはできん
だからせめて、同類がいることを私は知ってほしかった

４３２：神
さあみんな、見送ろう

４３３：神
さようなら　フレッドリーツ・レアライヒ

４３４：神

愛しい我が子よ　私は貴方を永遠に記憶に残すだろう

４３５：名無しのアブノーマル
さようならイッチ

４３６：名無しのアブノーマル
サンキューイッチ　フォーエバーイッチ

４３７：名無しのアブノーマル
Ｒ．Ｉ．Ｐ．　イッチ

【???】死んだはずなのに目覚めたら裸で拘束されてるんだが【???】

1：フレッドリーツ
なんで???

2：名無しのアブノーマル
草

3：名無しのアブノーマル
草

4：名無しのアブノーマル
草

5：名無しのアブノーマル
草

6：名無しのアブノーマル
草

7：名無しのアブノーマル
草

8：名無しのアブノーマル
草

9：名無しのアブノーマル
草

10：名無しのアブノーマル
草

・
・
・
1000：名無しのアブノーマル
草

1001：名無しのアブノーマル
このスレッドは1000を超えました。
もう書けないので、新しいスレッドを立ててください。。。
……これだから知性体というのは面白い

幕間　ヒロイン視点
【煌天女帝】の独白

妾が妾であると認識したその時から、妾は絶対強者であった。
古い世界。古い時代。神が世界を創造し、あらゆる生命の雛型が生まれし原初。妾は最初の知性体として生み出された。
妾は既に完成されていた。そしてなおも成長する、そうあるべくして生まれた強者であった。
絶対強者。その言葉に嘘偽りはない。妾に勝るものなぞ存在せず、いずれは神すらも超え、頂点に君臨することを約束されたのが妾であった。
そうだとも。忌ま忌ましい神、妾に初めて真っ向から歯向かった女、そして生まれたてで妾と対等のように振る舞う小娘。
その程度であった。妾の『敵』と呼べる者はその程度であり、如何に過程がどうであろうとも、最後に勝つのは妾じゃと決まっておった。
思ってもいなかったのだ。
脆弱な人間。下劣な雄。あのような下等な弱者に、初めての敗北を喫するなど。
……妾は心胆から、思ってもみなかった。

フレッドリーツ・レアライヒ。
前々から謁見を申し入れていたその男は、妾の前で大袈裟に自己紹介をした。
一目で分かった。こやつは下衆だ。妾を見つめるその瞳、そこには賢者らしい叡智の光はなく、熱く煮え滾るドロリとした欲望で満ち満ちていた。
面白い。そう思ってしまったのが、妾生涯の不覚であろう。殺すべきだったのだ。この男を、妾に触れられる領域に至る、その前に。

……じゃが、結局妾はその機を逃した。仕方なかろう？　なぜなら妾は絶対強者なのじゃから。

『契約』の日はすぐに訪れた。

奴と邂逅してすでに数十年経つが、些細な時間じゃ。その間に奴は知性体としての円熟期を過ぎ、命の灯火が消えかけたようじゃが、見た目だけは取り繕っておった。

今にして思えばあれも妾の油断を誘う計画の一部だったのじゃろう。奴には確かな必死さが見て取れた。文字通り死力を尽くし、妾を食ってやろうという気概が透けて見えた。

だから、遊びのつもりだったのだ。下等で劣等、妾という絶対強者の足元にも及ばぬ人間の雄が、いかなる方法で妾に手を伸ばすのか。

暇つぶしにただ、それを見たかったと思ったのが……いや、思わされたのが、すでに奴の術中に嵌っていた証拠じゃろうな。

『生来、俺はずっとある願望に悩まされてきました。

至って単純な、性欲です。しかしただの性欲ではなく、いわば性癖――特定の相手、特定の状況でしか興奮しない、難儀な質を抱えております。

陛下。貴方は俺に欲しい物を何でも言ってみよとおっしゃった。ならば貴方に願いましょう。

――どうか俺に、花嫁を用意して頂きたい。傲慢で、全てを見下し、また敗北を知らぬ、この世の頂点に立つ女性――そう。まさしく貴方のような、花嫁を』

妾は腹の底から嘲笑したのを覚えておる。奴は一人舞台の演者のように仰々しく振る舞い、妾に熱視線を送りながら白々しくも宣(のたま)ったのじゃから。

よかろう、と妾は頷いた。貴様の望みを叶えてやろうと――この妾直々に相手をしてやろうと、奴の思惑に乗ってやった。

『御前契約』などという縛りを受け入れたのも余興のつもりじゃった。妾はすでに神の力にすら届く存在。本気を出せばたかだか神の契約、噛み千切ってやれるとな。

……じゃが、それは終ぞ為せなかった。契約を交わし、逸る男に笑

みを押し殺しながら褥（しとね）へと赴き――

――そして奴に、七日七晩に渡って純潔を奪われた。

『おやおや……陛下ともあろう御方が男を知らぬとは、これは僥倖だ』

『一息に頂いてしまおうかと思っておりましたが、気が変わりました』

『陛下。これから俺は丹念に準備致しますが、どうかご辛抱を』

『願わくば、ありのままの陛下でもってご堪能頂きたい』

『まあ、それは矜持（プライド）が許さぬでしょうが、それもまた一興』

『俺という男の味……この先幾千の年月を経ても忘れぬよう、ここに刻み込んで差し上げましょう』

っ……屈辱じゃった。いいや、この猛り狂う感情はそんな言葉では表せぬ。汚辱、恥辱、会稽（かいけい）の恥……奴が妾を貪りながら囁いたように、この魂に焼き付いた記憶は永遠に消え去らぬだろう。

ああ、腹綿（はらわた）が煮えくり返るようじゃ。あの男の一夜の記憶は、寝ても覚めても頭から離れぬ。それがどうしようもなく苛立たしく、恥ずかしい。妾の体は、いつから斯様な淫売に成り果てたのか。

……ああ、分かっておる。それもこれも全てあの男のせいじゃ。忌々しい七日間が明けた朝の、妾の顔を見るあの男の表情ときたらもう……

『おはようございます。ご機嫌は如何ですか、陛下？　見た所、あまり調子がよろしくないようですが』

妾の体に散々つけた接吻の痕を目でなぞりながら、奴は笑っておった。嗜虐、嘲笑、支配の色。本来妾が奴に向けるべき感情を、下卑た欲望で汚してドロリと妾に差し向けていた。

殺してやろうかと思った。けれど無理じゃった。『御前契約』は妾を縛る。本気を出せば噛み砕ける物を、ならば本気など出させなければいいと奴は妾の力を封じた。

ほんの一部。それだけで良かったと奴は笑い、これから妾に課す汚辱の数々を説明しおった。飢えた狼のような視線は、ゆっくりと、言葉を募りながら妾の体を舐め動いた。

妾は笑うことしかできなかった。『暁の微笑』――かつて世界の大半を葬ってやった笑みをただ、奴に向けることしかできなかった。

そうして、地獄の日々が始まった。

奴は契約の間、妾の麾下につくことを望んだ。その方が滾ると、聞いてもいないのに口走っておった。

ならば良かろう。存分に扱き使ってやる。この身に渦巻く鬱憤を晴らすように、妾は無理難題を奴に命じた。

奴はすぐにボロボロになった。それに妾は満足し、無防備にも近づいてしまった。結果は、しつこく貪る奴に啼かされる妾のあられもない痴態だけじゃった。

奴は開発などと称して妾の体を弄んだ。胸の先、股の間、腹、背中、太腿、尻尾……通常の肌とは違う感覚をもたらす場所を、奴は優しく、入念に、鋭敏にしていった。

特にひどかったのが耳と唇じゃ。奴は手と舌でもって耳をなぞり、掻き穿り、唇には何度も何度も口づけを落とした。

日に日に敏感になっていく体に、妾は恐怖した。恐怖などとは口にもしたくないが、あれは間違いなくそういった感情じゃろう……このままあの男に身を任せたらどうなってしまうのか、そんな悍ましい未来から妾は目を背けた。

次に奴が行ったのは淫紋などという下衆の呪術じゃ。痛み、苦しみ、肉体の悲鳴。そういった負の感覚を全て快楽へと変換し、増幅する。

流石の妾も警戒した。ただでさえ服の衣擦れでも思わず声を上げてしまいそうになっておるのに、そんな物を刻まれたらおかしくなってしまいそうじゃった。

……じゃが、そんな妾に奴は甘言を誑し込む。

『陛下、もし俺の呪術が陛下に通用せぬのなら、今すぐにでも契約を解除しましょう』

『絶対強者たる陛下の肉体……俺ごときの呪術など通用するとは思えませぬが、せめて一度だけは、挑ませて欲しいのです』

妾は悩んだ。悩んだ末に、結局は受け入れた。

負けるはずがないと思った。妾は最強、絶対強者。このような下劣の術に屈するなどありえぬと信じたのだ。

そうして妾は、淫紋を刻まれた。肉体への信頼を、絶対強者の誇りを砕かれた妾をさらに踏み躙(にじ)るように、あの男はケダモノのように襲いかかってきた。

……認めよう。気持ちよかった。気持ちよかったのじゃ。妾の意志に反し、反応する肉体から流れ込む快楽は、これまで味わったどんな物よりも心地良かった。

それが嫌で、我慢ならなくて、妾は褥の上であの男から逃げようとした。しかし刻まれた淫紋がそれを許さず、快楽と屈辱に涙を流すしかなかった。

それから僅かばかりの月日が流れた。その間も奴は妾を貪るのをやめず、肉体に刻まれた淫紋は日に日にその力を広げていった。

そんな明くる日のこと。奴は急に妾に手を出すのを止めた。疑念と殺意をもって睨む妾に、奴は嫌に真剣な表情でこう宣った。

『陛下。そろそろ『大煌不天祈祭』の時期にございます。彼の祭事の重要性は重々承知の上。つきましては俺も陛下の一助となりましょう』

とても信じられぬ言葉であった。だが奴は言葉通り、『大煌不天祈祭』の準備に奔走した。

妾は奴の狙いを読めず、しかし『大煌不天祈祭』に向けて些事を片付ける他なかった。

今にして思えば、気づくべきじゃったのだろう。奴の真の狙い、準備の合間に妾を見つめるドロドロとした欲望の正体に。

しかし妾は終ぞ気づくことのないまま、『大煌不天祈祭』の日は訪れ

――

――そうして妾は、他ならぬ妾自身に、これ以上無いほど女としての無様を晒したのじゃ。

『大煌不天祈祭』後の妾は惨憺(さんたん)たる有様じゃった。

そうじゃろう？　妾と対等であるのは妾のみ。その妾たちと対話

する『大煌不天祈祭』において、妾はただ一人の雌に成り下がっておったのじゃから。

とても生きて行けぬと思った。これから先の妾は、一生この恥辱を抱えなければならぬ。そして過去の『大煌不天祈祭』にて過去と未来の妾がこれを伝えなかったのは、他ならぬ妾がそう仕向けたとしか考えられぬ。

妾はそれが恐ろしかった。あの男に屈する未来、それが見えてしまった今が。このまま死んでしまうのが何よりの救いではないか、そう本気で信じた時期もあった。

……じゃが、そんなことをあの男は許さぬ。嫌がる妾を無視して世話をし、食事を拒否すれば口移しで流し込まれた。あの男はどこまでも、妾の尊厳を犯す気じゃった。

そうして、衰弱した妾に僅かな抵抗の余裕が生まれた頃……邪悪なる神のようにあの男は囁いたのだ。

『思い出せ、お前をここまで追い詰めたのは誰だ？　今お前の目の前には、何がいる？』

その言葉に、妾はただ本能で暴れ回り……結局はあの男に抑え込まれた。

『前はほんの一部だったが、今はこうして対等以上に振る舞える。もうお前は、俺の力に抗えない』

妾を褥へと押し倒しながら、奴は囁いた。

『無理なんだ。今日、今宵、この場所に限って、お前は決して俺に勝てない。並ぶ星々が見えるだろう？　お前にとって今日この日は、最悪の運命だ』

弱々しく抵抗する妾の手に指を絡ませながら、奴は囁いた。

『お前は勝てないんだよ。分かるだろう？　もう受け入れるしかないんだ。……そう、いい子だ。それを理解しろ。お前は俺に勝てない……だからもう、仕方ないじゃあないか？』

いやいやと稚児のように頭を降る妾に何度も口づけを落とし、奴は囁いた。

『俺を受け入れろ。俺を受け入れてくれ。お前しか、俺のこの欲望を

満たせない』

辛そうに、苦しそうに、そう囁く男を見上げ、妾は――

『お前は俺の子供を産めるんだよ――ヴァルガリエ』

――妾はその瞬間を。胎(はら)の奥底から湧き上がる衝動の熱さを、はっきりと覚えておる。

妾は狂乱した。それだけは受け入れてはならぬと全身が警告を発していた。

純潔を奪われたのはいい。体を弄ばれたのも許そう。淫紋も、全て消し去ればなかったことにできる。

だがそれだけは駄目じゃ。それだけは、それだけは断じてあってはならぬ。

それを受け入れれば、屈してしまう。体だけではない、妾の心が、妾という存在がこの男を受け入れてしまう。

じゃから妾は抗った。誇りを捨て、絶対強者としての振る舞いもかなぐり捨て、ひたすらに許しを懇願した。

奴に抱きしめられた時、嫌に安心したのを覚えている。髪を撫ぜられ、優しい言葉を囁かれるのがひどく心地よかったのを覚えておる。

やがて、狂乱の時を逸した妾は、あの男の腕の中で奴を見上げ。

そこにあった、欲望に満ち満ちた笑顔に、希望を砕かれ。

そうして妾は、妾の体は――

『ああは言ったが、俺の種じゃできないようにしておいた。まあ色々と、面倒だろう?』

全てが終わった後。身支度をしながら奴は話していた。

『弄(いじく)った体も淫紋も消しておく。復讐に来てもいいが、できれば忘れてくれると助かるな』

聞こえてはいたが、心には響かなかった。妾はただ、茫洋と意識を揺らめかせるだけじゃった。

『なにせもうすぐ死ぬ身でね。できれば最後は、静かに過ごしたい』

妾の下から去る最後、奴は悲しげに笑っていたように思う。

『悪かったよ、ヴァルガリエ。……本当に、本当に悪かった。
こんなことを言うのもあれだが、できれば、幸せになってくれ』
それから妾は、ずっと起き上がれずにいる。
できるのはただ、失われた快楽を嘆く体を時の続く限り慰めるのみ。
妾は終わった。ヴァルガリエ・ディエラ・ドウン・リエンジスカと呼ばれた絶対強者は、最早ここにはいなかった。
ただの雌が——雄に捨てられた一匹の雌が、ただそこにおるだけじゃった。
『なにせもうすぐ死ぬ身でね。できれば最後は、静かに過ごしたい』
何か、声が繰り返される。褥に身を任せるだけの妾に、それが何かは分からない。
『——もうすぐ死ぬ身でね。できれば最後は、静かに——』
声が、はっきりと輪郭を帯びる。妾を突き動かすように、それは魂に突き刺さる。
『——もうすぐ死ぬ——』
死ぬ？　誰が？　妾か？　いいや、死にたいと思っても死ねる身ではない。
ならば誰が？　忌々しい神か？　妾に楯突くあの女か？　言葉ばかり強い小娘か？
……いいや。違う、違う。死ぬのは、もうすぐ死ぬのは——
——フレッドリーツ・レアライヒ。妾を打ち負かした、ただ一人の男。
「——ッッッ!!!」
肉体に力が戻る。握りしめたシーツが引き裂かれ、褥は余波で罅が入った。
だが、そんなことは関係ない。今の妾に燃える心は、奴に向けられたただ一つのみ。
「……ない」
起き上がる。言うことを聞かなかった体が、煮え滾る熱に支配される。

「……さない」

褥から降りる。ただ寝転ぶばかりの雌は、もうここにはいない。

「ゆるさない……!!!」

心に、体に怒りが満ちる。胎の底から湧き上がる衝動のままに、妾は強く、空に吠えた。

絶対強者たる妾は終わった。ならばこれより、新たなる妾を始めよう。

そのためには、儀式が必要だ。妾が生まれ変わるための儀式が。

その儀式の贄は、貴様だ――フレッドリーツ・レアライヒ!!!

「許さない……死ぬなどと、決して許容してなるものか！

貴様はこの妾の物だ……!!!　勝ち逃げなど許さない……!!!」

太陽が昇る黎明の空。暁と対の景色に、妾は絶対を打ち立てた。

【覇界聖王】の宣誓

あの人と出会ったのは、私がまだ聖王と呼ばれる前のことでした。

かつて世には六十の世界があり、私はその内の一つの片隅、辺境に生まれた村娘に過ぎませんでした。

しがない一介の、と言いたいところですが、当時から私が抜きん出た存在であったのは素直に認めるところです。大地を耕し、森を切り開き、田畑を育む。人々が懸命に力を合わせて初めてできるそれを、私はただ一人、ほんの少しの時間で済ませられたのですから。

最初は異様な子供として近寄りがたかったらしく、寂しい思いもいたしました。けれど私には生まれ故郷を守りたいという思いがあり、どんな言葉を投げられてもそうし続けた結果、皆に受け入れられることができました。

聖女様。昔はそのように呼ばれたものです。誰かを治す力、誰かを蘇らせる力。流石に天寿を全うする方はどうしようもありませんでしたが、それ以外の方々を余さずお助けする力が、私にはありましたから。

転機が訪れたのは、世界の滅びを感じたあの時でしょう。

ヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカ。世界の隅々にまで雷名を轟かせる、【煌天女帝】と恐れられし竜王。彼女が浮かべた『暁の微笑』によって、五十七もの世界が崩壊しました。

今ならば分かります。彼女は必要に駆られ、世界に君臨する唯一の竜王として、それを為したのだと。そしてまた――ほとんどの知性体が住まう世界を私が守ることとなったのも、また天命であったのでしょう。

それは並大抵のことではありませんでした。結果的に私は六十の内、たった二つの世界しか守れなかったのですから。

けれどそれも、あの人が――多くの民を率いていた私に、最初に剣を捧げてくれたエルフの真祖がいなければ、きっと為し得なかったと今も思っております。

あの人は常に、私の矛でありました。

未熟であった私の指揮を支え、有事あらば常に皆の先頭に立ち真っ先に前へ突き進む、勇敢なる戦士でした。

あの人は常に、私の盾でありました。

私のミスで起こるはずだった取り返しの付かない事態を未然に防ぎ、私の目の届かぬところを常に見定め、寡黙に守り続ける巌（いわお）のような防人（さきもり）でした。

ええ……矛盾とは、よく言ったものですね。本来同時に成立し得ない、攻守の極み。けれどあの人はそれを為しえる、私の一番の騎士だったのです。

それは私が一つの世界を統べ、『流星海嘯デモエス・レウス・ラピス』を打ち立て、初代聖王となってからなお、変わることはありませんでした。

そろそろ腰を落ち着けてはどうか。

幾世紀もの平穏が過ぎ、けれど常に最前線にあり続けたあの人にそう声をかけたのは、何度目だったでしょう。

あの人はとうに、聖王の勇士とはかくあるべし、偉大なる騎士の鑑と歌われるようになっていました。

けれど、私は……正直に言いましょう。寂しかったのです。苦楽を共にしたあの人が、聖王として民を治める私の側にいない、その事実が。

だから、その功績に報いるためと都合の良い口実を並べ立て、あの人が私の側にいるように促しました。けれどあの人は優しく、けれど頑として首を縦に振らず……結局は千年前、最前線から身を引いて親衛隊の団長に就任するまで、それが叶うことはありませんでした。

そんな寂しい日々も、もうおしまい。私を守るため自主的に集い、選び抜かれた精鋭である親衛隊の長となったあの人は、私の側にいて当然の肩書きを得たのです。

それからの千年は、色々なことがありました。けれどその度に、あの人と頭を悩ませ、懸命に働き、共に解決して参りました。

聖王の右腕。いつしかそう呼ばれるようになったあの人を、誰よりも誇らしく思ったのは私です。あの人の活躍が大いに報われている

ことが――あの人が私の半身であるかのように扱われるのが、とても、そうとても、嬉しかった。

あの人と共に歩む日々は、千年もの間続きました。私はこれまでも、これからも、その安寧の日々が続くと無邪気に信じておりました。

想像すら、できなかったのです。

私たちの関係が一変するその時が、ひそやかに、刻一刻と、蛇のように迫っているだなんて。

『猊下、私は猊下の処女を頂きたく存じます』

運命の夜。あの人の口から放たれた一言を、私は理解することができませんでした。

『ど……どうしたの、ですか？　急にそのような……その、おっしゃるなんて。何か悪い物でも食べたのですか？　体調が優れぬのであれば、すぐにでも癒やして差し上げますが』

私はしばらく、なにも答えることができず、かろうじて絞り出せたのはそんなとぼけた言葉でした。

そんな私にあの人は見たこともない顔で笑って、騎士としての姿勢を崩さぬまま、童（わらべ）に言い聞かせるように説明したのです。

『猊下。私は猊下に出会ったあの日から、いいえ、猊下を知ったその日から、貴方様が欲しいとずっと思っておりました』

『今の今まで秘めていたのは、今宵を待っていたからです。誰にも邪魔されず、猊下と私、ただ二人きりで過ごせる、この時を』

『申し訳ありません。私は貴方様の右腕にふさわしい者ではないのです。騎士の鑑などと、そんな大それた言葉に値する男ではないのです』

『私はただ、貴方が欲しくて、欲しくて、その欲求を抑えらず、ここまで飢え、走り続けた――一匹の獣に過ぎないのですよ』

あの人は何度も私に言いました。私が少しでも否定する素振りを見せると、懇切丁寧に逃げ道を塞いでいきました。

私は……私は、信じたくなかった。優しい顔、勇ましい顔、微笑む顔、彼方を見る顔――これまで見てきたどんな顔とも違う、あの人の湿り煮凝（にこご）った暗い欲望。息も荒く、だらりとよだれを垂らす舌のよう

な、飢えたケダモノのようなあの人の表情。
それを直視できなかった私は、「嘘だ」と呟くことしかできず……追い詰められ、悟ることしか許されませんでした。
ああ――だから私は、あの人の願望に従うことにしたのだ。
共に戦場を駆け抜けた悠久の友へ、それは手向けの花のつもりであった。たとえ聖王の名のもとに、あの人を断罪する必要があるとしても。
その前に、あの人の働きに報いる義務が、私にはあるような気がしたのだから。
私は自ら衣服を脱ぎ、あの人の上にまたがった。そういった経験は微塵もないが、何も知らぬ純真無垢を気取るつもりもない。生娘であっても、また耳年増であった私は、そうした方があの人を喜ばせると知っていた。
内心で、小さく謝罪した。私には天より賜(たまわ)った数多の加護がある。その内の一つ、『星の加護』は私の意に反するあらゆる全てを通さない。
私はあの人に処女を捧げる気はなかった。少なくとも、自らの欲を明かし、ニヤニヤと下劣な笑みを浮かべるあの人には。
最後に見るあの人の顔がそんな下衆のそれであることに耐えられず、私は目を閉じ、処女を捧げ――
――そして、体を貫いたあの感覚に、何の抵抗もできなかった。
何が起こったのか分からなかった。ぶるりと震える肌、パチパチと視界に弾ける火花。鼓動のように、けれど自らのそれとは違う焼け付く感覚に、私は疑問符を浮かべることしかできなかった。
そして、生肉を放られたケダモノのように食らいつくあの人に、抵抗もできず貪られた。
分かっていなかったのだ。『星の加護』はあの人も知るところ、ならば対策の一つ二つ立てていてもおかしくないと、分かっていなかった。
私の行いは、飢えた狼の前に自ら飛び込んだ小兎も同然であり――その結果は、あまりにも必然だった。

私はその夜、あの人に――快楽とは何であるかを教え込まれた。

夜が明け、目を覚ました時。私の体は快楽の残り香と、気怠い心地よさに包まれていた。まだ半ば夢から覚めていない私は、何一つ隠さぬあの人が、至近で、私を抱いて横になっている事実に、はしたない声を上げた。

すぐに私は正気を取り戻した。そして自らの為すべきことを為そうとした。それが私の責務。聖王たる力ある者の務め。天より与えられし聖剣を手に、あの人を裁こうとしたその時。

あの人の涙が、私の手を止めていた。

あの人は懺悔した。こんなことをするつもりはなかったと、一生ひた隠しにするつもりだったと、涙を零して後悔していた。

そして私に謝り、自刃しようとした。それを止めたのは、はたして聖王としての慈悲からだったのだろうか。

いいや……いいえ。私はただ、信じたかったのです。あの人の儚げな笑みを、後悔の涙を。ただ信じたかったがゆえに、私はあの人に問いかけ、その行いを許しました。

それで元の関係に戻れると信じた私は、傲慢でしょうか。一度足を踏み外したら、二度と戻れないと思わないのは、私に力があったからなのでしょうか。

私には分かりません。確かなのは数ヶ月の間平穏は続き……ある日の夜、私が目撃したという事実だけです。

所用があって訪れたあの人の部屋。手前勝手に開けて、そっと中を覗き込んだ時に見た――憎々しい悪魔を必死に抑え込むような表情で、自涜（じとく）するあの人を見た、その事実だけ。

自らを慰めるあの人は、ただ痛ましかった。風車を竜と思い込み挑む騎士のように、それはまるで自罰のように見えたのです。

だから私は、あの人の前に姿を表し、提案しました。鎮めるのを手伝うのも、吝（やぶさ）かでないではないと。私が原因であるのなら、その責任を取るべきであると言ったのです。

……正直に言って、恥ずかしい思いを抱いていたのは否めません。このような提案を私からするなんて、まるで私がそれを望んでいるか

のようではありませんか。

ええ、私はただ、あの人の力になりたかっただけなのです。……ええ、邪な思いは、これっぽっちも抱いておりませんでした。

……じくじくと肌を犯す、下半身に流れ落ちる熱を、ないものとして扱いながら、私はそう思い込んだのです。

それから、私とあの人の秘密の関係が始まりました。聖王とその右腕という関係を表向き保ちながら、裏ではあの人の欲望を鎮める行為を繰り返しておりました。

段々と、箍が外れていったのは確かです。最初は手だけで行っていた行為は、その敷居を飛び越え、私の全身に広がっていきました。胸、お腹、太もも、足先。流石に口でするのはどうかと思いましたが、熱心に必要だと論じる彼に押されて、ついやってしまいました。嫌な気持ちはしなかったのです。むしろ……いいえ、詮無きことでしょう。体中にあの人の匂いが染み付いていって、どんどん深みにハマっていく自覚はありましたが、私は誰かに押されるように……その暗がりの奥へ、足を踏み入れていきました。

あの人の日記を見つけたのは、そんなある日のことです。

私はあの人を呼び出しました。あの人はいつも通りでした。それは日記を見せても変わりませんでした。

私が日記の真偽を問いただしてようやく……そう、ようやく、あの人は今まで見たこともない、ぞんざいな態度を見せました。それは優しく礼儀正しい、騎士たるあの人のそれではなく……荒野に佇む、荒れ果てた一匹の雄のようでした。

なぜだか、ドキリと胸が高鳴ったのを覚えています。それが何なのか私には分かりませんでした。

ただ……ただ、裁かなければならないと思った。不思議と騙されていたことへの悲しみはなかった。正さなければならないという空虚な意志が、そこにあるだけだった。

私は最後の慈悲として、あの人の進退を決めた。それに従わなけれ

ば即刻斬るつもりだった。

けれどあの人は従わず、私の渾身の一振りを柳のように受け流し――私の唇に、その雄々しい唇を重ねた。

その瞬間、体から力が抜け落ちていった。何が起こったか分からず、振りほどこうとしてもどうにもならなかった。

舌を入れられ、口腔を無遠慮に舐(ねぶ)られる度に、私から抵抗の意志は削ぎ落とされていった。十分も立つ頃には私は息も絶え絶えに、すがりつくようにあの人に寄り掛かることしかできなかった。

あの人は笑った。もはや私の体は私の物ではないと。私がそれを否定すると、あの人はその猛々しい指をじっとりと滑らせ、私の体を蹂躙した。奇しくもそれが、証明となった。

もう腰に力が入らず、崩れ落ちそうになる私を抱きとめ、あの人は優しい笑みを浮かべていた。けれどそこには、暗い喜びが見え隠れしていて……せめても言葉で抵抗する私は、服を脱いだあの人の雄から目を離せなかった。

そうして、私自身の提案から始まった秘密の関係は、完全に逆転したのだ。

あの人はところ構わず私を貪った。教会、聖堂、執務室、寝所。聖王としての務めを果たす私の生活圏で、あの人は匂いを塗りたくる犬猫のように私に欲望をぶつけた。

私が最も嫌がったのは、遮る物のない空の下であの人に貪られることだ。いくら木々が邪魔をするとはいえ、いつ誰に見つかるかも分からない状況はあまりにも恥ずかしく、生きた心地がしなかった。

『やはり猊下は、こういった状況がお好みのようですね』――羞恥に耐える私にいつもより反応が良いと囁くあの人の言葉を、決して信じたくなかった。

あの人が最も好んだのは、民の前で演説する前に私に欲望を解き放つことだった。あの人は何も言わなかったが、きっと見抜かれていたのだろう。

壇上に上がり、私を聖王と称える純真な民の前。私は清らかと歌われる笑顔の下で、胎(はら)の奥底にあの人の熱をたっぷりと抱えていた。

その、体をいたく苛む煮え滾った熱が。私の精神をも犯すような、胎の奥に溜まったあの人の歪んだ欲望の塊が。私には、私には……

いつしか私からは、抵抗の意志すらなくなっていた。ただあの人に貪られる毎日を、廊下の絵画を眺め歩くように無為に過ごしていた。

『つまりは猊下――貴方様はまだ、処女なのでございます』

あの人が事実を明かしたのは、そんな時だ。あの人は『星の加護』を無効化し、私の渾身を受け流せた理由を説明した。

その上で、私から手を引くと言ったのだ。『後任に団長を任せ引かなければならない身の上ですので』とあの人が苦笑した時、嫌にズキリとした痛みが胸に走ったのを覚えている。

私は無言で出ていった。信じるつもりはなく、もはや信頼にも値しないが、その日あの人が手を出さなかったのは確かだった。

次の日も、その次の日も、あの人は私に手を出さなかった。あの言葉が真実であったと知ったのは、何日も経たあとだ。

私はホッとした。これで終わると。やっと元に戻れると。

――あの輝かしい日々に、聖王である私とその右腕であるあの人の関係に戻れると、何の疑いもなく信じたのだ。

一月後。私はあの人の部屋へ自ら押し入った。

もう耐えられなかった。肌を巡る感覚の波に、胎の底に渦巻く衝動の熱さに。私はあの人が何か仕掛けを施したに違いないと糾弾し、しかしあの人はそれを否定した。

『要するに、猊下は発情なさっているのですね』

何気ないあの人の一言に、カッと顔が熱くなった。強い勢いで否定した途端、あの人は私の寝衣を捲くり上げ、その下に隠していた真実をさらけ出した。

私はもう、黙りこくるしかなかった。認めるわけにはいかなかったからだ。プライドや、聖王であるからという問題ではない。

ただあの人に。そのことで失望されるのが、怖かった。

『こうなったのは全て私の責任です。猊下がお望みであれば、いくらでも手助け致しましょう』

満足そうに頷いて、あの人は続ける。

『私の望みを叶えてくだされば、の話ですが。猊下――私に貴方様の処女を、捧げてくださいますか？』

その言葉の意味が分からないほど、私は愚鈍ではなかった。いいや、正直に言えばあの時だけは愚鈍でいたかった。

それは、受け入れるということだったからだ。あの人が私にしたこれまでを、あの人が私にするこれからを――私自身の意志で、受け入れるということだったから。

私は迷った。逡巡した。その時点でもう戻れない場所にいるのだと訴える理性は、ことごとく無視した。

そうしている間にあの人はため息をつき、身を引こうとした。それに思わず手を伸ばした私は、愚かなのだろうか？

……ああ、きっと愚かなのだろう。私を陵辱し、思うままに貪り、尊厳をも奪おうとする男に、自らすがりつく私は。

言い訳のしようのない、どうしようもない、淫売だった。

――そして、その時が訪れる。

私が信仰する神の御前。夫婦の契りを交わすためだけに存在する大聖堂の深奥で、私は婚姻の衣装をまとっていた。

ただの衣装ではない。淫靡で、はしたなく、男を誘う娼婦のそれだ。こんな夜でなければ――あの人と二人だけの今でなければ、とても婚礼装束とは呼べない代物。

あの人は優しく微笑んでいて、けれどその目だけはギラギラとしたケダモノのそれであった。私は思わず恐怖を抱いたが……それ以上の期待を胸に秘めていたのは、間違いない。

あの人と共に神の御前に倒れ込む。私が真に操を捧げる直前、あの人は私の名を呼ぶ許しを求めた。

私は長く沈黙し、結局は頷き……あの人に名を呼ばれた瞬間、雷鳴のような情動が全身に走り、涙した。

そして、神に見守られし神聖な場所で。私は、あの人に――

こうして私とあの人は、正式な夫婦となりました。

そうでしょう？　いくら神に許しを乞うても、あの人に強く貪られた時、私は愛を叫びながらあの人を受け入れたのです。

元よりあの場所はそういう聖なる祭祀場であり、そこへ連れて行ったあの人もまた、そのつもりだったのでしょう。私はもうあの人の物……それは一生変わることのない、不変の真実となったのです。

……ええ。私は受け入れています。過程はどうあれ、私はこうなることを望んでいたかもしれません。最初から、私にとってあの人は特別でした。ならば夫婦となるのなら、あの人でも仕方ないと、そう思えたのです。

正式な夫婦となってからも、私はあの人と関係を持ちました。夫婦なのですから当たり前です。時には私から求め、動き、あの人を喜ばせ……事後の奉仕に幸せを感じ、穏やかに過ごしておりました。

これからもこんな日々が続くと、私はあの人の側で微笑んで――

「お初にお目にかかります、猊下！　新たに親衛隊団長を仰せ付かることになった――です！」

……え？

……どうして？

「もしや、体調が優れないのですか？　大変です！　今すぐにでも医師を……本当に大丈夫なのですか？　あ、はい、分かりました。私はこれで失礼いたします……」

新たに親衛隊団長を名乗った女性騎士を下がらせて、私は一人私室に閉じ籠もりました。あの人を、そう、あの人を探すためです。

結果は……もうこの世にいないことが分かりました。何を調べて

も、どうやっても、何度繰り返しても、あの人の魂が存在しないという結果だけが示されました。

……なぜ？　どうして？　あの人が亡くなっている？　もうこの世にはいない？

……私を置いて、永遠に手の届かない場所へと逝ってしまった？

「っっっ!!!」

思わず、魔法の水晶を私は切り払っていました。水晶はただ厳然たる結果を指し示していただけなのに、私は当たらずにはいられませんでした。

なぜ、なぜ、なぜなぜなぜなぜ。私の頭にはそれだけしか浮かびませんでした。息が苦しく、鼓動が早くなり、視界の端が明滅します。何度も、何度も、何度も何度も何度も何度も私は考えました。そうしてようやく、思い知ったのです。

――あの人は初めから、こうするつもりだったのだと。

「……ふふ、あはは」

ふらり、と私は体勢を崩しました。

最初から、騙されていたのです。言葉も、心も、全て嘘。あの婚姻の儀ですら、あの人にとっては欲望を満たすための手段でしかなかったのでしょう。

私はただの道化。あの人が欲望を満たすために選んだ、都合の良い女。それだけでしかなかったのです。

「あはは、あはははははは」

笑い声だけが勝手に湧き出ます。壊れた水晶を放置して、私はふらふらと歩きました。

「あはは、はは……」

顔を伏せたまま、私は立ち止まります。しばらく立ち尽くして、やがてゆっくりと顔を上げれば、そこには。

「……――うふふ」
――鏡に映る、あの人の欲望に満ちた笑みに劣らない、暗い喜びに浸った女の顔が、ありました。

「……ああ、なんてことだろう。私にこんな一面があっただなんて」
これではとても、聖王と呼ばれる資格はありませんね。だって今の私に、民を思い、世界を守ろうとする気高い意志なんて、欠片も宿っていないのですから。
「まったく、ひどい人だ……けれど、そんなところも愛おしい」
ずっと我慢してきました。ずっと見て見ぬ振りをしてまいりました。けれどこうして向き合った今、私を縛るものは何もありません。
――欲しい。あの人が欲しい。あの人の心が欲しい。あの人の体が欲しい。あの人の全てが欲しい。
あの人の、子供が欲しい。
「子供は何人が良いだろうか。十人？　百人？　いいや、もっとだ。もっともっと……世界が終わるその時まで、私は愛の結晶を育みたい」
こんなこと、普通ならとても認められません。こんなことがなければ、私は一生向き合わなかったでしょう。
けれど、しょうがないですよね？　私は私の認めるべきでない欲望を抑え続けたのに、あの人はついに我慢できず、私に全てをぶつけたのですから。
――だったら、私がそうしても、貴方は許してくださいますよね？
「さて、まずは魂を捕捉しなければな。時間はかかるだろうが、なに、いずれ必ず達成できる」
鏡に映る自分の顔を撫でて、私はニンマリと頬を歪めます。
「貴方が戻ったら何をしようか。実は、ずーっと貴方を甘やかしてや

りたいと思ってたんだ。食事から、お風呂から、何もかも……貴方の全てを私がやってあげて、優しく包み込んであげたいと思っていた」

あの人が戻ってきたら、この想いの丈をぶつけましょう。余すことなく、存分に、あの人に愛を注ぎ込みましょう。

「ああ、その時が待ち遠しい。今から準備しておかなくてはな。だから――」

――私から、逃げられると思わないでくださいね？　旦那様♡

【主羅統娘】の孤独

ボクが生まれて最初に目にしたのは、当然のようにかしずく彼の姿だった。

『おはようございます、お嬢様。私は貴方に仕える下僕の一人。何なりとお申し付けください』

最初に耳にしたのはそんな言葉だ。勿論、聡明なボクは一言一句違うことなく覚えている。

彼はボクと同じ魔族だった。魔力の海より生まれ、知性と魔導を頼りに構築され誕生する、生まれながらの魔導種族。

この種族に大きな見た目の共通点はない。あからさまに悪魔のような者もいれば、人間という下等生物と代わり映えしない者もいる。残念なことにボクは後者であったけれど、まあ些細な問題だ。

ボクという偉大な存在。魔力の海よりこぼれ落ちる雫のような他の魔族と違い、ボクは魔力の海そのものだった。

この世に偏在する知識が凝集され、奇跡的な確率の末に誕生した、生まれながらの覇者にして統べる者。

【主羅統娘】なんて尊ばれるようになったのも、ボクの偉大な力がそうさせたんだろう。

ネスキス・ルインザルテ・オリエルトが支配者であることは、初めから分かりきったことだったのだ。

だからボクはその尊称と共に、世界の全てを統べるべく行動を開始した。

小さかったんだ。

ボクという存在を前に、最初に下僕を名乗り出た彼は、あまりにも小さくて。だから頭の片隅に追いやって、そのまま無数の下僕の一人になってしまうのも、仕方なかった。

『もう限界です、お嬢様。お暇を頂きたく存じます』

ボクの中で彼の存在が浮上したのは、そう言われた時だろう。無数

の下僕に囲われていたボクは、ただ一人こちらを見返す彼の瞳に、ひどい苛立ちが湧き上がったのを覚えている。

どうしてそんなことを言う？　君の主はボクだ。ボクが蔑ろにしようと、踏み躙ろうと、君がボクの物でなくなるなんてありえない。

けれど彼の決意は固いようだった。せっかくこのボクが優しい声でねぎらってあげたのに、彼は頑として辞めると言って聞かなかった。

だからボクは、彼を拘束した。分からせてあげないといけなかった。

ボクに統制できないものなんて、何一つ存在しちゃいけないんだ。

それからの一ヶ月は、いやに生活の質が落ちたのを感じた。側近の下僕に問い質してみれば、あらゆる雑用を一手に引き受けていた下僕がいなくなったからだと震えながら答えた。

それが彼だ。彼はボクが目を向けていない間も、ずっとボクに尽くしていた。まあ、当然ではあるのだけれど、ちょっとだけ気分が高揚した。

彼を監禁している地下室。そこへ鼻歌交じりで踏み込んで、その日の調教を少しだけ優しくしてあげるくらいには、気分が良かった。

一ヶ月後。完全にボクを主人だと理解した彼を、側近の一人に加え入れた。

彼は有能だ。別にボクの側にいてもいなくても働くけれど、ボクが何かを欲しがった時いの一番に献上してくれる。

それがどんな困難な代物でもだ。深海の初衣、天空の瞳、霊峰の落涙、大地の夢。今まで多くの下僕に命じて、けれど欠片も持って帰ってこなかった財宝の数々を、彼は一人で手に入れてきた。

なんとも評価し難いことに、あの威張り散らすトカゲおばさんの鱗や、卑しい勘違い女の髪の一房までも手に入れてきた。ボクが命じたとはいえ、一体どういう手段を使えば入手できるのだろう。

いかに世界の叡智を秘めるボクでも、その方法だけは分からなかった。

初めは蟻のように小さかった彼は、ボクの中でどんどんと大きく

なっていった。
一時間以内に三つの世界の最高のデザートを用意しろと要求した。彼は疲労困憊になりながらも成し遂げた。
暇つぶしに呪われた竜王の封印を解いたから倒してこいと命じた。遠見の魔導で眺める彼は無様に転げ回りながらも必死に戦い、成し遂げた。
新しい魔導技術を構築したから整理しておけと命じた。三十万弱の新技術を作ったけれど、彼は変に鋭い科学的知見から分類を見極め、成し遂げた。
なんでもいいからボクを笑わせてみろと命じた。彼は困り果てた顔をして、けれどどこからともなく道具を取り出し……正直、今思い出すだけでも噴飯物だ。彼は成し遂げた。
彼は、実に使える男だった。多くの働きを当然のものとして受け止めたボクだが、やっぱり多少は報いてやらないと気分が悪い。
側近の一人から重役へ、重役からまとめ役へ。最終的に常にボクの側にいることを許される執事役、世話役に任命してあげた。
彼は喜んでいた。当然だ、世界の主たるボクの手足となれるのだから、これ以上の喜びはないだろう。無邪気に笑う彼に、ボクもつい頬を緩めてしまったものだ。
それからも彼はボクの側にいて、ボクの言うことを何でも聞いてくれた。
どこか楽しいところに行きたいと言った。彼は「下僕の皆には内緒ですよ」と人差し指を立て、ボクを女帝や聖王が治める世界につれていってくれた。
なにか面白いものが見たいと言った。彼に手を引かれ導かれたのは、かつて世界であった星々が輝く、ボクも知らない極光の夜空だった。
今日のボクの気分に合う服を選べと言った。ずらりと部屋一杯に並ぶ服の森の中から、彼は今日の気分にぴったりの物を選んでくれた。
読書をするから椅子がほしいと言った。彼の返答も聞かず、ボクは

彼の手を引いてソファに座らせ、その上に乗って本を読み始めた。
驚く彼が苦笑して、微笑む様が背中越しに感じられた。それがどこか、気分が良くて、そのまま寝入ってしまった時もあった。
ボクに家族はいない。そもそも魔族に家族と呼べるものはない。
生まれた時から、ボク達は一人だ。一人で生まれ、一人で歩み、一人で滅ぶ。そういう風にデザインされている。
きっと神がそうしたのだろう。神は、ずっとボク達を見ているから。知性体をこよなく愛する超越神は、今もどこかでほくそ笑んでるに違いない。
……けれど。きっと父がいたのなら。きっと兄がいたのなら。きっと叔父がいたのなら。こんな気持ちになっていたかもしれない。
彼の手を引いて、彼に手を引かれて、同じ時を歩むボクらは。
血の繋がりはなくても、きっと特別な繋がりはあるんじゃないかって。ボクはボクらしくもなく、そう思ったんだ。

『お嬢様。実はお嬢様に、ぜひ紹介したい人がいるのです』
そんなある日のこと。彼はボクの前に、婚約者だという女を連れてきた。
ボクは理解できなかった。婚約者？　誰の？　君の？　ボクがいつ許した？
恥ずかしそうに、けれど幸せそうに笑う君は、何だ？　ボクは彼のそんな表情、一度だって見たことはなかった。
何を話したかなんて、覚えちゃいない。ボクは朗らかに笑う彼にまとわりつく虫をどう排除するのか、それで頭が一杯だったから。
彼が■■■を見送って帰ってきた瞬間、ボクは彼を牢屋にぶち込んだ。
そうだろう？　分からせなきゃいけない。彼が誰のものなのか。ボクの許可がなければ、呼吸一つすら自由にしてはいけないんだと、骨の髄まで分からせてあげなきゃいけなかった。
それには三ヶ月も時間がかかった。彼が泣いて、許しを乞うて、それでも何度でも分からせてあげて、ようやくボクの従順な犬になった

頃、調教を切り上げた。
もう彼の瞳にはボクしか映っていない。もう彼の耳はボクの声しか届かない。
もう彼は、ボクの下からいなくならない。これまでも、これからも、ずっと、ずっと、ずーっとボクの側にいるんだと、ひどく安心したのを覚えている。
約束したんだ。永遠の約束。ボクと、彼の、二人だけの指切り。
……なのに、彼は脱走した。ボクに黙って、あの■■■に会いに行ったんだ。
ボクは追いかけた。内心では無理にでもあの■■■を排除しておくべきだったと悔やんでいた。
彼にまとわりつく■■■は忌々しいことに卑しい勘違い女の右腕の身内だった。行きも、帰りも、いつだって、あの■■■の横にはエルフの真祖が控えていた。
まあ、エルフの真祖はいい。勘違い女に騙されているだけの本当の主を知らない可哀想なやつだし、彼にどこか似ていたから。
でもあの■■■は駄目だ。ベタベタと彼にすがりついて、汚らしい淫売の言葉を吐いて。彼に匂いがつくじゃないか、ボクは手を出せない状況に苛立ちを募らせるしかなかった。
たった一回きりだったから、我慢できたんだ。二度目なんて許さない。ましてや彼の意志でそれをやってるなんて、絶対に許してはいけない。
ボクは追いかけ、森の家に入った彼を窓から監視して、目の前であの■■■を肉の一片も残さず吹き飛ばしてやろうとして。
勢いよく抱きしめ、愛を叫ぶ彼に、ただ硬直するしかなかった。
……なんで？　どうして？　どうしてそんなことをするの？　ボクには一度だってそんなことしてないのに。
彼はまるで『家族』のように、あの■■■と抱き合っていた。まるでたった一人の『特別』であるように、泣きながら愛を叫んでいた。
分からない。分かりたくない。理解なんてしたくなかった。目の前の光景を、天才であるボクの頭脳は記憶し、理解し、翻訳する。

彼が泣く。あの■■■が囀る。彼が動く。あの■■■が毒花のように下劣に誘う。彼がベッドへ倒れる。あの■■■はアバズレのように服を脱いで、その肌を醜く気持ち悪い下衆な感情で彼にさらして、ふらふらとバカな彼が誘い込まれると見るもおぞましいこの世のものとは思えない表情でその手足を蟷螂のように彼の体に引っ掛けて――

そして彼は。あの■■■と……

……。

結局ボクは、何をするでもなく戻った。彼にも、あの■■■にも、あの場では何もできなかった。

怖気づいたんじゃない。認めたんじゃない。真っ赤に溶けた鉄のような心の中が、何もない空っぽになってたから、戻ってきただけだ。

少しだけ、時間がほしかった。落ち着くための時間が。そうでもしないとこの身の底から溢れる衝動は、世界の全てを破壊してしまいそうだった。

そんなことは望んでいない。この世界はボクの物だ。壊れたって構いやしない。けれど、彼と共に見た思い出の数々が、この世界には残っている。

それを消し去りたくはなかった。大切な思い出だった。だって彼とボクは。彼と、ボクは……

真っ青な表情で戻ってきた彼は、ようやく落ち着いたボクが表面を保つと、ごまかして、ウソをついて、さっきのことをなかったことにしようとした。

そうか。そうなんだね。君はそういうやつだったんだ。あの■■■のためなら、ボクさえも欺く、ひどく自分勝手なやつだったんだね。

なら、いいよ。ボクは許そう。君のことも、あの■■■のことも、全部全部許してあげよう。

だから――いいよね？　君から全部を取り上げても。だって君は、こんなにも分からず屋なんだから。

ボクは彼をボクの魔力で作った空間に隔離した。それは外宇宙――世界だったものの残骸が広がる、何もない無が広がる場所に作った。

彼は弱い。ボクに比べれば小さなハムスターみたいだ。こんな危ないところじゃ、一秒だって生きていけない。

だからボクの魔力で空気を作った。ボクの魔力で光を作った。ボクの魔力で足場を作った。

ボクの魔力で、小さな世界を作った。

そこはボクと彼だけの箱庭。彼はそこで、ボクの魔力から作った物を食べて、ボクの魔力から作った物を使って、ボクの魔力から作った物で眠る。

何もかも、全てが、ボクだけで完結した世界。彼はそこで一生を、死んでも、死んだ後も、ずうっと過ごし続けるんだ。

ボクは笑った。もうこれで、誰にも邪魔されることはない。女帝でも、聖王でも、ここに干渉することはできない。

彼はもう、ボクの手のひらから出られない。その事実が、たまらなく嬉しかった。

それから、ボクと彼だけの日々が始まった。

苦労は果てしなく多かった。彼は本当に分からず屋で、来る日も来る日もあの■■■のことを叫んだから。

ボクは分からせてあげた。君にはボクだけなんだと、君にはボクしかいないんだと、時に優しく、時に厳しく、根気強く言い聞かせた。

けれど彼は分かってくれない。最初からボクの物だったくせに、自分からボクの物になったくせに、彼はボクを見ようともしない。

許せなかった。苛立たしかった。力加減を間違えることが何度もあった。

その度にボクは彼に謝って、治してあげて、優しく微笑んであげてるのに。彼から返ってくるのは、虚ろな表情だけだった。

『■■■に会わせてくれ』。やがて彼はそれだけを呟くようになった。何をやっても、どれだけ囁いても、彼はそれだけしか言わなく

なった。

ボクは進退窮まった。もうどうしようもなかった。知識にあることは全部試したのに、彼はボクを見てくれない。どうしたら分かってくれるのか、もう何も分からなかった。

そんなどうにもならない感情をぶつけるように、彼に厳しくして、優しくして、けれど何も変わらなくて。一向に良くならない状況に、ボクは思わずあの■■■のことを罵倒した。

そうだ。全部あの■■■のせいだ。あの腐り落ちた肉に集る蛆虫みたいな■■■がいるから、こんなことになった。ボクは感情に任せてそれを吐き出して——ハッと、あることに気づいてしまった。

あれだけは、試していない。あんな■■■と同じことはしたくなかったから、ずっと避けていた一つの行為。けれどもう、ボクにはそれしか残されていなくて。

ゴクリと、喉を鳴らして。決心したボクが彼が選んでくれた服を脱いでまたがった、その瞬間。

彼の反応は、激烈だった。

『!?　いけません!?　それだけはなりません、ネスキス様……!!』

うつろなままだった彼は、急に生気を取り戻してボクの名前を呼んだ。

やっと、やっとだ。ここにきてやっと、彼だけに許したボクの名前を呼んだ。それが嬉しくて、嬉しくて、嬉しくて。ボクはもっと名前を呼んでほしくて、行為を続けようとした。

彼は止めた。泣いていた。どうしようもなくなったボクが引かないと悟ると、長い沈黙のあと、あの■■■を捨てると宣言してくれた。

やった、やった、やった！　ボクは思わず飛び上がりそうだった。けれど、だめ、だめ。はしゃいじゃいけない。この前みたいにボクを騙している可能性もある。慎重に、入念に、確かめる必要があった。

問いかけるボクに彼は頷いた。ボクの物になると、ボクの物になりたいと、その口で、自分から、そう言ってくれた。

ボクは歓喜した。ああ、これでやっと、元に戻れる。ボクと彼、二人で過ごしたあの関係に。あんな■■■なんて初めからいなかった、

『家族』のような関係になれる。
ボクは彼を許してあげたかった。もういいんだよと、自由を与えてあげたかった。
けれど嬉しくて、全身を駆け巡る喜びの感情は、ボクの背中を簡単に押して。
気がつけば。ボクは彼の絶望を優しく撫で回しながら、一つになっていた。
全てが終わった後、ボクは彼の服を抱きしめて、微笑んでいた。
だって、彼から求めてくれたのだ。最初はボクからだったかもしれないけれど、最後には彼からボクを求めてくれた。
心が満たされていた。ボクはその時、生まれて初めての満足感を抱いていたかもしれない。
そしてそれは、永遠だ。これからボクは、彼とずっと、この幸せを噛み締めながら歩んでいくんだ。
そう思うと、笑顔が抑えられなくて。ボクは笑いながら、もう少しだけこの一時を楽しみたくて、彼を置いて立ち去った。

次の日の朝。ボクは一人っきりの寒々としたベッドで目を覚ました。
やっぱり彼がいないと駄目だ。彼はいつもボクと添い寝してくれたから、それがないと違和感がすごくて、寂しくて、嫌になる。
だから彼に会いに行こう。そう思うと自然と笑みが零れて、ボクは気分良く彼のいる空間への道を開いた。
今日は何をしよう。本を読んでもらおうか、一緒に映画でもみてみようか。お出かけ……は、まだ無理だから……そうだ！　またあの行為をしてみようか！
きっと彼も喜んでくれるだろう。だって普段はボクの言いなりばっかりの彼が、自分から犬のようにボクを求めてくれるんだ。だったら主として、ボクには応える義務がある。
そうだよね？　そうだとも。自問自答して、満点の回答を貰ったボ

クは、満面の笑みで彼のいる世界へやってきて。

一目で、事切れていると分かる彼に、全ての思考を停止した。

「……え？」

嘘だと思った。冗談だと思った。だって、こんなの嘘だ。偽物だ。彼が死んでるはずがない。彼が死んでるはずがない。彼が死んでるはずがない。

「……や、やだなぁ。どうしたん、だい？　そ、そんな、ところ、で、寝転んじゃって、さ……」

ふるふると首を振りながら、ボクはよたよたと彼に近づく。足がもつれそうだった。でも、一秒でも早く彼のもとへ辿り着きたくて、そんなこと構っていられなかった。

「ほ、ほら！　起きたまえよ！　も、もう朝だよ！　良い子の寝る時間は、お、終わったんだ！」

彼の側で膝を落として、震える手で揺り動かす。そうしたらきっと彼は起き上がって、『すみません、お嬢様。寝過ごしてしまいました』って申し訳無さそうに笑うんだ。

ずっとそうだった。ずっとそうしてきたじゃないか。今更、変わるなんて、そんなのありえない。そんなの、あり、えな……

ごろりと、彼の体が転がる。ボクの方に向いた顔は、ただただ苦痛の痕が見て取れて。

光を宿さない彼の瞳には、だらりと汗を流す、ボクの引きつった笑みしか、映っていなかった。

「ぁ……ぁあぁ……ぁあああああ……うわぁあああああああああああああ!!!」

ボクは、絶叫した。正気も品性もかなぐり捨てて、彼の体にすがりついた。

彼の体はゾッとするほど冷たく、硬かった。もう二度と動かないんだと言外に証明するように、押しても引いても何の反応もしなかった。

ボクは泣いた。泣き喚いた。生まれて初めて流す涙だった。

それでも彼は、起きてくれない。ずっと事切れたままだ。もう何度も、何度も、蘇生術をかけてるのに、彼はずっと動かなかった。

「なんでっ！　どうしてっ！　起きろ、起きろよぉ……！

約束したじゃないか！　ずっと一緒にいるって、ずっとボクの側から離れないって、約束したじゃないか！　なのになんで、君は、こんな……!!

お願いだ、起きて、起きてくれよぉ……!!!」

ボクは泣き叫ぶ。彼は動かない。どんな蘇生術を使っても、その瞳に光が戻ることはない。

ふと、ごろりと動いた彼の手に、一枚の紙切れが握られてるのが見えた。とっさに取ったボクは、必死でそれに目を通す。

何か手がかりがあるんじゃないかと思った。何か彼を、彼を蘇らせる手段が、この地獄から抜け出すための手がかりが、なにか――

『ネスキス・ルインザルテ・オリエルト様へ。

先立つ不孝をお許しください。私は私を許せなくなりました。

彼女を裏切り、貴方をも裏切った。私にはもはや、生きていく資格などないのです。

どうかお体を大切に。私に一時の夢を許したことは、どうかお忘れください。それはとても、大切なもの。私ごとき存在に、捧げて良いものではないのです。

そして約束を果たせず、申し訳ございません。どうか私を呪ってください。どうか私を憎んでください。どうか私に囚われぬよう……最後に伏して、願います。

叶うのなら、■■■へお伝えください。

愛していたと。許してくれと。……幸せになってほしいと、お伝え

ください。
さようなら、親愛なるお嬢様。ただ一人の下僕から、たった一人の大切な方へ』
「ああ……あああああ……あああああああああああ……」
広げた小さな紙切れに、ボタボタとボクの涙が落ちる。
違うんだ。そうじゃないんだ。ボクが君に願ったのは、こんなことじゃないんだ。
ずっと一緒にいたかったんだ。ずっと側にいてほしかった。ずっとずっと、何があっても、ボクの『家族』でいてほしかったんだ。
こんなこと、望んじゃいない。望んでいない……君は何も、何一つ、悪いことなんかしてないのに。
ボクは彼の体にすがりつく。冷たい魔力の塊は、もう何も答えない。
「ごめん、ごめんよぉ……！　知らなかったんだ……！　こんなつもりじゃなかったんだ……！
ボクは、君が大切でっ、ただずっと一緒にいたくてっ……！　悪いのはボクだ、ボクだったんだ……！
君がこんなことをする必要なんてなかったのに……！　ボクが追い詰めた……!!　ボクが君を、殺してしまった……!!!
ああ……いやだ！　いやだよぉ……ボクを、一人にしないでくれ……お願いだ、頼むから……ボクを、一人に……」
言葉の続かなかったボクは、えぐえぐと泣くことしかできなかった。
全部、ボクのせい。全部、ボクの自業自得。好き勝手に彼を縛って、追い詰めて、その結果が、この様だ。
もう、何も元には戻らない。全部ボクが壊してしまったから。
もう、彼は帰らない。ボクが全部、断ち切ってしまったから。
すがりつく、すがりつく。動くことのない彼の骸に。ボクは延々と、延々と、ただ、それだけしか――――……

――――いる。
流れ込む。流れ込む。いつものように、世界からボクへ。
――――ている。
たゆたう。たゆたう。叡智の雫が、染み込んでくる。
――――生きている。
光る。光る。明滅する智慧が、暗闇に閉じ籠もるボクを照らす。
――――彼は、生きている。
世界の叡智が凝集するボクの頭脳。そこへ、新たなる情報が――――

「――――!!!!」

彼の骸に顔をうずめていたボクは、覚醒した。がばりと顔を上げ、生まれた時から持ち合わせるボクの権能を回転させる。
座標、不明。時刻、不明。情報、相違。魂魄、一致。
ホタルのように揺らめくだけだった光が加速し、集合し、天の川のように流れていく。その中からボクは、彼に関する知識を集める。
生きている。生きている。彼の魂が、どこかにある。違う肉体に、けれども確かに、彼の魂は世界にある。
世界の叡智がそれを教えてくれた瞬間、ボクは立ち上がった。そして彼の骸を魔力へと還し、吸収する。
ボクは彼が、何らかの肉体に宿り生きていると知っている。ならば彼の骸は、本当にただの抜け殻でしかない。
けれど、大切な、大切な、彼の体だ。だから、吸って、飲み込んで、

全てをボクの一部にする。
「……ねえ。君はまだ、そこにいるんだね……？」
歩き出す。歩き出す。ふらふらと忘我のように、けれど確かな目的を宿して。
「今度は、間違えないから。今度は、良い子にするから。今度は、絶対に……君を離さないから」
そうしてボクは、世界へ飛び出す。小さな箱庭をそのままにして。
いつか、必ず。彼とここへ、帰るために。
「だから、約束だよ？　ずーっとボクを、離さないでね？」
希望の光へと進むボクは、涙の痕が残る顔を笑みで歪めた。

第二幕　イッチ逃亡編

【草で】お前らがかわいそうなワイを助けるスレ【埋めるな】

1：フレッドリーツ
ええか？　もう一度言うぞ？
草でスレを埋めるな!!!

2：名無しのアブノーマル
草

3：名無しのアブノーマル
草

4：名無しのアブノーマル
草

5：名無しのアブノーマル
草

6：フレッドリーツ
もうええわ　対処したる
怒らせちゃったねぇ……ワイのこと怒らせちゃったねぇ!!!

7：名無しのアブノーマル
あ、こいつ！

8：名無しのアブノーマル
さてはくさをＮＧ送りにしたな

９：名無しのアブノーマル
　まま、ええやろ　次は合唱でもしようや

１０：名無しのアブノーマル
　ざまぁｗｗｗ

１１：名無しのアブノーマル
　ざまぁｗｗｗ

１２：名無しのアブノーマル
　ざまぁｗｗｗ

１３：フレッドリーツ
　お前らあああああああああああああああああ!!!

１４：名無しのアブノーマル
　あ　なんも罵倒書けんくなった

１５：名無しのアブノーマル
　対処はっやいなおい　さすがイッチ

１６：名無しのアブノーマル
　悪かったよイッチ　で、何の用？

１７：名無しのアブノーマル
　ワイらに期待するなんて間違いやで
　その上で聞くだけ聞いてやるから話せやで

１８：フレッドリーツ
　ぐぬぬ……まあいい　現状では君たち以外に頼る者もいないからな

１９：名無しのアブノーマル
素の口調でクスァ

２０：名無しのアブノーマル
追い詰められてる　はっきり分かんだね

２１：名無しのアブノーマル
（動揺が）みえるみえる

２２：フレッドリーツ
他人事だと思いやがって、ぶっ殺してやる！（清楚騎士）
ふう、ふう……よし、落ち着いた　とりあえず今分かってること書くぞ
この前
性癖を満たしたワイ、安らかに逝く
今
なんか目覚めたし裸だし拘束されてる
なんで???

２３：名無しのアブノーマル
クッサ

２４：名無しのアブノーマル
すまんグサ

２５：名無しのアブノーマル
単芝

２６：名無しのアブノーマル
これで笑うなという方が無理

２７：名無しのアブノーマル
　こいつの人生コメディでできてるんとちゃう？

２８：名無しのアブノーマル
　生まれながらの芸人　ナチュラルボーンコメディアン

２９：フレッドリーツ
　芸人扱いすんなや　こちとら必死に生き抜いたんやぞ

３０：名無しのアブノーマル
　必死（性癖モンスター）

３１：名無しのアブノーマル
　生き抜いた（三界の主を陵辱しながら）

３２：名無しのアブノーマル
　どうして安らかに死ねると思ったんですかねぇ

３３：名無しのアブノーマル
　イッチは人の心が分からない　だから今の状況も分からない

３４：名無しのアブノーマル
　ワイらは察してるけど説明して理解できるかなイッチ

３５：名無しのアブノーマル
　というかイッチどうやって書き込みしてるん？
　目の前に端末あって指先にインターフェース固定でもされてるん？

３６：フレッドリーツ

＞＞３４
理解できるかどうかはワイが判断するからとりあえず説明ｐｌｚ
＞＞３５
脳から干渉波出して書き込んでるだけだぞ

３７：名無しのアブノーマル
は？

３８：名無しのアブノーマル
まーたイッチが変なことやってる……

３９：名無しのアブノーマル
確かに理論上可能なんだけどさぁ　つーかイッチが証明してたけどさぁ

４０：名無しのアブノーマル
筋肉が魔力で動いてるからそれ増幅すれば生物発魔力機になれるよね☆　理論

４１：名無しのアブノーマル
知性体はそんな便利な構造してないんだよなぁ

４２：名無しのアブノーマル
そもそも人間自体が比較的低性能

４３：名無しのアブノーマル
それで実現してるイッチやっぱおかしいよ……

４４：フレッドリーツ
努力すりゃ誰でもできることを論じてる暇はないねん
頼む３４、お前だけが頼りや　何か分かるなら教えてくれ

４５：名無しのアブノーマル
　たぶん３４じゃなくても誰でも説明できるぞ

４６：名無しのアブノーマル
　というかイッチ本当に分からんの？

４７：フレッドリーツ
　分からん

４８：名無しのアブノーマル
　素直で房　しゃーない教えたれ

４９：名無しのアブノーマル
　イッチ、お前はな　踏んじゃいけない竜の尻尾を舐め回したんやで

５０：フレッドリーツ
　……？

５１：名無しのアブノーマル
　遠回しに言うな　伝わってないやんけ

５２：名無しのアブノーマル
　つまりやなイッチ　お前女帝様と聖王様と娘ちゃんに手ぇ出したやろ？
　その時点で安らかに死ねる可能性０なんやで

５３：名無しのアブノーマル
　三界の主やしなぁ　蘇生術くらいお手の物

５４：名無しのアブノーマル

お三方の内の誰かに捕まったんやろ
諦めて運命を受け入れろや

５５：フレッドリーツ
あー……つまり、ワイは復讐されるってことか？

５６：名無しのアブノーマル
まあそうなんじゃね

５７：名無しのアブノーマル
イッチのやらかし考えれば当然

５８：名無しのアブノーマル
むしろ想定してなかったんかイッチ？

５９：フレッドリーツ
＞＞５８
いや、復讐はされるやろなと思ってた
なるほどな、完全に理解したわ
ありがとお前ら　もうスレ落としてええで

６０：名無しのアブノーマル
うん？　終わりかイッチ

６１：名無しのアブノーマル
これからやろ　実況しろ

６２：名無しのアブノーマル
イッチには復讐される様子をワイらに伝える義務がある

６３：名無しのアブノーマル

イッチの話聞き届けてやったやろ　恩を返せ

６４：フレッドリーツ
そんなくだらん恩義で言葉飾るなや
素直に言えばええやん、ワイをオカズにしたいってな

６５：名無しのアブノーマル
うん

６６：名無しのアブノーマル
そうです

６７：名無しのアブノーマル
復讐されるイッチ……いいよね

６８：名無しのアブノーマル
存分に役立てるからな　詳細に頼むやで

６９：フレッドリーツ
ほんま救えんなぁお前らも
まあええわ　同類の誼（よしみ）で教えてやるやで
どうせこの先復讐されるために生きるんや　それくらいわけないからな

７０：名無しのアブノーマル
その潔さ、良し！

７１：名無しのアブノーマル
男じゃのうイッチ！

７２：名無しのアブノーマル

んじゃ、実況よろやで　ワイはチェーンソー用意するでな

７３：名無しのアブノーマル
ワイも知性体対応挽き肉装置用意せな

７４：フレッドリーツ
おう　準備万端で聞けや
……っと、誰か来たな　ええタイミングやんけ

７５：名無しのアブノーマル
きちゃー！

７６：名無しのアブノーマル
ちょっちょっと待ってくださいよ！　まだ何も用意できてない、待って！

７７：名無しのアブノーマル
全裸待機にも時間が必要やねんぞ！

７８：名無しのアブノーマル
甘すぎるでお前ら　ワイはもうとっくに紅茶打ってるぞ

７９：名無しのアブノーマル
英国面キメるのやめてもろて

８０：フレッドリーツ
来たな……誰やろな
……おお　なるほど、君かぁ
ワイを拘束したの誰か分かったやで　【煌天女帝】ｙ

８１：名無しのアブノーマル

ん？

８２：名無しのアブノーマル
イッチ？

８３：名無しのアブノーマル
女帝様きちゃ???

８４：名無しのアブノーマル
なんか様子がおかしい

８５：フレッドリーツ
なんか殺された　そんで蘇生された
初手拷問か？【煌天女帝】ｍ

８６：名無しのアブノーマル
んん？

８７：名無しのアブノーマル
また途切れた？

８８：名無しのアブノーマル
イッチ干渉波大丈夫か？　ちゃんと安定させてもろて

８９：名無しのアブノーマル
今はお前がテレビ局！　さっさと安定しろＹＯボクゥ！

９０：名無しのアブノーマル
なんやねんその謎ラップ

９１：フレッドリーツ

ヴァルガリエって呼べ言われた

９２：名無しのアブノーマル
ん？

９３：名無しのアブノーマル
は？

９４：名無しのアブノーマル
え？

９５：フレッドリーツ
ヴァルガリエって呼べ言われた
なんか【煌て……名前以外で呼ぶなって
じゃないと殺すって言われた　どゆこと???

９６：名無しのアブノーマル
こっちが聞きたい

９７：名無しのアブノーマル
女帝様……？

９８：名無しのアブノーマル
なんか雲行きが怪しくなってきたぞ

９９：フレッドリーツ
ワイここまで一言も喋ってないんやけどなぁ　ひょっとして干渉波気づかれてる？
でもこのスレは認識できんはず……いや【煌ｔ、ヴァルガリエなら可能か？
まあええわ　このまま実況は続けるで

１００：名無しのアブノーマル
ＫＵＳＡ

１０１：名無しのアブノーマル
グサ

１０２：名無しのアブノーマル
クッサ

１０３：名無しのアブノーマル
イッチそろそろ規制解除してもろて
もう無駄にスレ消費せんで　だから心の内をさらけ出させろ

１０４：フレッドリーツ
＞＞１０３
解除したわ
で、何がどうなってるんや？　とりあえずヴァルガリエが話したがってるから黙って聞くわ

１０５：名無しのアブノーマル
うーん、どうみるお前ら？

１０６：名無しのアブノーマル
なんで名前呼び強制するんやろな　普通逆じゃね？

１０７：名無しのアブノーマル
女帝様は特に誇り高いからなぁ　聖王様や娘ちゃんならともかく、理由なしにそれ許すか？

１０８：名無しのアブノーマル

呪ってるんじゃね？　名前呼んだ相手に強制する一種の縛り

１０９：名無しのアブノーマル
それかなぁ　他にも名前呼びさせる理由あるかな？

１１０：名無しのアブノーマル
名前には力があるからな　正直結びつけようと思えばなんでも結びつけられる
女帝様レベルならなおさらな

１１１：名無しのアブノーマル
いやこれ、ワンチャン女帝様……

１１２：フレッドリーツ
ヴァルガリエの話聞いてきた
要約すると「お前妾の物だから一生を妾に尽くす忠誠の儀式をしろ」って
ここにきて勧誘？　なんで???

１１３：名無しのアブノーマル
あっ

１１４：名無しのアブノーマル
これは……女帝様……

１１５：名無しのアブノーマル
キテル……キテルヨ……

１１６：名無しのアブノーマル
えっ、マジで？　マジで???
そんなこと起こり得るんか???

117：名無しのアブノーマル
でもこれはそれ以外……
でもイッチのやらかし考えると普通は……

118：名無しのアブノーマル
もしかして目覚めた？　女帝様

119：フレッドリーツ
お前ら考察はええけどワイに理解できるように話せ
とりあえず「いやです（真顔）」って言っといたで
そしたら尻尾で首の骨バキバキに折られて死んだわ

120：名無しのアブノーマル
草

121：名無しのアブノーマル
草

122：名無しのアブノーマル
そこでいやですと言えるイッチの胆力に草

123：名無しのアブノーマル
やっぱどっかネジ外れてるなイッチ
バカは死んでも治らないって本当なんやな

124：フレッドリーツ
「返事はハイかイエスだけ」って怒られたわ
ええ……ワイ一生忠誠とか無理なんやけど……

125：名無しのアブノーマル

わがままいうなや

１２６：名無しのアブノーマル
お前が始めた物語だろ

１２７：名無しのアブノーマル
他ならぬ女帝様が望んでるんや　一生かけて償え

１２８：名無しのアブノーマル
せやせや　それがイッチの責任や

１２９：フレッドリーツ
いや、別に償うとかそれはええんよ？　拷問とか尽くすとかそれは構わんのよ？
でも一生は無理やで
我慢できる自信があらへん　ワイ絶対またヴァルガリエ襲うで

１３０：名無しのアブノーマル
あー、そういう

１３１：名無しのアブノーマル
まあそれはな

１３２：名無しのアブノーマル
一回やれば二回やる
二度あることは三度ある

１３３：名無しのアブノーマル
イッチはすでに実績あるしなぁ……

１３４：フレッドリーツ

そもそもワイの寿命が尽きる百年すら我慢できへんかったんやぞ？
エルフワイは魂分割した大本ワイが満足してたから千年以上いけたんやぞ？
それを一生？　無理無理無理や　絶対またヴァルガリエ襲う、必ず襲う
せやったら死んだ方がマシやろ　もう二度とあんなことしたくないで

１３５：名無しのアブノーマル
うーん、まあね……

１３６：名無しのアブノーマル
ワイも時々我慢できなくなる時がある
でもそのあと絶対後悔する

１３７：名無しのアブノーマル
罪悪感がな……特に相手が同じ知性体だと目も当てられない

１３８：名無しのアブノーマル
こうしてここで定期発散してなきゃ発狂してる自信あるわ

１３９：名無しのアブノーマル
イッチの気持ちは分かる　よう分かる
でも女帝様が望んでるんや　行けるとこまで行って限界きたら自殺したらええんとちゃう？

１４０：フレッドリーツ
それありなんやけど、なんかそういうの許してくれそうな雰囲気じゃないんだよなぁ
ヴァルガリエめっちゃガン見してくるわ　なんだろう、ワイの目が

緊張してるって分析してる

１４１：名無しのアブノーマル
きんちょう

１４２：名無しのアブノーマル
女帝様が緊張……？

１４３：名無しのアブノーマル
なあこれやっぱりさ

１４４：名無しのアブノーマル
まだだ……まだ希望を持たせてくれ……

１４５：フレッドリーツ
とりあえず正直に話すか　忠誠誓うのはええけどまた襲いますよって言ったで
そしたらなんか「そ、それは仕方あるまい……特別に、そう特別に、妾が相手してやろう」って言い始めたで
?????

１４６：名無しのアブノーマル
あっ

１４７：名無しのアブノーマル
あぁー……

１４８：名無しのアブノーマル
あっ（絶命）

１４９：名無しのアブノーマル

あー……そっかぁ……そうなったかぁ、女帝様……

１５０：名無しのアブノーマル
これは……いわゆるあれじゃな？

１５１：名無しのアブノーマル
あれだな

１５２：フレッドリーツ
なんやねんさっきから　ワイに分かるように話せって

１５３：名無しのアブノーマル
だからさイッチ　お前、やり過ぎたんだよ

１５４：名無しのアブノーマル
女帝様、完全にハマっちゃったんだろうね

１５５：名無しのアブノーマル
分かりやすく四文字で答えよう
メ　ス　堕　ち

１５６：名無しのアブノーマル
メス堕ちしたんやろなぁ

１５７：フレッドリーツ
は？？？？？？？？？

１５８：フレッドリーツ
何を言っているんだ　彼女はあの【煌天女帝】ｄ

１５９：フレッドリーツ

あのヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカだぞ?

160：フレッドリーツ
気高き女帝、唯一の絶対強者、生まれながらの覇王だぞ???
俺ごときに陵辱された程度でメス堕ちなんかするはずないだろうが

161：名無しのアブノーマル
いやまあ、それはそうなんですがね

162：名無しのアブノーマル
でも他に考えようがないんですよ

163：名無しのアブノーマル
だってここアブノーマル板やからな　願望を信じるのもやむなし

164：名無しのアブノーマル
我々は望んでいる……女帝様のメス堕ちを……！

165：フレッドリーツ
ない　ないないないない！　ありえない！

166：フレッドリーツ
【煌天女帝】ｈ

167：フレッドリーツ
ヴァルガリエは誇り高い女なんだ　傲慢で、残忍で、誰にも屈しない最高の女なんだ
だから選んだ　ヴァルガリエだから俺は全力を出せたんだ
彼女なら、俺という性欲でしか動けないゴミクズが好き勝手しても立ち上がれる

なぜなら彼女はヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカ
何者だろうと、その矜持を真に貶めることなんてできない
そうだろう？　そのはずだ……俺ごときに、そんな……

１６８：名無しのアブノーマル
なんかイッチが素でショック受けてる

１６９：名無しのアブノーマル
なんだろうこれ……滾る

１７０：名無しのアブノーマル
素晴らしいね！　もっと本音をぶちまけてくれイッチ！

１７１：名無しのアブノーマル
ワイらはそれにすっごい濃いのぶちまけたるからな！

１７２：名無しのアブノーマル
最低過ぎて草　まあ俺もなんですけどね

１７３：フレッドリーツ
……分かった　そこまで言うなら確かめてやろうじゃないか

１７４：名無しのアブノーマル
お？

１７５：名無しのアブノーマル
イッチがまたなんかやらかそうとしてる

１７６：名無しのアブノーマル
何する気なんですかね……（ワクワク）

177：フレッドリーツ
　ヴァルガリエのおっぱい揉むぞ

178：名無しのアブノーマル
　ファッ!?

179：名無しのアブノーマル
　えっ!?

180：名無しのアブノーマル
　急にどうしたイッチ

181：フレッドリーツ
君たちの言葉が真実であれば、ヴァルガリエは俺に堕ちている
だがそれはありえない　体を張って実証するんだ
幸いにも拘束を解析した結果、今の俺にも解除できる仕様だった
目の前で拘束を外し、ヴァルガリエに接近　その豊かな胸を揉みしだく
　おそらく拘束を外そうとした瞬間殺されるだろう　それをもって証明としようじゃないか

182：名無しのアブノーマル
　＼拘束を解除できる仕様
　あっ、ふーん……

183：名無しのアブノーマル
　どうして裸のイッチに解除できるようになってるのかな???

184：名無しのアブノーマル
　おかしいねぇ……女帝様が拘束してるはずなのにねぇ！

185：名無しのアブノーマル
もう答え出てんじゃん

186：フレッドリーツ
……揉めたんだが

187：名無しのアブノーマル
はえ^〜

188：名無しのアブノーマル
ああ……女帝様……

189：名無しのアブノーマル
やっぱりな♀

190：フレッドリーツ
……めっちゃ抵抗弱々しい　口だけ尊大　なんだこれ……
……消した淫紋刻んでみるか　これならさすがに……

191：名無しのアブノーマル
おう、やってみろ

192：名無しのアブノーマル
もっと突っ走ってもろて

193：名無しのアブノーマル
行けぇイッチ！

194：フレッドリーツ
……刻めたんだが

１９５：名無しのアブノーマル
草

１９６：名無しのアブノーマル
草

１９７：名無しのアブノーマル
草

１９８：フレッドリーツ
なんだその顔……なぜ頬を紅潮させ、涙目で俺を見る……？
おかしいだろ、ヴァルガリエ……お前は美しく気高い女だ……
こんなことじゃあ屈しない、最高の、誰よりも誇り高い……

あ〜もう駄目だ　すっげぇムラムラしてきた

１９９：フレッドリーツ
ふざけるなよヴァルガリエ！　そんな表情で……なんでロクに抵抗しないんだ！
オラ！　どうだ！　今の俺は裸だぞ、腰を落としてたら当然はたかれるよなぁ!?
……なんでそんな熱っぽく見てる……おい、ちょっと待て、やめ

２００：フレッドリーツ
あ〜もう許さねぇ!!!　もう止まんねえからなオイ!!!
覚悟しろよ!!!　気絶も寝落ちもぜってぇ許さねえからな!!!!!

やっちまった……

1：フレッドリーツ
どうしよう……

2：名無しのアブノーマル
おー　帰ってきたかイッチ

3：名無しのアブノーマル
ゆうべはおたのしみでしたね

4：名無しのアブノーマル
ゆうべどころか七日七晩

5：名無しのアブノーマル
マジで一回も休ませずに女帝様食ったってマ???

6：名無しのアブノーマル
＞＞5
前スレ見てこい　イッチの脳内垂れ流しで捗るぞ

7：名無しのアブノーマル
＞＞6
見てくるわ

8：名無しのアブノーマル
いやー、それにしても激しかったっスねー

9：名無しのアブノーマル
やばかったよねイッチ　女帝様が何してもイライラビキビキするんだもん

１０：名無しのアブノーマル
女帝様の行動　イッチに迫られへたり込む
←
イッチ激怒!!!　女帝様に覆いかぶさる!!!
←
消沈　女帝様の行動　息も絶え絶えに罵倒する
←
イッチ激怒!!!　女帝様に覆いかぶさる!!!
←
消沈　女帝様の行動　力の入らない体で反撃しようとする
←
イッチ激怒!!!　女帝様に覆いかぶさる!!!
←
消沈　女帝様の行動　必死で逃げようとする
←
イッチ激怒!!!　女帝様に覆い（以下略
これの無限ループ

１１：名無しのアブノーマル
激怒しすぎで草

１２：名無しのアブノーマル
マジで草　どんだけ性欲溜めてんねん

１３：名無しのアブノーマル
えぐかったよね　１０分くらい？　女帝様の喉塞いでさ、ずーっと
流し込むの

１４：名無しのアブノーマル
量も質も時間も桁違いが過ぎる

15：名無しのアブノーマル
正直イッチの性欲なめてたわ　こんなん抱えてよく我慢できたな

16：名無しのアブノーマル
ぶちまけてもぶちまけても女帝様から離れなかったからな
初日とかもうやばかった

17：名無しのアブノーマル
入らん!!!　もう入らん!!!　って泣き叫ぶ女帝様無視して淫紋悪用して妊婦みたいにしたんだっけ？

18：名無しのアブノーマル
そうそう　しかも気絶の兆候見せた瞬間、魔力スタンガンでバチッッッ!!!　よ

19：名無しのアブノーマル
使う場所もえぐかったよな　子宮に直よな？

20：名無しのアブノーマル
ああ　イッチの微塵も衰えない相棒でな

21：名無しのアブノーマル
相棒♂

22：名無しのアブノーマル
女帝様スタンガン食らいすぎて最後、その……ね？

23：名無しのアブノーマル
バチッッッ!!!　ってやられた瞬間覚醒＆頭バチバチ

２４：名無しのアブノーマル
　ハートマーク飛び散ってるのが容易に想像できたわ

２５：名無しのアブノーマル
　んで、女帝様の限界ギリギリまで追い詰めたあとは優しくねっとり

２６：名無しのアブノーマル
　あれマジで性格悪いと思ったわ　女帝様に逃げを許さなかったもん

２７：名無しのアブノーマル
　正面から抱きついて女帝様の胸に顔埋めながらひたすらゆっくりだからな

２８：名無しのアブノーマル
　気絶することもやめさせることもできず、弱々しくイッチを引き剥がそうとしながら限界ギリギリを行ったり来たりする女帝様　最高でした

２９：名無しのアブノーマル
　全部イッチの主観だけどな　あいつやたら脳内思考が具体的なんよ

３０：名無しのアブノーマル
　文字だけなのに女帝様のあられもない顔見えるってマジ天才

３１：名無しのアブノーマル
　千年紀最高の科学者ってことを再認識したわ　本当に天才だったイッチ

３２：名無しのアブノーマル

抱きついて離れないイッチにトロットロで抵抗する女帝様がおかわわわ過ぎた

３３：名無しのアブノーマル
ワイは散々飲まされたあとの女帝様に一票　なっがい下品なおくびゲップのこと最高ゾ

３４：名無しのアブノーマル
俺は少しでも時間稼ぎたくて必死に奉仕する女帝様に滾ったなしかもイッチすぐキレるから無駄に終わるの最高に可哀想だった

３５：名無しのアブノーマル
もう赤ちゃん言葉レベルのあーうーしか言えない女帝様素晴らしかったんよ　すぐにイッチに叩き起こされて絶望するの……ふぅ……

３６：名無しのアブノーマル
たまにイッチがそのままゆっくりじっくりでそっとしておくこともあったからな　途中から演技し始めた女帝様草だった

３７：名無しのアブノーマル
すぐバレてお仕置きされるのな　弱点責められまくって許しを乞うのやばすぎなんよ

３８：名無しのアブノーマル
あれもう逆に誘ってたよな　イッチじゃなくてもあれは我慢できん

３９：名無しのアブノーマル
いやぁ……イッチじゃないとあそこまで引き出すの無理でしょ

４０：名無しのアブノーマル
本気で精力無限じゃないかって思ったのイッチが初めてだもんな

４１：名無しのアブノーマル
マジで底が見えんかった　あんなにありったけを女帝様にぶつけてたのにな

４２：名無しのアブノーマル
俺は恐怖したわ　イッチレベルの性欲もってたらどうなってたんだろ

４３：名無しのアブノーマル
そりゃお前……犯罪者よ

４４：名無しのアブノーマル
牢屋ぶちこまれて死刑判決ゾ♡

４５：名無しのアブノーマル
イッチのすごさが改めて分かる七日間だった　本当にお世話になりました

４６：名無しのアブノーマル
サンキューイッチ　フォーエバーイッチ

４７：名無しのアブノーマル
ていうかイッチどこいった？

４８：名無しのアブノーマル
イッチ？

４９：名無しのアブノーマル

おーいイッチ

５０：フレッドリーツ
どうしよう……

５１：名無しのアブノーマル
まだ後悔してて草

５２：名無しのアブノーマル
もう諦めろイッチ　やっちまったもんはしゃーない

５３：名無しのアブノーマル
せやせや　切り替えていけ

５４：名無しのアブノーマル
いやこんだけ落ち込んでてすぐには無理だろ

５５：フレッドリーツ
……そうだよな　仕方ないが、切り替えよう
よし、お前ら
目の前にワイのアレまみれのヴァルガリエがぐったりしてるんだがどないしよ？

５６：名無しのアブノーマル
草

５７：名無しのアブノーマル
切り替え速すぎィ！

５８：名無しのアブノーマル
神速のスイッチで草

５９：名無しのアブノーマル
　こいつの精神自動機械か？　そんな気軽にＯＮＯＦＦできること
じゃないだろ

６０：名無しのアブノーマル
　もうちょっと反省してもろて

６１：フレッドリーツ
　やっちまったことは取り返せないんや　もう腹くくるしかねえ
　とりあえず逃げよう思うんやけどなんぞ案ある？

６２：名無しのアブノーマル
　草

６３：名無しのアブノーマル
　二行で矛盾するの草

６４：名無しのアブノーマル
　腹くくったら逃げんのかよおめえよぉ！

６５：名無しのアブノーマル
　腹のくくり方を間違えてる

６６：名無しのアブノーマル
　そこは責任取ってゴールインだろイッチィ！

６７：フレッドリーツ
　責任取るとか無理　キツイっす

６８：名無しのアブノーマル

この無責任発言である

６９：名無しのアブノーマル
お前どんだけ女帝様に無責任ブッパしたと思ってんだよ

７０：名無しのアブノーマル
そうだそうだ　責任取れ、責任！

７１：名無しのアブノーマル
式場がお前のゴールだ！

７２：フレッドリーツ
ワイの種はいじくってあるから絶対妊娠しない　それは確実に言える
その上で責任取るいうても……好き勝手してさらば世界したワイにそれ言う？

７３：名無しのアブノーマル
草

７４：名無しのアブノーマル
それはそう

７５：名無しのアブノーマル
最後まで無責任を貫き通そうとしてできなかった男だからな

７６：名無しのアブノーマル
なんかかっこよく見える　哀愁を感じる

７７：名無しのアブノーマル
内容は最高にかっこ悪いけどな

78：名無しのアブノーマル
　というかなんでそんなに嫌がるん？　別にイッチ女帝様嫌いやないやろ？
　性癖に完璧にぶっ刺さってるわけだし

79：フレッドリーツ
　俺と結婚して幸せになれるとは思えない

80：フレッドリーツ
　考えても見ろ　この俺だぞ？
　他人を陵辱するために入念に準備し、好き勝手貪り、終わったらポイするような男だぞ???
　どこをどう切り取ったらそんな男と結婚して幸せになれると思うんだよ
　しかも結婚しようが何しようが俺の性欲は消えない
　この先ずっと陵辱され続けるのが幸せなわけないだろうがよ……
　そうだとも　ずっと分かっていたことだ
　できるなら自分で命を絶ちたかった
　でも駄目だった　俺の理性は俺の性欲に勝てない　死のうとしても勝手に体が生き返りやがる
　満足させるしかなかった　俺という存在を消し去るにはこの方法しかなかったんだ
　なのに……なのに、なんで……こんな……

81：名無しのアブノーマル
　お、おう

82：名無しのアブノーマル
　やばい　イッチの闇が吹き出してる

８３：名無しのアブノーマル
そっかイッチ……ずっと一人で抱え込んでたんだな……

８４：名無しのアブノーマル
かわいそうなイッチ……

８５：名無しのアブノーマル
……正直ムラムラする

８６：名無しのアブノーマル
闇深イッチ、いいよね

８７：名無しのアブノーマル
ちょっとおじさんといいことしようよ……大丈夫、何も怖くないからさ……ぐへへ

８８：名無しのアブノーマル
ひどすぎて草　そんなんだからお前らは糞溜めの糞だっちゅうねん

８９：名無しのアブノーマル
アブノーマル板は性癖の坩堝（るつぼ）だからな　何言っても誰かに刺さる

９０：名無しのアブノーマル
そういうことやイッチ　ワイらは同類や

９１：名無しのアブノーマル
お前は一人じゃない　それだけでええやんか
そうやろう？

９２：フレッドリーツ

……ありがとよ、最高の糞野郎ども
よし、感傷に浸ってすっきりしたわ
逃げるか

９３：名無しのアブノーマル
草

９４：名無しのアブノーマル
草

９５：名無しのアブノーマル
何も変わらんくて草

９６：名無しのアブノーマル
結局結論はそれかいイッチィ！

９７：名無しのアブノーマル
ここまでのレス、何の意味もないやり取り

９８：名無しのアブノーマル
すげー爽やかな顔で言ってそう

９９：フレッドリーツ
だって何するにしても時間と手段がなさすぎる
まずは時間稼がんとな　ヴァルガリエが寝てる間にそっと抜け出すで
一年ここにいたから地図は叩き込んでるしな　まずは扉かｒ

１００：名無しのアブノーマル
ん？

１０１：名無しのアブノーマル
イッチ？

１０２：名無しのアブノーマル
また干渉波乱れたか？

１０３：フレッドリーツ
やっべ　ヴァルガリエ起きてた　尻尾で足掴まれて吊るされた
すっごい無表情でこっち見てる

１０４：名無しのアブノーマル
あっ

１０５：名無しのアブノーマル
これはやばい

１０６：名無しのアブノーマル
イッチ絶体絶命の危機

１０７：フレッドリーツ
「何処へ行く？」って聞かれたから適当こいたら横の壁がえぐれた
無数の爪痕が重なってるみたいだ
はえ～　こんなん食らったら死んじゃう　ワンチャンかけてもっかい適当こいたら尻尾でグルグル巻きにされた
うごけん

１０８：名無しのアブノーマル
能動的に死のうとしてて草

１０９：名無しのアブノーマル
性癖達成してからイッチ完全に自殺志願者だよね

１１０：名無しのアブノーマル
どうせ無意味なのにあの世に逃げようとする気満々

１１１：名無しのアブノーマル
そりゃ女帝様もね？　いくらメス堕ちしてても怒りますわ

１１２：フレッドリーツ
「嘘は貴様のためにならんぞ？」ふっとい尻尾で引き寄せられたワイ、至近距離で見つめられる
優美なエメラルドの瞳だ　幻想的で、それでいて力強い　原始の荒々しさと雄大さを感じさせる
やはり、ヴァルガリエは美しい　俺の目に狂いはない　彼女は世界最高の女だ
……なんかフイって顔そらされたんだが　耳真っ赤やし、何なん？

１１３：名無しのアブノーマル
草

１１４：名無しのアブノーマル
そこは分かってやれよイッチ

１１５：名無しのアブノーマル
干渉波読まれてんだろ？　お前の思考筒抜けなんだよ

１１６：フレッドリーツ
＞＞１１５
それはない　思考乱数プロテクトかけてるし破られたら分かる
仮に感知できず筒抜けでもここに書いてる以上内容は認識できないはず
あ、顔そらされた理由分かったわ　恥ずかしいんだってさ

もっと恥ずかしいこと散々やったじゃん　今更？

１１７：名無しのアブノーマル
草だけどお前がいうな草

１１８：名無しのアブノーマル
お前が女帝様を変えたんじゃろがい！　草

１１９：名無しのアブノーマル
言いたいことがありまくるのに草が自然と生えてきて草

１２０：名無しのアブノーマル
もう草なんよほんまに

１２１：フレッドリーツ
とりあえず仕切り直しされたわ
改めて聞かれてる「妾の眷属になるか否か？　返事は一つしか認めないがのう」って
だからいやだって言ったじゃん　そう言ったら体締め潰されて死んだわ
ほんま何なんもう

１２２：名無しのアブノーマル
むしろお前が何なんだよ

１２３：名無しのアブノーマル
スナック感覚で死亡報告するのやめてもろて

１２４：名無しのアブノーマル
もしかしてイッチ痛み感じない？

125：名無しのアブノーマル
痛覚切ってんのか　それなら分かるけど

126：フレッドリーツ
切ってないぞ　むしろ性癖に抗えんくて高めてるぞ
ワイの感度は今通常の３０００倍や

127：名無しのアブノーマル
草

128：名無しのアブノーマル
草

129：名無しのアブノーマル
大草原

130：名無しのアブノーマル
感度３０００倍は草

131：名無しのアブノーマル
ほんまか？　ホラ吹いてるんとちゃうやろな???

132：名無しのアブノーマル
感度３０００倍とか生きていけないだろ

133：フレッドリーツ
ヴァルガリエの宮殿の近衛兵にこのスレの住民おるな
端末ポチポチしてるの感じる　１２５、お前だよ

134：名無しのアブノーマル
は？

135：名無しのアブノーマル
ウソつけや

136：名無しのアブノーマル
ヒエッ……なんで分かったの???

137：名無しのアブノーマル
えっ

138：名無しのアブノーマル
ウソ

139：名無しのアブノーマル
ほんまか？

140：125
ワイ女帝様の近衛兵の末端の末端、イッチの言葉に震える
【荘厳な女帝の宮殿のすごい片隅にある入口を守る青ざめた兵士の画像　神製ＩＤで個人を特定する情報は隠されている】

141：名無しのアブノーマル
は？

142：名無しのアブノーマル
は???

143：名無しのアブノーマル
えっ……マジで???

144：名無しのアブノーマル

ほんまか……？　ほんまにイッチ感度３０００倍なのか……？

１４５：名無しのアブノーマル
かつてここまで感度３０００倍に恐怖したことがあっただろうか

１４６：フレッドリーツ
３０００倍も感度あったら当然やろ　ここまでせんとロクに満足できないんじゃ
いっとくが遅漏じゃないからな　タイミングなんか自由自在だけど快楽の受け皿がでかすぎるんじゃ

１４７：名無しのアブノーマル
イッチェ……

１４８：名無しのアブノーマル
マジで性癖に難を抱えすぎている

１４９：名無しのアブノーマル
最初のスレで普通よりの性癖とか言ってスマンかった　お前本当の偉人だよ

１５０：名無しのアブノーマル
擦り切れない理性もすごいがなお止まる様子を見せない性欲がやばすぎる

１５１：名無しのアブノーマル
もはや恐怖を感じるレベル

１５２：名無しのアブノーマル
ほんまもんの性癖モンスターやったんやな……人間だと思って無意識に侮ってたわ

153：名無しのアブノーマル
イッチは天才、はっきり分かったんだね

154：フレッドリーツ
どうでもいい話題で盛り上がるのやめろ
ああクソ、ヴァルガリエの尻尾硬いのに柔らけぇ……あ〜もうまたムラムラしてくる……

155：名無しのアブノーマル
草

156：名無しのアブノーマル
さっきから草しか生やせない

157：名無しのアブノーマル
まーた発情してるよこいつ

158：名無しのアブノーマル
どんだけやねん　七日七晩頑張った女帝様の身にもなってみろや

159：フレッドリーツ
とりあえずその場で発射したわ　今の状況じゃこれしか手がねぇ
あーもう、ワイのアレでワイがベトベトとか何の需要があるんじゃ
気持ち悪い
あ　急場凌ぎだったから発射しすぎて尻尾からずり落ちた

160：名無しのアブノーマル
だから草を生やさせるなと

161：名無しのアブノーマル

なんやねんもう　さっきからギャグやんけ完全に

162：名無しのアブノーマル
やってることの温度差が激しすぎる　頼むもうちょっと一定でいてくれ

163：名無しのアブノーマル
乱高下し過ぎで頭パンクしちゃいますよも～

164：フレッドリーツ
下がベッドだから助かったわ　チッ、床なら首折れて死ねたものを
……なんかヴァルガリエがすげーこっち見てる
!?　ちょっ、オイ!?　俺の体舐めようとするな！　汚れたから綺麗にする？　バッカお前が汚れちまうだろ!!!
自分で拭くって……拭けるって言ってるだろ！　お前に舐められたらもう話どころじゃないんだよ!!!
よーしよしよし、ステイステイステイ……いい子だ、いい子だなヴァルガリエ　えらいぞ……

165：名無しのアブノーマル
イッチテンパってて脳内垂れ流しで草

166：名無しのアブノーマル
前スレもこれで埋まったんだよね　めっちゃ捗ったわ

167：名無しのアブノーマル
前スレでも思ったけどイッチいい子って言うの好きだよね

168：名無しのアブノーマル
言うこと聞くとえらいって褒める　ついでに頭も撫でる

169：名無しのアブノーマル
完全にペット扱いだけど愛情が透けて見えるんだよなぁ……

170：名無しのアブノーマル
素直になればいいのに

171：フレッドリーツ
また結婚がどうたらとか言ったら二度とスレに書かんぞ（??◉???;?；??◉???）

172：名無しのアブノーマル
ヒエッ

173：名無しのアブノーマル
ごめん

174：名無しのアブノーマル
ゆるして

175：名無しのアブノーマル
本気で怒ってる、はっきり分かんだね

176：名無しのアブノーマル
そんなに自分が嫌いなんか……たとえ女帝様相手でも……

177：フレッドリーツ
大嫌いだね　あとヴァルガリエだからこそだ
……よし、処理は済んだ　俺もいい加減覚悟決めるぞ
ヴァルガリエと直接対話だ　俺を蘇らせた真意を聞き出してやる

178：名無しのアブノーマル

キタ――――（。∀。）――――！

179：名無しのアブノーマル
ついに覚悟を決めたかイッチ

180：名無しのアブノーマル
本来腹くくった時点でやるべきこと

181：名無しのアブノーマル
相互理解は対話からだからな　正しい選択

182：名無しのアブノーマル
逃げようなんてするからこじれるねん　誠心誠意向き合えばいいんじゃ

183：名無しのアブノーマル
これでイッチも理解できるだろう　女帝様がイッチをどう思っているか

184：名無しのアブノーマル
二人は幸せなキスをして終了

185：フレッドリーツ
……ん？

186：名無しのアブノーマル
お？

187：名無しのアブノーマル
どうしたイッチ？

188：フレッドリーツ
え？

189：名無しのアブノーマル
お？　お？

190：名無しのアブノーマル
なんだなんだ

191：フレッドリーツ
……なんかすっごい早口で俺のこと語り始めたんだが

192：名無しのアブノーマル
あぽ？

193：名無しのアブノーマル
女帝様……？

194：フレッドリーツ
やばい　止まらない　延々と俺が如何に鬼畜で外道で救いようのないクズか話してる
それはいい　でも方向性がおかしい　だから妾が屈服させる？　何度敗北しようと必ず勝ちを得る？　勝ち取ってもヤる？　だからそれまで、絶対に絶対に絶対に絶対に絶対に絶対に絶対に、許さない……？
え、あの……ヴァルガリエ？　ヴァルガリエさん？

195：名無しのアブノーマル
イッチ困惑

196：名無しのアブノーマル

ワイらも困惑

１９７：名無しのアブノーマル
ただメス堕ちしただけじゃなかったのか……

１９８：名無しのアブノーマル
ひょっとして女帝様、病んでらっしゃる？

１９９：フレッドリーツ
逃げていい？

２００：名無しのアブノーマル
ゆるさない

やっちまった……その2

201：名無しのアブノーマル
ん？

202：名無しのアブノーマル
なんだ？

203：名無しのアブノーマル
なんやゆるさないって　誰やねんお前

204：名無しのアブノーマル
荒らしか？　イッチのスレの邪魔するなや

205：神
私が説明いたしましょう

206：名無しのアブノーマル
!?

207：名無しのアブノーマル
神!!??!?

208：神
＞＞200は【煌天女帝】、ヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカのレスです
どうやら力を解放した余波で、アブノーマル板に干渉してしまったようですね

209：神
ご心配なく　彼女はアブノーマル板を認識していません

これはいわば、混線　彼女という源泉から溢れた水が、別の川に流れ込んだようなもの

２１０：神
根源は彼女にこそあれ、力の末端が行きつく先など知るよしもないでしょう
　ですからみんな　安心してスレを進行なさい

２１１：名無しのアブノーマル
ほんまに神なんか???　ワイ初めてみたわ

２１２：名無しのアブノーマル
＞＞２１１
あっバカ!!!

２１３：神
あっへえええええええええええええええええええええええ
えおひょおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおあ
ゔぁｆぴばｊｄら；ｇｈぼあらえｒんがｗろががｊぼあいえんばえ
ｒ；ごｂｈじゃぼいあえんｒがえお；ｇなおあへがえおｒｂがｗ；，ご
あｊばｄｌｆｂまｌｇｋん；ふぉばｈでばおえのｒんがえおｒじゃば
えなえお；ぎあｊぼあ；ｂまえ；ｇなえおい；ｇｊはｒｇ；おあんば
えおｒがｈびあｆばｌｒｇな；ｒごいあｊご；あえｈばえｒｎ

２１４：名無しのアブノーマル
!?

２１５：名無しのアブノーマル
＞＞２１１
あーあ、やっちまいやがった

216：名無しのアブノーマル
＞＞211
大戦犯

217：名無しのアブノーマル
＞＞211
アブノーマル板の最初の注意事項スレくらい読んどけカス

218：名無しのアブノーマル
なに!?　なんなの???　神？　らしき人壊れるしワイ全方位針の筵(むしろ)やし

219：名無しのアブノーマル
＞＞218
残当

220：名無しのアブノーマル
＞＞218
当　た　り　前

221：名無しのアブノーマル
＞＞218
許されません　ギルティ　もっとギルティ

222：名無しのアブノーマル
はあああああ～……新参がよ、レスは構わんがほんと注意事項よめ

223：名無しのアブノーマル
説明しとくと神はアブノーマル板に限らず神様ウェブの管理者や基本いつでもどこでも巡回して見とる

監視やないで　見とるだけや　それが神の性癖やからな

２２４：名無しのアブノーマル
＞＞２２３
神の???　性癖?????

２２５：名無しのアブノーマル
マジで一片注意事項読んでから戻ってこい
まあ端的にいうとだな　神は俺たちが好き　正確には知性体全般が大好き

２２６：名無しのアブノーマル
俺たちが思考して、喋って、勉強してるの見るとものすっっっごい発情する

２２７：名無しのアブノーマル
しかも即堕ちレベルが半端ない　有志の検証の結果、神は2レスしか耐えられない　３レス目撃すると理性が崩壊する

２２８：名無しのアブノーマル
だから2レス埋まった時点でみんな黙ってたんや　それを２２４、お前はさぁ……

２２９：２２４
見てきました　本当にすみませんでした　千年ＲＯＭります

２３０：名無しのアブノーマル
長寿族だな　特有のキチガイ人生観やめてもろて

２３１：名無しのアブノーマル
むしろそんだけ生きられるくせに初歩の初歩踏まんのやめろや

２３２：２２４
　本当にすみません　無知シチュ好きなんです　相手も自分も無知無知にしたくて定期的に人生忘却してるんです……

２３３：名無しのアブノーマル
　草

２３４：名無しのアブノーマル
　スレチだけど草

２３５：名無しのアブノーマル
　反省したらもう今日は書くな　イッチのスレが乗っ取られる

２３６：名無しのアブノーマル
　あともう一つ注意しとくぞ　神が出てきたら絶対計算するなよ

２３７：名無しのアブノーマル
　１たす１は２ー！　レベルの計算でも１レスで堕ちるからな

２３８：名無しのアブノーマル
　ほんま神も業が深い……でも神だから文句も言えねえ……

２３９：名無しのアブノーマル
　むしろそんな神だからこそワイらという塵糞の存在を肯定されているようで助かる

２４０：名無しのアブノーマル
　神よりひどい奴はそうそういないからな　性癖の範囲的にも、感度的にも

２４１：名無しのアブノーマル
イッチは範囲はともかく感度は匹敵しそうなのがひどい

２４２：名無しのアブノーマル
そういやイッチは？　神に気い取られてレス消費しすぎた

２４３：名無しのアブノーマル
イッチ！　応答しろイッチ！　状況を書け！

２４４：フレッドリーツ
たすけて

２４５：名無しのアブノーマル
イッチ！

２４６：名無しのアブノーマル
どうしたイッチ!?

２４７：名無しのアブノーマル
とにかく書け！　書くんだ！　お前にはその義務がある！

２４８：名無しのアブノーマル
女帝様はどうなったんや！　実況しろイッチイイイイッ!!!

２４９：フレッドリーツ
【悲報】ヴァルガリエ、俺のこと大好きすぎる【人生オワタ】

２５０：名無しのアブノーマル
草

２５１：名無しのアブノーマル

草

２５２：名無しのアブノーマル
そんな分かりきったこと今更言うなや

２５３：名無しのアブノーマル
みんな知ってたで

２５４：名無しのアブノーマル
でも念のためなんで理解したか詳しく説明して♡

２５５：フレッドリーツ
あのさ、ヴァルガリエがずっと俺のこと喋ってるからさ、一旦止めたのよ
怖いけど一問一答したのよ　端的に思考を探るためにさ

２５６：名無しのアブノーマル
ほぉん

２５７：名無しのアブノーマル
ふむふむ

２５８：フレッドリーツ
以下がその内容や……
Ｑ：なんでそんなワイのこと貶すの？　嫌いなの？
Ａ：嫌いに決まっとろうが

２５９：フレッドリーツ
Ｑ：じゃあワイのこと大嫌いなんやね！　間違っても好きじゃないんやね！
Ａ：大嫌いじゃ　じゃから妾に一生尽くせ　忠誠を誓い、二度と離

れるな
　これは命令じゃぞ　お前様♡

２６０：フレッドリーツ
Ｑ：……ん？　今なんかおかしくなかった???　お前様って……
Ａ：何がおかしい　お前様♡　はお前様♡　じゃろうが
それよりはよぅ、妾に忠誠を誓え　さもなくば……分かっておろうな？

２６１：フレッドリーツ
Ｑ：いや、まあ、忠誠はいいんだけどさ……そのお前様ってのやめない？
Ａ：いやじゃ　妾はお前様♡　に敗北した　ならば否が応にも屈服したと示さねばならぬ
妾は妾に歯向かう愚か者ども全てにそうさせてきた　ならば妾がそうするのは当然じゃろうが
妾はそうすることしか知らぬ　じゃから勝者として受け入れよお前様♡

２６２：フレッドリーツ
Ｑ：えぇ……じゃあ勝者として命令するからやめてもろて……
Ａ：なぜお前様♡　の言うことを聞かねばならぬ　優勝劣敗が一度で決まるとでも思うておるのか？
妾は何度でも立ち向かうぞ　何度でもお前様♡　に挑む　お前様♡　に勝利するその時まで、この屈辱に甘んじようぞ

２６３：フレッドリーツ
Ｑ：じゃあ勝負します。降参します。はいワイの負けー、ヴァルガリエの勝ち！
Ａ：（無言でワイの頭を消し炭にするヴァルガリエ）

２６４：フレッドリーツ
Q：もう勝敗ついてるじゃん……ワイの負けじゃん……なんでやめてくれないの……
A：妾が納得できぬからじゃ　心胆から認めぬ限り、お前様♡　に勝ったとは思わん
もう良いじゃろう　そろそろ忠誠を誓え　そして永遠に妾の挑戦に応じるのじゃ
それがお主の義務じゃぞ　お前様♡
絶　対　に　許　さ　な　い　か　ら　の　う？　♡　♡　♡

２６５：フレッドリーツ
もう一事が万事こんな感じ……さっきから俺の肩に顎乗っけてスリスリしてくるしさ……
いくら人の心が分からないって言われるのに定評のある俺でも分かるよ……
ヴァルガリエさ、完全に俺に堕ちてんじゃん……

２６６：名無しのアブノーマル
草

２６７：名無しのアブノーマル
それは最初から分かってたこと

２６８：名無しのアブノーマル
むしろ襲いかかった時点で気づけ

２６９：名無しのアブノーマル
お前がやったんやぞイッチ　お前が責任取るしかないんじゃ

２７０：名無しのアブノーマル
ワイらは何も言わん　けど男見せろ、イッチ

271：フレッドリーツ
……

272：フレッドリーツ
逃げていい？

273：名無しのアブノーマル
ゆるさない

274：名無しのアブノーマル
ヒエッ

275：名無しのアブノーマル
ヤバイヨヤバイヨ……

276：名無しのアブノーマル
これ絶対女帝様だよね　やっぱりイッチの干渉波読まれてない？

277：名無しのアブノーマル
タイミングが神がかってる　絶対読まれてんだね

278：フレッドリーツ
たぶんよまれてない　でもにげようとおもったしゅんかんめっちゃにらまれた
へびににらまれたかえるのきぶん　こわい

279：名無しのアブノーマル
草

280：名無しのアブノーマル

呂律回ってませんね

２８１：名無しのアブノーマル
完全に掌握されてて草　これもうどっちが上か分かんねぇな

２８２：名無しのアブノーマル
受け入れろ　受け入れるんだイッチ　それだけで幸せになれる

２８３：フレッドリーツ
幸せってなに???

２８４：フレッドリーツ
好きな女を永遠に陵辱して泣かせること???

２８５：フレッドリーツ
違うんだよ……こんなはずじゃなかったんだよ……
ヴァルガリエが俺ごときに執着するはずないんだよ……何かの間違いだこんなの……

２８６：名無しのアブノーマル
解釈違い起こしてて草

２８７：名無しのアブノーマル
イッチ、ここにきて厄介オタクムーブ

２８８：名無しのアブノーマル
つーか好きって認めてて草　そのままゴールインしちまえ

２８９：名無しのアブノーマル
なんだかんだ幸せになれるやで　辛いこと、苦しいことも共に分かち合えばええんや

２９０：名無しのアブノーマル
そうそう　なるようになる　それが人生ってもんや

２９１：フレッドリーツ
……認めたくない　認められない

２９２：フレッドリーツ
ヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカは絶対強者　世界の覇王

２９３：フレッドリーツ
俺ごときに貶められる存在じゃない……それが絶対、真実なんだ……

２９４：フレッドリーツ
それなのに……それなのによぉ！　さっきから首とか耳とか舐めやがってよぉ！
誘ってんじゃねえぞこの口だけ女帝!!　ますます好きになっちまうじゃねーかよ!!!

２９５：フレッドリーツ
あぁ!?「ヤ、ヤるのか!?　い、良いじゃろう！　妾の全霊を尽くし、今度こそお主を屈服せしめよう！」だぁ!?
尻尾フリフリ腰ヘコヘコさせやがってよ!!!　期待してんの丸わかりなんだよ!!!

２９６：フレッドリーツ
あ〝ークッソ……イライラしてきた……ムラムラしてきた!!!

２９７：フレッドリーツ

もう止まんねえからなオイ!!!　今度は一週間で済むと思うなよ!!!

２９８：フレッドリーツ
一時間だ!!!!　前の一週間が天国に思えるくらい全力で激しくぶちまけてやる!!!!

２９９：フレッドリーツ
オイ!!!　今更逃げようとするんじゃねえ!!!　こっち来い!!!　あ゛ーもう可愛い子ぶりやがって……!!!
こんなん好きになるに決まってんだろ!!!　愛してなかったら手ぇ出してねぇんだよこっちはよ!!!

３００：フレッドリーツ
覚悟しろ!!!　分からせてやる!!!!!

・
・　・

４０１：フレッドリーツ
やっちまった……

４０２：名無しのアブノーマル
お　やっと正気に戻ったかイッチ

４０３：名無しのアブノーマル
良かったで　お前の脳内思考

４０４：名無しのアブノーマル
ほんま垂れ流し助かる　末期ガンだったのが治ったわ

405：名無しのアブノーマル
イッチの脳内垂れ流しは万病に効く

406：フレッドリーツ
マジでどうしよう……ヴァルガリエ動かんなった
めっちゃ幸せそうに舌だらんてしてる……えっちすぎる……

407：名無しのアブノーマル
草

408：名無しのアブノーマル
女帝様完全敗北してて草

409：名無しのアブノーマル
まーね　前の一週間実況がおままごとに見えるくらい激しかったもんね

410：名無しのアブノーマル
イッチの全力凄まじかったな……そりゃいくら女帝様でも勝てんわ

411：名無しのアブノーマル
この世に並ぶ者なし　天下無双の性豪イッチ

412：名無しのアブノーマル
正直めちゃくちゃ捗った　定期的に実況して♡

413：名無しのアブノーマル
つーかまた発情してるんじゃないかイッチ

414：フレッドリーツ

＞＞４１３
流石にそれはない　いやウソやった発情はしとる
でも性癖は一回満足させたし、なんなら今満足したからな
この状態じゃ流石に理性が勝つ　何よりこんなんなったヴァルガリエに追撃すんのもな……
……このまま放置はありえない　俺のアレまみれじゃ可哀相だ
少し後始末してくる　適当に雑談していてくれ

４１５：名無しのアブノーマル
おう、いてらー

４１６：名無しのアブノーマル
イッチやりすぎて紳士になってる

４１７：名無しのアブノーマル
いわゆる賢者タイム　でもずっと待ち望んでたんやろなぁ

４１８：名無しのアブノーマル
たぶん死ぬ時もこんな感じやったんやろな　これが本来のイッチ

４１９：名無しのアブノーマル
普段のイッチもそうやけど親衛隊団長とか見るに根はかなり常識人そうよな
それゆえの悲劇とも言えるが

４２０：名無しのアブノーマル
性癖以外も狂っていればこんなに苦しまなかった説

４２１：名無しのアブノーマル
まあ、過ぎたことはええやろ　割れ鍋に綴じ蓋、は女帝様に失礼やな

相性ぴったりの二人になったんや　これからは幸せに生きろ

４２２：名無しのアブノーマル
せやせや　その方がワイらも人生に希望を持てる

４２３：名無しのアブノーマル
たとえイッチレベルに救えなくても未来はある

４２４：名無しのアブノーマル
そう信じて、この糞のような性癖と共に生きていけるからな

４２５：名無しのアブノーマル
ありがとうイッチ　さようならイッチ　そして全てのイッチにおめでとう

４２６：名無しのアブノーマル
イイハナシダッタナー

４２７：フレッドリーツ
勝手に終わらすなや
とりあえずヴァルガリエ寝かせてきた　スヤスヤ無防備でグラっときたが我慢した

４２８：名無しのアブノーマル
おー、おかえりイッチ

４２９：名無しのアブノーマル
そのまま添い寝してもろて

４３０：名無しのアブノーマル
二人のラブラブ画像でスレを閉じてもええねんで

４３１：名無しのアブノーマル
　たくさん世話になったからな　もうワイらも見送る準備できてるで

４３２：名無しのアブノーマル
　幸せにな　イッチ

４３３：フレッドリーツ
　いや
　逃げる

４３４：名無しのアブノーマル
　は？

４３５：名無しのアブノーマル
　は???

４３６：名無しのアブノーマル
　おいふざけんじゃねえぞ

４３７：名無しのアブノーマル
　ここにきて冗談とか通じないから

４３８：フレッドリーツ
　チャンスは今しかないんや
　ワイから開放されるチャンスは今しかない　ヴァルガリエが寝てる内に魂ごと消滅したる

４３９：名無しのアブノーマル
は?????

４４０：名無しのアブノーマル
何いってんのこいつ

４４１：名無しのアブノーマル
おい待てイッチ、考え直せ

４４２：名無しのアブノーマル
今を受け入れれば幸せが待ってんねんぞ

４４３：フレッドリーツ
いいや考えた　超並列思考で軽く千年考えた
結果はやっぱり同じだ　俺と結婚してもヴァルガリエは幸せにならない
俺の性欲を受け止めきれないと判断した　絶対に壊れる　確信できる
それなら今のうちに消えて俺以外の男と真の幸せを手に入れるべきだ
それが俺の結論だ　これは完成された論理である

４４４：名無しのアブノーマル
何も完成してねえんだよオイ!!!

４４５：名無しのアブノーマル
ガバガバ論理やめろ!!!　お前消えたら女帝様泣くだろ!!!

４４６：名無しのアブノーマル
絶対泣く　泣きじゃくる　１００％後悔する

447：名無しのアブノーマル
下手すりゃ一生引きずるんだよ!!!　考え直せフレッドリーツ!!!

448：フレッドリーツ
俺の結論は変わらない　彼女の幸福に、俺はいらない
もちろん、未練がましい願望はあるが……よし、切り替えた
これから死ぬで　ワイの死に様看取ってくれや
よっしゃ逝くぜ!!!　ＦＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯ→
→→
【裸で堂々と窓からダイブする男の画像】

449：名無しのアブノーマル
あ、こいつ!!!

450：名無しのアブノーマル
やりやがった!!!

451：名無しのアブノーマル
クッソ、思考の切り替えが速すぎる!!!　説得が追いつかん!!!

452：名無しのアブノーマル
なまじ頭が良いから融通きかねえ!!!　誰だこいつに千年紀最高の頭脳与えたやつ!!!

453：神
私です

454：名無しのアブノーマル
お前かい!!!!

455：名無しのアブノーマル

もう許さへんぞ!!!!!

456：名無しのアブノーマル
1たす1は2いいいいいいいいいいい!!!!!!

457：神
あっへえええええええええええええええええええええええええええええ
えええあびゃあああああああああああああああああああお!?へ
えええええええええええええええええええええええええええええ!!!!!!!!!!!!!!!!!

458：名無しのアブノーマル
クッソこんな時に神のやつ!!!

459：名無しのアブノーマル
性癖満たしにきやがって!!!　ほんま使えんわこの造物主!!!

460：名無しのアブノーマル
ぺっぺっぺっ!!!　1たす1は2!!!　2たす2は4!!!　4たす4は8!!!!!

461：名無しのアブノーマル
一生アヘってろこの変態神が!!!!!

462：神
もうらめえええええええええええええええええええええええええええ
えええええええええ子供たち頭良しゅぎなのおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおお!!!!!!!!!!!!!!!!!

463：フレッドリーツ
やべえ　裸で公衆の面前走るの快感
みんなが俺を見てる　俺を指差して悲鳴あげてる

なにこれ新境地　一回も試さなかったのが悔やまれるな
【すごくイイ笑顔で股間をブルンブルン回して超速ダッシュする男の画像】

４６４：名無しのアブノーマル
あ!?　やべえ！　イッチのこと忘れてた！

４６５：名無しのアブノーマル
こいつこんな時に新しい性癖に目覚めてやがる！

４６６：名無しのアブノーマル
やめろ性癖モンスター！　これ以上暴走するな！

４６７：名無しのアブノーマル
引き返せば幸せが待ってるんだ！　俺たちの希望を潰さないでくれ！

４６８：名無しのアブノーマル
イッチ、頼むっ！　イッチ、イイッッッチイイイイイイイイイイイイ!!!

４６９：フレッドリーツ
あ、やばい　ヴァルガリエ起きた
捕捉されてる　すごい勢いで追っかけてきた

４７０：名無しのアブノーマル
女帝様!!!

４７１：名無しのアブノーマル
女帝様きちゃあああああああ!!!

４７２：名無しのアブノーマル
頑張れ女帝様!!!

４７３：名無しのアブノーマル
イッチを捕まえてくれ！　絶対逃すな!!!

４７４：フレッドリーツ
悲しいよ、ヴァルガリエ……俺に堕ちてしまうなんてな……
だが甘い　俺に考える時間を与えたのがお前の過ちだ
ポイッ
【想像を絶する形相で迫りくる女帝に大量の写真をばらまく男の画像】

４７５：フレッドリーツ
フッ　堕ちたな
【幼少期の男、学業に励む男、卒業式の男などの画像を集め失速する女帝の画像】

４７６：名無しのアブノーマル
女帝様あああああああ!?

４７７：名無しのアブノーマル
そんなぁ!?

４７８：名無しのアブノーマル
今コレクターやってる場合じゃないんですよ女帝様ぁ!!!

４７９：名無しのアブノーマル
イッチ捕まえて!!!　早く、早く!!!

４８０：フレッドリーツ

フハハハハハハ！　もう遅い！　俺の地獄への直行便は完成した!!!

４８１：フレッドリーツ
じゃあなお前ら！　地獄で会おうぜぇ!!!　ヒャッホウ!!!

【明らかに致死的な幾何学的魔法陣に自分から突っ込む男の画像】

４８２：名無しのアブノーマル
ああ!?

４８３：名無しのアブノーマル
イッチィ!?

４８４：名無しのアブノーマル
イッチ!?　イイッチイイイイイイイイイイイイイイ!!??!?

４８５：名無しのアブノーマル
オワタ

・　・　・

９７６：名無しのアブノーマル
こんな形で俺たちの希望が途切れるとはな……

９７７：名無しのアブノーマル
女帝様の様子どう？

９７８：名無しのアブノーマル
『煉獄郷アルス・ガイア』、かつてない規模の女帝勅令で大混乱

９７９：名無しのアブノーマル
　フレッドリーツ・レアライヒの指名手配額、国家予算を超える

９８０：名無しのアブノーマル
『何としてでも見つけ出して捕らえよ!!!』って全世界規模で放送してる

９８１：名無しのアブノーマル
　女帝様めっちゃ怒ってる……はっきり分かんだね……

９８２：名無しのアブノーマル
　そりゃ目の前で愛する男が魂ごと塵になったらな……

９８３：名無しのアブノーマル
　それでも一縷の望みを賭けてる　壮絶過ぎる不退転の意志

９８４：名無しのアブノーマル
　よく見ると震えてる　あまりにも悲壮

９８５：名無しのアブノーマル
　どうしてこんなことになったんだ……

９８６：名無しのアブノーマル
　全部あいつが悪い　イッチが悪い

９８７：名無しのアブノーマル
　フレッドリーツ・レアライヒェ……

９８８：名無しのアブノーマル
　あいつは天才過ぎた　頭の良いバカ過ぎた

９８９：名無しのアブノーマル
　その頭脳をもう少し自分のために使ってればな……今となってはもう無意味な話だが

９９０：名無しのアブノーマル
　自分のためには使ってたんよ　ただ自分が大嫌いなだけで

９９１：名無しのアブノーマル
　自分の幸福を信じられなかった……それがフレッドリーツ・レアライヒ最大の悲劇

９９２：名無しのアブノーマル
　あいつの能力ならいくらでもどうにかできただろうにな

９９３：名無しのアブノーマル
　もういい　やめろ　悲しくなるだけだ

９９４：名無しのアブノーマル
　このスレも終わるな……

９９５：名無しのアブノーマル
　フレッドリーツを笑ってたあの頃が懐かしいよ

９９６：名無しのアブノーマル
　もう戻らないんだな……

９９７：名無しのアブノーマル
　ああ、終わる……終わってしまう……

９９８：名無しのアブノーマル

じゃあなお前ら　苦しいだろうが、希望を持って生きろ

９９９：名無しのアブノーマル
もう希望も尽き果てたよ……

１０００：フレッドリーツ
オイ……なんで……俺が、生きてる……？

１００１：名無しのアブノーマル
このスレッドは１０００を超えました。

もう書けないので、新しいスレッドを立ててください。。。

【俺はどうすれば】何も悪いことしてないワイをお前らが助けるスレ【報われるんだ？】

1：フレッドリーツ
確かに魂ごと消滅したはずなのに生きてる……
どうして……

2：名無しのアブノーマル
あ、そう

3：名無しのアブノーマル
ふーん

4：名無しのアブノーマル
はいはい終了終了

5：フレッドリーツ
終わらないんだよ……さっきから死のうとしても生き返るんだよ……
マジでどうなってんだ……助けてくれ……

6：名無しのアブノーマル
なんで？

7：名無しのアブノーマル
お前みたいなゴミクズ助ける価値ないよ

8：名無しのアブノーマル
生きてるんでしょ？　じゃあいいじゃんそれで

９：名無しのアブノーマル
　さっさと自首して全部償ってこい

１０：フレッドリーツ
　なんか冷たすぎない???
　前はあんなに暖かく迎え入れてくれたじゃないか

１１：名無しのアブノーマル
　前はな

１２：名無しのアブノーマル
　前は前、今は今

１３：名無しのアブノーマル
　今はもうお前の味方いないよ

１４：名無しのアブノーマル
　イッチさぁ、スレ立てる前に何やったか言ってみ？　お？

１５：フレッドリーツ
　ヴァルガリエの幸せのために自刃した

１６：名無しのアブノーマル
　はぁ……

１７：名無しのアブノーマル
　これだよ

１８：名無しのアブノーマル
　もう駄目　無理　イッチにはついていけない

19：名無しのアブノーマル
助言も無意味やろ？　じゃあええよもう　好きにしたらええ

20：名無しのアブノーマル
永久に独りで踊ってもろて

21：フレッドリーツ
なんやねんさっきから　ワイは正しいことしただけやぞ
その方がヴァルガリエも幸せなんじゃ　ワイの頭脳がそう叩き出しとる

22：名無しのアブノーマル
いくら頭の性能良くても前提条件間違えたら答えも間違うんだよ

23：名無しのアブノーマル
イッチもうちょっと自分のこと……いいわ何言っても無駄やろし

24：名無しのアブノーマル
俺たちは悟ったんだ　イッチとは相容れないって

25：名無しのアブノーマル
そういうこと　もう反応しないから独りで勝手にスレ埋めれば？

26：フレッドリーツ
原因分かったわ
ワイ、【覇界聖王】に魂縛られてる

27：名無しのアブノーマル
ガタッ

28：名無しのアブノーマル

ガタッ

２９：名無しのアブノーマル
ガタッ

３０：名無しのアブノーマル
おいイッチ何やってんだ！　さっさと実況しろ！

３１：名無しのアブノーマル
お前にはその義務がある　俺たちには権利がある！

３２：名無しのアブノーマル
はよ！　はよはよはよはよはよはよはよはよ！

３３：名無しのアブノーマル
バンバンバンバンバンバンバンバン
バン　　バンバンバン
バン　（⊂、・ω・）　バンバン
|／|ミつ／???／
＼／＿＿／??

３４：名無しのアブノーマル
；，　　；
＼，（　（　；:;）
（；:;（:;:;（　）／
（;.（（　　，:;）），
（-・ω（（:;，（　，:;:;），
（　つ　つ／???／
??＼／＿＿／??

３５：フレッドリーツ

すき　えうらりあすき　だいすき　あいしてる

３６：名無しのアブノーマル
んん？

３７：名無しのアブノーマル
あ？

３８：名無しのアブノーマル
イッチ？

３９：フレッドリーツ
えうらりあ　すき　すきすき　だいすき　だきしめて

４０：名無しのアブノーマル
何だ急に

４１：名無しのアブノーマル
こいつまさか……壊れたふりか!?

４２：名無しのアブノーマル
ふざけんなよイッチ！　さっきまでの態度は謝ります!!!

４３：名無しのアブノーマル
冷たくしてスンマセンでした!!!　お慈悲を!!!　お慈悲を!!!

４４：名無しのアブノーマル
イジメるつもりじゃなかったんです!!!　ただちょっと反省してほしかっただけで!!!

４５：名無しのアブノーマル

やめて!!!　こんなところで壊れないで!!!　お願いイッチお願い!!!

４６：フレッドリーツ
あいしてる　えうらりあ　にどと　にげな
よし　解除した　なんだこのミーム汚染トラップ

４７：フレッドリーツ
おう、お前ら　ワイはなんともないで
ただちょっと思考の中枢ぶっ壊されてな　再構築に時間食ってた

４８：名無しのアブノーマル
イッチ！

４９：名無しのアブノーマル
イッチ!!!

５０：名無しのアブノーマル
さらっと致命傷食らってるのに普通に治せて草のイッチ！

５１：名無しのアブノーマル
何が起こったんや!?

５２：フレッドリーツ
分からん　何らかのトリガーを引いたのは間違いないが
【覇界聖王】がこんな罠仕掛けるか？　あの方は清濁併せ呑むがこんな真似は

５３：フレッドリーツ
すき　えうらりあすき　ひざまくらして　なでなでして

５４：名無しのアブノーマル

イッチィ!?

５５：名無しのアブノーマル
　また壊れやがった！

５６：名無しのアブノーマル
　ほんま肝心な時に使えんわこいつ！

５７：フレッドリーツ
　えうらりあ　すき　すき　す　ああもう鬱陶しいな
　分かった【覇界聖王】だわ　そう呼ぶとミーム汚染トラップが発動する

５８：フレッドリーツ
　えうらり　よし　ちょっと脳内バチッとして構造変えたわ
　これでもう汚染されないはず　されても都度対処すりゃ問題ないやろ

５９：名無しのアブノーマル
　こいつミーム汚染なんていうほぼ対抗できん手段をあっさりと無効化しやがった

６０：名無しのアブノーマル
　見ます→来ます→終わり　みたいな認識した瞬間終了系だからなほとんどのミーム汚染

６１：名無しのアブノーマル
　なんで治せるんだよ……俺なんか五百年も前に食らったブラクラミームのせいでずっと周りが猫にしか見えんぞ……

６２：名無しのアブノーマル

＞＞６１
それ、イッチが解除法編み出してるよ　近場の病院行ってもろて

６３：名無しのアブノーマル
＞＞６２
十字架のせいで近づけない

６４：名無しのアブノーマル
＞＞６３
じゃあ諦めて♡

６５：フレッドリーツ
まさか【覇界聖王】がこんな罠を仕掛けるとは想像もしとらんかったで
すき　ええうら　チッ、完全に対処できんな　しゃーない　便宜上エウラリアって呼ぶわ
これならたぶん引っかからん　だって汚染中に呼んでるしな

６６：名無しのアブノーマル
尊称ダメ　呼び捨てＯＫ　あっ、ふーん

６７：名無しのアブノーマル
どこかで見たような展開ですね

６８：名無しのアブノーマル
聖王様もか……？　聖王様もなのか……？

６９：名無しのアブノーマル
分からん……分からんが俺は神に祈ってる……

７０：名無しのアブノーマル

どうか聖王様だけは……女帝様はもうあんな七日七晩ラブラブフォックス♡　見せつけられたから納得できたけど……

７１：名無しのアブノーマル
というかイッチなんで聖王様の仕業って気づけたん？

７２：フレッドリーツ
＞＞７１
よくぞ聞いてくれた
ワイは謎の空間で蘇った　とりあえず死んだ
そしたらまた謎の空間で蘇った　とりあえず死に続ける
それをずっと隣で見てるんよ
ニッコニコのエウラリアがさ

７３：名無しのアブノーマル
ファッ!?

７４：名無しのアブノーマル
クワッ!?

７５：名無しのアブノーマル
こっわっっっ

７６：名無しのアブノーマル
なにそれホラー???

７７：名無しのアブノーマル
聖王様……？　どうしちゃったんですか聖王様!!!

７８：名無しのアブノーマル
俺らの知る聖王様とはあまりにもかけ離れた行動

７９：名無しのアブノーマル
　一体何が起こってるんだ……？

８０：フレッドリーツ
　ワイがミーム汚染されて謎セリフ垂れ流してる間顔赤くしていやんいやんしてた
　どゆこと???　ＷＨＡＴ???　誰か俺に現状を説明してくれ

８１：名無しのアブノーマル
　＼顔赤くしていやんいやん
　ここだけ想像するとクッソカワイイの草

８２：名無しのアブノーマル
　あの聖王様が???　寝たきりの息子が立派に立ち上がったわ

８３：名無しのアブノーマル
　でもその対象はさっきの壊れたイッチっぽい？

８４：名無しのアブノーマル
　よう分からん……いやもうなんかある程度は察してるんだけどさ……

８５：名無しのアブノーマル
　行動が奇怪すぎる　聖王様に何が……？

８６：フレッドリーツ
　自殺すんの一旦やめて止まってたらエウラリア近づいてきた

８７：フレッドリーツ
　ていうか近い近い近い　もう顔ひっついてる　なんなら目ン玉

ひっつきそう

８８：フレッドリーツ
　すっげー笑顔でこっち見てる　ワイちらりとも視線合わせてないのに
　なにこれ？　なにこれ？　なにこれ???

８９：フレッドリーツ
　そのままスッと離れたと思ったらワイの頭抱き寄せていい子いい子し始めたわ
　ほんまなんなん???　誰か説明してお願い

９０：名無しのアブノーマル
　すまんがイッチ、ワイらも分からん

９１：名無しのアブノーマル
　行動理由の半分くらいは言えるかもだけどもう半分が皆目検討もつかん

９２：名無しのアブノーマル
　とりあえずイッチ　対話や　対話を試みるんや
　状況を打開するにはそれしかない

９３：名無しのアブノーマル
　せやな　幸い話は通じそう……通じそう？　やし　行ったれイッチ

９４：フレッドリーツ
　そうするしかないか……魂縛られてる以上自殺という逃げも使えんしな
　よし、切り替えた　いくぞ!!!

９５：フレッドリーツ
　なんかエウラリアってよんだら「はい♡　旦那様♡」ってかえってきたんだが

９６：名無しのアブノーマル
　草

９７：名無しのアブノーマル
　草

９８：名無しのアブノーマル
　嘘だあああああああああああああああ聖王様あああああああああああああああああああああああああああああああああ!?!?

　あああ

９９：名無しのアブノーマル
　あーこれは落ちてる　落ちてますね間違いない

１００：名無しのアブノーマル
　まあ聖王様に関しては最後が最後だったし

１０１：名無しのアブノーマル
　やってたよね　ウエディングドレス風ランジェリー着せて婚姻の儀式する場所で　しかも聖王様から

１０２：名無しのアブノーマル
　聖王様クソ真面目だからなぁ……もう結婚したと思ってると見て間違いないでしょ

１０３：名無しのアブノーマル
悲しいけど現実　これが現実
イッチはまんじりともせず受け入れよ

１０４：フレッドリーツ
どうしてこうなったんだ……

１０５：名無しのアブノーマル
イッチまた解釈違い起こしてそうで草

１０６：名無しのアブノーマル
やってることがもう勘違い物の主人公なんよ

１０７：名無しのアブノーマル
行いの報いは残当なんだけどイッチの狙いからことごとく外れてる

１０８：名無しのアブノーマル
イッチ「陵辱したった！　絶対嫌われてる！　でも尊くてすごいから立ち直れる！　ワイなんかハエかカス！」
現実「女帝様メス堕ちしたぞ　聖王様結婚した気満々だぞ」
イッチ「なんで????」
こんな感じ？

１０９：名無しのアブノーマル
イッチのセリフ後半に疑問を感じるがおおむねそうだと思う

１１０：名無しのアブノーマル
いやまあ常識的に考えてね？　イッチの方が正しいんだけどね？

１１１：名無しのアブノーマル

レイプして惚れられるとか普通ありえんからな

112：名無しのアブノーマル
ただ女帝様聖王様は普通じゃないし　なんならイッチも普通じゃない

113：名無しのアブノーマル
加えてイッチの下準備が入念すぎる　千年以上一緒ってそりゃ聖王様も落ちるよ

114：名無しのアブノーマル
性癖を満たすための前行動が仇になってるな……

115：名無しのアブノーマル
まあ、あれだ　正直女帝様に続き聖王様もとかめちゃ許せんが
三界の主に匹敵する男が今後現れるかというとだな

116：名無しのアブノーマル
それは分かる　女帝様聖王様の気持ちは分からんけど、やっぱ恋愛を楽しんでほしいよね

117：名無しのアブノーマル
愛情は特権じゃないんだ　この気持ちを一度抱けばきっと分かってくれる

118：名無しのアブノーマル
結果よければ全て良しと言うしね？　この際過程には目をつぶってもろて

119：名無しのアブノーマル
過程……過程な

１２０：名無しのアブノーマル
（瞬間、スレ民の脳裏を過ぎるフレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ）

１２１：名無しのアブノーマル
　ほんまにこんな鬼畜外道でええんか???

１２２：名無しのアブノーマル
　いや、まあ、うん……ダメだわ

１２３：名無しのアブノーマル
　許せないよねやっぱり

１２４：名無しのアブノーマル
　でも他ならぬ女帝様聖王様が許してるっぽいし……ぐぎぎ、なんじゃこの気持ちは……

１２５：名無しのアブノーマル
　究極の二律背反……気持ちいい……

１２６：名無しのアブノーマル
　これだけでオカズになる　やっぱ男は生き様よね

１２７：名無しのアブノーマル
　とりあえずイッチには実況してもろて　俺らは好き勝手外野から見ようや

１２８：名無しのアブノーマル
　安全であることの愉悦……！　圧倒的美味さの美酒……！

129：名無しのアブノーマル
どうせみんな楽しんでる　はっきり分かんだね

130：フレッドリーツ
エウラリアの旦那様発言で大分ダメージ受けたが回復した
今膝枕で頭ナデナデされてるが対話を続行する

131：名無しのアブノーマル
草

132：名無しのアブノーマル
冷静に事実を受け止めてて草

133：名無しのアブノーマル
なんかもう聖王様に膝枕されるキリッとしたイッチ想像するだけでダメなんよ

134：名無しのアブノーマル
キメ顔で最高に恥ずかしいことしてそう

135：名無しのアブノーマル
前スレの露出癖に目覚めたイッチそんな感じだったね

136：フレッドリーツ
定期的にワイの話題で盛り上がるのほんまやめろや
とりあえずの一問一答、Q&Aイクゾー！

137：フレッドリーツ
Q：旦那様ってなに？
A：ああ、お忘れなのですか旦那様？♡　あのように熱く激しく誓いあったではありませんか♡

１３８：フレッドリーツ
Ｑ：ごめん、あれプレイなんだ
Ａ：ぷれい、でございますか？　でも結婚したという事実は変わりませんよね？♡

１３９：フレッドリーツ
Ｑ：はっきり言うわ　ワイは結婚したフリを楽しんだだけで結婚する気全然なかったよ　今もそう
Ａ：それが何か???　もう結婚したのですからそのような事実は些細ではありませんか♡♡♡

１４０：フレッドリーツ
Ｑ：大丈夫？　頭おかしくなってない？　ワイの言葉理解してる？
Ａ：ちゃんと理解しておりますよ　旦那様♡　にそのつもりがなかったのは本当に残念ですが
私はちゃあんとそのつもりでしたので、責任取ってくださるのですよね？♡♡♡

１４１：フレッドリーツ
Ｑ：ごめん　ほんとごめん　取る気ないんだわ
Ａ：あらあらまあまあ　そうでございますか
それが何か？

１４２：フレッドリーツ
Ｑ：え？
Ａ：この際旦那様♡　のお心などどうでもいいのです　私は決めました　自分に正直になろうと
だって旦那様は、あんなにも好き勝手に私を手籠めにしたのですから……♡

私がそうしても、何の問題もないですよね？　旦那様？♡♡♡

１４３：フレッドリーツ
なにこれ怖い　超怖い　たすけて

１４４：名無しのアブノーマル
聖王様……強い

１４５：名無しのアブノーマル
あのイッチが押されてる

１４６：名無しのアブノーマル
ヤバい　なんていうかもう、聖王様が色々ヤバい

１４７：名無しのアブノーマル
反転してるよ……聖王様の優しくて慈悲深いところが全部悪い方向に行っちゃってるよ……

１４８：名無しのアブノーマル
落ちた？　病んだ？　いいや、これはもうそんな言葉では言い表せない

１４９：名無しのアブノーマル
まさか聖王様……いやまさかな……

１５０：フレッドリーツ
とにかくヤバい　何がヤバいって逃げ切れない感が半端ない
この謎空間どこだか分かったわ『聖王の檻』だ　しかもたぶん最下層
エルフワイですら数えるくらいしか見てないエウラリアの絶対懲罰空間だわ

１５１：名無しのアブノーマル
はえ＾～

１５２：名無しのアブノーマル
『聖王の檻』って何???

１５３：名無しのアブノーマル
正直ピンとこない

１５４：名無しのアブノーマル
ちょっと待て、たしか流星海嘯建国録に記述があったはず……見つけた
『聖王の檻』
慈愛の化身たる【覇界聖王】その御身ですら更生できない超極悪犯罪者を閉じ込める檻
光の鎖を召喚し対象を拘束　後に光の棺にて完全確保　別の空間へ転送する
空間の詳細は不明だが、目撃した高位聖職者の談によれば「内部から外側への干渉を絶対不可能にする権能を有した完全隔離された世界」を作り出しているらしい
更に『聖王の檻』には階層があり、下へ降るほどその権能は強くなるのだとか……
記述はここまでやった

１５５：名無しのアブノーマル
ナイスゥ！
そんな力聖王様持ってたんすね～

１５６：名無しのアブノーマル
たぶん滅多に使わないんだろうな　聖王様なら大抵の犯罪者更正

させられるし

１５７：名無しのアブノーマル
　にしても『星の加護』より無名って相当だぞ　使用間隔に絶対百年以上の開きがある

１５８：名無しのアブノーマル
　そんな空間の最下層にイッチいんの？　これもう無理ゾ

１５９：フレッドリーツ
　正直エルフワイは目撃はしてるから性能は知ってる
結論、無理　脱出不可能　エウラリア自身にどうにかさせるしか方法がない

１６０：名無しのアブノーマル
　ふむふむ、なるほど

１６１：名無しのアブノーマル
　それで肝心の聖王様は？

１６２：名無しのアブノーマル
　イッチと結婚しました♡♡♡　って何が何でも貫き通そうとしてる

１６３：名無しのアブノーマル
　そしてイッチは責任取る気なし、と……

１６４：名無しのアブノーマル
　詰んでますね

１６５：名無しのアブノーマル

まずイッチをどうにかしなきゃ聖王様もどうにもならないんじゃ？

１６６：名無しのアブノーマル
とりあえずイッチはまず聖王様とのご婚姻を認めてもろて……

１６７：名無しのアブノーマル
おっ、待てぃ!!!　イッチには女帝様の運命の相手という大役があるんだゾ!!!

１６８：名無しのアブノーマル
いくら聖王様でもそこは譲っちゃダメ　真実を伝えてイッチ解放に動いてもらうべき

１６９：名無しのアブノーマル
あァ？　なんだァ、てめェら……

１７０：名無しのアブノーマル
重要なのは聖王様の幸せでしょ　ずっと頑張ってきたんだよ　報われて然るべき

１７１：名無しのアブノーマル
そうだそうだ！　聖王様が結婚したって言うならイッチはおとなしく良き夫になればいいんだ！

１７２：名無しのアブノーマル
それが義務　間違いない、これは運命なんだね

１７３：名無しのアブノーマル
お？　やんのか？　女帝様がかわいそうだとは思わんのかお前ら???

174：名無しのアブノーマル
人の心がないんか、この狂信者どもが

175：名無しのアブノーマル
こっちのセリフだわ愛玩奴隷

176：名無しのアブノーマル
女帝様の数々の蛮行を見てみろ　ここは清く正しい聖王様にイッチは譲るべき

177：名無しのアブノーマル
たとえイッチがクソカス鬼畜ゴミ外道でもそれで聖王様が幸せなら報われなきゃならないんだ!!!

178：名無しのアブノーマル
いいじゃん女帝様　一つくらい譲っても　お前らみたいな愛玩奴隷がたくさんいるでしょ???

179：名無しのアブノーマル
ふざけんな　とっくに愛玩奴隷解放されたわ

180：名無しのアブノーマル
俺たちは尊厳破壊されて満足してたのに……女帝様は愛玩奴隷全員を捨てたんだぞ！

181：名無しのアブノーマル
絶対イッチのため　間違いない　こんな一途な女帝様が負けるなんてありえない

182：名無しのアブノーマル

イッチは女帝様のもの　わきまえろ聖王様

183：名無しのアブノーマル
聖王様を侮辱したな???　戦争だよ!!!

184：名無しのアブノーマル
表出ろゴラァ!!!　聖職者舐めんじゃねぇぞ!!!

185：名無しのアブノーマル
俺たちは拳で語るのが一番得意なんだよ!!!　聖典にもそう書かれてある!!!

186：名無しのアブノーマル
だから何だってんだよ!!!　こちとら女帝様のために日夜ずっと鍛えてんだよ!!!

187：名無しのアブノーマル
いつか必ず役に立つ、そんな思いで血反吐吐きまくった俺らが生臭坊主どもに負けるわけねえだろ!!!

188：名無しのアブノーマル
上等だオラァ!!!　かかってきやがれ!!!　女帝様に敗北の二文字無し!!!

189：名無しのアブノーマル
おうよ受けて立ってやる!!!　聖王様の名の下に天誅をお見舞いしてやらぁ!!!

190：フレッドリーツ
なんだこいつら……俺を無視して勝手に争ってる……
そんなことどうでもいいんだよ……俺を助けろよ……

１９１：名無しのアブノーマル
うるせぇイッチ!!!

１９２：名無しのアブノーマル
引っ込んでろイッチ!!!

１９３：名無しのアブノーマル
責任の一つも取らねぇクズが!!!　玉無し!!!　いや玉だけ男!!!

１９４：名無しのアブノーマル
お前がはっきりしたら全部解決するんだよ!!!　どっち選ぶんだよ!!??

１９５：フレッドリーツ
（どっちも）いやです

１９６：名無しのアブノーマル
あァ!!??

１９７：名無しのアブノーマル
舐めとんのかゴルァ!!!

１９８：名無しのアブノーマル
ああ、いけませんね……皆様、どうか心をお鎮めください　争ってはなりません

１９９：名無しのアブノーマル
んあ!?

２００：名無しのアブノーマル

ファッ!?

２０１：名無しのアブノーマル
誰だ!?

２０２：名無しのアブノーマル
聞かれたからには名乗りましょう　私の名はエウラリア・カリエントゥス

２０３：名無しのアブノーマル
流星海嘯デモエス・レウス・ラピスを治める王です

２０４：名無しのアブノーマル
!?

２０５：名無しのアブノーマル
!!??!?

２０６：名無しのアブノーマル
!?

２０７：エウラリア・カリエントゥス
ええと……こうでしょうか

２０８：エウラリア・カリエントゥス
何やら旦那様がどこかへ干渉なさっていたので、痕跡を辿りここへ参りました

２０９：エウラリア・カリエントゥス
双方、矛を収めなさい　争いは何も生まないのですよ

210：名無しのアブノーマル
（。д。）

211：名無しのアブノーマル
。。（ д ）

212：名無しのアブノーマル
（。。д。）

213：名無しのアブノーマル
（。д。）

214：フレッドリーツ
うそでしょ

【俺はどうすれば】何も悪いことしてないワイをお前らが助けるスレ【報われるんだ?】その2

215：フレッドリーツ
まってまってまって

216：フレッドリーツ
きいてないきいてない

217：フレッドリーツ
エウラリア???　エウラリアさん???

218：エウラリア・カリエントゥス
はい♡　何でしょう、旦那様♡

219：フレッドリーツ
（白目）

220：名無しのアブノーマル
どういう……ことだ……

221：名無しのアブノーマル
誰か説明しろォ！　間に合わなくなっても知らんぞ!!!

222：名無しのアブノーマル
え???　まさか???　本物???

223：名無しのアブノーマル
※神様ウェブで偽造捏造は不可能です

２２４：名無しのアブノーマル
つまりコテハンついてる時点でね……って受け入れられるかぁ!!!

２２５：名無しのアブノーマル
現実か!?　また現実なのか!?　いや……現実か!?

２２６：名無しのアブノーマル
聖王様……ウソですよね……ウソだって言って……ウーン（投身）

２２７：エウラリア・カリエントゥス
あらあら、いけませんよ。
気軽に命を捨ててはなりません。貴方もまた尊い命なのですから。
えいっ

２２８：名無しのアブノーマル
投身したのに生き返ったんだが……

２２９：名無しのアブノーマル
えいっ（遠隔特定蘇生術）

２３０：名無しのアブノーマル
可愛い掛け声に反してやってることがえぐすぎる

２３１：名無しのアブノーマル
こんなん聖王様にしかできないよ……

２３２：名無しのアブノーマル
じゃあ認めるしか無いの……？　こんな、こんな……辛い事実を……

２３３：名無しのアブノーマル

【悲報】聖王様、アブノーマル板の住民になる【変態性癖持ち確定】

２３４：名無しのアブノーマル
やぁだあああああああああああ!!!

２３５：名無しのアブノーマル
やめてぇえええええええええ!!!

２３６：名無しのアブノーマル
いやぁあああああああああああ!!!

２３７：フレッドリーツ
阿鼻叫喚で草　ワイはもう切り替えたで

２３８：名無しのアブノーマル
イッチィ!!!

２３９：名無しのアブノーマル
フレッドリーツゥ!!!

２４０：名無しのアブノーマル
お前のせいだろ!!!　お前のせいだろ絶対!!!

２４１：名無しのアブノーマル
言え!!!　何やらかした!!!　聖王様に何やったんだてめぇ!!!

２４２：フレッドリーツ
心当たりがない　正直野外でフォックスした以外そんな歪めるようなことしてない

２４３：名無しのアブノーマル

それじゃねえかよぉ!!!

２４４：名無しのアブノーマル
露出癖目覚めさせちゃったんじゃねえかよぉ!!!

２４５：名無しのアブノーマル
ホンマイッチさぁ……イッチさぁ!!!

２４６：名無しのアブノーマル
俺たちの聖王様を返してくれよ!!!

２４７：エウラリア・カリエントゥス
皆様、どうか落ち着いてください。何も全て旦那様が悪いわけではないのです。

２４８：エウラリア・カリエントゥス
おそらく私は本来、ここにあるべきではないのでしょうね。皆様の心からの信頼、痛み入ります。

２４９：エウラリア・カリエントゥス
ですが……本当の私は、そのような信頼に値する者ではないのです。
だって私は……ずっと……ずっと……

旦那様を甘やかして、甘やかして、甘やかして、一生お世話して差し上げたいと、そう思っていたのですから♡

２５０：名無しのアブノーマル
え……？

２５１：名無しのアブノーマル
せ、聖王様……？

２５２：エウラリア・カリエントゥス
許されざる所業だと思っていたのです
知性体はいずれ、誰しもが巣立つもの。ずっと子供のままではいられません。

２５３：エウラリア・カリエントゥス
けれど私は、旦那様に子供のままでいてほしかった。永遠に巣立たない雛であってほしかった。

２５４：エウラリア・カリエントゥス
そう……雛。旦那様にはずっと赤ちゃんでいてほしいのです。
そうすれば何をするにも、私を頼るしかありませんよね？　食事も、着替えも、お風呂も、おトイレだって♡
一人では何もできないか弱い旦那様……♡　私の手を借りることでしか、生きていけない旦那様……♡
ああ、それは、想像するだけで……なんて甘美な至福なのでしょう……♡♡♡

２５５：名無しのアブノーマル

２５６：名無しのアブノーマル

２５７：名無しのアブノーマル

２５８：エウラリア・カリエントゥス
育てたい、というのとは違いますね。私はただ愛情を注ぎ込みたいだけなのですから。
とてもひどい行いだとは自覚しています。相手のことを考えず、た

だ愛したいなど、それは邪なる望み。

２５９：エウラリア・カリエントゥス
そう思っていたからこそ、縛りつけていました。押さえつけていました。
私の内に巣食うこの欲望は、生涯外に出さないと、ずっとそう決意して参りました。

２６０：エウラリア・カリエントゥス
けれど……旦那様が♡　私をめちゃくちゃにしてしまったのです♡
私の尊厳を犯し、汚し、どこまでも旦那様の欲望で染め上げてしまったのです……♡

２６１：エウラリア・カリエントゥス
だったら、しょうがないですよね？♡　私ももう、我慢なんてしなくていいですよね？♡

だって私には、いつだって欲望に忠実な――最高の旦那様がいるのですから♡♡♡

２６２：名無しのアブノーマル

２６３：名無しのアブノーマル

２６４：名無しのアブノーマル

２６５：名無しのアブノーマル
ああ……あぁ……

２６６：名無しのアブノーマル
あー、うー、あー

２６７：名無しのアブノーマル
おぎゃあっ！　おぎゃっおぎゃっ！

２６８：名無しのアブノーマル
おぎゃあああああああああああ!!!

２６９：フレッドリーツ
エウラリアにお世話されたい民わらわらで草
そんなんだからワイと同類なんやぞお前ら

２７０：名無しのアブノーマル
イッチィ!!!

２７１：名無しのアブノーマル
草生やしてる場合かイッチィ!!!

２７２：名無しのアブノーマル
どうすんのこれ？　どうすんのこれ???　どうすんだよぉ!!!

２７３：名無しのアブノーマル
お前のせいじゃねーか!!!　１００％お前のせいじゃねーかよ!!!

２７４：フレッドリーツ
エウラリアに素質あっただけだから　ワイも知らんかったけど
ま、こじ開けたことは謝罪しとくね？　すまんすまんｗ

２７５：名無しのアブノーマル
こいつほんまさぁ……!!!

２７６：名無しのアブノーマル
　自分だけ切り替えられるからってすぐ性癖を満たしに動きやがる
!!!

２７７：名無しのアブノーマル
　俺たちが苦しんでる様を見るのがそんなに楽しいのかよ!!!

２７８：名無しのアブノーマル
　この鬼畜!!!　外道!!!　ゴミクズ!!!　人間の恥晒し!!!

２７９：名無しのアブノーマル
　もう管理されちまえ!!!　女帝様と聖王様に永久に首輪つけられてろ
!!!

２８０：フレッドリーツ
　＾＾
　＞＞２７９
　それは流石にいやかな

２８１：名無しのアブノーマル
　拒否できる立場だと思ってんじゃねえぞイッチィ!!!

２８２：名無しのアブノーマル
　拒否権なんかねえんだよ!!!　責任取るしかねえんだよ!!!

２８３：名無しのアブノーマル
　許せねえよなぁ!!!　許せねえよ……こんな、こんなの……!!!

２８４：名無しのアブノーマル!
　興奮しちまうだろうがッッッ!!!!!!

２８５：エウラリア・カリエントゥス
……薄々気づいてはおりましたが、私はあまり歓迎されていないようですね。
よろしければその理由、どうか教えて頂けませんか？

２８６：名無しのアブノーマル
ツスゥーーーー

２８７：名無しのアブノーマル
いや……それは、ちょっと……

２８８：名無しのアブノーマル
俺らの口からいうのはその……重すぎるっていうか……

２８９：神
ならば私が説明しましょう

２９０：エウラリア・カリエントゥス
まあ！　この神気……もしや！

２９１：エウラリア・カリエントゥス
ああ、主よ！　御身なのですか！

２９２：神
こうして直接言葉を交わすのは初めてですね　私の愛しい娘、エウラリア
私は貴方をずっと見ていました　私の教えを聞き、勤勉に励むその姿……とても良いですよ
ここは私の創りし楽園の一つ　行き場のない者たちの集う、寄る辺にして慰撫の地

それが何を意味するのか　エウラリア、貴方はまもなく理解するで
しょう

２９３：エウラリア・カリエントゥス
そうなのですか？　……いいえ、すべては主の御心のままに。私は
その時を待ちましょう

２９４：神
あっへええええええええええええええええええおへええええええええええ
ええええあびゃあああああああああああああああああああああああああああ
!!!!!!!

２９５：エウラリア・カリエントゥス
!?

２９６：エウラリア・カリエントゥス
え、あの……主よ？　どうなされたのですか？

２９７：神
……ふぅ　失礼、取り乱しました
つまりこういうことです　ここは貴方と同じ、悩ましくも抑えきれ
ない性質を持つ者たちの集いなのですよ

２９８：エウラリア・カリエントゥス
それは一体、どういう……

２９９：神
あへあはあああああああああああああああああああああああああきゅん
きゅんしゅるのおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
お!!!!!!

３００：エウラリア・カリエントゥス
　主よ!?　何がどうなっているのですか!?　もしや、主をも冒す大病魔に!?

３０１：神
　……ふぅ
　違いますよ、エウラリア　私も貴方と同じなのです
　私は知性性愛者（サピオセクシュアル）　貴方たちのような知性ある存在をこよなく愛する、常人には受け入れがたい性癖を持った存在なのですよ

３０２：エウラリア・カリエントゥス
知性（サピオ）、性愛者（セクシュアル）……つまり、私の旦那様に対するこの邪なる願いも、主と同じ……？

３０３：神
　おひょおひょおひょおっほおおおおおおおおおおおおおおおおおうひょおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお!!!!!!!

３０４：神
　……ふぅ
その通りです、エウラリア　よくぞ我が真意を理解しましたね
貴方のそれはエイジプレイ　相手を赤ちゃんだと思いお世話する、常人には歓迎されない性癖です

３０５：エウラリア・カリエントゥス
ああ……やはり、そうなのですね……

３０６：神
私の愛しい娘、エウラリア　そう嘆かずとも良いのですよ
なぜならばそれは、私が皆に与えたもの……貴方は望まれてその性

癖を得たのです
３０７：エウラリア・カリエントゥス
!!!　それは……それは!!!
３０８：エウラリア・カリエントゥス
主よ！　私のこの、決して許されてはならない思いを、許して頂けるのですか!?
３０９：神
あひゃへへえええええええええええええええええええええええええええう
ほちうほっうほほおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお!!!!!!!
３１０：神
……ふぅ
許すも何も、私が与えたのです　貴方は何も悪くありません　ですから……自分に正直に生きて良いのです
３１１：エウラリア・カリエントゥス
ああ、それは……なんて、僥倖……!!!
３１２：エウラリア・カリエントゥス
主よ！　私はずっと我慢して参りましたが……もう良いのですね!?
このまま旦那様♡　と幸せになっても、祝福してくださるのですね!?
３１３：神
ええ　我が神名、ユラウツァバクの名の下に、貴方の全てを許し、祝福しましょう

どうか幸せに　エウラリア　私はいつでも、貴方を見ていますから
……

３１４：エウラリア・カリエントゥス
ああ……ああ……!!!　私は今、神の啓示を受け取りました……!!!
やりました、旦那様♡　我らが主ユラウツァバク様は、私たちを祝福してくださるそうです!!!
これでもう――――何の障害もありませんね？♡　旦那様♡♡♡

３１５：神
もうらめぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ私の娘賢しゅぎなのおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお!!!!!!!

３１６：フレッドリーツ
うーんこの世紀末感　今世界が終わっても俺は驚かないね
あとエウラリア　神が許しても俺は許さないからそこんとこよろしく

３１７：エウラリア・カリエントゥス
まあ!　旦那様♡　ったら、本当に素直じゃないお方……♡
そんなところも可愛いです♡　よしんば真実だとしても、それはそれでもっともっと可愛いです♡♡♡
私が産み直して差し上げたいくらいです……♡♡♡　どうでしょう？　一度やってみませんか？♡

３１８：フレッドリーツ
いやです

３１９：エウラリア・カリエントゥス
ああ……そんなつれない所が素敵……♡♡♡

３２０：フレッドリーツ
だめだこりゃ（思考停止）

３２１：名無しのアブノーマル

３２２：名無しのアブノーマル

３２３：名無しのアブノーマル

３２４：名無しのアブノーマル
俺らは一体何を見せられてるんだ……

３２５：名無しのアブノーマル
分からねぇ……分かりたくねぇ……

３２６：名無しのアブノーマル
怒涛の展開すぎる……脳が理解を拒否する……

３２７：名無しのアブノーマル
反応するのは股間だけ……

３２８：名無しのアブノーマル
駄目だ、何も考えらんねぇ……一度すっきりしよう

３２９：名無しのアブノーマル
……うっ、ふぅ……

３３０：名無しのアブノーマル
……うっ、ふぅ……

３３１：名無しのアブノーマル
……うっ、ふぅ……

３３２：名無しのアブノーマル
……ヨシ！　これでまた楽しめるな！

３３３：名無しのアブノーマル
とりあえずまとめようぜ　何が起こったんだ今？

３３４：名無しのアブノーマル
聖王様降臨　ついでに神降臨　初の聖王様と神の交信　神の承認
もう婚姻

３３５：名無しのアブノーマル
つまり聖王様とイッチは神に祝福された仲だということですね
……

３３６：名無しのアブノーマル
女帝様、敗北

３３７：名無しのアブノーマル
完全敗北ですよクォレハ

３３８：名無しのアブノーマル
そんなわけねえだろ!!!　女帝様は神にも挑む絶対強者なんだぞ!!!

３３９：名無しのアブノーマル
ステイステイステイ　そうカッカしなさんな

３４０：名無しのアブノーマル
我々には対話という素晴らしい手段があります　一度拳を収め、席

に座りましょう

３４１：名無しのアブノーマル
　まずは話を聞くこと　それが大切なのです　気に入らなかったらあとでいくらでもぶん殴ればいいのですから

３４２：名無しのアブノーマル
　拳で語るのは最後　聖典にもそう書かれていますよ

３４３：名無しのアブノーマル
　狂信者どもめ……自分たちだけすっきりしやがって!!!

３４４：名無しのアブノーマル
　俺は尊厳破壊されないと満たされないんだよ!!!　止まると思うんじゃねえぞ!!!

３４５：名無しのアブノーマル
　全く、空気読まない奴はこれだから……

３４６：名無しのアブノーマル
　聖王様、お願いします

３４７：エウアリア・カリエントゥス
　え？　私、ですか？

３４８：名無しのアブノーマル
　はい　どうか＞＞３４４にこう言ってやってください

３４９：名無しのアブノーマル
「どこまでも救えないお方ですね」と

３５０：エウラリア・カリエントゥス
　え、ええと……どこまでも救えないお方ですね？　でも安心してください、私は貴方の手助けを諦めませんから。

３５１：名無しのアブノーマル
　あっ……（昇天）

３５２：名無しのアブノーマル
　フッ　目覚めたな

３５３：名無しのアブノーマル
　これで３４４も狂信者になるだろう

３５４：名無しのアブノーマル
　聖王様でも救えないような犯罪者に向かって言うこのセリフ、ほんま好き　大好き

３５５：名無しのアブノーマル
　ごく一部の犯罪者は目覚めたあと更生してここの住民してるしな

３５６：名無しのアブノーマル
　尊厳破壊が性癖？　そんなん聖王様の一言で破壊されるんだよ

３５７：名無しのアブノーマル
　愛玩奴隷だかなんだか知らないが、もうお前は狂信者なんだ

３５８：名無しのアブノーマル
　お前も狂信者だ（聖典パンチ）

３５９：エウラリア・カリエントゥス
　何やらよく分かりませんが……よろしかったのでしょうか？

３６０：名無しのアブノーマル
よろしかったですよ、聖王様

３６１：名無しのアブノーマル
彼の者は信仰に目覚めたでしょう　じきに教会へ向かうはずです

３６２：名無しのアブノーマル
聖王様がお気になされることではありません　ささ、そろそろお時間です

３６３：名無しのアブノーマル
聖王様にはこのままご退出してもろて……

３６４：エウラリア・カリエントゥス
……やはり、歓迎されないのですね。
いいえ、それも仕方ないことです。貴方たちがそれを望むなら、私は従いましょう……

３６５：名無しのアブノーマル
違いますよ!!!

３６６：名無しのアブノーマル
そんなことないですよ!!!

３６７：名無しのアブノーマル
ただちょっとアブノーマル板はやばいもんばっかなんで!!!

３６８：名無しのアブノーマル
そこにイッチがいるでしょ!!!　フレッドリーツ・レアライヒが!!!

３６９：名無しのアブノーマル
　そいつに色々教えてもらってください!!!　そしたらまたいらして頂いていいので!!!

３７０：名無しのアブノーマル
　というかぜひいらしてください!!!　お待ちしてます!!!　お待ちしてます!!!

３７１：エウラリア・カリエントゥス
　ああ……心優しきお言葉、ありがとうございます。私、感動で涙が溢れそうです。

３７２：フレッドリーツ
　実際泣きそう　こんな糞溜めに歓迎されてんのに
　エウラリア……おかしくなっちゃった……違う、違うんだよ……こんなの間違いだ……

３７３：名無しのアブノーマル
　まーた解釈違い起こしてる

３７４：名無しのアブノーマル
　受け入れろイッチ　全部お前が悪い

３７５：名無しのアブノーマル
　聖王様を目覚めさせたんだ　責任は取らなくっちゃなぁ？

３７６：フレッドリーツ
　無理だって……こんなの無理……

３７７：名無しのアブノーマル
　なっさけねぇなあオイ

３７８：名無しのアブノーマル
腹くくれ　ここがお前の死に場所だ

３７９：名無しのアブノーマル
人生の墓場に入ってもろて

３８０：神
……ふぅ
ああ、そうでした　愛しい娘、エウラリア　貴方に一つ、天啓を授けます

３８１：神
過去ログを検索しなさい
具体的にはフレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレを見るのです……

３８２：名無しのアブノーマル
!?

３８３：名無しのアブノーマル
神ィ!!!　余計なことしでかすなや!!!

３８４：名無しのアブノーマル
悪霊退散!!!　１たす1は２ぃいいい!!!

３８５：神
あっへぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇらめらめもうむりむり
なのおおおおおおおおおおおおおおおおお!!!!!!

３８６：エウラリア・カリエントゥス

かころぐ、ですか？　それは一体……

３８７：フレッドリーツ
（アカン）

３８８：エウラリア・カリエントゥス
キャッ♡　旦那様、急にどうされたのですか？　そのような怖いお顔なさって……♡
でも少々お待ちくださいね。主から天啓が下りましたので、それを確かめるまで大人しくしているのですよ……♡

３８９：フレッドリーツ
やべぇ　勝てねぇ　そういやワイナメクジやった

３９０：名無しのアブノーマル
ヤバイ

３９１：名無しのアブノーマル
やばくね？

３９２：名無しのアブノーマル
確かあそこには……

３９３：エウラリア・カリエントゥス
あら……あらあらあらあらあらあら。

３９４：エウラリア・カリエントゥス
まったくもう……旦那様ったら♡　私と旦那様♡　の馴れ初めを皆様に明かすだなんて……♡

３９５：エウラリア・カリエントゥス

とても恥ずかしいではありませんか♡　でも……あの時こんな風に考えていたのですね……
ますます惚れ直してしまいます♡　旦那様……素敵……♡♡♡

３９６：名無しのアブノーマル
お？

３９７：名無しのアブノーマル
大丈夫か？

３９８：名無しのアブノーマル
惚気にいったか？

３９９：フレッドリーツ
（イケるか……？）

４００：エウラリア・カリエントゥス
ところで旦那様♡

こちらの【煌天女帝】と【主羅統娘】についてのスレッドは何でしょうか？？？

４０１：フレッドリーツ
あっ（絶命）

４０２：名無しのアブノーマル
ダメみたいですね

４０３：名無しのアブノーマル

ヤバイヨ……メッチャヤバイヨ……

４０４：名無しのアブノーマル
嵐が……来る……!!!

４０５：エウラリア・カリエントゥス
ご説明、して頂けるのですよね？
ねえ、旦那様？？？？？

【俺はどうすれば】何も悪いことしてないワイをお前らが助けるスレ【報われるんだ?】その3

406：フレッドリーツ
いやーマジで絶命して参った参った
エウラリアがいなかったら死んでたね　まあ膝枕されたままポキってエウラリアにやられちゃったんだけどさ
というわけでね　このスレはここで終了ということで……

407：名無しのアブノーマル
ふーん、そう

408：名無しのアブノーマル
まだ逃げられると思ってるんですか

409：名無しのアブノーマル
どうせスレから出たって『聖王の檻』の最下層

410：名無しのアブノーマル
イッチにできるのは聖王様への釈明しかないってのにね

411：エウラリア・カリエントゥス
皆様の言う通りですよ、旦那様♡
大丈夫、ちゃんと最後まで聞いて差し上げますから♡
その後は私でも保証できませんけれどね？？？

412：フレッドリーツ
ツスーーーー

４１３：フレッドリーツ
フゥーーーー

４１４：フレッドリーツ
よし、切り替えた

全て話そう、エウラリア　俺のくだらない人生をな

４１５：名無しのアブノーマル
お、イッチ

４１６：名無しのアブノーマル
覚悟決めたか

４１７：名無しのアブノーマル
ついに逃げないことを選んだイッチ

４１８：名無しのアブノーマル
頑張れイッチ……ワイらは応援してるで

４１９：フレッドリーツ
最初に言っておく、エウラリア
俺にとってお前は二番目だ　一番じゃない
俺の最高の女はヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカただ一人だ

４２０：エウラリア・カリエントゥス
……

４２１：フレッドリーツ

俺はずっと性欲に悩まされてきた
そいつは俺の中に潜む化物だった　完璧に性癖を満たさなければ決して満足しなかった
死を選ぼうとしても性癖のせいで体は生きようとする　満足させなければ俺に自由はなかった
そのためにヴァルガリエを選び、俺は思う存分性癖をぶつけた
でも満足しなかった　だから次点のお前にもぶつけることにしたんだ

４２２：エウラリア・カリエントゥス
……

４２３：フレッドリーツ
あとはスレに書いた通りだ　俺はただ自由のために、俺自身の抹殺のために動いただけなんだよ……
だから、いいだろ？　許してくれるだろ？　仕方なかったんだよ、エウラリア
なあ、俺を愛してくれてるんだろ？　だったらいいじゃないか、許してくれ　頼むよ

４２４：エウラリア・カリエントゥス
……そうやって私から突き放させようとしても無駄ですよ、旦那様。

４２５：フレッドリーツ
チッ

４２６：名無しのアブノーマル
前言撤回　まだ死のうとしてやがったこいつ

４２７：名無しのアブノーマル

シッ　静かに見守れ　見守るんや

４２８：エウラリア・カリエントゥス
旦那様のお心はよく分かりました。ずっと苦しかったのですね……

しかし、貴方の行いは許されざること。
【煌天女帝】はともかく【主羅統娘】はまだ子供。そのような幼子にまで、貴方は手を出したのです。
罰は受けねばなりません。それは聖王としての私の決定です。

４２９：フレッドリーツ
……だよな

４３０：エウラリア・カリエントゥス
ですから旦那様。

何年くらい赤ちゃんをやってくださいますか？♡

４３１：フレッドリーツ
……ん？

４３２：エウラリア・カリエントゥス
私としては一生赤ちゃんでいてくだされればこの上ない喜びなのですが……おそらく罪はそれに及ぶ重さではないでしょう。
ですから旦那様♡　せめてもの罰として、旦那様が何年私の好きにさせてくださるか聞きたいのです♡

４３３：フレッドリーツ
え？　いや、あの……話聞いてた？

４３４：エウラリア・カリエントゥス
はい♡　私は二番手で、それも本来は予定になかった陵辱だったのですよね？
それが何か？　こうなっては本当に些細な問題です♡
私は旦那様が好き♡　旦那様も二番目とはいえ私が好き♡
ほら♡　相思相愛です♡　何の問題もないではありませんか♡♡

４３５：フレッドリーツ
ええ……おかしい、おかしいって　正気に戻ってくれエウラリア

４３６：エウラリア・カリエントゥス
私は正気ですよ、旦那様♡
確かに良い気分ではありません。とてもとても、とてもとてもとてもとてもとてもとてもとても裏切られた気分です。
けれど私は、貴方の側にいたい。貴方と共にこれからをずっと歩んでいきたい。
恥じる理由があるものですか。私のこの気持ちに、何一つ嘘偽りはないのです。

４３７：フレッドリーツ
エウラリア……

４３８：エウラリア・カリエントゥス
何より……旦那さまはこれからずっと、私の手のひらの上……♡
逃しませんよ？♡　ええ、逃しませんとも♡♡
だから旦那様♡
何年赤ちゃんでいたいか、早く答えてくださいな♡♡

４３９：フレッドリーツ

……

４４０：フレッドリーツ
逃げていい？

４４１：エウラリア・カリエントゥス
ダメです♡

４４２：フレッドリーツ
なんで!!??　おかしいじゃん!!!　そこは俺に幻滅して振るところじゃん!!!
なんで受け入れちゃうの!?　自分で言うのもあれだけど俺めっちゃひどいことしたよ!!!
なのになんで……嫌なんだ……許さないでくれ……もう、消えたい……

４４３：エウラリア・カリエントゥス
旦那様……
そういうのいいですからさっさと赤ちゃんになりたい年数答えてください。

４４４：フレッドリーツ
やべーよもう!!!　誰だよエウラリアをこんな変態にしたの!!!
助けて!!!　みんな助けて!!!　俺を助けてよ!!!

４４５：名無しのアブノーマル
いやです

４４６：名無しのアブノーマル
無理です

447：名無しのアブノーマル
駄目です

448：名無しのアブノーマル
三拍子揃ったスレ民の総意

449：名無しのアブノーマル
イッチは助からない　そのまま聖王様の良き夫になるべき

450：名無しのアブノーマル
それが運命　デスティニー　こうしてイッチは伝説となったのだった

451：名無しのアブノーマル
～完～

452：フレッドリーツ
終わらせるなや!!!!!!!!

453：フレッドリーツ
クッソ！　なんでだ！　事前の演算結果ではこんなはずじゃなかったのに!!!
一時の安息を手に入れ、その後は無限に復讐される!!!　何度計算してもその結果が出たはずなのに!!!

454：名無しのアブノーマル
敗因は何だと思う？

455：名無しのアブノーマル
準備力ぅ、ですかねぇ

４５６：名無しのアブノーマル
クズになりきれなかったところ

４５７：名無しのアブノーマル
常識を捨てきれなかったのが過ち

４５８：名無しのアブノーマル
まあ何度も言うけどね　やり過ぎたんだよ、イッチ

４５９：名無しのアブノーマル
お前がもう少しやり口を汚くしてればこんなことにならなかった

４６０：名無しのアブノーマル
正攻法で近づいたあと急変してもさ、正攻法でやったことは消えやしないのよ

４６１：名無しのアブノーマル
もっと下劣に立ち回れば見放されたかもね

４６２：名無しのアブノーマル
でもそうはならない　ならなかった

４６３：名無しのアブノーマル
だからこの話はここで終わりなんだよ、イッチ

４６４：フレッドリーツ
認めてたまるかぁ!!!　あっ

４６５：名無しのアブノーマル
イッチ？

４６６：名無しのアブノーマル
おーいイッチ

４６７：名無しのアブノーマル
急に反応消えたぞ

４６８：エウラリア・カリエントゥス
旦那様がいつまで経っても答えてくださらなかったので……
とりあえず思考力奪って赤ちゃんにしちゃいました♡

４６９：名無しのアブノーマル
ヴェッ!?

４７０：名無しのアブノーマル
ヒエッ

４７１：エウラリア・カリエントゥス
ああ、旦那様……そのようにじたばたとしかできないお姿、なんて可愛らしい……♡♡♡
大丈夫ですからね♡　安心してくださいね♡　全部全部ぜーんぶ、私に任せてくだされればそれでいいですからね♡♡

４７２：名無しのアブノーマル
ヤバイ

４７３：名無しのアブノーマル
聖王様、ここに来てパワープレイ

４７４：名無しのアブノーマル
マジでイッチに対する遠慮がゼロ

４７５：名無しのアブノーマル
　これ本当に聖王様???　ちょっと悪いことしてくるわ

４７６：エウラリア・カリエントゥス
　あらあら、駄目ですよ。えいっ

４７７：名無しのアブノーマル
　隣家で日光浴しとるおっさん誘惑しようとしたら雷に撃墜されたわ（淫魔）
　これ聖王様だ本物の　すんませんでした!!!

４７８：名無しのアブノーマル
　だから神様ウェブじゃ偽造捏造できないとあれほど

４７９：名無しのアブノーマル
　バカはほっとけ　それよりイッチの実況ないの寂しいな

４８０：名無しのアブノーマル
　聖王様、どうにかなりませんか？

４８１：エウラリア・カリエントゥス
　……確かに。旦那様のお心を確かめながら致すのもそれはそれで乙なものですね♡
　ここをこうしてこうやってと……できました♡

４８２：フレッドリーツ
　おねがい　おまえら　たすけて

４８３：名無しのアブノーマル
　お、イッチ

４８４：名無しのアブノーマル
　ようイッチ　調子はどうだい？

４８５：名無しのアブノーマル
　ワイらは酒飲んでるけどよ、お前も飲む？
　あ、赤ちゃんだから飲めないかｗ　ガハハハハハハ！

４８６：フレッドリーツ
　くそが　おまえら　ゆるさね
　しこう　せいげん　されてる　どうにも　なんない

４８７：エウラリア・カリエントゥス
　あら？　ほんのちょっぴりだけのつもりでしたが、片言でも喋れるのですね。
　でもそれしかできないか弱い旦那様、可愛い……♡　もう我慢できません、早速お世話して差し上げましょうか♡♡♡

４８８：名無しのアブノーマル
　こうしてイッチは聖王様の餌食もとい赤ちゃんになったのであった

４８９：名無しのアブノーマル
　めでたし、めでたし

４９０：名無しのアブノーマル
　おしまい
　でもいいけど、正直気になるな

４９１：名無しのアブノーマル
　聖王様～　聖王様さえ良ければ実況して欲しいんだけど

４９２：名無しのアブノーマル
＞＞４９１
お前ちょっと不敬が過ぎないか？

４９３：名無しのアブノーマル
＞＞４９２
神に対して不敬しまくってるし今更だろ　もう聖王様も俺らの同類なんだ
慮ってどうする？　いつも通りやればええ

４９４：エウラリア・カリエントゥス
実況？　というのはよく分かりませんが……
その優しい心遣いに感謝いたします。このようにフランクに接されるのは、もう千年以上ありませんでしたから……
正直その……嬉しいです♪　４９３様♪

４９５：４９３
ＦＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯ!!!　役得ぅ!!!　今日のオカズ決定!!!

４９６：名無しのアブノーマル
あっ!?　ずるいぞてめぇ!!!

４９７：名無しのアブノーマル
俺も遠慮なんかしなきゃよかったこんちくしょう!!!

４９８：名無しのアブノーマル
聖王様はイッチの物だぞ４９３!!!

４９９：４９３
母親大好き近親相姦バッチコイＮＴＲれ鬱ニー敗北者のワイ、ノー

ダメージ

５００：名無しのアブノーマル
クソが変態だった!!!

５０１：名無しのアブノーマル
ピンポイントに刺さってんじゃねえぞこの同類野郎!!!

５０２：名無しのアブノーマル
羨ましい!!! 羨ましい!!! 羨ましい!!!

５０３：名無しのアブノーマル
聖王様!!! お願いします、実況してください!!!

５０４：名無しのアブノーマル
そしてあわよくば俺らにもご褒美を!!!

５０５：エウラリア・カリエントゥス
え、ええと……その実況？ というのはどうすれば良いのですか？

５０６：フレッドリーツ
きくな えうらりあ

５０７：名無しのアブノーマル
やったこととイッチの様子を逐一書き込んでくれればいいです!!!

５０８：名無しのアブノーマル
それをオカズに俺らはハッスルします!!!

５０９：名無しのアブノーマル
ぜひとも書き込んでください!!! そうすれば神が永遠に過去ログ

に残してくれます!!!

５１０：エウラリア・カリエントゥス
まあ、永遠に、ですか……
それはなんとも……素晴らしい響きですね♪　私たちの愛の営みが主に記憶され、残される……
良いじゃありませんか♡　そうしましょう♡　ぜひ実況しましょう♡　ね、旦那様♡♡♡

５１１：フレッドリーツ
これ　わな　おれ　おとしいれる　わな
ゆるさねえ　この　へんたいども

５１２：名無しのアブノーマル
イッチさぁ……今更？

５１３：名無しのアブノーマル
お前もワイらに性癖向けてたじゃん

５１４：名無しのアブノーマル
逆だっていいよなぁ？

５１５：名無しのアブノーマル
イッチの罵倒、とても美味しゅうございます♪　オラ、もっとさえずるんだよ!!!

５１６：名無しのアブノーマル
聖王様、やっちゃってください!!!

５１７：エウラリア・カリエントゥス
うふふふふふ……皆様の応援も受けたことですし……

始めましょうか♡　旦那様♡♡♡

５１８：フレッドリーツ
よし　解除した　ようやくだ

５１９：エウラリア・カリエントゥス
あ、あら……？

５２０：フレッドリーツ
まったくよぉ……好き勝手やりやがってよぉ……俺の気持ちも知らねえでよぉ……

さっきからムラムラしてんだよこっちはよぉ

５２１：名無しのアブノーマル
あっ

５２２：名無しのアブノーマル
これは

５２３：名無しのアブノーマル
イッチ、暴走状態突入

５２４：名無しのアブノーマル
警報!!!　警報!!!

５２５：名無しのアブノーマル
逃げて!!!　聖王様逃げて!!!

５２６：エウラリア・カリエントゥス
　えっ？　えっ???

５２７：フレッドリーツ
　大体なんだその格好は……俺が着せたウエディングドレスじゃねーか……!!!
　誘ってんのか？　お？　誘ってんだろ？　ええ!!??

５２８：名無しのアブノーマル
　ＯＨ!!!

５２９：名無しのアブノーマル
　聖王様、まさかのあの下着姿

５３０：名無しのアブノーマル
　ちょっと聖王様降臨から見直してくる

５３１：名無しのアブノーマル
　これは滾る　滾るぞぉ!!!

５３２：エウラリア・カリエントゥス
　こ、これは……だ、だって、旦那様からの大切なプレゼントですので……！

５３３：フレッドリーツ
　うるせぇ!!!　だったらなんであちこちに穴あいてんだよ!!!
　おかしいよなぁ!?　だって俺が送った時はそんなえっち穴なかったよなぁ!!!
　改造したんだろ!!!　イジってほしくてよぉ!!!

５３４：エウラリア・カリエントゥス

そ、そのようなこと……きゃうんっ♡

５３５：フレッドリーツ
あ〜ー感度たっけ……ちょっと触っただけでこれだよ……もう許せねえぞオイ!!!
性癖じゃない？　知るか!!!　俺は今イライラムラムラしてんだよ!!!
愛する女が俺のためにえっちムーブしてたらイキりたつに決まってんだろーが!!!　恥を知れ、恥を!!!

５３６：エウラリア・カリエントゥス
だ、旦那様？♡　旦那様♡　お、お待ちになって♡

５３７：フレッドリーツ
待たせたきゃ力づくでやってみろよ!!!　オラ!!!　何勝手に負けてんだ!!!　さっきの勢いはどうしたんだよ!!!
俺を怒らせやがって……勝手に変態になってんじゃねーぞ!!!
騎士になれ!!!　俺を誘ってみせろ!!!　そしたらたっぷり可愛がってやる!!!

５３８：エウラリア・カリエントゥス
くっ……いくら旦那様の命と言えど、それ以上の狼藉は我慢ならん！
流星海嘯が初代王、エウラリア・カリエントゥスの名において、旦那様を断罪……ああああああああああああああああああああああああ!!!!

５３９：フレッドリーツ
ブチブチブチブチブチブチブチッッッ!!!（※これは理性の切れる音ですね　ｂｙ神）

５４０：フレッドリーツ
あ〜もう許さねえ!!!　覚悟しやがれ!!!!!

・
・
・

７４１：フレッドリーツ
やっちまった……

７４２：名無しのアブノーマル
お　帰ってきたかイッチ

７４３：名無しのアブノーマル
ようこそお帰り　常識と正気の世界へ

７４４：名無しのアブノーマル
こいついつも後悔してんな

７４５：フレッドリーツ
エウラリアの限界確かめてねえから危なかった……
危うくぶっ壊すところだった……マジで死にてぇ……

７４６：名無しのアブノーマル
草

７４７：名無しのアブノーマル
草

７４８：名無しのアブノーマル
草生やしちゃいけないけど草

７４９：名無しのアブノーマル
いやー、お二人とも実に激しかったですね

７５０：名無しのアブノーマル
聖王様の才気ある思考、存分に味合わさせて頂きました

７５１：名無しのアブノーマル
やばかったね　正直今もムクムクしてる

７５２：名無しのアブノーマル
聖王様のメスっぷりが溢れてるのほんとすごかった

７５３：名無しのアブノーマル
えっちな聖王様の心の声ってめっちゃえっちなんだね……また一つ真理の扉を開いたよ

７５４：名無しのアブノーマル
ワイはえっちな男の子のイッチに興奮してます

７５５：名無しのアブノーマル
奇遇だね　ワイもそーなの

７５６：名無しのアブノーマル
俺も俺も

７５７：名無しのアブノーマル
でも正直、両方楽しめました

７５８：名無しのアブノーマル
ほんと極上の一時だった　殿堂入りだよこんなの

７５９：名無しのアブノーマル
アブノーマル板の伝説がまた一つ増えちゃうんだね

７６０：名無しのアブノーマル
あとで聖王様視点だけまとめて上げとこ

７６１：名無しのアブノーマル
＞＞７６０
イッチ視点も頼むぞ　専用スレはとっくに立ってるからな

７６２：名無しのアブノーマル
イッチと聖王様が同時にね？　書き込みまで溶け合ってるんじゃないかって感じのね？
ほんと最高

７６３：名無しのアブノーマル
ワイはやっぱり王道を行く、聖王様の絶頂報告ですかねぇ

７６４：名無しのアブノーマル
愛してるとえっちな言葉で埋まってたレスが一番好きゾ

７６５：名無しのアブノーマル
聖王様が下品な言葉で思考してると思うと……フフフ、その……シちゃいましてね……

７６６：名無しのアブノーマル
イッチが逐一具体的に聖王様の具合書くからもう捗るのなんの

７６７：名無しのアブノーマル
聖王様は聖王様でいかにイッチがすごいか表現しまくるしさ

768：名無しのアブノーマル
もう見えたよね　二人のあられもない姿

769：名無しのアブノーマル
できれば映像音声付きで欲しい……そうだ!!!　イッチ露出癖に目覚めたしワンチャンあるのでは???

770：フレッドリーツ
＞＞769
やるわけねえだろ殺すぞ……
もうやだ……なんで俺ってこんなんなんだろう……消えてぇ……

771：名無しのアブノーマル
イッチ、深く深く後悔中

772：名無しのアブノーマル
どうせすぐ切り替えるしへーきへーき

773：名無しのアブノーマル
ところで聖王様の様子どう？　途中からハートマークしか書いてなかったけど

774：エウラリア・カリエントゥス
っ……ふっ、ふう……な、なんとか、立ち直りました……ご心配を、おかけして、申し訳ありません……

775：名無しのアブノーマル
聖王様!!!

776：名無しのアブノーマル

大丈夫なんですか!?

７７７：名無しのアブノーマル
ご無理をなさらないで!!!　辛かったら休んでてください!!!

７７８：フレッドリーツ
バカだなお前ら　エウラリアは再生術使いの頂点だぞ
壊れ切ってなきゃ数分で復活するんだよ　そんなことも知らずに楽しんでるんじゃねえぞ……

７７９：名無しのアブノーマル
楽しんだのはお前じゃろがい!!!

７８０：名無しのアブノーマル
自分を棚に上げるな自分をぉ!!!

７８１：フレッドリーツ
そうだよな……死にてえ……エウラリア、聖剣貸してくんない？

７８２：エウラリア・カリエントゥス
ダメです♡

７８３：フレッドリーツ
ですよねー……

７８４：名無しのアブノーマル
まあなんだ　何はともあれ、上手くやっていけそうじゃないか

７８５：名無しのアブノーマル
イッチもほどほどに付き合ってあげろよ　じゃないと聖王様がかわいそうだからな

７８６：名無しのアブノーマル
　互いに尊重し合うのが良い夫婦の秘訣だぞ　頑張れよ

７８７：フレッドリーツ
　いやだよ……

７８８：エウラリア・カリエントゥス
　うふふふ♪　旦那様♡　ったら素直じゃないこと♪
さあ、そろそろ赤ちゃんに戻ってもらいましょうか♡　今度は私の番……あら？

７８９：エウラリア・カリエントゥス
　あら？？？　あらあらあらあら？？？

７９０：エウラリア・カリエントゥス
　申し訳ありません、旦那様。どうやら不躾な客人が来たようです。まったく、旦那様はとうに私の旦那様だというのに……相変わらず強欲なのですね、あの方は。
　少しだけ席を外します。旦那様はごゆっくり休んでてくださいね♡

７９１：フレッドリーツ
　こうなる　しってた

７９２：名無しのアブノーマル
　なんだ？　何が起こってるんだ？

７９３：名無しのアブノーマル
　おい、やべえぞ!!!　女帝様が直接流星海嘯に乗り込んでる!!!

７９４：名無しのアブノーマル
ファッ!!??!?

７９５：名無しのアブノーマル
不可侵条約を破ったのか!!??

７９６：名無しのアブノーマル
自分から持ちかけたあの傲岸不遜な条約を!!??

７９７：名無しのアブノーマル
あの傲慢で自信たっぷりな女帝様が!!??

７９８：名無しのアブノーマル
誇りを捨てて条約破りとか、マジで形振り構ってねぇ……イッチを確実に取り戻す気だ

７９９：名無しのアブノーマル
おいマジか？　起こっちまうのか???

８００：名無しのアブノーマル
（戦争だよ!!!）ガチ

８０１：名無しのアブノーマル
一体何が始まるんです???

８０２：名無しのアブノーマル
大惨事世界大戦だ

８０３：フレッドリーツ
解除完了　しかしできることはない
もういいかな　何もかも諦めていい気がしてきた

８０４：名無しのアブノーマル
　イッチ？

８０５：名無しのアブノーマル
　ここに来て心境の変化か？

８０６：名無しのアブノーマル
（今更過ぎる）

８０７：フレッドリーツ
　だって本当に何もできね―んだもん
『聖王の檻』は絶対脱出不可能　このスレみたいに神が一枚噛んでなきゃ外への干渉すら無理
　じゃあもう切り替えて諦めるしかさ……はぁ、死にてぇ……

８０８：名無しのアブノーマル
　切り替えきれてなくて草

８０９：名無しのアブノーマル
　まあそれだけは頑として認めてこなかったからね

８１０：名無しのアブノーマル
　でももう年貢の納め時

８１１：名無しのアブノーマル
　イッチにはこのまま聖王様を幸せにしてもろて……

８１２：フレッドリーツ
　……ん？　なんだ？

８１３：名無しのアブノーマル
お？

８１４：名無しのアブノーマル
どしたどした

８１５：名無しのアブノーマル
何かあったか？

８１６：フレッドリーツ
おいウソだろ　マジかよ、ヤバ

８１７：名無しのアブノーマル
ん？

８１８：名無しのアブノーマル
イッチ？

８１９：名無しのアブノーマル
またこいつ音信不通になったよ

８２０：名無しのアブノーマル
もう何度目？　こいついっつも途切れるな

８２１：名無しのアブノーマル
干渉波発信機の資格なし　ちゃんと自己改造してもろて

８２２：名無しのアブノーマル
……ていうかホントに帰ってこないな

８２３：名無しのアブノーマル

おい!!!!!
ヤバイぞ!!!!!

８２４：名無しのアブノーマル
なんだお前

８２５：名無しのアブノーマル
やばいのは分かってるよ　女帝様と聖王様がガチ激突しそうだからな

８２６：名無しのアブノーマル
世界がヤバイ　はっきり分かんだね

８２７：名無しのアブノーマル
そんな場合じゃねえ!!!!!　ガチでヤバイんだよ!!!!!
娘ちゃんねる見ろ!!!!!

８２８：名無しのアブノーマル
んあ？

８２９：名無しのアブノーマル
ここに来て娘ちゃんねる？

８３０：名無しのアブノーマル
そういや最近スレに張り付いてばっかで見てないな……

８３１：名無しのアブノーマル
イッチがまだ輝いていた頃の最後のスレからチャンネル更新なかったしな

８３２：名無しのアブノーマル
お、娘ちゃんねるに新着が……はあああああああああああああ

あああああああああああ!!!???

８３３：名無しのアブノーマル
えっ???　えっ?????

８３４：名無しのアブノーマル
ウッソだろおい!!??

８３５：名無しのアブノーマル
【祝♡】ボクたち、結婚しました♡♡♡【ボク??と最愛の彼♡】だあああああああああああああああああああああああああ!!!!!????

８３６：名無しのアブノーマル
今ライブ中ってマ!!??!?

８３７：名無しのアブノーマル
急げ急げ、早く開け!!!!!

８３８：名無しのアブノーマル
娘ちゃん!!!　久々の娘ちゃん!!!　……の隣にイッチィイイイイイイイイイイイイイイ!!??

８３９：名無しのアブノーマル
一分の隙もなく魔導拘束されてるぅ!!??

８４０：名無しのアブノーマル
何が起こった!!??　どうなってんだ!!??!?　誰か、誰か教えてくれえええええ!!!!

８４１：名無しのアブノーマル
【速報】聖王様、娘ちゃんに結婚撤回を公式要求　更にイッチが自分の

夫だと曝露

８４２：名無しのアブノーマル
【速報】女帝様、全てを蹴散らして王道楽土に突撃

８４３：名無しのアブノーマル
ヤバイヨヤバイヨ　マジでヤバイって!!!!!

８４４：名無しのアブノーマル
世界……滅ぶの?????

【娘ちゃんねる】イッチことフレッドリーツ・レアライヒが来るのを待つスレ６６６【同時視聴】

・
・
・

１００：名無しのアブノーマル
　ようやくスレの加速が止まったか

１０１：名無しのアブノーマル
　速すぎんだよなぁ　なんだよ６６６って

１０２：スレ主
　適当に割り振ったスレ番　実際は数千くらい立ってた

１０３：名無しのアブノーマル
　イッチのスレ民が一斉に立てた感あった　どんだけ慌ててたんだよ

１０４：名無しのアブノーマル
　そりゃな……世界が終わりそうなこの時この瞬間に慌てるなってのもな……

１０５：名無しのアブノーマル
　現実が阿鼻叫喚地獄になってて草も生えない

１０６：名無しのアブノーマル
　唐突に訪れた世紀末　それは人々を暴力へと駆り立てた……！

１０７：名無しのアブノーマル

なお、勃発する寸前で聖王様に無事鎮圧された模様

１０８：名無しのアブノーマル
聖王様頑張ってるんよ　頑張りすぎなんよ　それでも間に合わない感がすごい

１０９：名無しのアブノーマル
女帝様の突進被害食い止めつつ世界全土の暴動抑え込みつつ娘ちゃんに何度も撤回要求送ってるからな

１１０：名無しのアブノーマル
やってることが聖人すぎる　そして最後だけ草

１１１：名無しのアブノーマル
聖王様崇めてる連中もこれだけはめっちゃ困惑してるからな

１１２：名無しのアブノーマル
聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!
（ところで夫ってなに……??）みたいな空気

１１３：名無しのアブノーマル
現在進行系で世界守ってる聖王様に聞くこともできず万歳三唱と内心の困惑が混じってるの草すぎる

１１４：名無しのアブノーマル
生やすな生やすな　世界はこんなにも大混乱に見舞われてるんだぞ

１１５：名無しのアブノーマル
正直事の経緯知ってるアブノーマル板民が一番平静なくらいだからな……

１１６：名無しのアブノーマル
　現実の情報だけ拾ったらほんと訳分からん内に世界終わりかけてる

１１７：名無しのアブノーマル
　その中心にいるのは彼の千年紀最高の科学者、フレッドリーツ・レアライヒ

１１８：名無しのアブノーマル
　はっきり言って女帝様以外関係性がなさすぎる

１１９：名無しのアブノーマル
　まあ晩年というか一年くらい前から女帝様の配下だったからな

１２０：名無しのアブノーマル
　そして女帝様の宮殿で裸ダッシュかました挙げ句意味分からん魔法陣で自殺、と……

１２１：名無しのアブノーマル
　その結果なぜか女帝様が大激怒　女帝勅令発動、意味不明な懸賞金をかけたと思ったら流星海嘯↓王道楽土へ突如突撃

１２２：名無しのアブノーマル
　その間に娘ちゃんが結婚配信開始、聖王様の結婚撤回要求とフレッドリーツ夫宣言

１２３：名無しのアブノーマル
　もう訳分からなすぎる……何したんだよフレッドリーツって全世界で非難轟々

１２４：名無しのアブノーマル
で、実際何をシたかというと……

１２５：名無しのアブノーマル
つ『フレッドリーツ・レアライヒが性癖達成を語るスレ』

１２６：名無しのアブノーマル
ヤバイヨヤバイヨ……

１２７：名無しのアブノーマル
こんなん健全な世の中の皆様に出せるわけないだろ!!!　いい加減にしろ!!!!!

１２８：名無しのアブノーマル
まさかたった一人の男の性癖で世界崩壊の危機とはな……

１２９：名無しのアブノーマル
どうなっちまうんだよもう……ところで娘ちゃんの様子は？

１３０：名無しのアブノーマル
女帝様ガン無視して数時間に渡る結婚パレードをようやく終えたところ

１３１：名無しのアブノーマル
今娘ちゃんが作った超豪華メルヘン式場で盛大な結婚式かまそうとしてる

１３２：名無しのアブノーマル
草

１３３：名無しのアブノーマル

申し訳ないが草

１３４：名無しのアブノーマル
その間も娘ちゃんの国民が女帝様にヒャッハーして銀河に吹き飛んでるんですよ

１３５：名無しのアブノーマル
あいつらマジ頭おかしい　力の差は歴然なのに

１３６：名無しのアブノーマル
天体を天体と理解するアリが集団で穴掘ってるような状態

１３７：名無しのアブノーマル
そして地震雷女帝様でバラバラになる、と……

１３８：名無しのアブノーマル
聖王様いなかったらほんまに死んでるぞ　いや関係ないかあいつらには

１３９：名無しのアブノーマル
人生を最高に楽しむことしか考えてない連中　その蔑称が伊達じゃないと改めて分からされた

１４０：名無しのアブノーマル
ホントのホントにヤバイ連中だったな　この世紀末で一番輝いてるまである

１４１：名無しのアブノーマル
ちなみにこのことをコメントされた娘ちゃんの反応
『ボクのために頑張るのは当然だよね？　みんなー、頑張れ♡　頑張れ♡』

ついでに女帝様突撃と聖王様撤回要求に対する反応
『え？　あの人来てるの？　呼んでないんだけどなぁ……ホント空気読まないよね、長生きだけが自慢のトカゲおばさんはさ』
『勘違い女が彼を自分の夫って言ってる？　はぁー……嘆かわしいね。ちやほやされ過ぎて頭がプリンになっちゃったのかな？　可哀想を通り越して哀れだよ』

１４２：名無しのアブノーマル
娘ちゃん、満面の笑顔でフレッドリーツらしき物体に抱きつきながらこれを全世界放送

１４３：名無しのアブノーマル
女帝様、かつてない御尊顔で加速

１４４：名無しのアブノーマル
聖王様ですらピキッてた　あんなお顔はじめて見た

１４５：名無しのアブノーマル
娘ちゃん……完全にメスでしたね

１４６：名無しのアブノーマル
メスというかメス猫？　女豹？

１４７：名無しのアブノーマル
勝ったのは自分だと言わんばかりのしたり顔……思わず暴発しました

１４８：名無しのアブノーマル
女帝様が忠誠　聖王様が監禁と続いたところにどストレートで結婚発表したからな

149：名無しのアブノーマル
というかやっぱり娘ちゃんもなんだね……

150：名無しのアブノーマル
まあ聖王様もそうだけど娘ちゃんは更に残当というか……

151：名無しのアブノーマル
あんな終わり方したあと、生きてたって気づいたらそりゃね？

152：名無しのアブノーマル
一生手放すわけないんだよなぁ

153：名無しのアブノーマル
だが……だが……やはり認められない!!!

154：名無しのアブノーマル
幸せになるべきは女帝様!!!　聖王様でも娘ちゃんでもない!!!

155：名無しのアブノーマル
また出てきましたね　神の祝福に逆らう愚か者どもが

156：名無しのアブノーマル
フレッドリーツは聖王様の夫　もう決まってんだよね　理解しろ

157：名無しのアブノーマル
お前らホンマ分かってないなぁ　今の状況見てみろ

158：名無しのアブノーマル
勝者は誰だ？　どう考えても娘ちゃんだろうが　そんなことも分からないの???

159：名無しのアブノーマル
お???　やるか???

160：名無しのアブノーマル
世紀末だろうが関係ねえぞこっちは

161：名無しのアブノーマル
現実見れない大人ってこれだからさぁ

162：名無しのアブノーマル
やめやめろ　またスレを無駄に消費するな

163：名無しのアブノーマル
フレッドリーツの帰還を待つスレなんだぞ　争いは他所でやれ

164：スレ主
キックしたわ　とにかく随時対応していく　だから早く帰ってきてくれイッチ

165：名無しのアブノーマル
安否は分かってるんだけどな……娘ちゃんの横で魔導拘束グルグル巻き

166：名無しのアブノーマル
何がどうしてそうなったのか早く知りたい

167：名無しのアブノーマル
この世紀末で、それを知らないことだけが心残りなんだ

168：名無しのアブノーマル
世界が終わろうとしてるその時に性癖に耽る……つくづく救えな

いよね、俺達って

169：名無しのアブノーマル
しょうがねえ　そう生まれたんだ　最後まで貫こうぜ

170：名無しのアブノーマル
せやな　終わりを嘆くより今この一瞬を輝くんや

171：名無しのアブノーマル
解き放とう……俺たちの命の煌き！

172：名無しのアブノーマル
下半身からな!!!

173：フレッドリーツ
ホンマ救えねえよ……俺も、お前らも……
でも、そうだよな……諦めたら何も始まらねぇよな……

174：名無しのアブノーマル
!?

175：名無しのアブノーマル
!!??!?

176：名無しのアブノーマル
イッチ!?

177：名無しのアブノーマル
フレッドリーツ!!!

178：名無しのアブノーマル

やっと帰ってきたか!!!

179：名無しのアブノーマル
配信は!?　状況は!?

180：名無しのアブノーマル
娘ちゃん、何らかの準備のため拘束を一部解除した模様

181：名無しのアブノーマル
だから帰ってきたのか！　イッチ！

182：フレッドリーツ
正直時間が飛んだ感覚　今感度最大にして情報収集と分析して記憶の穴埋めしてる
なるほどな……こんなことになってるのか　俺のせいで……

183：名無しのアブノーマル
そうだぞ！

184：名無しのアブノーマル
全部お前のせいだぞ！

185：名無しのアブノーマル
今世界滅びかけてんだよイッチィ！

186：名無しのアブノーマル
だから話せ！　全部話せ！

187：名無しのアブノーマル
何があったんや！　ワイらに教えるんやイッチ！

１８８：フレッドリーツ
　あぁ……まあ、そんな難しいことじゃない
『聖王の檻』が破られた　【主羅統娘】の力でな
　そのまま俺は抱きつかれて記憶ぷっつん　気がついたら【主羅統娘】に拘束された状態に陥ってる

１８９：名無しのアブノーマル
　ふーん……え？

１９０：名無しのアブノーマル
　絶対脱出不可能とは

１９１：名無しのアブノーマル
　ここは娘ちゃん流石、というべきなのか……？

１９２：フレッドリーツ
　それで合ってる　【主羅統娘】のやり口が華麗過ぎた
　よくもまあ、あんな方法で『聖王の檻』を突破したもんだよ　知識もそうだが根気もなきゃ絶対できん
　たとえるなら砂漠で覆われた惑星の兆レベルの量の針の穴を延々と探して通し続けるようなもの
　なんでこんな頑張れるんだ……見た目は取り繕ってるけどもうボロボロだぞ……

１９３：名無しのアブノーマル
　そりゃ、ねぇ？

１９４：名無しのアブノーマル
　イッチには分からない？

１９５：名無しのアブノーマル

愛じゃよ

１９６：名無しのアブノーマル
ホントは分かってるんでしょ？

１９７：フレッドリーツ
……まぁ、な……【主羅統じょ……ネスキスの嬉しそうな顔みたら流石に分かるよ……

１９８：名無しのアブノーマル
ん？

１９９：名無しのアブノーマル
おやおや？

２００：名無しのアブノーマル
どうして言い換えたんですかねぇ

２０１：フレッドリーツ
だって【主羅統娘】って書き込むたびに泣きそうな顔するんだもん、しょうがねーじゃん

２０２：名無しのアブノーマル
マジか???

２０３：名無しのアブノーマル
ホンマや　配信ちょろっと見返したら表情コロコロ変わってる

２０４：名無しのアブノーマル
まるでイッチと会話してるかのよう

２０５：名無しのアブノーマル
　実際はふわふわしながら直立不動の物体に腕のせ顎のせしてるだけだけどな

２０６：フレッドリーツ
　どうしてこうも俺の好きな女は俺からの呼び方に拘るんだよ……俺なんか見捨ててくれよ……
　その方が良かった……その方が『誰と話しているんだい？』

２０７：名無しのアブノーマル
　えっ

２０８：名無しのアブノーマル
　んうぇ？

２０９：名無しのアブノーマル
　あっまさか

２１０：名無しのアブノーマル
　そんなバカな……

２１１：フレッドリーツ
　ネスキス!?　どうやっ『ボクの目をごまかせると思うなんて、君も思い上がったものだね。しばらくボクの下から離れたせいでこんな簡単なことも忘れちゃったんだね』

２１２：フレッドリーツ
（）

２１３：名無しのアブノーマル
　おいおい

２１４：名無しのアブノーマル
聖王様に続いて、なのか……？

２１５：名無しのアブノーマル
いやだ、いやだ……!!!　認めたくない、こんな現実!!!

２１６：名無しのアブノーマル
諦めろ　世界が終わりそうなんだ　何が起こってもおかしくない

２１７：フレッドリーツ
『……くそっ、バカみたいなプロテクトがかかってる……このボクに突破できないなんてありえない……こんな真似ができるのは、まさか神の仕業……？
……まあいいか。君はここにいるんだからね。ずっとボクと一緒って約束したんだから、ちょっとくらい自由を許すのも良妻の務めってものさ。
ほら、もういいよ。ボクはちょっと準備してるから、その間は好きにしててね――ダーリン♡』

２１８：フレッドリーツ
取り戻した　というか取り戻させられた
ネスキス、いつの間にこんなに成長したんだ……少なくとも下僕としての俺がいた時はできなかったぞ……

２１９：名無しのアブノーマル
イッチ……？

２２０：名無しのアブノーマル
今のは、娘ちゃん……なのか……？

221：名無しのアブノーマル
やめろ……希望を持たせるな……裏切られるのはもうたくさんだ
……

222：名無しのアブノーマル
でも、反応的にこれは……

223：フレッドリーツ
悪い、混乱させた
結論から言おう　ネスキスはアブノーマル板を認識してないが嗅ぎつけた
神の施したプロテクトに阻まれたみたいだが、俺を通して書き込みはできるらしい
いや、書き込んだという認識もないはずだ　つまりはお前らの言うところの……脳内垂れ流し、ってやつだな

224：名無しのアブノーマル
!?

225：名無しのアブノーマル
!?（ビキビキ）

226：名無しのアブノーマル
娘ちゃんの脳内垂れ流し……!?

227：名無しのアブノーマル
希望……？　本物なのか……？
本物の、希望……キタ――――（。∀。）――――!!

228：名無しのアブノーマル
なにやってんだイッチ！　はよ娘ちゃんに権限返せ！　はよはよ

はよ!!!

229：フレッドリーツ
無茶言うなや　今の俺はあるゆる決定をネスキスに握られてんだ
俺には何もできんよ　このまま流れに身を任せるだけだ

230：名無しのアブノーマル
そんなぁ!?

231：名無しのアブノーマル
どうにかしろよイッチ！　その自慢の脳みそでよぉ！

232：名無しのアブノーマル
そのための頭脳だろうが!!!

233：フレッドリーツ
いや、俺は曲がりなりにも性癖を消し去りたい一心で研究に没頭してたんだが……
まあ関係ないか　とにかく無理　何もできない　期待には応えられませーん

234：名無しのアブノーマル
あ、こいつ！

235：名無しのアブノーマル
開き直りやがった！

236：名無しのアブノーマル
ちくしょう……ちくしょう！　せっかく娘ちゃんの脳内垂れ流しのチャンスだったのに！

２３７：名無しのアブノーマル
　くそぅ、どうすればいいんだこの衝動……！
　……とりあえず配信ちょっと戻して娘ちゃんの書き込みのところ見てみるか

２３８：名無しのアブノーマル
　あの時、あの子は、何を考えていた???

２３９：名無しのアブノーマル
　それを気づかれずに知れる背徳……たまりませんなぁ！

２４０：名無しのアブノーマル
　うひょーい！　イックゾー！

２４１：名無しのアブノーマル
　っと待てぃ！　今娘ちゃんなんつった!?

２４２：名無しのアブノーマル
『これからダーリン♡　と誓いのちゅう♡　しまーす♡』だってぇ!?

２４３：名無しのアブノーマル
　イッチ！　おいイッチ！

２４４：名無しのアブノーマル
　反応しろこのポンコツゥ！

２４５：フレッドリーツ
　待て、待て待てネスキス!?　それやばい！　『契約の烙印』じゃん！

２４６：名無しのアブノーマル
『契約の烙印』って？

２４７：名無しのアブノーマル
ああ！

２４８：名無しのアブノーマル
まあ説明するまでもない　私は娘ちゃんの物ですって示すだけの代物

２４９：名無しのアブノーマル
※ただし一生消えません

２５０：名無しのアブノーマル
※死んでも死んだ後も消えません

２５１：名無しのアブノーマル
神ですら完全に消し去るのは無理なんだっけ？　そんなこと前言ってた気がする

２５２：名無しのアブノーマル
神に聞けば？　すぐレス返ってくるでしょ

２５３：スレ主
あへあへでスレ消費するからＮＧ登録してるぞ

２５４：名無しのアブノーマル
おぅい!!!

２５５：名無しのアブノーマル
そういやイッチのスレじゃなかった！

２５６：名無しのアブノーマル

イッチには早く自スレ立ててもろて……

２５７：フレッドリーツ
そんな暇ねーよ！　今マジでやばいんだって!!!　あっ

２５８：フレッドリーツ
『ふぅ……まったくじたばたしちゃって。そんなにボクを困らせたかったのかい？
もしかして、ボクの気を引きたくてやったのかな？　そうだとしたら……フフッ♪　お茶目なところもあるんだね、ダーリン♡』

２５９：名無しのアブノーマル
ファッ!?

２６０：名無しのアブノーマル
娘ちゃん!!??

２６１：名無しのアブノーマル
これはさっきイッチが言ってた……！

２６２：名無しのアブノーマル
脳　内　垂　れ　流　し

２６３：名無しのアブノーマル
配信みろ!!!　同時視聴だ!!!　貪れるだけ貪れ!!!

２６４：名無しのアブノーマル
この快楽から……俺は逃げない……!!!

２６５：フレッドリーツ
『さて、もう準備はできたよ、ダーリン♡　みんなもボクたちを祝福し

てくれるみたいだ。
……正直、ちょっと照れくさいかな？　でも君と一緒なら、ボクは何も怖くないよ』

２６６：フレッドリーツ
『さあ、目をつむって……こらこら、首を振って逃げたらダメだよ？……ボクだって恥ずかしいんだからね』

２６７：フレッドリーツ
『でも、それ以上に幸せだよ……だから受け止めて、ダーリン……♡』

２６８：フレッドリーツ
『んっ……♡』

２６９：フレッドリーツ
『……フフッ、アハハ！　唇だと思った？　ざんねーん、ボクがちゅうしたのはほっぺたでしたー！』

２７０：フレッドリーツ
『期待した？　期待しちゃった？　だって君はボクのこと大好きだもんね！　すけべ♡　へんたい♡　あたまえっち♡』

２７１：フレッドリーツ
『本当に君は欲しがり屋さんなんだから……しょうがないなぁ。これからはボクがたくさん、たくさん、たーくさん満足させてあげるから、安心しなよ！』

２７２：フレッドリーツ
『ボクのダーリン♡　になれて良かったって、心の底から思わせてあげるから！　だから一緒に、幸せになろうね！』

２７３：フレッドリーツ
『……あとさ……本気のちゅうは、みんなのいないところでやろうね……♡　だから、お願いだよ？　今度は君から、ボクにしてほしいな……♡♡♡』

２７４：フレッドリーツ
『……ん？　ああ……全くもう、本当に空気を読まないね、あのおばさん。勘違い女も来てるみたいだしさ……
ちょっと待っててね、ダーリン♡　すぐ終わらせてくるから、良い子にして待ってるんだよ……♡』

２７５：フレッドリーツ
……やっと戻してくれた……でもどうしよう、これ……

２７６：名無しのアブノーマル
いやぁ……

２７７：名無しのアブノーマル
素晴らしかったね……

２７８：名無しのアブノーマル
感服、いたしました……！

２７９：名無しのアブノーマル
こんな幸せなことがあっていいのだろうか

２８０：エウラリア・カリエントゥス
あぁあああああ旦那様あああああああああ!!!!!

２８１：名無しのアブノーマル
!?

２８２：名無しのアブノーマル
聖王様!?

２８３：エウラリア・カリエントゥス
おのれ、【主羅統娘】！　公衆の面前で、私の旦那様にあのような辱めを受けさせるとは!!!

２８４：エウラリア・カリエントゥス
不覚……！　まだ子供だと侮っていた……！　貴様はもう立派な女狐、女の類というわけだ!!!

２８５：エウラリア・カリエントゥス
であれば、私も容赦はしない！　我が聖剣、我が主に誓い、必ずや私の旦那様を取り戻す!!!

２８６：エウラリア・カリエントゥス
ですから旦那様、どうか待っててくださいね！　【主羅統娘】から受けた心の傷はさぞや深いでしょうが、私が絶対に癒やして差し上げますから！
ああ、旦那様……私の旦那様……♡　旦那様

２８７：スレ主
一人で５レスも消費したからＮＧ登録したわ
ここはイッチのためのスレ　いくら聖王様でもそれは守ってもらわないとね

２８８：名無しのアブノーマル
＞＞２８７

ええ……

２８９：名無しのアブノーマル
＞＞２８７
お前……すげぇな……

２９０：名無しのアブノーマル
＞＞２８７
普通への偏愛（ノーモフィリア）っぽい……いやレスの消費やめとこう　ＮＧされたくない

２９１：フレッドリーツ
マジでどうしよう……目の前で三界の主が争ってる……俺を巡って……
地獄かな???

２９２：名無しのアブノーマル
お前が望んだことだ

２９３：名無しのアブノーマル
地獄で会おう　そう言ってたじゃないか

２９４：名無しのアブノーマル
ここがそうだ　良かったなイッチ　願いが叶って

２９５：フレッドリーツ
こんな地獄望んでない……

２９６：名無しのアブノーマル
まぁまぁ、そう言わずに……アイエッ!?　娘ちゃん消えた!?

２９７：名無しのアブノーマル
女帝様と聖王様も娘ちゃん見失った!?　マジで!!??

２９８：名無しのアブノーマル
ここで配信終了!?　嘘だ、そんなのやめてくれ、嘘だぁ!!!

２９９：フレッドリーツ
ネスキスごと転移したわ　ここ知ってる　俺が監禁調教されてた部屋だ
ふぅー……詰んだな　控えめに言って
どうしよう???

【娘ちゃんねる】イッチことフレッドリーツ・レアライヒが来るのを待つスレ６６６【同時視聴】その２

３００：フレッドリーツ
とりあえず情報収集するか
おーい、そっちどうなってるー？

３０１：名無しのアブノーマル
死ゾ

３０２：名無しのアブノーマル
冗談抜きで世界が軋んでる

３０３：名無しのアブノーマル
地面ガタガタ空間ギシギシ　終末を感じるんだね

３０４：名無しのアブノーマル
生きている内に世界ごと破滅したい俺の性癖が満たされるなんて思わなかった……
ありがとうイッチ……うっ……うっ……うっ……

３０５：名無しのアブノーマル
休む暇もなく耽ってるやつもいる

３０６：名無しのアブノーマル
つまり俺らは通常運転　それだけは変わらないんだね

３０７：フレッドリーツ
なるほど　ヴァルガリエとエウラリアは？

３０８：名無しのアブノーマル
　たぶん外宇宙かな？

３０９：名無しのアブノーマル
　イッチの魂捕捉してる聖王様が先駆けして女帝様が追っかけてった

３１０：名無しのアブノーマル
　三界から全ての主がいなくなり、現実は不安しか渦巻いてない

３１１：名無しのアブノーマル
　まああれよね……支配者のいない世界って、こんなに脆いんだって思うわ

３１２：名無しのアブノーマル
　ま、こっちはこんな感じや　次はイッチの番やで

３１３：名無しのアブノーマル
　娘ちゃんと何やってる？　つーかナニヤってる？　実況して♡

３１４：名無しのアブノーマル
　どうせ終わるんだ　俺たちの最後の望みを叶えてくれ、イッチ

３１５：フレッドリーツ
　……

３１６：フレッドリーツ
　そうだな　このまま何もしなくても、終わっちまうんだな
　じゃあ、最後くらい自分に素直になるか

３１７：名無しのアブノーマル

お？

３１８：名無しのアブノーマル
イッチ、何かを決める

３１９：名無しのアブノーマル
ワイらは見守ってるで、イッチ

３２０：フレッドリーツ
ネスキス　話がある　こっちに来てくれないか？

３２１：フレッドリーツ
そう、こっちだ……いやいやそうじゃなくて
服脱ぐのやめなさい　ベッドの準備もしないでいいから

３２２：フレッドリーツ
大事な話があるんだ　本当に、大事な話だ
ネスキスの将来に関わる話だ　最後まで、ちゃんと聞いてくれるか？

３２３：フレッドリーツ
……ありがとう、ネスキス　そうだな　話が終わったら何でも言うことを聞くよ
俺にできることなら、何でもな

３２４：フレッドリーツ
実はさ……俺にとって、お前は三番目なんだ

３２５：フレッドリーツ
【煌天女帝】ヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカ
【覇界聖王】エウラリア・カリエントゥス

俺はお前以外に、二人の女に手を出している

３２６：フレッドリーツ
おかしいと思わなかったか？　死んだはずの俺が、フレッドリーツとして蘇ったこと
ヴァルガリエが俺を追いかけること、エウラリアまで俺を夫だと言い張ること
全部、俺のせいなんだ　俺は……ただ俺の性癖を満たすためだけに、お前たちを利用した

３２７：フレッドリーツ
……冗談じゃないんだ　ちゃんと聞いてくれ　ネスキ――

３２８：フレッドリーツ
……

３２９：フレッドリーツ
俺の口を塞いでも、泣いても、嘘だって叫んでも、何も変わらない
俺にとって、お前は三番目だ　そして……お前と交わした全てが嘘だったことも、何も変わらない真実なんだよ

３３０：フレッドリーツ
俺が――正確には俺の魂の一部がお前の下僕になったのは、お前を傷つけたかったからだ
お前を泣かせたかった　お前を曇らせたかった　お前の心に、二度と消えない傷をつけたかった

３３１：フレッドリーツ
どうしてかって？　気持ちよくなりたかったからだよ
俺はずっと、それしか考えてなかった　それだけしか考えられなかったんだ

お前の下僕になったのも、歯向かったのも、調教を受け入れたのも、仲良くしたのも
全て、お前を最後に突き放すため……俺という『特別』を失って泣き喚くお前を見て、気持ちよくなりたかっただけなんだ

３３２：フレッドリーツ
ん……？　あぁ……確かに、婚約者も嘘だ　あれは自動人形　エルフの真祖とも関係はない
……目を逸らすな　希望を持つんじゃない、ネスキス　それ以外も、全部嘘だ

３３３：フレッドリーツ
お前の下僕だと言ったのも、お前の物になると言ったのも、お前と過ごした歳月も
ずっと一緒にいるって指切りした、お前との約束だって
全部、全部、嘘なんだ　俺はお前に、本当を何一つ見せやしなかった

３３４：フレッドリーツ
偽物なんだよ　お前が好きになった俺は、偽物なんだ　だから……っ!!

３３５：フレッドリーツ
……やめろ、ネスキス　これ以上は自分を傷つけるだけだ
そうだな　俺は逆らえない　お前がそうしたいと思うなら、俺に抗う手段はないだろう

３３６：フレッドリーツ
だが、それだけだ　俺はお前の物にはならない　俺は誰の物にもなれない……ただのクズな、半端者だ

３３７：フレッドリーツ
　体だけの繋がりほど、虚しいものはないぞ　ヴァルガリエも、エウラリアだって、俺のこの心だけは変えられなかった
　時間は何も解決してやくれない　お前を蝕み、壊し……そしてまた、俺を殺すことになる

３３８：フレッドリーツ
　ッ……!!　ああ、そうだ……良い目だ、ネスキス
　そんな風に恨まれて死にたかった　こんな風に憎まれて死にたかった
　バカみたいだろ？　性癖を満たしたって、俺は俺のためにしか生きられない

３３９：フレッドリーツ
　分かっちまったんだ　俺は俺というだけで、どんな付属品がつこうが意味のない、ただのクソ野郎だってな

３４０：フレッドリーツ
　……謝るなよ　俺が悪いんだ　それと、絆されるな　お前は俺を許しちゃいけない

３４１：フレッドリーツ
　泣かせてごめんな、ネスキス
　けれど、できるなら泣け　もっと泣け　いっぱい泣け
　そうすりゃ少しは、俺のことも忘れられる　知ってるか？　涙は前に進むための足跡なんだ
　まあ、俺は一度だって心から、泣いたことなんてないんだけどな

３４２：フレッドリーツ
　じゃあ、信用できないって？　ハハッ、その調子だ！
　信用なんかしなくていい　お前は、お前の道を行けばいい

３４３：フレッドリーツ
ただその道に、俺はいない　お前一人で歩いていくんだ
一緒には、行ってやれない　……ごめんな、ネスキス

３４４：フレッドリーツ
……これで、俺の話は終わりだ　あとは煮るなり焼くなり、好きにしろよ
ただし、できないことはできないって言うぞ　俺は本当に、くだらない生き方しかできねえから

３４５：フレッドリーツ
……この後か？　そうだなぁ……やっぱり、逃げるだろうな
ヴァルガリエが諦めるまで逃げる　エウラリアの愛想がつくまで逃げる
ネスキスが、俺を忘れるまで逃げる　そしたらどこかでひっそりと野垂れ死ぬさ

３４６：フレッドリーツ
なに、今度は成功させるさ　この世に絶対なんてない　どんな物事にも付け入る隙はあるもんだ

３４７：フレッドリーツ
……ん？　ネスキス、それはできないって……

３４８：フレッドリーツ
最後だから、思い出に……？　やめておけ、お前が辛くなるだけだぞ

３４９：フレッドリーツ
……本当の、本当に、それで諦めがつくんだな？

３５０：フレッドリーツ
……分かった　じゃあ、最後だ　改めて、自己紹介から始めよう
俺の名はフレッドリーツ・レアライヒ　ただのクソ野郎だ　貴方は？　我がお嬢様（マイ・レディ）？

３５１：フレッドリーツ
……ははは！　そうだな、笑える　最後だってのに、俺達はまだ出会ったばかりだ

３５２：フレッドリーツ
じゃあ、行くぞ　ネスキス……できるだけ、優しくするよ

３５３：フレッドリーツ
悪い、お前ら　ここまでだ　俺は落ちる
……聞いてくれてありがとな　いつかまた、会おうぜ　糞野郎ども

３５４：名無しのアブノーマル
乙

３５５：名無しのアブノーマル
おっつ

３５６：名無しのアブノーマル
おつつ

３５７：名無しのアブノーマル
終わり、か……

３５８：名無しのアブノーマル

思えばイッチの性癖達成自慢から一連の出来事は始まったんだな

３５９：名無しのアブノーマル
そうしてイッチの独白で終わる、と
おお、アブノーマル板らしくない綺麗な終わり方じゃないか

３６０：名無しのアブノーマル
まあクソ野郎がクソ野郎してるってだけの話なんだがな

３６１：名無しのアブノーマル
けどまあ、なんかしんみりしたよね

３６２：名無しのアブノーマル
いい気分だ　最後の日を迎えるには丁度いい

３６３：名無しのアブノーマル
さて、そんじゃあ締めに一発……ん？

３６４：名無しのアブノーマル
どした？

３６５：名無しのアブノーマル
娘ちゃんねるに更新が……『ｎｏ　ｔｉｔｌｅ』？　珍しいな

３６６：名無しのアブノーマル
あの娘ちゃんがタイトルに拘らないなんて　まあいいや、とりあえずポチッと
え？

３６７：名無しのアブノーマル
えっ???
???

３６８：名無しのアブノーマル
　ぽぇ？

３６９：名無しのアブノーマル
　えっっっっっ

３７０：名無しのアブノーマル
　薄暗い部屋……頼りない灯り……映ってんのは娘ちゃんと、イッチ!?

３７１：名無しのアブノーマル
　何やってんだよ、イッチ……ベッドに座って、お前に抱きつくみたいに娘ちゃん座ってるじゃねえか……

３７２：名無しのアブノーマル
　動いてる？　ねえ、動いてる？　絶対動いてるよねこれ???

３７３：名無しのアブノーマル
　これはまさか、伝説の……

３７４：名無しのアブノーマル
　これ絶対入ってるよね配信

３７５：名無しのアブノーマル
　キ

３７６：名無しのアブノーマル
　タ

３７７：名無しのアブノーマル

ア

３７８：スレ主
　規定回数以上のレスを消費したやつは順次ＮＧ登録します

３７９：名無しのアブノーマル
　……つ、つまりはライブ配信なんだよ！　娘ちゃんと、イッチのな！

３８０：名無しのアブノーマル
　そ、そうだな！　しかもこれ絶対入ってるよね配信！　伝説中の伝説！

３８１：名無しのアブノーマル
　娘ちゃんねる配信してるサイトは娘ちゃんの物だからＢＡＮの心配なし！

３８２：名無しのアブノーマル
　あー残念だなー！　これと一緒にイッチの書き込みが見たかったんだけどなー！

３８３：フレッドリーツ
『んっ……ダメだよ、よそ見しちゃ……今は、ボクだけを見て……』

３８４：名無しのアブノーマル
　!?

３８５：名無しのアブノーマル
　ファッ!?

３８６：フレッドリーツ

『君が、んっ……ボクの知らないどこかと繋がってるのは、んっ……分かるけど、今だけはやめてほしいな……
ごめんね？　今だけは、悪い子でいさせて？　君がボク以外を見てないか、不安なんだ……だから、許してね……んっ！』

３８７：名無しのアブノーマル
（娘ちゃん、脳内垂れ流し……！）

３８８：名無しのアブノーマル
（配信もだ……！　静かに、静かに……アイエエエエエエエエッ!!??
王道楽土だけじゃなくて女帝様と聖王様の前にも画面映してるぅうううううううううっ!!??）

３８９：名無しのアブノーマル
ファッ!?

３９０：名無しのアブノーマル
ファファファッッッ!!??

３９１：名無しのアブノーマル
それヤバイ、絶対ヤバイ、マジヤバイ!!!　まさか娘ちゃ

３９２：スレ主
ＮＧ登録します　私も規定回数超えたので自主ＮＧ登録します
今後は外からレス回数の監視だけやります　イッチのためのスレを荒らさないように

３９３：フレッドリーツ
『んっ……どうかしたの……？　外が騒がしい……？　そんなの、んっ、関係ないよ……
ボクだけを見て……ボクだけを……絶対に消えない思い出、ボクに

刻みつけて……』

３９４：フレッドリーツ
『んっ……んっ……んっ！』

３９５：フレッドリーツ
『んっ……フフ……こうしてると、あの時を思い出すね……
君の嫌がる顔も、泣いてる顔も、興奮した顔も、ボクは全部覚えてるよ……でも、嘘だったんだよね……
じゃあ、今は本当？　辛そうにしてる君は、苦しそうにしてる君は……それでも、ボクを好きって言ってくれる君は、本当の君なの？』

３９６：フレッドリーツ
『……そうなんだ……じゃあ、信じるね？　信じるから……もっと、強く抱きしめて……んっ！
好きだよ……好き、好き……大好き……ねえ、君からも言って……？　これが、最後だから……お願い……』

３９７：フレッドリーツ
『……もっと……もっと、もっと……！　ああ、嬉しいな……ボクも、大好き……！
んっ……ねえ、さっきのボクの言葉、覚えてる……？　二人っきりで、本気のちゅう、しようってさ……
君から、してほしいな……お願いだよ……ボクに、本気の大人のちゅうの仕方、教えて……？』

３９８：フレッドリーツ
『んっ……大人って、すごいんだね……ボク、全然知らなかったよ……
もっと教えて……？　もっと、もっと……ボクの知らないこと全部、君で染め上げてほしいな……』

３９９：フレッドリーツ
『んっ……んっ……んっ！』

４００：フレッドリーツ
『……ねぇ……そろそろ、ちょうだい……？　ボクの、君しか知らないところ……君だけが、知ってるところ……君で、埋め尽くして？
　これで、最後だから……ボクが受け止めきれないくらい、一杯にして……？』

４０１：フレッドリーツ
『んっ、んっ、んっ！』

４０２：フレッドリーツ
『……♡』

４０３：フレッドリーツ
『……ほんとにさ、空気読まないよね。トカゲおばさん。
　あ、勘違い女もいるんだ。まあ別に、どうでもいいけどね』

４０４：フレッドリーツ
『分かるよね？　分からない？　ボクと彼がどういう関係かなんてさ、言わなくても伝わるよね？
　……ふーん、そんなこと言うんだ。じゃあ、ちょっと見せつけてあげようかな』

４０５：フレッドリーツ
『……ごめんね。これで最後、のつもりだったけど……ボク、やっぱり諦めきれないや』

４０６：フレッドリーツ

『良い子には、なれないよ……だってボクの好きな人は――こんなに悪い人なんだからさ♡』

４０７：名無しのアブノーマル
あ

４０８：名無しのアブノーマル
配信切れた

４０９：名無しのアブノーマル
ブラックアウト

４１０：名無しのアブノーマル
ここで終わり、か……

４１１：名無しのアブノーマル
……ふぅ……

４１２：名無しのアブノーマル
正直どうだった？

４１３：名無しのアブノーマル
最の高

４１４：名無しのアブノーマル
過去一どころか歴史上俺ほど満足した奴は稀有ってレベル

４１５：名無しのアブノーマル
イッチの独白で清々しい気分になってた　そんなの全部吹き飛んだ
娘ちゃん最高　これに比べればイッチなんてカスやカス

４１６：名無しのアブノーマル
ほんまもんのカスやし　残念でもないし当然

４１７：名無しのアブノーマル
ＮＧも怖いし感想はこの辺にしとこ
それでさ、娘ちゃんとイッチがラブラブしてる間何があったん？

４１８：名無しのアブノーマル
ワイプで全部乗ってなかった？　いや、あれ人によっては無効にしてるか
じゃあ説明するで　まず娘ちゃんの配信、あれ外宇宙らしき場所にいる女帝様と聖王様も見てた

４１９：名無しのアブノーマル
かつての世界の残骸がある場所かもな　そこで……なんていうか、『無』を攻撃してるお二方の前に突然それは現れた
娘ちゃんとイッチのこれ絶対入ってるよね配信や

４２０：名無しのアブノーマル
どうみても合意でイッチが自主的にやってる配信、女帝様と聖王様ビキビキビキビキ
攻撃の深度が激化する　しかし状況は変わらず

４２１：名無しのアブノーマル
そうこうしてる内にイッチと娘ちゃんがお互いに好き好き愛してる言い始める
女帝様、鬼神　聖王様、菩薩

４２２：名無しのアブノーマル
けれどそれはもう破滅をもたらす前触れにしか見えんかったのよ

ね

４２３：名無しのアブノーマル
桁違いに膨れ上がった攻撃はついに、『無』にひびを入れ、こじ開ける

４２４：名無しのアブノーマル
そこには丁度フィニッシュ中の娘ちゃんとイッチがおったんやなぁ

４２５：名無しのアブノーマル
もう感情が振り切りすぎて無表情になった女帝様と相変わらずの菩薩フェイスの聖王様、乗り込む

４２６：名無しのアブノーマル
そしたら顔面蒼白のイッチに囁いて、娘ちゃん立ち上がって出陣

４２７：名無しのアブノーマル
立ち上がった瞬間からずーっとドボドボしてんのを、女帝様と聖王様に誇らしげに見せつけたところで配信終了

４２８：名無しのアブノーマル
もうあとはね……分かるでしょ？

４２９：名無しのアブノーマル
修　羅　場
はっきり分かんだね

４３０：名無しのアブノーマル
なるほどな　そんなことがあったんか
道理で世界のギシギシ度がレベルアップしてるわけや　もうこれ

終わっちゃうね

４３１：名無しのアブノーマル
　三界の主、その力の激突は世界崩壊を意味する

４３２：名無しのアブノーマル
　それはもう不可避　カウントダウンはとっくに一分を切ってるわけよ

４３３：名無しのアブノーマル
　本当に終わるんやなぁ……こんな穏やかな気持ちで逝けるなんて

４３４：名無しのアブノーマル
　娘ちゃん様々やで　アブノーマル板の住民であることに初めて感謝したわ

４３５：名無しのアブノーマル
　まあ王道楽土の連中も見てるはずだが、あいつら関係ないしな

４３６：名無しのアブノーマル
　今日も元気にヒャッハー中　終わるその時までヒャッハー祭り

４３７：名無しのアブノーマル
　時々娘ちゃんの配信無視するまであるもんな……その時のぐぬぬ顔の娘ちゃんはええぞ

４３８：名無しのアブノーマル
　見たいが、もう時間もない
　……そろそろ、お別れタイムといくか

４３９：名無しのアブノーマル

じゃあな、お前ら　楽しかったよ

４４０：名無しのアブノーマル
良かったぜ　お前らとは

４４１：名無しのアブノーマル
来世があるならまた会おうや

４４２：名無しのアブノーマル
その時は、できることなら同類としてじゃなく、友人としてな

４４３：フレッドリーツ
どうしよう

４４４：名無しのアブノーマル
ではなー　っっっっってぇ!?　イッチィ!?

４４５：名無しのアブノーマル
まさかの再臨

４４６：名無しのアブノーマル
もう二度と会えないと思ってた！　状況を教えろ！

４４７：名無しのアブノーマル
喋れ！　実況するんじゃ！　今どうなってる!?

４４８：フレッドリーツ
それどころじゃないんだよ……あ〜くそ、どうすりゃいいんだ……

４４９：名無しのアブノーマル

イッチ？

４５０：名無しのアブノーマル
様子がおかしい

４５１：フレッドリーツ
……悪い、駄目だわ　やっぱ我慢できねぇ
ネスキス　おーい、ネスキス　喧嘩で世界終わらせる前にこっち来てくれ

４５２：フレッドリーツ
あ゛ー駄目駄目　お前らは駄目だ　待て、待てだぞ　そこで待てようし、良い子だ　ヴァルガリエ　エウラリア

４５３：フレッドリーツ
なんだよ、むくれるなって　今の俺にはお前しか見えてねえよ
だからさ、悪いんだけど……あと十回くらい付き合ってくれ

４５４：フレッドリーツ
お前が壊れないようにな？　優しくしたんだがな？　でも駄目だわ、全っ然満足できねぇ
ネスキス、お前が悪いんだぞ……俺は良い子のお前を信じてたのに……お前が悪い子になるから、いけないんだ……

４５５：フレッドリーツ
だから……おい、そんな嬉しそうにするな　かなりキツいから、今から覚悟しとけ
無理だと思ったらちゃんと言えよ　そしたら、少しくらいは……優しくしてやるからな……

・
・
・
７５６：フレッドリーツ
ふぅーーーー……あー、すっきりした
７５７：名無しのアブノーマル
お
７５８：名無しのアブノーマル
帰ってきたなイッチ
７５９：名無しのアブノーマル
お帰り　もう何度目だろうな、このやり取り
７６０：フレッドリーツ
さあな、数えてねえよ
それより、そっちはどうだ？
７６１：名無しのアブノーマル
まだ世界、残ってるよ！
７６２：名無しのアブノーマル
地震も空間断裂も一応は収まりつつある
７６３：名無しのアブノーマル
相変わらず不安は消えないけどな　ひとまずの危機は去った感じ
７６４：名無しのアブノーマル
みんな三界の主がどこへ消えたか、そればかり話してるよ

765：フレッドリーツ
そうか　まあ、そうなるよな
……まさかベッドで三人とも白目剥いてるとは思わんよなぁ

766：名無しのアブノーマル
そりゃね

767：名無しのアブノーマル
イッチ、性欲で世界の危機を粉砕

768：名無しのアブノーマル
喜んでた娘ちゃんはともかくとしてさ　女帝様と聖王様、イッチの言葉に全然逆らえてなかったよね

769：名無しのアブノーマル
待ての一言で動きを封じてまずは娘ちゃんを優しく撃沈

770：名無しのアブノーマル
ことが終わったあと、我慢できなくなった女帝様が突撃
しかしイッチに組み敷かれ一転、娘ちゃんとは比べ物にならないくらい激しく爆沈

771：名無しのアブノーマル
最後は律儀に待ってた聖王様が期待の眼差しでイッチを見て、そのまま押し倒されて轟沈

772：名無しのアブノーマル
最後に立っていたのはイッチ　これだけははっきり分かんだね

773：フレッドリーツ
もうたってねえよ　あー、満足した　やるだけやった　もう性欲が

湧いてこねえ
　これが賢者タイムってやつか？　だったらすげぇな　こんな晴れやかな気分初めてだ……

７７４：名無しのアブノーマル
　イッチがなんか噛み締めてる

７７５：名無しのアブノーマル
　そのために生きていたような男　でも性癖は満足させたって言ってなかった？

７７６：フレッドリーツ
　そのつもりだったよ　実際性癖に理性が勝ってたしな
　でもここまでじゃなかった　小出しにやったのが悪かったのか……
　……あるいは、三人同時じゃなかったから、悪かったのかもな

７７７：名無しのアブノーマル
　はえー

７７８：名無しのアブノーマル
　三界の主三人同時とか男の夢ですよ

７７９：名無しのアブノーマル
　女の夢でもあるゾ

７８０：名無しのアブノーマル
　性別がなくても夢なんだよなぁ

７８１：名無しのアブノーマル
　で、どうすんの？　イッチ？

７８２：名無しのアブノーマル
三界の主が起きたらまたやんの？

７８３：フレッドリーツ
いや……それじゃあ問題の先送りだしな
もう決めたことだ　最後くらい自分に素直になるってな
つーわけで起こしてくる　ちょっと待ってろ

７８４：名無しのアブノーマル
おｋ　いてら

７８５：名無しのアブノーマル
自分から起こすのか……

７８６：名無しのアブノーマル
まあことが終わったあとだしね？　ワンチャン動けないまである

７８７：名無しのアブノーマル
でも三界の主だしなぁ……状況を認識した途端、世界崩壊も有り得るぞ

７８８：名無しのアブノーマル
やってる時は知能指数下がるからな　冷静に事実を受け止めたらやばそう

７８９：名無しのアブノーマル
さて、どうなることか……

７９０：名無しのアブノーマル
俺らはただ、見届けるだけだ

７９１：フレッドリーツ
後処理して起こしてきた　案の定三人で言い争ってる

７９２：フレッドリーツ
流石にすぐには武力行使できねえみたいだが、それも時間の問題かな？

７９３：フレッドリーツ
それにしても……ククッ　笑えてくるぜ　なんでこいつら誰が俺の一番かで競い合ってるんだ？

７９４：フレッドリーツ
なんだろうな……本当に、笑えてくる
なあ、教えてくれお前ら　俺は今、どんな顔してる？
【上半身裸で椅子に座り、ベッドらしき端っこを眺める――歯を剥き出しにして、心底愉しそうに笑う男の画像】

７９５：名無しのアブノーマル
イッチ……？

７９６：名無しのアブノーマル
なんだこの顔……こんなイッチ見たことねえ

７９７：名無しのアブノーマル
今までも笑っちゃあいたけど……こんなんじゃなかった

７９８：名無しのアブノーマル
もしかして、イッチさ……

７９９：名無しのアブノーマル

……修羅場、楽しんでる？

幕間　ヒロイン視点【主羅統娘】の決意

ボクと彼の部屋を後にしたボクが始めたのは、世界の叡智へと飛び込むことだった。

魔族は体が魔力でできている。だからある程度はそのコントロールが可能だ。相手の理想の肉体に変化する淫魔、相手と同等の見た目と性能を得る死出の鏡の悪魔（ドッペルゲンガー）などが良い例だろう。

ボクは更に先を行く。肉体を希釈し、広げ、魔力の粒となり、世界の叡智――魔力の海と直接一体化することができる。

勿論、危険な行為だ。いくら魂という楔があるとはいえ、肉体を魔力の海と一体化させるのは、世界そのものと同一化してなおも存在し得る無類の精神が必要になる。

ボクに出来ない訳ないけど、これまでやろうともしてこなかったことだ。それを今、行うのは……彼を、絶対に取り戻すため。

彼と手を繋ぐため。彼と一緒に笑うため。彼の手を引っ張るため。彼と――ずっとずっと、これからの未来を歩むため。

そのためだけにボクは行く。世界と同質化し、偏在し、文字通りあらゆる事象となって世界の叡智（すべて）を体感する。

見つからない。見つからない。おそらくは神に次いで世界を見ているボクの視界に、彼の魂は映らない。

いや、魂だけじゃない。歴史、足跡、痕跡。『彼』が存在したという事実の数々が、人為的に消し去られ、その僅かな断片だけが見える。

まるで彼自身がそうしたかのようだ。でなければここまで徹底的に存在の証拠を消し去るなんてできない。けれど、どうして彼はそんなことを？

……考えるのは後だ。彼を見つけてから、その胸に飛び込んでから、また一緒になってから……彼と指切りした約束を果たしてからでも、遅くない。

世界を循環する魔力の海。それそのものとなったボクは、彼を探し

続けることに没頭した。

見つけた。見つけた。あいつの所だ。

【煌天女帝】ヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカ。うるさくて、いつもボクを見下してて、口を開けば自慢話しかしないトカゲおばさん。

ボクは別にどうでもいいけど、あいつは変にボクに突っかかってくる。まったく、年寄りの嫉妬は本当に見苦しいのにね。ボクが優しくそれを指摘してあげても、トカゲおばさんは怒鳴り散らすばかりなんだ。

思考が逸れた。哀れみと、そして警戒から逸れた思考を、ボクは彼に集中させる。

彼はあいつのケバケバしい宮殿の中を疾走しているようだった。なぜか全裸だ。そしてすごい笑っている。

……ひょ、ひょっとして、そんな趣味が……？　いやいや、彼に限ってそんな……で、でも、彼が望むなら……その……ボクも、付き合ってあげなくも……

って、何を想像させるんだ！　えっち！　すけべ！　へんたい！

まったく、彼は変わらない！　たとえ姿形が変わっても、肉体が変わっても、その魂はボクの知る彼のままだ。

……なんだかすごく濃い感じがするけれど。彼って、あんなに光り輝いてたっけ？　いや、勝てないとかそういうのじゃなくて、雄々しくて、逞しくて、なんだか逆らえない感じがするってだけで……

――ッ！　いけない、変なことを考えている間に、彼がとんでもないことをし始めている！

あれは自死の魔法陣、それも魂を滅却する禁忌の手段だ。あんなものに飛び込んでしまえば、魂は散り散りになり、二度と元には戻らないだろう。

させない。ボクはありったけの手段を用意して、魂の崩壊を防ぐ妨害を画策する。

そのためにはトカゲおばさんが邪魔だ。あいつにバレないよう、ボクはこっそりと準備する。

そうしている内にトカゲおばさんは動いた。急に彼を追いかけて、捕まえようとしている。

どうして？　その時のボクは、彼を追いかけるあいつの表情にヒュッと背筋を冷たいものが走ったような感じがしたけど、努めて無視した。

今は、彼を取り戻すことだけに全力を尽くす。彼がバラまいた写真、彼が彼になるまでの記録の数々に思わず飛び出したくなるのを我慢して、ボクはその時を待った。

魔法陣を構築し、自ら突入する彼。肉体が消滅し、魂すら散り散りになる寸前、ボクは隠していた手段を解放して、彼の魂を保護した。

……なのに……なのに、奪われた。彼を取り戻したと喜んだのもつかの間、するりとボクの手から彼の魂を掻っ攫っていった存在に、憤怒と憎悪が張り裂ける。

あいつだ。【覇界聖王】エウラリア・カリエントゥス。あの頭の緩い勘違い女が、ボクから彼を奪い取った。

許さない。許さない。許さない。ボクは隠しもしない再生術と蘇生術の痕跡を辿り、彼の魂が囚われた場所へと意識を飛ばした。

辿り着いたのは、勘違い女の根城である大聖堂……その最深部にある祭祀場だった。

神の偶像が見下ろす、大きなベッドのある一室。そこで彼の痕跡は完全に途絶えていた。

おかしい。彼の存在がそこにあると分かるのに、どこにいるのか検討もつかない。ボクは必死に探すけど、尻尾の先すら掴めない。

ボクの中に苛立ち混じりの罵倒が膨れ上がる。大体なんだ、あの勘違い女。知識によると、ここは結婚式専用の場所。しかも生涯別れないと誓う、とっても重い契約の場所じゃないか。

そんなところに彼を連れ込んで何を？　まさか、勘違い女もトカゲ

おばさんと同じ……？　頭を過ぎるその考えを、ボクは必死で振り払う。

ありえない。そんなの絶対にありえない。彼がまさか、そんなこと……けれど世界と同一化しているボクには、ある一つの答えを成そうとしている情報が集まってくる。

それを振り払って、ボクは探索に集中した。するとほんの僅かに、空間に微細なほつれを発見した。

ボクは慎重にそれを調べる。おそらくは、勘違い女の力。如何に世界を統べる運命の下に生まれたボクとはいえ、あいつらの力はボクと拮抗する。

焦ってはいけない。彼を確実に取り戻すためには、何重にも警戒しなければ。ボクは勘違い女にバレないよう、そっとほつれを紐解き、空間の亀裂へと侵入した。

その空間は巨大な牢獄のようだった。いや、勘違い女のやっていることを鑑みれば、まさしくそこは牢獄なのだろう。

幾重にも飛び出し絡み合う鎖。ガチガチに固められた厳重な檻。底へ、底へと行くごとに、強くなっていくあいつの力。

ここは牢屋だ。あいつでも手に負えないような犯罪者のために作られた牢獄の世界。その最下層に、彼の魂が囚われていることをボクは知覚した。

飛び出したかった。今すぐにでも向かいたかった。けれどそんなことをすれば勘違い女に察知され、即座に叩き出されてしまう。

ボクは伏することを選んだ。確実に、絶対に、彼を取り戻すために。勘違い女に気づかれないよう、途方もない警報と縛鎖を掻い潜りながら、少しづつ、少しづつ、彼に近づいていく。

それはとても長く、辛い時間だった。ボクという天才でさえ、疲労困憊を避けられない緊張の連続。実時間ではそうでなくとも、ボクは限界まで知覚を加速させてことに当たっていた。

疲れていた。休みたかった。叶うことなら全てを投げ出して寝てしまいたかった。

けれど、けれど、けれど。それは、彼を取り戻してから。彼を取り

戻して、添い寝してもらって、腕に抱きついて彼の体温を感じながらじゃないと駄目だ。

その一心で、ボクは牢獄を進んでいく。底へ、底へ、気付かれないように。勘違い女に悟られてしまえば、ここまでの全てが無駄になる。

……そうして、ボクの主観で長い時間が経った頃。ようやくボクは、彼の囚われている最下層へと辿り着いた。

もうすぐ。あと一歩。ここで走り出せば、すぐにでも彼の胸へと飛び込める。

けれど、すでに世界との同一化をやめ、収束した体をボクは必死で抑えていた。なぜなら、そこには……あの勘違い女を貪る、彼の姿があったから。

ズキリと、胸に痛みが走った。痛い。痛いよ。どうして君は、こんなにもボクを傷つけるの？

そう叫びたかった。叶うことならやめさせたかった。でも、ボクは止める。ボクを留める。必死に、涙を流しながら我慢する。

だって、ボクのことなんかどうでもいいんだ。ボクは、彼を取り戻したいだけ。絶対に絶対に、二度と離れ離れになりたくないだけ。

それさえ果たせるのなら、こんな痛みなんか無視できる。ズキズキと血を流すように痛む胸を掻きむしって、ボクはじっとその時を待った。

……やがて、彼が勘違い女から離れる。少しして、起き上がった勘違い女は、彼に変なことをしてどこかへと行ってしまった。

知覚を飛ばす。ここまでこじ開けた空間の亀裂から、ボクは勘違い女の動向を探る。

そしたら勘違い女は、なぜかトカゲおばさんと対峙していた。彼に貪られた痕をそのままに、人の良い笑顔でトカゲおばさんを煽っている。

勝手にやってろ。もう君たちにチャンスは訪れない。今しかないと確信したボクは、ベッドの端に座って消沈する彼へと、一目散に飛び出した。

やった、やった、やった！　ついに、ついに彼を取り戻した！　ボクの世界、王道楽土アマノウツロイで盛大なパレードを開催するボクは、満面の笑みでみんなに手を振る。

彼は本当にひどい有様だった。あちこちに、どこを見ても、勘違い女の匂いがこびりついてた。ボクは全力でそれを落として、ボクの匂いをつけようとしたけど、かろうじて我慢した。

まずは、まずは、情報戦だ。なぜかは分からないけれど、トカゲおばさんも、勘違い女も、ボクの彼を狙っている。

だったら最初は、知らしめるんだ。ボクの支配する世界に、あいつらが勝手に統治している世界に。ボクと彼が、運命で結び付けられた理想のパートナーだって、みんなに知ってもらうんだ。

勿論、みんなはとてもか弱い。あいつらがその気になれば、鎧袖一触に殲滅されるだろう。それでも、やるだけの価値がある。

散々ボクは見せつけられた。だったら、見せつけ返してやろうじゃないか。

彼が誰のものか、分からせてやる。ボクはその一心で、彼と一緒にパレードを行進した。

彼とのパレード……その、結婚式……♡　を終えて、ボクは予定通りボクと彼の部屋へと帰還した。

トカゲおばさんや勘違い女に乱入されたけど、計算の内だ。あいつらは馬鹿だから、最後には力押しに頼ろうとする。

分かっていた。だからボクはここへと帰ってきた。トカゲおばさんだろうが、勘違い女だろうが、絶対に入れないボクと彼の部屋へと。

最初からそう作った。当初の意図とは違うけど、今ははっきりとその役目を果たしている。

ここはボクの世界。ボクだけで完結した小さな箱庭。ここにはボクの権能が集約されていて、どんな手段を取ろうとあいつらに付け入る隙はない。

ボクたちは、三界の主と讃えられる存在は、各々がそういった権能

を持っている。相手の全力全霊を無効化する絶対防御。それがあるからこそ、ボクたちは今日まで世界を壊さなかった。

それももう、終わりだけれどね。ボクにはもうここ以外のことなんかどうでも良かった。

彼がいる。彼とボクが二人っきりでいる。その事実だけで、こんなにも胸が暖かくなる。ふわふわで、ぽやぽやで、幸せって呼べる感情で一杯になる。

ごめんね？　辛かったよね？　でももう、大丈夫だよ。ボクはそんな風に語りかけながら、彼の拘束を解いていった。彼はどこか疲れた顔でボクを見たけど、決して逃げようとはしなかった。

望んでいた反応じゃない。けれど、良いんだ。時間はたっぷりある。ボクと彼の時間を、これからゆっくり育んでいけばいい。そう思いながら鼻歌交じりで準備していたボクは、ふと彼に名前を呼ばれた。

なんだろう？　ひょっとして、もう？　我慢できなくなっちゃった？　フフフ、すけべ♡　へんたい♡　でも、いいよ……♡　だってボクも、もう我慢できない……♡　そんなことを言いながら、ボクは服を脱ごうとする。

でも、彼に止められた。ボクの魔力で作った彼の服を脱がそうとしたけれど、それもやめた。彼は、とても、とても、真剣に……ボクの瞳を見ていたからだ。

彼は言った。ボクの将来に関わる話だと。そして約束した。話が終わったら、何でも言うことを聞くと。

ボクは訝しみ、けれど報酬につられて、最後まで話を聞くと頷いた。頷いてしまった。

そうしてボクは、知らなかった――知りたくもなかった真実を、彼自身から聞かされることになる。

『実はさ……俺にとって、お前は三番目なんだ』

最初にそう言われた時、ボクは理解するのを拒否した。

何を言っているの？　君の『特別』はボク一人でしょ？　ねえ、そうだよね？　そうだと言ってよ。

ボクには、君しかいないんだよ？　君が、君だけが、ボクの隣にいてほしいのに……君は、ボク以外でも良いって言うの？

ボクが理解を拒否している間にも、彼は話を進める。聞きたくない、聞きたくない！　そんなの冗談だ、何かの間違いだ！

なおも言い募ろうとする彼に飛びついて、ボクはその唇を塞いだ。ボクの唇を重ねて、もう何も言えないようにする。

何度も、何度も、何度も何度も何度も。離れて、彼が話そうとする度に、ボクはまた唇を重ねる。

ボクは泣いていた。いつの間にか涙を流していた。それを彼は痛ましそうに見て、ボクの体をその腕で離す。

だから嘘だと叫んだ。三番目だなんて、ボクの上にあいつらがいるなんで嘘だと、ボクは必死になって彼に叫んだ。

でも、彼は嘘だと言ってくれなくて……ボクと彼が過ごした日々の全てを、否定し始めた。

彼は最初、ボクを傷つけたかったと懺悔した。ボクの心に、二度と消えない傷をつけたかったと、そう言った。

それ自体は、正直嬉しかった。昔だったら違うかもしれないけれど、今はもう、ボクは彼のものでいたかったから。

気持ちよくなりたかったからと言ったのも、許せた。だって彼がそれを望むんだ。ボクは、それを受け入れてあげたい。

それから、婚約者のことも嘘だって。あれはただの人形で、ボクを騙すためだけに用意した偽物だと言ってくれた。

ボクは嬉しかった。なんだ、全部ボクのためじゃないか。彼のためでもあるかもしれないけれど、そこまでしてボクの気を引きたかったと思うと嬉しくなった。

けれど、彼は希望を持つなと言って……全部嘘だって、そんなことを言うんだ。

良いんだよ。もう下僕じゃなくて良いんだよ。ボクのものじゃなくて良いんだよ。月日だって、これから重ねていけば良いじゃない

か。

けれど……けれど、それだけは駄目だ。それだけは……ボクと君との約束さえ嘘だって、そんなことを言うのだけは、許せなかった。

ボクの知る君は偽物だと言う彼を、ボクは押し倒した。魔力でベッドを作って、彼を寝かせて、その上にボクが乗る。

彼は言う。ボクの物にはならないと。誰の物にもなれないと。あいつらの名前を出して、ボクにも無理だと、そう言って。

そしてまた、ボクが間違えるって言われた瞬間、カッと体が熱くなった。

何を……何を勝手なことを言ってるんだ！　いい加減にしてよ！

ボクをそんなに怒らせたいの!?

思わず彼の首を締める。怒り、憎しみ、悲しみ。そういう負の感情が綯い交ぜになって、全部彼へとぶつけたくなる。

そうだ……そうすれば良いじゃないか。何を迷うことがある。全部全部、彼にぶつけてしまえばいいんだ。

君が悪いんだ……君が！　ボクをこんなに怒らせるから！

だから、しょうがないよね？　こうしたら、君はボクだけを見てくれるよね？　ねえ、ボクを見てよ。お願いだから、ボクだけを……

そうしたら、彼はいやに嬉しそうだった。まるでボクにそうされるのが望みだと言わんばかりに。

その顔に。苦しそうで、辛そうで、けれどやっと安心して眠れるって顔に。ボクはハッとして、彼の首から手を離した……

ごめんなさい……ごめんなさい！　苦しかったでしょ？　痛かったでしょ？　ボクは彼の首についた小さな手の痕を治そうとして、必死にすがりつく。

また、間違えるところだった。また、彼を失ってしまうところだった。何も学習していないボクを罵って、ボクは彼に謝る。

ボタボタと涙がこぼれる。ボクは泣いていた。君を失ってから、ボクはもう泣きっぱなしだ。

ねえ、気づいてる？　ボクは今まで、一回も泣いたことがないんだ。君のため以外に……君以外に、こんな感情を向けたことなんてないん

だ。

それなのに君は、ボクにもっと泣けなんて言う。そうしたら、君のことも忘れられるって……そんなの、絶対ありえないのに。

一度も心から泣いたことがないと彼は言う。ボクは、じゃあ信用なんてできないじゃないかと返す。

そしたら彼は笑う。その調子だと、いつものネスキスだと、ボクのことなんてお見通しって顔で言う。

そうだよ。君だけなんだ。君だけが、ボクを分かってくれる。君だけにしか、ボクのこんな顔は見せてあげたくない。

……なのにどうして、一緒に行けないなんて言うの？　いやだよ……無理だよ……

君のぬくもりを、もう知ってしまっているのに。一人で生きていくなんて……そんなの絶対、できないよ……

……

泣き止んだボクは、彼に尋ねた。これからどうするのって。

そしたら彼は、逃げるって言った。あいつらから、ボクから逃げて、どこかで勝手に死ぬんだって。

勝手だよ。本当に、勝手だ。けれどそれが、本当の君だって言うのなら、ボクは……

ボクは彼に、報酬を要求した。最後の思い出を、ボクに刻みつけてほしいと言った。

そうしてくれたら、諦められるから。そしたらもう、君を追いかけないから。

そう、嘘をついて。ボクは彼の了解を勝ち取った。

ごめんね？　君を失ってから、もう二度と失わないために、ボクは良い子になろうとしたよ？

でも君は、悪い人だった。とってもとっても悪い人で、ボクを傷つけて、怒らせて、それで気持ちよくなろうとしてた。

良いよ。許すよ。君がそんな人でも、ボクは好きだから。大好きだから。……愛しているから。

だから……ごめんね？　ボクは、悪い子になるよ。

もう二度と、君を失わないために。
彼の膝に座って、優しく服を脱がして貰いながら。ボクは彼に悟られないよう、その様子を世界へと見せつけた。

彼に優しく愛して貰ったあと、ボクはわざと侵入させたあいつらに向き合った。
トカゲおばさん。【煌天女帝】ヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカ。
勘違い女。【覇界聖王】エウラリア・カリエントゥス。
どっちもボクの敵。彼にとってボクより上の、ボクより好きな女たち。
でも、負けないよ。絶対負けない。今は三番目でも、絶対にボクが一番になってやる。
ボクだけが、彼の『特別』になる。そう決意して、あいつらと戦おうとした、その時。
彼がまた、ボクを呼んだ。
ボクはすぐに笑顔を向けた。だって彼に呼ばれたんだ。そんなの嬉しいに決まってる。
飼い犬のように駆け寄ったボクを、彼は優しく抱きしめてくれた。
そしてこっちに来ようとするあいつらを止めた。
ボクだけを呼んだのは嬉しいけど、あいつらも愛おしそうに見る彼は嫌だった。思わずむくれると、彼は優しくボクの頭を撫でる。
そして、そして……
『なんだよ、むくれるなって。今の俺にはお前しか見えてねえよ』
『だからさ、悪いんだけど……あと十回くらい付き合ってくれ』
……え？　えっ？
あと、十回？　そんなに？　一回だけでもあんなに気持ちよくて、意識が飛びそうだったのに？
ねえ、どうしてそんな目でボクを見てるの……？♡　まるで、ケダモノだよ？♡　今にもボクに覆い被さって、貪りそうな顔、してるよ

？♡

さっきは優しく抱きしめてくれたのに、今はもう、絶対に逃がさないって意志を感じる……♡　片手でがっちりボクの腰を掴んで、でもボクの頭を撫でるのは続けてくれてる♡

ダメ♡　ダメだよ♡　そんなことされたら、何も考えられなくなっちゃう♡　君の言うことを全部受け入れて、なんでも言うことを聞いちゃうボクになっちゃう♡

ねぇ……♡　ボクが悪い子だから、こんなことするの♡　だったら、謝るから♡　ごめんなさい、するから♡

だから、また悪い子になったら、叱ってくれるよね？♡　そんな風に聞いたら、嬉しそうにするなって言われた♡

バレてる♡　君にバレてる♡　嬉しい♡　幸せ♡　ボクのこと分かってくれてる♡

彼は、辛かったら言えよとボクに言った♡　そしたら少しだけ、優しくしてくれるって♡

あぁ……逃がす気は、ないんだね♡　ボクをこれから食べちゃうのは、絶対にやめてくれないんだね♡

それが嬉しくて、嬉しくて、幸せで♡　ボクは、彼に抱き上げられてベッドに優しく寝かされて♡

そのまま、覆い被さる彼を見上げて♡　彼に全てを任せたんだ……♡♡♡

いつの間にか、ボクは寝ていた。頭を撫でる彼に起こされて、ボクはボーッと辺りを見回す。

そしたら、あいつらもなぜか一緒に寝ていた。彼に起こされて、ボクと同じような顔をしている。

……ふーん。そうか。君はそうしたんだね。ボクを好き勝手食べたあと、あいつらにも手を出したんだ。

そう思うとムカムカした。思わず口から罵倒が飛び出た。

「へぇ、君たちも彼に抱かれたんだ。でも、ボクが一番だよ？　一番最

初に彼に選ばれたのは、このボクだよ？
君たちはただの添え物なんだ。メインディッシュはこのボク、それを忘れないで欲しいな。
……ボクが一番回数が少なかった？　だからなんなの？　三番目のくせに、これだから勘違い女はさ。
妾が一番激しかった？　ふぅん、安売りしか誇れないんだ？　体もおっきいから、彼にとってそんなに価値がないんだね。ボクと違ってさ。
……なんだよ。やるって言うの？　ボクに勝てるとでも思ってる？　はぁー……ほんと情けないよね、君たちって。
おばさん。脳筋。頭わるわる。威張ることしかできない。勘違い女。頭プリン。ちやほやされるのだけが好き。良い格好したがり。
ねえ、君からもなにか言ってよ。こいつら、本当に……どうして笑ってるの？」
彼に話を振ったボクは、思わず目を見開いた。
彼は、笑っていた。言い争うボクたちを見て、心底愉しそうに。
心の底から、愛おしそうに。
それに、ゾクゾクとした感覚が駆け抜けて。ボクの、彼に愛された一番大切なところが、きゅうんっ♡　ってするのが、はっきり分かった……♡
これからボクは、どうなってしまうんだろう。それはきっと、彼にしか分からない。
でも、絶対に、ボクが一番になってみせるから。だから、ずっと一緒にいてね――ダーリン♡♡♡

【覇界聖王】の愛憎

あの人を絶対に逃さないと決意した私は、それまでと何も変わりない生活を過ごしていました。

焦る必要がなかったからです。私の扱える蘇生術、再生術は、どのような状態であろうとも健全な状態へと復活させられるものですから。

かつては……そう、私がただの村娘だった頃ではどうにもできなかった天命さえ、今はどうとでもなります。私はただ、彼の魂を捕捉する瞬間をゆっくり待てば良かったのです。

「猊下！　本日のご公務、これにて終了です！　お疲れ様でした！」

「あら、貴方もご苦労様。この後少しばかりお茶を楽しむのですが、貴方もいかがですか？」

「いえ！　団長に任命されたとはいえ、私はまだまだ若輩者！　猊下と共にお茶を頂く栄誉には値しませんので！」

「……そうですか。貴方がそうおっしゃるのであれば引き止めはしませんが、私はお茶だけでなく、一緒にお食事を取れたら喜ばしいと思っていますよ？」

「か、過分なお言葉です！　いつかご期待に添えるよう、鋭意努力いたしますので！　それでは！」

「はい、それではまた明日」

顔を赤くして執務室から立ち去る女性騎士を、私は笑顔で見送ります。しかし……彼女の足音が遠のくのを確認して、ため息を吐かずにはいられませんでした。

流星海嘯初代聖王。そうなってから、そうなる前から、私と対等に振る舞ってくださる方は数えるほどしかおりません。もちろん、例外はいらっしゃいますが……あの方はどちらかというと、宿敵と呼ぶべき存在です。

あの方以外であっても、私との交流を楽しんでくれたのはあの人だけ。皆の目がない時、こっそりと、けれど笑みを含んで私の提案を受け入れてくださいました。

いずれ彼女も、そうなって頂ければと思いますが……まだまだ道のりは長いようです。今はただ、聖王として泰然と彼女の成長を待ちましょう。

「……ふぅ」

自分で用意した紅茶を一口。その香りと味わいを楽しむ私は、無意識に吐息をこぼしていました。

寂しい。

あの人がいないことが寂しい。一人で味わう紅茶の味が物悲しい。たった一人の茶会は、こんなにも広く、冷たいものだったと思い出します。

あの人は、いずれ必ず戻ってきます。希望ではなく、それは確信。あの人が死をもって私から逃げようとする以上、私の手のひらから出ることは決してないのです。

ああ、けれど。分かっていても、心は傷んでしまう。寒々しい孤独に凍え、小さく蹲(うずくま)ってしまう。

この孤独の中では、自らの体を抱きしめることしかできません。己の消え入りそうな暖かさを頼りに、ただ待ち続けなければならない。

それがどんなに辛いことか……あの人は分かってくださるでしょうか？

……いいえ。きっと分かって頂けないでしょう。

だってあの人は、とても悪い人ですから。私の気持ちを手に取るように弄んでも、それの意味するところを理解してはいないのです。

そうでなければ……私がこのような思いをしているのは、とてもおかしいことではありませんか。

ついに彼の魂を補足しました。いつも通りに過ごす私は、悠々と公務を終えて大聖堂の深奥へ赴きます。

足を踏み入れたのは、婚姻の祭祀場。あの人と、生涯分かたれぬ夫婦の契りを果たした場所。

そこで衣装を変えて『檻』を展開した私は、静かにそっと、絡め取っ

たあの人の魂を呼び出しました。
……おや？　誰かがあの人の魂に手を出していたようですね。けれど、関係ありません。あの人が死んでいるのなら、主導権は私にあります。
あっさりと魂を取り戻した私は、『檻』の最下層で蘇生術を行使しました。あの人がもう二度と逃げられないよう、前準備はきっちり行います。
この時、徹底的にやっていれば、この後の悲劇を回避することはできたでしょう。ですが、私も浮かれていたのです……やったのは、ちょっとした仕返しと言わんばかりの文化的遺伝子統制（ミーム）だけ。
あの人が戻ってくる直前で、万が一を想定するなんて、当時の私にできることではありませんでした。
それほどに、寂しかった。それほどに、悲しかった。
それほどに、欲していた。あの人が戻ってくるのを。私の下から二度と逃げないことを。
なのに……あの人は蘇生され、私の仕返しで愛を囁いたと思った瞬間、私の目の前で自刃したのです。

一瞬、頭が真っ白になりました。
けれど私は慌てることなく、即座に蘇生術を行使します。
すぐに蘇るあの人。呆然としていたかと思うと、また違う方法で自刃します。
私はそれを蘇らせます。あの人はまた自刃します。
何度も、何度も、何度も、何度も。ただそれを繰り返しました。
ああ――貴方は、そんなにも。私の下から逃げ出したいのですか？
そう思った途端、胸の奥に、これまで感じたことのない衝動が湧き上がりました。
薄っすらと燃える、黒い炎。まだ弱々しい、けれど放っておけば私のすべてを焼いてしまうような、危険な感情。
それに笑顔で蓋をして、私はあの人を見続けました。

どうやら姿形が変わっているようですが、些細なことです。魂の質と量から考察するに、おそらく彼は何らかの方法で自らを分割していたのでしょう。

主の定理に背くとは、なんとも恐ろしい人です。なればこそ、私程度を弄んで逃げようなんて、とても簡単にできたのでしょうね。

私は笑みを浮かべたままです。自刃して、死のうとして、ここから逃れようとするあの人が、とても愛おしかったから。

ああ……なんて、か弱いのでしょう。決して抗えぬ力を前に、あの人はただ死を選び取ることしかできません。

それがとても、愛おしい。私が守ってあげなくては。私がお世話して差し上げなくては。

これから先、ずっと、ずっと、ずうぅっと……私なしでは生きられぬよう、甲斐甲斐しく尽くしてあげますからね♡

そう考えていると、不意にあの人が自刃をやめました。ピタリと停止する彼の顔は、ただ現状を理解し切れず、しかし思考で突破口を開こうとしているように感じます。

そんなこと、無駄なのに……私の背筋にゾクゾクとした快感が走りました。

まだ、抵抗する気なのですね？　まだ、私から逃げようとするのですね？

ならば、分からせて差し上げましょう。貴方はもう二度と、私から逃げられはしないのだと。

私は笑みを湛え、彼に近づきます。しとしとと、音もなく降る雨のように、ゆっくりと彼に歩み寄ります。

……よく見ると、とても魂が輝いていますね。エルフの真祖であった時とはまるで比べ物になりません……ああ、嫌ですね。もっと近づいて見てみたくなってしまいます。

私は一歩の距離まで近寄りました。互いの吐息がかかる距離まで近づきました。肌が触れ合う距離まで近づきました。私の瞳が、あの人の目に触れそうになるまで近づきました。

……ちょっと近づき過ぎですね。私ったら、なんてはしたないこと

をしているのでしょう。内心の羞恥を悟られぬよう、笑顔のまま身を引きます。

バレているでしょうか……おそらくは、バレていませんね。けれど念のため、ごまかしておきましょう。私はあの人の頭を抱き寄せ、赤子に母がそうするように、愛情を持って撫で回しました。

黙って受けいれていた彼ですが、不意に「エウラリア」と呼んでくださいました。私も満面の笑みで旦那様♡　と呼んで差し上げると、いたくショックを受けた様子でした。

あらあら、どうしてそのような反応をなさるのですか？　まるで私からそう呼ばれたくないようではありませんか。めらり、と心の底で膨れ上がった黒い炎を、私はそっと覆い隠します。

しばらくの間、あの人はフリーズしたままでした。しょうがないので優しく寝かせて、膝枕であの人の頭を撫で回します。

ふふふっ、これは良いですね。最終的には手取り足取りお世話して差し上げたいのですが、こういうことから始めるのも悪くない気がしてきました。

そうして私が楽しんでいると、あの人は急に問いかけを始めました。私は素直な本心を……黒い炎に見てみぬふりをしながら答えましたが、あの人の様子はどこかおかしいです。

よもや、『檻』の中にありながら外部に干渉している？　私が少しばかり探りを入れると、すぐに干渉波を検知しました。信じられないことですが、本当に外部と接続しているようです。

……しかし、妙ですね。私の権能を掻い潜って干渉しているはずなのですが、無防備に感じます。まるで私に認知されることはないと確信しているような、そんな考えが透けて見えるのです。

まあ、良いでしょう。こうして干渉波を捉えている以上、それを辿れば良いだけなのですから。何の迷いもなく同じ場所へと干渉波を飛ばした私は。

主がつくりたもうた楽園。私の、そう、同類と呼べるお方たちが集う地へと足を踏み入れたのです。

そこは確かに楽園であり、私の知らない世界でありました。
そうでしょう？　なぜならばそこには、我らが崇め奉る主――ユラウツァバク様がご降臨されていたのですから。
私はこれまで様々なことを為してきました。それもすべて、主の導きがあってのこと。天啓、神託でしか触れられなかった主の言葉に、私は初めて接したのです。
感無量とはこのことでしょう。私は祈り、主の言葉に耳を傾けました。すると主は、私に天啓を授けてくださったのです。
フレッドリーツ・レアライヒ――現在のあの人である人物のかころぐなるものを参照せよ、と。
私は素直に従いました。あの人が急に私を押し倒そうとしましたが、今は主の言葉が絶対です。渾身の力で襲いかかるあの人を片手で制して、私は天啓の通りかころぐを見つけました。
そして、知ったのです。あの人の所業、あの人の真実――私という妻がありながら、浮気をしていた、という事実を。
「――――」
ああ、その時。私の心の奥底で、黒い炎が燃え上がったのは確かです。それは蓋を焼き尽くし、私の心に消えぬ火傷を負わせました。
そうですか。そうですか。私は、貴方を、愛していると、いうのに、貴方は、私以外にも、その愛を、向けられる、相手が……
……
私はその感情を隔離します。それはもはや消え去りはしないでしょうが、制御することは可能です。
私があの人に向ける愛。偏愛と呼ぶべきそれを、抑圧していた時と同じ。主に許されたとはいえ、私はこの愛と、この感情を、あの人以外に向けることはないでしょう。
……思わずあの人の首を折ってしまいましたが、些細なことですね。心に渦巻くこの感情を抑圧する労力を知って頂ければ、あの人もこのくらいのお茶目は許してくださるでしょうし。
そういった真心を込めた笑顔を見せてあげると、あの人は真っ青に

なって受け入れてくださいました。流石は私の愛する旦那様です。
そんな他愛もないことをしていると、ふと、あの人は表情を改めました。真剣な顔で私を見つめるあの人は、耳触りの良いその声で、残酷な真実を発したのです。
『最初に言っておく、エウラリア。俺にとってお前は二番目だ。一番じゃない』
……ほう？
その時になってやっと、私の内の黒い炎ははっきりと形を成した。
ああ、これは――『憎しみ』だ。
これまで私が抱いたことのない感情。愛情と表裏一体、ただ数多の人々が抱くのを見てきただけの、『憎悪』。
憎い。あの人が憎い。私をこんなにも狂おしくしておきながら、私以外を愛おしく思う、あの人が。
私は黙ってあの人の話を聞いた。そしてあの人に罰を与えるため、この憎悪を静かに押し込めた。
……ええ。今は、この感情は必要ありません。だってあの人は、二度と私から逃げられない。
ならば過ぎたことを憎むなんて、なんとも馬鹿らしいじゃありませんか。理性的に自らを統制し、私はあの人に偏執的な欲望を願い出ます。
貴方が赤子になってくださるのであれば、すべてを水に流しましょう。【煌天女帝】のことも、【主羅統娘】のことも、二度と口にしないと誓いましょう。
だから――私を満足させてくださいますよね？　そんな暗い喜びをぶつけようとした私は、私の文化的遺伝子（ミーム）統制を自力で解除した旦那様に驚き、後ずさりました。
あ、ああ……♡　なんて、猛々しい目をしているのでしょう……♡
そんな目で迫られては、体が竦んでしまいます……♡
あうっ♡　だ、駄目です♡　そのような真似をされては♡　だ、旦那様？♡　お待ちになって♡　どうか、お待ちに……♡
そんな私の抵抗虚しく、旦那様に押し倒された私は、そのまま美味

しく頂かれたのでした……♡

旦那様の激しさは、これまでのどの時よりも凄まじかったです……♡　快楽で殺されてしまうのではないかと思うほど、旦那様は激しく私を貪りました……♡

自らに再生術を施し、なんとか動けるまで回復します。通常であれば一瞬にも満たない時間で回復できるのですが、私は本当に追い詰められていました。数分も時間を要するなんて、初めてのことです……♡

ああ、やはり私には、旦那様しかいません♡　貴方だけ、貴方だけなのです♡　私のこの暗い喜びを解き放っても良いと思えるのは、旦那様をおいて他にはおりません♡

さて、今度は私の方から……♡　そのように考えた瞬間、なんとも無粋な訪問者が私の世界に立ち入ったのを感じました。

ああ……あの方ですね。旦那様に最初に愛された、どこまでも傲岸不遜なお方。

かころぐによれば、【煌天女帝】はすでに旦那様に落ちているとのこと。つまりは私の旦那様を、自分のものだと思っていらっしゃるのです。

ふっ……ふふふっ。良いでしょう。ならば旦那様が誰のものか、教えて差し上げようではありませんか。

私は旦那様に大人しくしているよう言い含め、その場を後にしました。そしてすでに大聖堂最奥――婚姻の祭祀場にいらしていた【煌天女帝】と向き合います。

「……ッッッ!!　貴様ッ……何のつもりだ!!!」

「何のつもり、とは？」

「とぼけるなッ!!!　その体……あの男と!!!」

「ああ……旦那様に思う存分愛された証ですが、何か？　貴方には関係ないではありませんか、【煌天女帝】」

「痴れ者が……！　あの男は妾のものだ！　それを旦那様などと世迷

い言を!!!」
「そうおっしゃるのは貴方の勝手ですが、現実をご覧になってはいかがです？　あの人は私の旦那様、それは主も認めた歴とした事実です。
　そもそもこの婚礼の衣装とて、旦那様が私に贈ってくださったものですが……♡　はて、貴方はそのような贈り物を、何も受け取っていないのですか？」
「――死にたいらしいな。神の操り人形風情が」
「――死なせはしないさ。我が主の名に誓い、誰一人だろうとも」
【煌天女帝】がその五体を構え、私は聖剣を抜刀します。
　それだけで空間が悲鳴を上げ、世界が軋みます。早々に決着をつけなければ、先に世界が崩壊してしまうでしょう。
　一触即発。互いに譲れないもののために力を解き放つ我々の対峙は、突如として終わりました。
「ッ!?　旦那様ッ!?」
　私の『檻』から旦那様の気配が消失し、同時に壁一面が光り出します。
『やぁみんな、ボクだよ。今日は愛しい愛しい彼♡　ダーリン♡　との結婚を報告するよ♡　みんなでボクたちを祝福してほしいな♡』
　そこに映る【主羅統娘】――そして、拘束された私の旦那様。
　それを見た瞬間、感情を統制する鎖は千切れ――黒く燃え滾る『憎悪』が、咆哮を上げたのです。

　私は走った。
　あの人の下へ、一秒でも早く辿り着くために。
　しかしあの方が邪魔だ。先行する【煌天女帝】はすべてを破砕し驀進する。
「止まれ、【煌天女帝】！　無辜の人々が巻き込まれている！　気持ちは分かるが、貴方のやり方は看過できない！」
「やかましいぞ女！　あの男は妾のものじゃ、あのような小娘に奪わ

れてたまるか!!!」
「なればこそ、私と共同で――」
「衆愚を守りたいのなら勝手にやっていろ！　妾は征く、それだけよ!!!」
「ッ――」
【主羅統娘】の放送で頭に血が上っている【煌天女帝】は更に速度を上げた。
大地を踏みしめる度に崩壊する世界など気にもとめず走るあの方に、私は思わず顔を歪める。
ただでさえ、【主羅統娘】が旦那様を独占している状況。加えて【煌天女帝】の身勝手さに私の『憎悪』が鳴り止まない。
ああ――誰も彼も、狂っている。旦那様は私だけのもの。貴方たちのものでは決してないというのに。
旦那様も、旦那様だ。それくらいの拘束など解いて、私の下へ帰ってくるのが筋というもの。なのに【主羅統娘】の意のままに従うなんて、夫としての自覚がない。
罪のない人々を助けながらも、一方で私の『憎悪』は膨れ上がるばかりだった。このままでは私すらも焼き尽くし、ただ憎しみのままに暴れ狂ってしまいそうなほどに。
それはいけない。聖王として自らを戒める私は、黙々と為すべきことを為し、【煌天女帝】を追う。やがてそれは功を奏し、私は旦那様を拘束する【主羅統娘】に手が届く場所まで辿り着いた。
しかし――顔だけが露出する旦那様の、その頬に、『契約の烙印』が刻まれている。
なんと、忌々しいことか！　ギリッ!!!　と、私は生涯初めて自らの奥歯を噛みしめる音を聞いた。表層の肉体にそれが出てしまうほど、心には『憎しみ』が溢れている。
早く、早く、清めて差し上げなくては！　私の手で、私と旦那様だけの場所で、ずぅっと、永遠に、【主羅統娘】の痕跡を消し去らなくては。
思わず干渉波を出し、彼の楽園に心を綴る。だが途中でそれは叶わ

なくなった。なぜ！　どうして！　今、私と旦那様を繋ぐのは、あの場所しかないのに！

荒れ狂う感情に支配され、私は【主羅統娘】と戦闘に入る。しかし【煌天女帝】は加減を知らない、私が調節しなくては世界が滅びてしまう。

旦那様を取り戻したい、しかし民草を守らねばならない。

二律背反に苦しめられる私の戦いは、【主羅統娘】の消失によって一時中断された。

だが、まだ終わってなどいない。旦那様の魂を追跡し、外宇宙へと私は飛び出す。後ろから【煌天女帝】が追いかけてくるが、人々を守ること以上にあの方へリソースを使う余裕はなかった。

私と【煌天女帝】は『無』が存在する空間へと到着した。その先に、その中に旦那様はいる。間違いない。

だから私が聖剣による一撃を見舞うと、『無』はそれを弾き返す。厄介だ、【主羅統娘】は『絶対防御』によって私の侵入を阻んでいる。

それは【煌天女帝】も同じのようだった。彼女の誇る爪や尻尾が『無』に通用しない。ここはすでに滅んでいる世界、被害など気にする必要はないが、三界への波及は避けねばならなかった。

しかし、【主羅統娘】の放送がそれの邪魔をする。あろうことかあの子は旦那様の上に跨り、淫売のように振る舞っている様子を私の前に映し出したのだ。

しかも旦那様へキスを繰り返しながら、時折こちらを見る。じっとりとした視線は、それの意味するところをありありと私に叩きつけていた。

――そうか。貴様はそうするのか。ならばもはや容赦はしない。

三界の保護を忘れさせる程の『憎悪』に飲まれた私は、ひたすらに力を解放していく。

聖剣を振るう。壊れない。旦那様は【主羅統娘】に自ら口づけをする。

拳で殴る。壊れない。旦那様は【主羅統娘】に愛を囁く。

光を解き放つ。壊れない。旦那様は【主羅統娘】を自らの意志で貪

る。

渾身を叩きつける。壊れない。旦那様は、旦那様は……旦那様旦那様旦那様旦那様旦那様旦那様旦那様旦那様旦那様旦那様旦那様旦那様――

【煌天女帝】と一撃が重なる。『無』にヒビが入り、砕け散る。

その隙間へと体をねじ込み、見たものは――――【主羅統娘】に女の喜びを教える真っ最中の、真っ青になった旦那様。

ああ……悪いと、そう思っているのか？　それは私に？　それとも【煌天女帝】？

どちらでもいい。今貴方は、私の許容を超えた。超えてしまった。よりにもよって私の目の前で、そのようなことをなさるなど。

――――殺す。

『殺意』が、芽生えた。『憎悪』を超えて、それは【主羅統娘】と、旦那様に向く。

二人を、殺す。我が聖剣の錆にしてくれる。そして旦那様は『檻』の最奥、最下層の更に下、私の『絶対防御』の領域に永遠に閉じ込めてやる。

どうしてか、これまでのどの時よりも穏やかな微笑みを浮かべていた私は、スッと聖剣を掲げた。【煌天女帝】も同様に自らの爪を振り上げる。

それに対抗しようとする、【主羅統娘】。旦那様に愛された証を見せつけるあの子に、言いようのない殺意を掲げ。

世界など、とうに忘れ去った私の前で。旦那様は急に、【主羅統娘】の名を呼んだ。

そして、それを許すまじと斬りかかる私に。

ただ一言。「待て」と、そう言ったのだ。

瞬間、体が動かなくなった。まるで自分のものではないかのように、旦那様の言葉にただ従った。

ズクン♡　と下腹部が疼いたのは勘違いではないだろう。まるでそこを中心として、私の体が支配されたように……ただ、旦那様の一声で、動けなくなった。

そんな私を眺め、「良い子だ。エウラリア」と名前を呼ばれると、

キュンキュンと下腹部から愛情が迸った。民草を忘れるほどに私を支配していた『憎悪』は、とっくに白旗を上げていた。

そんな。どうして。なぜ。自分に問いかけるものの、動けない私は、旦那様の行いを見続ける。

【主羅統娘】に対して、旦那様は本当に優しかった。優しく、けれど容赦なく、なのに【主羅統娘】が懇願すると動きを止め、頭を撫でて口づけを落とす。

羨ましい。私はまだ、そんなことされてはいない。私は奉仕が好きだ。けれど、だからといって、旦那様から愛情を持って扱われたくないわけじゃない。

【主羅統娘】とのことが終わると、同じく動きを止めていた【煌天女帝】が走った。けれどあっけなく旦那様に組み敷かれ、そのまま、乱暴に……

ああ、なんて……ゾクゾクする光景。【主羅統娘】とは比べ物にもならず、私にさえぶつけたことのない劣情を、旦那様は【煌天女帝】に叩きつける。

とてもひどかった。女を女とも思わぬ、けれどまごうことなき雄の所業だった。それに、ごくりと。火照った体を持て余すしかない私は、私は……

やがて、【煌天女帝】とのことも終わる。あと一人、私だけになった途端、旦那様はゆっくりとこちらへ近づいてくる。

ああ……見ないで♡　そんな目で見ないでくれ♡　これでは、駄目だ♡　私は駄目になってしまう♡

あんなに貴方を憎んでいたのに♡　あんなに貴方を殺したかったのに♡　そんな風に力強く手を引かれて、押し倒されては、何もかもを許してしまう♡

そういえば、旦那様は騎士たる私を好んでいたな……♡　本当に無意識に、形ばかりの言葉で抵抗をすると、すぐに旦那様のお顔は猛々しくなられた……♡

旦那様の瞳に映る私の顔は、完全に女だった……♡　メスだった……♡　そのまま、抵抗虚しく、私はまたも旦那様に頂かれたのだっ

た……♡♡♡

目が覚めると、旦那様が私の頬に手を添えていた。
どうやら起こされたらしい。ぼーっと辺りを見渡すと、同じベッドに【主羅統娘】と【煌天女帝】がいる。
めらり、とまた、私の中で『憎悪』が湧いてきた。それに突き動かされるまま、私は冷たい声を発する。
「ああ……そういえば、貴方たちもいらっしゃいましたね。
このような格好を見せてしまい、申し訳ありません。すぐにわ・た・し・の・旦那様♡　と帰りますのでお気遣いなく。
……あらあら。この子ったらなんて言い草でしょう。殿方が最後に求める人こそ、最も大切な女性なのですよ？　まあ、生まれて間もない貴方には理解できないでしょうが。
おや。妙なことをおっしゃいますね、【煌天女帝】。確かに貴方が一番激しかった、それは認めましょう。ですがそれは、単に貴方の体が頑丈だったからに過ぎないのでは？　使い捨てるのに丁度良いお体をお持ちで羨ましいですね。
……双方、落ち着きなさい。旦那様♡　を巡って争うなど愚の骨頂です。なぜならば旦那様♡　は私の旦那様♡　ですよ？　争う必要もなく、それは主に祝福されているのですから。
【主羅統娘】？　幼さを言い訳にするのも限度があるのですよ？　貴方はとっくに女なのですから、敗れたことを素直に受け入れなさい。
【煌天女帝】も、みっともないですよ？　どうしてそこまで旦那様♡に執着するのですか？　そのように罵倒されるのであれば、さっさと忘れてしまえばよろしいですのに。
旦那様♡　も、何かおっしゃってください。この方たちは本当に分からず屋で……旦那様？♡　どうして、そのような笑み、を……♡」
真の夫婦であることを証明しようと旦那様に目を向けた私は、言葉を失いました。

なぜならばそこには、笑顔の旦那様がいらっしゃったからです。
見たこともない、荒々しく、欲望に満ちた、ギラついた旦那様の笑顔が……♡
ああ……その時私は、やっと悟りました。もはや私の内側で、黒い炎は燃えていません……♡
燃えているのは、ドロドロとした欲望の炎♡　『憎悪』という名の、旦那様♡　を喜ばせるだけの、はしたない私の心……♡
私たちはこれから、どうなってしまうのでしょう。それはきっと、旦那様だけが決められます。
けれど、絶対に逃しませんから♡　私は絶対に、逃げませんから♡
ですから末永く、よろしくお願いいたしますね――――旦那様♡♡

【煌天女帝】の咆哮

新たなる妾になると決意した妾が最初に行ったのは、あやつに軍隊を差し向けることじゃった。

期待は何もしとらんかった。しかし妾がまだ全力を出せぬ状況であったのは事実。それ故に妾の奴隷どもに捜索を命じたのじゃ。

一度捕捉できれば良い。あとは妾の力でどうとでもなる。故に最初に探し出させる些事を、妾の役に立ちたいとさえずる衆愚どもに任せたのだ。

結果はまあ、予想通りじゃった。妾の軍隊どもはあやつを見つけておきながら、あっさりと取り逃がした。まあ良かろう。丁度良い機会じゃ。妾は罰則として愛玩奴隷の全面解放を命じた。

あやつがおる以上、あれらはもう要らん。妾の気慰みに飼っておったが、あやつに比べれば何もかもが足らぬ。色あせた過去とともに、妾はあれらを捨て去った。

さて。妾が体力の回復を待っておる間、あやつが死んだのを感じた。

不思議と衝撃はなかった。言葉通り本当に死んだのだと、あやつの行動力と実行力に対する素直な称賛すら覚えた。

まあ、称賛するのと許すかどうかは別の話じゃがな。妾は神の手のひらへ帰り逝くあやつの魂を強引に捕まえると、力任せに妾の下まで引っ張り寄せた。

絶対強者に技など要らん。かつてはそう思っておったが、今はその考えを修正すべきやもしれぬ。危うくあやつの魂を握り潰してしまいそうになった妾は、褥の側に拘束部屋を作り出し、そこであやつを復活させることにした。

復活の瞬間に立ち会うのは……とりあえずやめておこう。いや、今更になって怖気づいたとかそういう話ではない。ただ、復活すればあやつは裸じゃろうし、かといって妾が服を与えるのも何か違うし、裸のあやつを見るのは少し、心の準備が……

もじもじと勝手に動く体にいい加減苛立ちが募った妾は、強引に動

いてあやつの前に出ることにした。大の字で拘束されているあやつに一瞬たじろいだが、バレてはおらんじゃろう……バレておらんよな？　バレてたら殺す。

幸いにもあやつはそれを指摘せなんだが、妾に対し【煌天女帝】と尊称をつけて呼んでいるように感じたので一度殺してやった。

まったく、己の立ち位置を知らぬ愚物はこれじゃから困る。今のお前様は妾を下した勝者なのじゃぞ？　相応の振る舞いは求められて然るべきというもの。敗者たる妾の名を直接口にする栄誉くらい甘んじて良いというのに。

それを分からぬあやつは一度死んだくらいでは態度を改めなんだ。何度も殺してやり、妾手ずから教えてやることでようやく妾の名を呼ぶようになったと判断した。よってこれより、新たな妾に生まれ変わる儀式の準備を始めよう。

差し当たってはあやつの屈服が急務じゃな。妾は懇切丁寧に説明してやるが、何やら一行でまとめられた気配がする。やはりこやつは妾を見下しているとしか思えぬ。それが心底……腹立たしかった。妾はそう思い込んだ。

あやつは妾に永遠の忠誠を誓うか否か？　という問いに即断で答えを返した。「否」じゃ。真顔で「いやです」と、それが本心であるかのように口にした。

あまりに苛立ったのでつい尻尾が動いてしもうた。こやつは馬鹿なのか？　拒否権などあるわけなかろうが。妾がそうしろと言ったらそうするのが礼節、摂理。それを当たり前のように破るのじゃから、こやつは始末に負えん。

怒りを通り越し、呆れ果てた目であやつを見ていると、不意に真剣な面持ちで妾を見つめ返してきた。その厳格な相貌に、思わず心臓が跳ね上がる。

くっ、流石は妾を下した男。視線一つでこうも緊張を強いるか……妾は対抗の意味で不敵な笑みを浮かべたつもりじゃったが、体の一部分、特に下腹部がいやにキュンキュンと引き締まったのは気のせいじゃ。気のせいじゃろう。気のせいと思え。

あやつを睨み、妾が回答を待っていると、あやつはとぼけたような、しかし歴然とした事実を語るようにまた妾を下すと申した。

なんと不遜な男よ。妾をまたあのような目に遭わせるつもりか！

あのような、言葉にするのも憚られる、目に……

……妾は特別に受けてやろうと口にした。そうじゃとも、あやつから挑まれるのならば是非もなし。今度こそ妾があやつを屈服させ、永遠の忠誠を誓わせるのじゃ。

何度も敗北する妾ではない。いずれ必ず勝者となる。それまでは、敗者の地位にも甘んじよう……そのつもりで受けた妾であったが、どうにもあやつの様子がおかしい。

また妾を名で呼ばなかった気配がしたので殺しておいた。それも数度じゃ。何を考えているかは分からんが、賢者であるならば多少は学習してもらわねば困る。じゃから……その、裏切られたような顔をするな！　本気で困るじゃろうが！

心底悲しそうに顔を伏せるあやつに内心で慌てておると、あやつは急に顔を上げて表情を改めた。真剣な、雄の顔じゃ。妾もつい身構え、尻尾をピンと逆立て、無意識にゆらゆらと動かす。

あやつは真剣な顔のまま、拘束を破った。なんということじゃ……しかし、想定の範囲内。妾は泰然とあやつの動きを待つ。

――――たぷんっ♡

ッ!!!　ぶッ、無礼な!!!　よもや妾の胸に直接触れようなど!!!

じんわりとしたあやつの体温が体に染み込む。くっ、あの地獄のような日々を思い起こさせ妾の気を挫く算段か！

させぬ！　ぷるぷると怒りで震える手を振り上げた妾は、しかし、それを振り下ろすことができず。

そうこうしておる内に、あやつはあろうことか消し去った淫紋を刻み始め……抗うこともできず、あっけなく全てを元に戻されたのじゃ。

なぜ、なぜじゃ……どうしてこうも思うように動けぬ。妾の口腔に指を入れ、舌先に刻まれる。股の間にも、腹にも、纏う布越しに淫紋が施される。

そうされる度に、ビリビリと快楽が駆け巡る。まるで体がその時を待っていたかのように、喜びを目に見える形で表しよる……

「よせ……やめろ、やめるのじゃ……不敬じゃぞ、この痴れ者が……」

どうにか言葉だけで釘を差しても、あやつの顔は険しくなるばかり。それどころかあの日々に見た、獣のそれへと移り変わり……

妾より小さな男に押し倒され、目の前に雄を見せつけられた妾は、そのまま食われるしかなかったのじゃ……♡

七日七晩に渡るあやつの陵辱をなんとか耐え抜いた妾は、逃げようとするあやつを尻尾で捕らえた。

まったく、油断も隙もない……妾でなければとても受け止めきれんぞ……♡　この時妾は初めて、頑丈な己の体に感謝したのじゃ。

さて、それではこの逃げようとした男をどうしてやろうか。妾が優しくその理由を聞いてやると、あやつはとぼけた答えを返したので少し脅しつけてやった。

顔を青くするあやつに溜飲が下がる思いをしておると、またもとぼけた答えを返しよった。さては死んで逃げようとしておるな？　呆れた妾は尻尾で巻き上げてやるのを答えとした。

仕方のない男じゃ。どれ、引き寄せて逃げられぬと思い知らせてやろうかのう……くっ……なぜそのように真剣な瞳で見つめるのじゃ……

思わず妾は目を逸らす。羞恥を感じたわけではないぞ？　恥ずかしかったのではないからな？　おい、聞いておるのかこのたわけ！　絶対に、絶対に、絶対に!!!　恥ずかしいわけではないからな!!!

コホン、と仕切り直した妾は、改めて忠誠を誓うかどうか尋ねる。七日七晩も妾を貪ったのじゃ、よもや否とは言うまいな？

そう思っておったが、あやつはまたも「いやです」と言い放ちおった。しかも「そう言ったではありませんか、お忘れになられたのですか？」と妾が悪いかのように言う始末。思わず尻尾で絞め殺したのも道理じゃろう。

何なんじゃこやつは……額に手を当てる妾は、尻尾で巻いたまま蘇生する。奇しくも妾と似たような表情をあやつは浮かべておったが、それはこっちの顔じゃと言いたい気分じゃった。

……んっ♡……なぜ、あやつの雄が自己主張しておる？　妾の尻尾を押し返す感触に、思わず漏れそうになった声を抑える。

また何か画策しておるのか？　そう思っておったら、あろうことかあの男はその場で暴発しおった。

なっ、なっ、なんたる無礼♡　妾の尻尾にべっとりと雄の匂いをこすりつけるとは♡

思わず尻尾の力を緩めてしまったのも仕方ないじゃろう……♡

くぅ、ひどい匂いじゃ♡　自らの尻尾を眼前に寄せ、妾は匂いを嗅いでしまう♡　これは、舐め取って綺麗にしなければのう……♡

そうしておると、あやつもベトベトになっておるのに気づいた♡

仕方のないやつじゃ……よもや妾にこのような恥辱を受けさせるために、こうしたのではあるまいな……♡

仕方ない♡　仕方ないのう♡　これはあやつの策、策なのじゃ♡

妾にはどうにもできぬ♡　抗えぬ♡　どう考えてもその結論に達した妾は、尻尾にそうしたようにあやつにもそうしようとした……♡

しかしあやつはそれを止めた。お預けとは、ひどい男じゃ……♡

まあ良い、これから機会はたっぷりあるであろうからな……♡

あやつは自分の体を綺麗にし、妾の尻尾も丁寧に拭き取った。もったいなかったが、あやつ自らの行動じゃ。妾は受け入れた。

そう、本来妾とあやつの関係はこうでなくては。奉仕するのはお前様♡　の仕事なのじゃぞ……♡　絹を扱うように妾の尻尾を綺麗にする男に満足気にしておると、あやつは急に妾の真意を問い質してきおった。

よもや、よもやじゃ。まさかここに来て、そのようなことを聞かれるとはのう。存外、こやつは察しが悪いのやもしれぬ。いや、いや……察することを忌避しておると見るべきか。

仕方のないやつじゃ。妾はため息をこれでもかと吐き、こやつが如何に救いようのない外道であるかコンコンと説明してやった。

そもそも、妾を欲したその時点で無礼かつ不遜である。その上妾をこれでもかと食らい、自らの所有物であるかのように淫紋を刻み、果ては子まで成そうとした。

無礼千万、厚顔無恥じゃ。これには寛大な妾であってもほとほと呆れ果てる。お前様のような下賤者はこの先現れることはないじゃろうな。

なればこそ、妾が繋ぎ止めねばならぬ。お前様は獣よ。妾を貪ることしか知らぬ、欲望の獣。そのような哀れな珍獣を飼ってやれるのは妾くらいしかおらんじゃろう。

じゃから飼う。従える。永遠の忠誠をもって儀式とする。お前様を下敷きに、妾は新たなる妾へと生まれ変わるのじゃ。

故に――妾は許さない。未来永劫お前様を許さない。何があろうとも、決して、絶対に、見放したりせぬ。

諦めて頭を垂れよ。地に伏せ、つくばうがいい。さすればお前様は妾という存在の偉大さを知り、感涙して自ら全てを捧げるじゃろう。

そうしたところで、許しはしないがのう……？　それでもまあ、多少、お前様の扱いを良くしてやってもよい。最終的には……む、婿にしてやっても良いかも、しれぬ、のう？

ということを延々と言い続けておると、あやつは止め、妾との対話を望んだ。仕方ないから受け入れてやったのじゃが、途中から見る見る落ち込んでしもうた。

なんじゃなんじゃ、妾がせっかく答えてやったのにその有様は。これでは不満げに尻尾をペシペシする妾が、あやつの背中に胸を押し付けて男らしい肩に顎を乗せるのも仕方なかろう。

うむ、良い心地じゃ。中身は最悪じゃが、体は中々好みである。そういえば妾の趣味に外見を合わせたとか言っておったかのう？　そうであれば、くくっ……少しばかり愛いところもあるではないか。

思わず首や耳を舐めてしまったが些事じゃ。こやつの体がこんなにも妾の好みに合うのが悪い。じっくり丁寧に舐めておると、急にあやつは立ち上がり、またしても妾に猛々しい雄を見せつけおった……♡

な、なんじゃ？♡　や、やるのか!?♡　う、受けて立つぞ妾は！♡
逃げはせぬ、決して逃げはせぬからな！♡　じゃから好きにするが良……い、一時間じゃと!?♡　しかもあの七日七晩が可愛く思えるほどの……？♡♡♡
む、無理じゃ♡　無理じゃぁ♡　そのようなことをされては流石の妾でも壊れてしまう♡　お前様という存在を骨の髄まで刻み込まれ、忘れられなくなってしまう♡
思わず身を引くと、更に猛々しさを増したあやつは妾を無理やり引っ張り、押し倒した……♡　ああ、止まらぬ……♡　こうなってしもうては、もはや誰にも止められぬ……♡♡♡
それにしても、好きだの愛してるだのと戯れ事を……♡♡♡　今更じゃろう？♡　騙されぬぞ♡　仮に騙されたとて、それはまやかし♡
妾が何を口にしようとも、それはお前様にそう誘われただけなのじゃ……♡♡♡
そうやって言い訳を重ねながら♡　妾はお前様を逃さぬよう、手足と尻尾をゆるゆると絡めたのじゃなぁ……♡♡♡

気がつけば、あやつの気配が遠ざかってるのを感じた。
瞬間、妾は褥を破壊し、一直線にあやつへ飛びかかった。
逃さぬ、許さぬ！　少し目を離せばこれじゃ、躾けてやらねば分からぬか！
妾の治める衆愚の前じゃ、一応服は纏い直しておる。無論、見られたところで蟻に見られたようなものじゃが、今はあやつ以外に肌を晒すつもりはなかった。
あやつは自殺の魔法陣を構築しておる最中のようじゃった。させぬ！　妾は全力であやつを捕らえ、連れ戻そうとする。
その瞬間、あやつは何かをバラまいた。思わず注視すると、それはあやつの成長記録のようじゃった。
おのれ！　このような児戯で妾を止められるとでも！　妾は力を解き放ち、脆い写真の数々を破らぬよう全てをそっと回収する。

そうしておる内にあやつは魔法陣を完成させ、自殺を敢行してしまった。まあ、仕方あるまい。また力づくで呼び戻せば――――

――――なぜ、お前様の魂を貴様が握っておる？　女。

神を除き、妾に歯向かう片割れの一つ。神の操り人形たる女は、大聖堂の最奥で妾を待ち構えていた。

その姿を見た時、憤激が走ったのは否めぬ。なぜなら女の体には、あやつが貪った痕がこれでもかと残っていたからじゃ。

しかもその鮮度……つい先程まで耽っていたに違いない。妾の手足に力が宿り、それは急速に密度を高めていく。

許さぬ。あやつに良いようにされるのはいい。敗北は妾も認めるところじゃ。すでに出た結果に文句など言わぬ。

じゃが、貴様は駄目じゃ。妾からあやつを奪うなど絶対に許さぬ。絶対に、絶対にじゃ。神が認めようと関係あるものか。

妾は生涯二度目の殺意を抱いた。そうとも。これまで妾がそれを覚えたのはあの男のみ。その時よりも遥かに大きく、霞むほど、女に向ける意志は巨大じゃった。

しかし、またも邪魔が入った。今度は小娘じゃ。妾に歯向かうもう一人が、今度はあやつを横取りしおった。

どいつもこいつも、どういう真似じゃ！　なぜ妾の邪魔をする！　なぜ妾の男を奪う！　まったく度し難い！　あの男を取り戻した後、あやつらの世界程度滅ぼしてやらねば割に合わぬ！

女の戯れ事を無視して妾は走った。世界横断、次元の超越など生身でもたやすい。世界の壁を破り走る妾に、小娘の衆愚どもはなぜかつっかかってくる。

ええい、鬱陶しいわ！　妾が走るだけで踏み潰されるくせに、なぜこうも群がるのか！　腕を振り、尻尾を振り回し、銀河の彼方まで飛ばしても奴らは笑いながら妾に矛を向けてきよる。

そのせいでほんの少しばかり時間を要した。妾が到着する頃には、あやつの頬に――妾の男に、小娘の印が刻み込まれておった。

許さぬ――許さぬ！　許さぬ！　許さぬ！　貴様も、女も、あやつもじゃ！　妾が猛り、一撃を見舞うと、小娘は霞のように消えおった。

何処へ行った！　妾が探知する間、女が先に動いた。思わず追いかければ、その先にあやつの気配がした。

そして、小娘は――妾にそれを見せつけるように、目の前にあの忌々しい映像を映したのじゃ。

殺意とは、根本的に同じ土俵に立つ者にしか向けることはできぬ。空を殺そうとする弱者がおるか？　地を割り、二つに裂こうとする貧者が存在するのか？

妾という圧倒的な存在を前に、全ては等しく弱かった。なればこそ、妾は感情を昂ぶらせることなどなかった。

それを、あの男が壊した。あの女が狂わせた。あの小娘が薪を焚べた。

誰も彼もが、妾を変えようとする。世界と共に生まれ、永きを生きたこの妾を。

これは運命なのか。それとも神の仕組んだ天命なのか。どちらでも良い、今はただ――死人のような顔で妾を見る、小娘を可愛がったであろうお前様を殺すのみ。

脚を踏みしめた。爪を振り上げた。あと一瞬で、小娘ごと、お前様を殺せた。

なのに――「待て」と。そう言われた瞬間。

妾の体は、動かなくなった。

お前様に、そう言われただけ。言われただけなのじゃ。なのに、妾は動けない。一歩も、指の先すらも、何も動かせなくなってしもうた。

そしてお前様と、小娘のそれを見せつけられる。ふつふつと湧き上がるのは、怒りではなく羨望。体の奥底が、子を成す場所が、お前様を求めて仕方ない。

ギリッッッ!!!　奥歯を噛み締め、妾はそれを踏破する。小娘とのことを終えたお前様に、渾身をもって襲いかかる。

なのに、組み敷かれた。押し倒された。妾は怒り、絶望を噛みしめるのみ。

ここまでしても、駄目なのか？　これほどの情を抱いても、結局はお前様の好きにされる運命なのか？

認めぬ。認められぬ。認めたくない。

けれど。お前様の雄が、妾に向かったその瞬間。

全てがただ、どうでも良くなり……妾は一匹の、無様な鳴き声をあげるメスになる他、なかったのじゃ……♡♡♡

目が覚めると、お前様♡　は妾に口づけをしておった。

物語の姫と王子のつもりか？　じゃが、悪くない。悪くない気分じゃ……♡

しかしそれは、褥を共にする女と小娘のせいで霧散する。

「なんじゃ貴様ら、まだいたのか。お前様♡　と褥を共にして良いのは妾だけぞ、分を弁え、早々に立ち去るが良い。

ここが貴様の領域じゃと？　知らぬわ、小娘。だから何だと言うのじゃ。元より世界とは、全てが妾のもの。それを借り受けているだけの貴様が持てる財など何もないわ。

くだらぬ言い草じゃな、女。神に認められたからそこまで浮かれておるのか？　結局世とは、力が道理。その権化たる妾に為せぬことなど、何もないのだぞ。

……大層な言い草じゃな。小娘風情が、妾を笑うつもりか？　なれば呆れ果てる他あるまい。優しく食われたというのであれば、貴様はお前様♡　の全力に値せぬのじゃ。

女、貴様も大概じゃぞ。全てに勝る妾の肉体、すなわちお前様♡を全力で受け止められるのもまた、妾のみよ。そもそも貴様の貧弱な体で、お前様♡　は満足しておるのかのう？

……どいつもこいつも、どうしてこうも身の程を知らぬのか。

一度殴ってやらねば分からぬか？

おい、お前様も何とか言え……何を、笑っておる……？

その目は何じゃ……？♡　まるで妾を、妾たちを……愛しておるようではないか……♡♡♡」

その目に貫かれた時、妾は真に屈服したのやもしれぬ……♡

なぜならば、お前様は……そんなにも熱い目で、妾を見たことなどなかったのじゃから……♡

……――いいや。いいや！　それでも妾は、決して屈せぬ！

必ずお前様に勝利し、妾が最上じゃと見せつけてやろうぞ！　その日まで、妾はお前様に挑戦し続ける……！

絶対に、絶対に絶対に絶対に、許さぬからな……！♡　その時まで、永遠に付き合ってもらうぞ、お前様♡♡

第三幕　イッチ決戦編
【ついに掴んだ】ワイがハーレムを作るための準備スレ【俺の剥き出しの性癖】

1：フレッドリーツ
まあ細かいことは置いといてさ
サイツコーの気分だわ今

2：名無しのアブノーマル
来たか

3：名無しのアブノーマル
来たわね

4：名無しのアブノーマル
ついに目覚めたイッチ

5：名無しのアブノーマル
（何に目覚めたのかは分からないし分かりたくもない）

6：名無しのアブノーマル
性癖モンスター……まだ先があったというのか

7：名無しのアブノーマル
こいつどこまで進化するんだよ

8：名無しのアブノーマル
進化というか、覚醒？

9：名無しのアブノーマル

性癖の覚醒とか地獄じゃん

１０：名無しのアブノーマル
でもイッチ、楽しそうやね

１１：フレッドリーツ
めちゃ楽しい　こんな気持ちいいことがあったのかってレベル
いやぁ、いいねえ……俺を巡って争うあいつらはさぁ
本当に美しくて綺麗で、可愛いよ
もうね　好き　好き過ぎる　愛してるわお前ら

１２：名無しのアブノーマル
ＯＨ　ダイレクト

１３：名無しのアブノーマル
急に告白されても……困る……

１４：名無しのアブノーマル
同級生に勘違いされたくないんだけど

１５：名無しのアブノーマル
いつの時代の反応だよオッサン

１６：名無しのアブノーマル
失礼だな、純愛おばさんだよ!!!

１７：名無しのアブノーマル
それでええんか？

１８：名無しのアブノーマル
まま、本人が納得してるならね？　触れてやるな

１９：名無しのアブノーマル
で、イッチ　スレタイもそうだけどこれからどうすんの？

２０：名無しのアブノーマル
イッチの行動に世界の命運がかかってる　本当に悲しいことに

２１：名無しのアブノーマル
慎重に決めるんだぞ

２２：フレッドリーツ
決めるって何を？　こいつらから一人選ぶってこと？

２３：名無しのアブノーマル
そりゃそうでしょ

２４：名無しのアブノーマル
全員囲うわけにもいかんし、そもそも無理筋

２５：名無しのアブノーマル
で、誰を選ぶの？

２６：名無しのアブノーマル
やっぱ女帝様だよな!!!　幸せになるべきお方ナンバーワンは女帝様だもんな!!!

２７：名無しのアブノーマル
またでましたね元解放奴隷　真に幸福を祈るべきは聖王様お一人と決まっているのですよ

２８：名無しのアブノーマル

年増好きは分かってないよねホント　娘ちゃん一択なんだよなぁ

２９：名無しのアブノーマル
もういい加減にしろよ、本気でやるぞ

３０：名無しのアブノーマル
こいや臆病者　怖いんか？

３１：名無しのアブノーマル
怖くねえわぶっ殺してやる!!!

３２：フレッドリーツ
まーた勝手に喧嘩してる　まあええよ、勝手に殺し合ってろ
ワイは全員選ぶでな

３３：名無しのアブノーマル
え？

３４：名無しのアブノーマル
ｅ？

３５：名無しのアブノーマル
は???

３６：名無しのアブノーマル
全員???

３７：名無しのアブノーマル
まさかのハーレムですか!!??!?

３８：フレッドリーツ

当たり前やん
だって三人おらんと満足できんって知っちまったもの
もう何も知らなかったあの頃には戻れないんやで

３９：名無しのアブノーマル
何こいつ

４０：名無しのアブノーマル
急にＮＴＲれた幼馴染み感出してきた

４１：名無しのアブノーマル
ＮＴＲれイッチ……いいね……

４２：名無しのアブノーマル
一回おじさんの彼氏にならない？　そのあとセフレ紹介するからさ

４３：名無しのアブノーマル
どうしてこうもイッチに欲情したがるのか
分かります

４４：フレッドリーツ
分かるなやこのドブカスども
とにかく、ワイは決めた　というか理解した
【煌天女帝】ヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカ
【覇界聖王】エウラリア・カリエントゥス
【主羅統娘】ネスキス・ルインザルテ・オリエルト
この三人じゃないともう満足できん　絶対俺のもんにする、誰にも渡さん
というわけでね　当初の予定通りというか、俺の性癖にぶっ刺さる女トップスリーを全員囲うわ

異論は受け付けん　とりあえず方法だけ考えろドブカス

４５：名無しのアブノーマル
いやです

４６：名無しのアブノーマル
もっと罵倒してくれたら考えないでもない

４７：名無しのアブノーマル
いや、ここはあえてのイッチ懇願プレイで

４８：名無しのアブノーマル
ワイ一人じゃなにもできんのですぅ　さっさとワイを助けろやくださいぃ　ドブカスゥ
って言ってほしい

４９：名無しのアブノーマル
端々から迸るクソ野郎の香りがたまらない

５０：名無しのアブノーマル
遥か高みから跪いて泣き喚いてる感イイゾ～

５１：名無しのアブノーマル
心中でざけんなやっ!!!　って思ってる顔してるとなお良し

５２：名無しのアブノーマル
さあ、やれ！　やるんだイッチ！

５３：フレッドリーツ
ワイの役に立たんドブカスどもは消えろ

５４：名無しのアブノーマル
ありがとうございます！

５５：名無しのアブノーマル
これで今日も生きていける

５６：名無しのアブノーマル
イッチの選択次第で今日が最後になるけどな

５７：名無しのアブノーマル
そういやそやった　忘れてた

５８：名無しのアブノーマル
深い満足の中では外界のことなどどうでも良いのじゃ……

５９：名無しのアブノーマル
でも俺らはもっと満足したい　そしてイッチはハーレム作りたい
その二つを満たす良い方法がある
実況だ

６０：名無しのアブノーマル
せやな　とりあえず状況報告してイッチ
今三界の主どうなってるん？　それによってワイらから言えることも変わるで

６１：フレッドリーツ
んー、それもそうか　じゃあ現状を説明するかな
ヴァルガリエ、エウラリア、ネスキス、ワイを巡って口論中
もとから仲悪いのに加えてワイという存在のせいで絶賛ツンドラ状態
このままじゃ口論から殴り合いに発展するのは必然

今笑ってるワイを見て固まってる　全員顔赤くしてる　可愛い
これくらいかな　さあ、最適解を述べよ！

６２：名無しのアブノーマル
なるほど　お手上げじゃな

６３：名無しのアブノーマル
無理だね　何も思いつかん

６４：名無しのアブノーマル
というか全員堕ちてるんじゃね？　わざわざ手を加える必要もないと思う

６５：名無しのアブノーマル
これまでの反応からするにもうお三方みんなイッチのもんだよ
あとはほんのちょっとクズムーブするだけ

６６：名無しのアブノーマル
全員娶っちゃおうかな～ＦＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯ→→→
で案外どうにかなるんとちゃう？

６７：フレッドリーツ
シミュった　駄目だわ　殺し合いに発展して世界滅ぶ
どうやら名分が足りないっぽい　流石に全員プライドあるからな
一人の男に堕とされたからって仲良くしましょうは通用しない
必要なのは理由なんやな　背中を押す理由があればコロッとワイのハーレムになるはず

６８：名無しのアブノーマル
ふーん、そこまで分かるんだ

６９：名無しのアブノーマル
じゃあ俺たちいらなくね？

７０：名無しのアブノーマル
そのままシミュって答え出してもろて

７１：名無しのアブノーマル
あとはそれを実況してくれるだけでええでイッチ

７２：フレッドリーツ
お前らがそういうなら構わんが、失敗したらテヘペロで済ますからな

７３：名無しのアブノーマル
すまんやっぱ考えるわ

７４：名無しのアブノーマル
流石に真剣にならなイカン時か

７５：名無しのアブノーマル
今こそ決戦の時……！

７６：名無しのアブノーマル
全てはイッチがハーレムを作れるか否かにかかっている
いやかかっているのか？

７７：名無しのアブノーマル
イッチ生贄にして三界の主に共有して貰った方が早くね？

７８：名無しのアブノーマル

ここはイッチに知性体としての存在理由を捨ててもらうのはどうじゃろ

７９：名無しのアブノーマル
悪くないかもしれん　よし、聞いてみよう

８０：名無しのアブノーマル
聞いてみるって誰に？

８１：名無しのアブノーマル
そりゃ聖王様に決まってんだろ
お～い聖王様～　ご覧になってたら出てきてくださいや～

８２：エウラリア・カリエントゥス
呼ばれたので来ました。

８３：名無しのアブノーマル
来るんか……

８４：名無しのアブノーマル
段々染まりつつあるね聖王様

８５：名無しのアブノーマル
なんかもう色々マヒしてきたけどいいや
聖王様、ワイらとしてはイッチをお三方で共有して丸く納めて欲しいと思っております
いかがでしょか？

８６：エウラリア・カリエントゥス
嫌ですし無理ですね。

８７：名無しのアブノーマル
即答

８８：名無しのアブノーマル
そのお心は？

８９：エウラリア・カリエントゥス
やっぱり旦那様♡　は私だけの旦那様♡　であってほしいのです。
【煌天女帝】や【主羅統娘】と一緒に管理するなどとてもできません。
絶対に抜け駆けする方が現れます。
それくらいならば、私の独り占めにしたい。
そう思うのはわがままでしょうか？

９０：名無しのアブノーマル
わがままじゃ、ありません！

９１：名無しのアブノーマル
全ては聖王様のお心のままに!!!

９２：名無しのアブノーマル
さあイッチ！　諦めて聖王様の夫になるんや!!!

９３：名無しのアブノーマル
聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!

９４：名無しのアブノーマル
聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!

９５：名無しのアブノーマル
聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!

９６：ルール遵守絶対遂行代理人
　イッチことフレッドリーツ・レアライヒに正式に権限を付与されました
　これよりスレ進行の障害になると判断された方をＮＧ登録します
　前回と違いスレの閲覧は可能ですが、ルール違反に一切の容赦はしませんので悪しからず
　ルールについてはイッチ関連のルールスレをご参照ください
　それと聖王様へ
　下記のスレは聖王様とイッチの専用スレとなっております
　スレのルール外で書きたいことがあればそちらをご利用ください
【結婚生活】聖王様とイッチのイチャラブ日記【一日目】

９７：名無しのアブノーマル
　ヒエッツツ

９８：名無しのアブノーマル
　でたわね

９９：名無しのアブノーマル
　ウッソだろイッチ　よりにもよってあのスレ主に権限渡したのかよ!?

１００：フレッドリーツ
　だってお前らすぐ乱闘するんだもん　めんどいじゃん

１０１：名無しのアブノーマル
　そりゃお前……お前が悪いんじゃろがい!!!

１０２：名無しのアブノーマル
　俺たちの三界の主手篭めにしといてお前よぉ!!!

１０３：名無しのアブノーマル
もう許さねえ!!!　首洗って待って

１０４：ルール遵守絶対遂行代理人
ＮＧ登録します
これは示威行動です　今後改善が見られなければ改めてＮＧ登録遂行を報告します

１０５：名無しのアブノーマル
……まああれよ、俺たちも悪かったからさ

１０６：名無しのアブノーマル
スレを荒らすつもりはないんだ　ただちょっと怒りを抑えきれない時もある

１０７：名無しのアブノーマル
見逃してくれたりは……

１０８：ルール遵守絶対遂行代理人
しません　私に対するレスはルール違反と見なします　ＮＧ登録します

１０９：名無しのアブノーマル
……なんでこいつに権限渡したんだよイッチィ！

１１０：フレッドリーツ
適当にスレ読み流してたら性癖にピンときた
こいつ科学者時代の知り合いや　そう思って干渉波飛ばしたら大当たりやった
まあそういうことやね　シンメトリー系の図形描ける数式とか渡すと簡単に好感度稼げるからおすすめゾ

ルール違反でこの世とおさらばした奴らは数知れないがな

１１１：名無しのアブノーマル
こえーよ……

１１２：名無しのアブノーマル
類は友を呼ぶ……変態は変態を引き寄せる……

１１３：名無しのアブノーマル
我々は引かれ合う運命（デスティニー）

１１４：名無しのアブノーマル
まあそれはそれとして
聖王様どこ行った？

１１５：エウラリア・カリエントゥス
あ、申し訳ありません。
専用すれ、ですか？　そちらでちょっと旦那様♡　とお話をしておりまして……

１１６：名無しのアブノーマル
ほーん　熱々ですなー
っっってぇ!?　もう１０スレ超えてるぅ!?

１１７：名無しのアブノーマル
はえー　しかもスレ主聖王様に変わってる
急速に成長してんだね

１１８：名無しのアブノーマル
ああ……白鳥が糞溜めに適応していく……

119：名無しのアブノーマル
それでも白鳥は白鳥なんや　愛でろ

120：名無しのアブノーマル
申し訳ないがＮＴＲはＮＧ……うっ……
私は目覚めた　ＮＴＲは良い文明

121：名無しのアブノーマル
それはＢＳＳだと何度言えば

122：名無しのアブノーマル
一度しか言ってない定期

123：名無しのアブノーマル
やめやめろ　また代理人の魔の手が炸裂するぞ
んで、イッチ　そもそも聖王様に筒抜けなのはええんか？

124：フレッドリーツ
構わんで　その辺は専用スレでもう話し合ったし
とりあえずここはワイがハーレムを目指すための準備段階のスレや
じゃんじゃん意見出してもろて　それをワイがシミュるでな

125：名無しのアブノーマル
うーん　そう言われてもな

126：名無しのアブノーマル
なんか妙案ある？

127：名無しのアブノーマル
そもそもハーレムという時点で土台無理な話じゃね？

１２８：名無しのアブノーマル
　愛情に加えて地位、財産、打算、矜持の保全　そして男の度量が求められるからな

１２９：名無しのアブノーマル
　愛情はまあ、持ってるんじゃね
　持ってるかイッチ？

１３０：名無しのアブノーマル
　そこは持ってるやろ　人の心分からんけど

１３１：名無しのアブノーマル
　サイコパスなりに愛は感じるんやろ　一般的に見ればただの独り相撲かもしれんが

１３２：名無しのアブノーマル
　イッチ含めワイらは変態やからな　そこはまあクリアでええ

１３３：名無しのアブノーマル
　次、地位

１３４：名無しのアブノーマル
　まあ問題ないんちゃう？

１３５：名無しのアブノーマル
　腐っても千年紀最高の科学者だからな

１３６：名無しのアブノーマル
　それにたぶん、性癖なかったら四人目だと思う

１３７：名無しのアブノーマル
そうじゃなきゃ三界の主にこんな真似できんしな

１３８：名無しのアブノーマル
地位もオーケーと　じゃあ次　財産

１３９：名無しのアブノーマル
んー　持ってるんか？

１４０：名無しのアブノーマル
まあ特許とか発明の利益は得てるやろうけど……

１４１：名無しのアブノーマル
三界の主に匹敵するかと言われたらちょっとねぇ

１４２：名無しのアブノーマル
世界の支配者の財と一介の科学者の財、どちらが上でしょう？

１４３：名無しのアブノーマル
そりゃ前者よ

１４４：名無しのアブノーマル
じゃあ無理だね　でもそもそもイッチ、結構財宝取ってなかった？

１４５：名無しのアブノーマル
下僕イッチの時だっけか　まあそれ考えればいけなくもない

１４６：名無しのアブノーマル
そもそも今更三界の主が財産欲しがるかというと微妙
よって保留

147：名無しのアブノーマル
んじゃこれ、打算

148：名無しのアブノーマル
打算ねぇ……

149：名無しのアブノーマル
要はイッチのハーレムになるメリットやろ？

150：名無しのアブノーマル
あるんか……？

151：名無しのアブノーマル
いやないやろどう考えても

152：名無しのアブノーマル
イッチは（人の心が分からないなりに）みんな好き
三界の主はすでにイッチに堕ちてる
ので、三界の主はイッチのハーレムを受け入れる？
うーん、厳しい

153：名無しのアブノーマル
打算的に考えれば考えるほどマイナスだな

154：名無しのアブノーマル
これは要注意やな　解決策が必要

155：名無しのアブノーマル
そんじゃ一旦打算飛ばして
ドーン　矜持の保全

156：名無しのアブノーマル
女のプライドを如何に傷つけずハーレム入りさせるか

157：名無しのアブノーマル
いやぁ……打算以上に無理筋でしょ

158：名無しのアブノーマル
そもそもハーレムという名目自体がプライドズタボロマシーン

159：名無しのアブノーマル
男の夢に巻き込まれて気分の良い女とかおらんやろなぁ

160：名無しのアブノーマル
三界の主ほど自信満々なお方たちなら尚更

161：名無しのアブノーマル
そもそも互いに張り合ってるしな　関係性も最悪

162：名無しのアブノーマル
矜持の保全もケアが必要、とじゃ、最後　男の度量やな

163：名無しのアブノーマル
仮にハーレムが達成できた場合、イッチはどの辺まで譲るつもりなん？

164：フレッドリーツ
と言うと？

165：名無しのアブノーマル
ほらまあ、色々あるやん

166：名無しのアブノーマル
趣味とか、仕事とか、人付き合いとか　つまるところ自分の時間
自由よ

167：名無しのアブノーマル
ハーレムのためにどれくらい自分を犠牲にできる?
それを聞いてるんやで

168：フレッドリーツ
んー
逆に聞きたいんやけど
愛する女たちに囲まれて自由とかいる???

169：名無しのアブノーマル
ん?

170：名無しのアブノーマル
へ?

171：フレッドリーツ
そもそもよ?　ワイがハーレム望むんは自分を満足させるためやで?
そのために今考えてるし、何ならここまでの道のりもこの答えに辿り着くためやと思っとる
んで、自分が満足したなら相手を満足させるのも至極当然
それを押しのけて自由とか、自分の時間とか、普通に考えて要らんやん
だって愛する女たちとずっと一緒にいられるわけやからね
ワイは正直性癖と性欲満たせるんならあいつらに全部捧げてもええで

仕事も人付き合いも趣味も全部捨てて構わんしな

１７２：名無しのアブノーマル
お、おう

１７３：名無しのアブノーマル
イッチ、普通に漢だった

１７４：名無しのアブノーマル
変に常識的というか、自分にこだわりがないよね

１７５：名無しのアブノーマル
クズだけどただのクズじゃないから悲劇だったし、今があるってわけか

１７６：名無しのアブノーマル
んじゃ、まあ、男の度量は問題なしか

１７７：名無しのアブノーマル
ということは　障害は二つ

１７８：名無しのアブノーマル
ハーレム入りの打算　そして女のプライド
財産はまあ、なしでええじゃろ　そもそも論必要ないと思うし

１７９：名無しのアブノーマル
打算とプライド　よくよく考えると密接に絡み合ってるこれを如何に上手く処理するか

１８０：名無しのアブノーマル
それで運命が決まるやで、イッチ

181：フレッドリーツ
ふーむ　なるほどなぁ
よっしゃ閃いた　あとは実行するだけやな

182：名無しのアブノーマル
お？

183：名無しのアブノーマル
流石イッチ　だが早すぎる

184：名無しのアブノーマル
早くも不安しかない

185：名無しのアブノーマル
とりあえず計画の概要だけでも教えてくれ

186：フレッドリーツ
まあ単純な話よ
まずワイの思惑を話す　そんで一人ずつ対話する
最後は三対一で討論対決　勝利すればワイの勝ち
駄目やったら世界ご臨終　最後に立ってた女のものにワイはなる
これでええんちゃう？　シンプルにいこうや

187：名無しのアブノーマル
シンプル過ぎる

188：名無しのアブノーマル
もうちょっと考えてもろて

189：名無しのアブノーマル

なぜその頭脳を生かさないのか

１９０：名無しのアブノーマル
その気になれば洗脳じみた文句の一つくらい言えるやろ

１９１：フレッドリーツ
言えるけど必要か？　ワイは自分を偽るつもりはないで
ありのままとは言わん　が、勘違いして欲しくはない
いつか破綻するようなハーレムじゃ駄目や　決着はここでつけたるで

１９２：名無しのアブノーマル
うーむ、無駄に漢らしい

１９３：名無しのアブノーマル
どうしてこうなったんやろうね

１９４：名無しのアブノーマル
なんかもう吹っ切れてから、イッチ変わったよね

１９５：名無しのアブノーマル
自分に対する信頼のなさが消えた

１９６：フレッドリーツ
そりゃこんだけ愛されてるって分かったからな
これでナヨナヨしてたら逆に失礼やろ

１９７：名無しのアブノーマル
それはそう

１９８：名無しのアブノーマル

ワイは自信溢れるイッチ好きやで
でも前の解釈違い起こしたり自信のないイッチも好きやで
定期的に入れ替わって♡

１９９：フレッドリーツ
めんどくさいわ　お断りします

２００：フレッドリーツ
さーて、そんじゃ行くか
まずはネスキスから、イクゾー！

【ＶＳ・】ワイが世界の命運を賭けてハーレムを作るスレ【主羅統娘】

1：フレッドリーツ
はい、用意スタート
始まりましたワイことフレッドリーツ・レアライヒが世界の命運のためにハーレムを作る実況です
ルールは例によって丸投げしました　カモン代理人！

2：ルール遵守絶対遂行代理人
混乱を避けるため、以下のルールにてスレを進行します
1　全四スレを事前に用意　各三界の主攻略用に三スレ、三界の主同時攻略に一スレ使用します
2　各スレでの雑談待機は可とします　ただし無駄にレスを消費する行為は不可とします
3　聖王様は最初からＮＧ登録します　これはイッチにとっての公平を期するための処置です
4　娘ちゃんの書き込みは例外とします　ルールを認識できない相手に対する罰はルール違反です
以上になります　違反者は順次ＮＧ登録いたしますのでご了承ください
なお、四スレのいずれかでＮＧ登録された場合、四スレすべてにおいて閲覧書き込みは二度とできません
罰則の重さをよく理解し、適切にルール運用が為されることを期待します
それでは皆様、良きアブノーマル板ライフを　私は事前に渡された報酬を楽しみつつ監視します

3：名無しのアブノーマル
乙

4：名無しのアブノーマル
スレ立て&ルール説明乙

5：名無しのアブノーマル
気を引き締めて待機するぞ

6：フレッドリーツ
ちなみに代理人に渡した報酬は自動人形複製工場の権利書やで
前々から完璧な知性体の標本作りたい言うてたからな　今頃設計図引いてるんとちゃう？
気になるだろうから答えたで　んじゃ、そろそろやってくか

7：名無しのアブノーマル
待ってました！

8：名無しのアブノーマル
まずは娘ちゃんからか

9：名無しのアブノーマル
どんな感じでやっていくのん？

10：フレッドリーツ
今いるとこがネスキスの魔力空間やから、ネスキスに頼んで個室作ってそこで対話かな
とりあえずワイの目的、お前ら全員娶るってハーレム願望垂れ流したら普通に怒ってたんでまあまあまずはワイの話を聞いてくれという方向に持ち込んだで
今はネスキスは個室で待機中　ワイはネスキスが頬に『契約の烙印』刻んだ関係でヴァルガリエとエウラリアに似たようなの刻まれてる最中やで

11：名無しのアブノーマル
なるほど　とりあえず話は聞いてもらえるんか

12：名無しのアブノーマル
ていうか女帝様はともかく、聖王様ってそういう系の印あったっけ？

13：名無しのアブノーマル
女帝様は『屈服の焼印』が有名よな　聖王様は知らん

14：名無しのアブノーマル
建国記にちょっとだけ記述あったわ　『御祓（みそぎ）の聖印』てのがあるらしい
邪なる心を浄化するためのうんたらかんたらって書かれてる　内容少なくてよく分からん

15：名無しのアブノーマル
はえー　ちなみにイッチはどこに刻まれたん？

16：フレッドリーツ
ヴァルガリエはワイの胸、心臓の上やな　まあヴァルガリエらしい場所やと思う
エウラリアは……ワイの相棒や

17：名無しのアブノーマル
うぇ？

18：名無しのアブノーマル
ｗｈｙ？

１９：名無しのアブノーマル
相棒って……相棒♂???

２０：フレッドリーツ
せやで　めっちゃねっとりやられたからヴァルガリエ怒り出して宥めるのに苦労したわ

２１：名無しのアブノーマル
聖王様ェ……

２２：名無しのアブノーマル
そこなんか……いや、うん、分からんでもないけど……

２３：名無しのアブノーマル
邪な心浄化できてませんよ聖王様……

２４：名無しのアブノーマル
やっぱり聖王様はここの住人　はっきり分かんだね

２５：フレッドリーツ
というわけでね　無事ワイの体と魂に三人分の印刻まれたんでね
めっちゃ不満そうなヴァルガリエを大人のちゅう（Ｌｖ．１００）で腰砕けにしてネスキスのとこ行くで
エウラリアは放置でええじゃろ　さっきからずっと専スレで話してるしな

２６：名無しのアブノーマル
ついにか……

２７：名無しのアブノーマル
世界の命運を賭けたハーレム計画、その１発動

２８：名無しのアブノーマル
さて、娘ちゃん……初手はどうでる？

２９：フレッドリーツ
あー　やばい　ネスキスすげー不機嫌そう
そりゃそうか　印増えてるし、なんならヴァルガリエとのキス痕残ってるしな
痕跡消しとくべきやったな　失敗失敗☆

３０：名無しのアブノーマル
おぅい!!!

３１：名無しのアブノーマル
初手でガバるのやめてもろて

３２：名無しのアブノーマル
どうしてイッチはこうも自分を窮地に追いやるのか

３３：名無しのアブノーマル
頼むよーほんと頼むよーイッチィ……

３４：フレッドリーツ
ネスキスに刺々しい口調で隣座るよう言われたわ
あ、部屋の構造は豪華ソファ一つだけな　その方が話しやすいし
隣に座ったら早速頬にキスされた　あ、やばい　『契約の烙印』の深度高めようとしてる
ホンマ独占欲強いんやなぁ、ネスキス……ほら、やめなさい　もう逃げたりしないから

３５：名無しのアブノーマル

（イッチがソファに座った途端飛びつき&ほっぺたちゅうコンボが）
みえるみえる

３６：名無しのアブノーマル
娘ちゃん可愛いな　っぱ娘ちゃんがナンバーワンや！

３７：名無しのアブノーマル
やめろ　無駄な争いでＮＧ登録されたいんか？　本心を呟きつつスレを進行しろ
で、イッチ　とりあえずどうするん？

３８：フレッドリーツ
どうするってそりゃ対話やろ　まずはネスキスがワイをどうしたいのか聞いてみるで
一問一答もやってなかったしな　というわけで、イクゾー！

３９：フレッドリーツ
Ｑ：ワイのハーレム計画、どう思う？
Ａ：嫌い　大嫌い　なんでそんなこと言うのか分からない
ボクだけでいいじゃないか　ボクだけで、君を満足させるから
頑張るよ　頑張るから　すっごく頑張るから
だから……お願い　あいつらと一緒じゃないと嫌なんて言わないで

４０：フレッドリーツ
Ｑ：なるほど　じゃあワイに望むことなんかある？
Ａ：そんなの一つしかないよ
約束して　ずっと一緒にいるって約束　もう絶対、破っちゃダメなやつ
前が偽物だっていうなら、今度こそ本当の約束、してよ

４１：フレッドリーツ
Ｑ：お、約束か　ええよ　ほら、指切りだ
Ａ：……ホントのホントだよ？　もう絶対、離さないからね？
え？　これって……契約の糸？
こんな細い……でも、君から？　良いの？　だって切れたら、これ
……
……本当に、絶対、離れないんだね？　その証、なんだ……
……♡

４２：フレッドリーツ
Ｑ：他にやってほしいことある？
Ａ：他にって……ボクはずっと一緒に居られたらそれで……
……本当はね、ダーリン♡　じゃなくて、パパ♡　って呼びたいんだ……
その、良い……かな……？

４３：フレッドリーツ
Ｑ：ええぞええぞ　ほら、こっちおいで
Ａ：ホント!?　えへへ……ずっとこうしたかったんだ……♡
パパ♡　パパ、パパ、パパ……♡♡♡　ボクの、ボクだけの、お父さん……♡

４４：フレッドリーツ
Ｑ：よしよし、良い子だな　甘えん坊で可愛いぞーネスキス　で、ハーレムの話なんだけど
Ａ：ま　だ　そ　の　話　す　る　の　？（契約の糸を見せつける）

４５：フレッドリーツ
というわけでね　ワイ的には一歩前進したんだけど崖っぷちに押し出された状態かな
いやー乱世乱世！　どうしようか！　ＨＡＨＡＨＡ！

４６：名無しのアブノーマル
　なんでこいつこんなテンション高いんだ

４７：名無しのアブノーマル
　世界の命運がかかってるっていうのに

４８：名無しのアブノーマル
　まあイッチその辺どうでも良さそうだし、たぶんこいつ楽しんでるよ

４９：名無しのアブノーマル
　修羅場を望んでる、はっきり分かんだね

５０：名無しのアブノーマル
　契約の糸もそのためじゃない？　相手の受け止め方一つで千切れて代償払わされるやつなのに
　たぶん全賭けしてるよイッチ

５１：フレッドリーツ
　そりゃ当然　だってその方が面白いじゃん？
　さて、ネスキスは現在ワイの膝の上　鼻歌交じりで頭ナデナデを受け入れている
　この状態からどうやってハーレム展開に持っていこうか、な！

５２：名無しのアブノーマル
　くっそ楽しそう

５３：名無しのアブノーマル
　なぜ一歩踏み間違えれば破滅するのにこうなのか

５４：名無しのアブノーマル
　たぶんこの世紀末で一番良い空気吸ってるよこいつ

５５：フレッドリーツ
　よし思いついた　名付けて「パパお嫁さん作っちゃうぞー」計画！
ネスキスがパパ呼びするのを逆手に取って結婚というていで『ダメに決まってるじゃないか。馬鹿なのパパ♡　は』

５６：フレッドリーツ
　おっと思考掌握され『全く……ボクという可愛い娘と一緒にいるっていうのに、また変なところ見て……そういうところもパパ♡　らしくて好きだけど……♡
　でも、今は嫌かな……？　だって、せっかく手に入れたボクと君の二人っきりの時間だもん……ねえ、パパ♡　これからどうするの？
　もしも、あいつらが邪魔なら……ボク、頑張るよ？　パパ♡　のためなら、あいつらなんかに絶対負けないから……』

５７：フレッドリーツ
『……え？　それも込みで話がしたいから、思考掌握は解いてくれって？　ダメだよ、よそ見するパパ♡　が悪いんだよ……
　……分かった。今は、許してあげる。でもボクが我慢できなくなる前に終わらせてね？　じゃないと、ボク……パパ♡　に何するか分からないからさ……♡♡♡』

５８：フレッドリーツ
　よし、取り返したで　「パパお嫁さん作っちゃうぞー」計画は失敗やな
　どないしよ

５９：名無しのアブノーマル
　知るかよ

６０：名無しのアブノーマル
今娘ちゃんの脳内垂れ流しを味わうのに忙しいんだ

６１：名無しのアブノーマル
勝手にやってろイッチ

６２：フレッドリーツ
んー、そかそか　じゃあ次は「姉か妹作っちゃうぞー」計画で……

６３：名無しのアブノーマル
やめやめろ　どうしてお前は地雷を踏もうとするんだイッチ

６４：名無しのアブノーマル
クッソ！　余韻に浸ってる暇もねえ！

６５：名無しのアブノーマル
こんな奴に世界の命運が託されている現状に絶望する……うっ、ふぅ……

６６：フレッドリーツ
じゃあどないしろっちゅーんじゃ　ちなワイは知っての通り科学者やから当たって砕けろの精神やで
失敗は……ほら、成功の、神？　のオカズ？　とかなんとか言うじゃろ

６７：名無しのアブノーマル
言わねーよ　ここでしか通じないギャグやめろ

６８：名無しのアブノーマル
神のオカズなんか格言残すような偉人は知らねーんだよ

６９：名無しのアブノーマル
　思いつけ……なにか妙案を思いつくんだ……じゃないとイッチのくだらねえ計画で世界が吹っ飛ぶ……！

７０：フレッドリーツ
　お前らとレスバしてる間もネスキスの不機嫌度上昇してるけど、まあ些事だよね

７１：名無しのアブノーマル
　些事じゃねーよ時限爆弾のカウントダウン進んでんじゃね―か！

７２：名無しのアブノーマル
　何か、何か手はないのか！　何か……！

７３：名無しのアブノーマル
　……あ！　そうだ！
イッチ！　性癖を晒せ！　娘ちゃんに全てを打ち明けるんだ！

７４：フレッドリーツ
ん？　もうやってるぞ？　詳しくは過去ログを

７５：名無しのアブノーマル
　そうじゃない！　どうして娘ちゃんが性癖に刺さるのかを言うんだ！
　娘ちゃんのここが好き、ここを愛してる、それを畳みかけろ！　とりあえずメロメロにして時間稼げ！

７６：フレッドリーツ
　あーそういう　ええよ　ちょっとやってくるわ

77：名無しのアブノーマル
おい……いいのか？　そんなんで……

78：名無しのアブノーマル
時間がなきゃ考えも浮かばねえだろ！　娘ちゃん恋愛脳にしたらワンチャンあるかもしれないし！

79：名無しのアブノーマル
うーん、ただの問題の先送りだと思うが……とりあえず考えるだけ考えるわ

80：フレッドリーツ
ネスキスの反応気になるだろうから書きながらここ好き♡　ここ愛してる♡　やってくで
半分くらい思考掌握して貰ってネスキスの脳内垂れ流しにするわ

81：フレッドリーツ
ネスキスの髪って綺麗だよな　黄金のオーロラみたいでさ　昔、世界の外側で極光を見に行っただろ？　あれはネスキスの髪を見て思い出して、どっちが綺麗か知りたかったんだ　俺は、ネスキスの髪の方が好きだな
『な、何……？　急に褒めるなんて……ボクの機嫌を取ろうったって、そうはいかないよ、パパ♡　ハーレムなんて、絶対許さないからね……♡』

82：フレッドリーツ
ネスキスの瞳を見ていると、心が安らぐよ　綺麗で、理性的で、智慧の煌めく瞳だ　たまに目を逸らす時があっただろ？　あれはネスキスの美しい瞳に見つめられるのが耐えきれなくて、思わずそうしたんだよ　本当に、綺麗だ……愛してるよ
『んぅ……♡　も、もう……ダメだよ、パパ♡　……♡　褒め殺しなん

て、そんなのにボクは、引っかかったりしないんだからぁ……♡』

83：フレッドリーツ
　ネスキスの自信満々なところは大好きだな　人を馬鹿にしたり、おちょくったりするところも好きだ　恐れ知らずなところが本当に可愛くて、つい虐めて泣かせたくなる　ああ、勘違いするなよ？　いつもそうしたいんじゃないんだ　ここぞとばかりに、お前の涙が見たいそれが何より気持ちいいからさぁ
『……パパ♡　って本当に悪い人だね……♡　たまになら、良いよ……？♡　でも、その後はちゃんと優しくしてね……？♡　そしたらボク、許しちゃうから……♡』

84：フレッドリーツ
　おーいいぞ　素直なネスキスも可愛いなぁ　まったく、俺みたいな悪い男にこんなに入れ込んじまって……たまんねえよなぁ～　ホラ、もっとくっつけ　うりうりしてやるから　お～可愛いぞ～！
『わぷっ……もぉ、そんなペットみたいにボクのこと扱って……♡ボクはパパ♡　の娘でペットじゃないんだよ……♡　ねぇ、ちゃんと褒めて、優しくして、大切に育てて欲しいな……♡♡♡』

85：フレッドリーツ
　勿論だとも　ネスキスは大事な大事な俺の娘だからな　最後までちゃんと面倒見てやる　約束しただろ？　もう離れないさ　ずっと一緒だ　ずぅーっとな！
『……好き♡　好き、好き好き♡　パパ好き♡　大好き♡　愛してる♡　愛してるよ……♡♡♡』

86：フレッドリーツ
　こんな感じでええか？　もうなんかふにゃ～んてしてるわ
　ここまで機嫌取りゃ早々に爆発せんやろ　ワイが地雷踏まん限りやけど

87：名無しのアブノーマル
　よくやった

88：名無しのアブノーマル
　たすかった　二重の意味で

89：名無しのアブノーマル
　よく土壇場でこんな美味しい策を思いついたもんだ　褒めて遣わす

90：名無しのアブノーマル
　イッチ満足　娘ちゃんも満足　ワイらも大満足
　三方ヨシ！

91：名無しのアブノーマル
　これにて娘ちゃん攻略完了！　終わり！　閉廷！

92：フレッドリーツ
　おい、まだハーレム認めさせてないぞ

93：名無しのアブノーマル
　ツスゥーーーー

94：名無しのアブノーマル
　もう諦めていいんじゃないかな

95：名無しのアブノーマル
　こんな脳内真っピンクで幸せそうな娘ちゃんを曇らすなんて俺にはできない

９６：名無しのアブノーマル
　それはそれで美味しいけど　今は気分じゃないかな

９７：名無しのアブノーマル
　イッチにはこのまま娘ちゃんのパパになってもろて

９８：フレッドリーツ
　もうパパだからそこはクリアしてるぞ
　しゃーない　お前らが思いつかんなら今度こそ「ネスキスの義母二人作って親子丼」計画イクゾー

９９：名無しのアブノーマル
　駄目だこいつに任せるな!!!

１００：名無しのアブノーマル
　発想がことごとく地雷　これが千年紀最高の科学者ってマ？

１０１：名無しのアブノーマル
　頭脳が先か性癖が先か……たのむ頭脳であってくれ

１０２：名無しのアブノーマル
　※本人の弁によると曲がりなりにも性癖を消し去るために研究していたようです

１０３：名無しのアブノーマル
　じゃあ駄目じゃん　今の覚醒イッチは性癖に従ってるんやぞ

１０４：名無しのアブノーマル
　ただの頭の良い変態じゃねーか

１０５：名無しのアブノーマル

しかも人の心が分からない

１０６：名無しのアブノーマル
それでハーレム作るって？　どこから手つけていいか分かんねえよもう

１０７：名無しのアブノーマル
落ち着け……落ち着いて偶数を数えるんだ……１　３　５　７
あ、これ奇数だった

１０８：名無しのアブノーマル
レベルの低い方法に輪をかけてレベルの低い間違いをするんじゃない

１０９：名無しのアブノーマル
……しょうがねえ　禁じ手だがイッチの頭脳に頼ろう
イッチ、お前から見た娘ちゃんの解析データを乗っけてくれ　イッチがそれの意味分かんなくてもいいから

１１０：フレッドリーツ
ええけど、それでどうすんの？

１１１：名無しのアブノーマル
敵を知り己を知れば百戦危うからず　イッチという己をワイらは知ってる
ならば娘ちゃんという敵を知れば自然と解答は導き出せるはずだ
頼むイッチ、お前の分析力が頼りなんや

１１２：名無しのアブノーマル
ほんとは頼りたくないけどな

113：名無しのアブノーマル
叶うことなら世界の命運託したくない

114：名無しのアブノーマル
だがそれは叶わぬ願い　クソッ！　世界はなんて理不尽なんだ！
しかし、だからこそ……！

115：名無しのアブノーマル
抗え……抗え……!!!

116：名無しのアブノーマル
俺たちのちっぽけな力を見せてやる!!!

117：フレッドリーツ
なんか盛り上がっててウケるｗ

118：名無しのアブノーマル
おぅぃ!!!　水差すなイッチィ!!!

119：名無しのアブノーマル
しかもなんだその単芝!!!　笑うなら盛大に笑えや!!!

120：名無しのアブノーマル
堪えきれない苦笑が一番キツイねんぞ!!!

121：フレッドリーツ
あー、スマンスマンｗ　じゃあネスキスの分析データのっけるで
ネスキス・ルインザルテ・オリエルトの特徴
・頭がいい、理性的、不屈の精神
・知識が豊富、たぶん何かと繋がってて随時更新
・自信家、策略家　頭の良さで相手を打ち負かすのが大好き

・敗北を知らない長鼻持ち　その長さ、軌道エレベーター級
・ワイのこと超好き　それはもう空を覆うオーロラの如きドデカ感情

単純化したデータがこれ
ここから導き出すに……「実はネスキスは三つ子だった計画」が当たりそうな予感がするで

122：名無しのアブノーマル
いい加減言葉遊びレベルのゴミ計画立てるのやめろ

123：名無しのアブノーマル
どうしてイッチは明らかに失敗する発想に固執するのか

124：フレッドリーツ
だって試してないし　試せばいける　失敗すればテヘペロで済む

125：名無しのアブノーマル
済まねえんだよボォケ!!!

126：名無しのアブノーマル
頼むからもうちょっと虫けらのようなワイらに気を使ってくれ

127：名無しのアブノーマル
こちとら風に吹かれて死ぬんやぞ　いたわれもっと

128：名無しのアブノーマル
生〝き〝た〝い〝っ〝っ〝っ〝!!!

129：名無しのアブノーマル
もうイッチは何も考えるな　ただ娘ちゃんのご機嫌取りだけしとけ

それはそれとしてデータたすかる

１３０：名無しのアブノーマル
さて、この単純化された五行から何を思いつけるのか……

１３１：名無しのアブノーマル
……データ少なくね？

１３２：名無しのアブノーマル
いや、今は分かりやすいほど良い　どうせ小難しく説明されても分からん

１３３：名無しのアブノーマル
奇抜さは捨てろ　俺らから１％の発想は出ない

１３４：名無しのアブノーマル
王道で行くんや　恋愛必勝パターン、それを当てはめるしか勝ち目はない

１３５：名無しのアブノーマル
ｏｋ　で、どうする？

１３６：名無しのアブノーマル
……

１３７：名無しのアブノーマル
……

１３８：名無しのアブノーマル
……

１３９：名無しのアブノーマル
　誰も思いつかんのかい!!!

１４０：名無しのアブノーマル
　しょーがねえだろ恋愛なんか経験ゼロなんじゃこちとら!!!

１４１：名無しのアブノーマル
　恋人いない歴＝年齢舐めんなよ!!!　気づけばお局様とか呼ばれる行き遅れの気持ちが分かるか!!!

１４２：名無しのアブノーマル
　前前前前前前世から恋人いない俺への当てつけかアァア!!??!?

１４３：名無しのアブノーマル
　知るかボケ!!!　お前らの恋愛事情聞いたって世界の危機は止められねんだよ!!!

１４４：名無しのアブノーマル
　もうやだ!!!　助けて聖王様!!!　ワイのママになって全部忘れさせて!!!

１４５：名無しのアブノーマル
　今更消滅への恐怖を感じてきた……嫌だあああああああああああああ!!!

１４６：名無しのアブノーマル
　いやじゃいやじゃ!!!　死にとうない!!!　人の子のせいで死にとうない!!!

１４７：名無しのアブノーマル
　おぎゃあああああああっ!!!　あぎゃっ、あぎゃっ、おぎゃあああああ

ああっ!!!

１４８：名無しのアブノーマル
やめやめろ!!!　お前らそんなことしたら

１４９：ルール遵守絶対遂行代理人
ＮＧ登録します

１５０：名無しのアブノーマル
……だから言ったのに

１５１：名無しのアブノーマル
所詮ワイらは灰色の青春を見送っただけの敗北者じゃけぇ……

１５２：名無しのアブノーマル
ハァ……ハァ……敗北者……？

１５３：名無しのアブノーマル
鳥消せよ……今の言葉!!!　てめえに言ってんだぞニワトリ野郎!!!

１５４：名無しのアブノーマル
待て、違う!!!　ネタじゃない!!!
敗北者だ!!!　娘ちゃんを敗北者にすればええんや!!!

１５５：名無しのアブノーマル
ええあ？

１５６：名無しのアブノーマル
娘ちゃんを？

１５７：名無しのアブノーマル

敗北者???

158：名無しのアブノーマル
なに言ってだてめぇ

159：名無しのアブノーマル
ええか？　娘ちゃんは敗北を知らん、そしてイッチが大好きや
そこにつけ込めばええ　要はイッチが娘ちゃんをボコボコに打ち負かしてやれば状況が変わる!!!
鼻っ柱をブチ折るんや!!!　そして衝撃を受けてる娘ちゃんにハーレムを無理やり認めさせればええ!!!
どや!?　完璧やろ!!!

160：名無しのアブノーマル
どこが???

161：名無しのアブノーマル
つまるところ殴って茫然自失としているところに甘言流し込むんやろ？

162：名無しのアブノーマル
ひどくない???　人の心がないんかお前

163：名無しのアブノーマル
引くわぁ　ドン引きやわぁ　ワイの生涯でイッチ以上にひどい奴見るとは思わんかったわぁ

164：名無しのアブノーマル
イッチ以下のゲスとかいう最上の侮辱ワード

165：名無しのアブノーマル

君、素質あるよ

166：名無しのアブノーマル
なんやなんやお前ら!!!　寄って集って殴りやがって!!!
気持ちよくなっちゃうだろ!!!　もっと殴れオラァ!!!

167：名無しのアブノーマル
うーんこの変態

168：名無しのアブノーマル
どうしてボコボコにされて暴力が甘い!!!　と逆ギレ天狗できるのか

169：名無しのアブノーマル
それが、アブノーマル板

170：名無しのアブノーマル
誰も彼も変態しかいないんやね

171：名無しのアブノーマル
せやな　で、実際どうなん？

172：名無しのアブノーマル
んー……まあ、アリ……か……？

173：名無しのアブノーマル
どうせ何も思いつかんならこの路線で行くしかねぇ

174：名無しのアブノーマル
ゲスさは置いといて、実際いいと思うよ？　初めての敗北を大好きな相手がくれるわけだし

さしもの娘ちゃんもハーレム願望くらいしぶしぶ認めてくれるでしょ　発想はゲスだけど

175：名無しのアブノーマル
そうなるか？　いや……そうなるか……？

176：フレッドリーツ
おーい、そろそろええか～？
ペットみたくうりうりしてたらネスキスが発情し出して抑えるの大変なんやけど
流石にヴァルガリエとエウラリア外にほっぽっておっ始めたら世界崩壊を止められる自信あらへんぞワイ

177：名無しのアブノーマル
くっ……時間もないか！

178：名無しのアブノーマル
浪費しすぎたな……仕方ねえ、ここはゲス野郎の発想で行くしか……！

179：名無しのアブノーマル
イッチ！　とりあえず娘ちゃんに勝負挑め！　できれば一世一代レベルの賭け付きで！
んで勝て！　完膚なきまでにボコボコにしたれ!!!　そんでイッチが勝ったらハーレム認めるをベッドすればええ!!!

180：フレッドリーツ
んー、それでイケるのか？　ちょっとシミュっても結果見えへんなまあええわ、お前らがそういうなら従うで　ほな、ちょっと世界の命運賭けてくるで

負けたらゴメンちゃいミ☆

181：名無しのアブノーマル
やり方は俺らが選んだけどイッチの態度には納得いかねぇ!!!

182：名無しのアブノーマル
これで世界滅んだら祟るからな!!!

183：名無しのアブノーマル
お前のアレになってお前の息子か娘になってやらぁ!!!

184：名無しのアブノーマル
パーパ♡　って呼んでやるからなクソ野郎!!!　絶対恨み忘れねえからな!!!

185：フレッドリーツ
勝ったわ

186：名無しのアブノーマル
えっ

187：名無しのアブノーマル
は？

188：フレッドリーツ
クイズ系で勝負挑んだら勝った　知識に自信があったネスキス、呆然としてる
あ、もう一回だって　しゃーないなぁ、気が済むまで付き合うで

189：名無しのアブノーマル

……え？

１９０：名無しのアブノーマル
まさか……

１９１：名無しのアブノーマル
（イケるんか……？）

１９２：名無しのアブノーマル
（こんなズタボロになった糞溜めから生まれた発想が世界を救うのか……？）

１９３：名無しのアブノーマル
（お前ら許さへんからな　絶対後で俺の性癖に付き合ってもらうからな）

１９４：名無しのアブノーマル
（いやです）

１９５：名無しのアブノーマル
（こいつら直接脳内で……!?）

１９６：フレッドリーツ
終わった　ワイの勝利
ネスキス、完全敗北　しぶしぶ、めっちゃしぶしぶハーレム認めた

１９７：名無しのアブノーマル
うそ

１９８：名無しのアブノーマル
マァジでぇえええ～～～!!??!?

１９９：名無しのアブノーマル
どうなってんの

２００：フレッドリーツ
ちょっと詳しく状況伝えるか　適当に書き出していくで～

【主羅統娘】の敗北

彼がやっと来てくれたから出迎えたら、その体にはあいつらの印が刻まれていた。

トカゲおばさんは胸。心とか、魂とか、そういうの自分のものだって主張してる。ほんとばか。すくえない。彼はボクだけの彼なのに。

勘違い女は……え!?　そこなの!?　う、羨ま、いやいやおかしいよね!?　本当に頭プリンになっちゃったの!?　我が敵ながら心配になる。最近の勘違い女はどうしちゃったんだろう。何度も虚空見つめてはボーッとしてたし。

……違う違う！　あいつらのことなんか重要じゃないんだ！　今、大事なのは、ボクの大切な彼をあいつらが自分の所有物だって主張していることだ！

君は、そんな風にヘラヘラ笑ってしょうがなかったって言うけどさ……納得なんて、できないよ。君は、ボクのものだ。誰にも渡さない。ボクの、ボクだけの愛しい君なんだから。

不機嫌さを隠しもしないボクは、彼に隣に座るよう言った。そして素直に従う彼に抱きついて、また同じ場所にちゅうをする。

あいつらがその気なら、ボクだって負けてられない。ほっぺたに、顔全体に、体中に印を広げるんだ。そうすればあいつらも理解するだろう。彼が、ボクのものだって。

そうしていると、彼は優しく笑ってそれをとめた。もう逃げたりしないからって。

……信じるよ？　信じるからね……？　だから、もうボクから離れないでね……

それから彼と、色んな話をした。ボクとあいつらでハーレムを作るなんて聞いた時は、腸が煮えくり返る思いだった。

本当に君は、ボクを怒らせるのが上手だ。腹立たしくて、体がカッと熱くなるくらいに。

でも、その熱さも、心に積もる苛立ちも、君が側にいれば消えていく。心地よさと幸せで、どこかへフッと溶けていく。

前の約束は偽物だって彼は言った。だから彼とまた、約束した。
今度は、本物の約束。絶対に離れない、どんなことがあってもずっと一緒にいるって指切り。
そのために彼は、契約の糸まで結んでくれた。結んだ本人にはどうにもできない、相手の一方的な思いで千切れてしまう、細い糸。
それは本当に大切な、心から信じられる人としか結んじゃいけないって、ボクは知っている。だから、とても嬉しかったのは本当だ。
彼はその糸に、彼の全てを乗せてくれたんだから。
好き。君が好き。大好き。愛してる。本当はダーリン♡　じゃなくてパパ♡　って呼びたいってわがままを言っても、受け入れてくれた。それが嬉しくて、嬉しくて、ボクはお父さんにそうするように彼に甘える。
血の繋がりなんか関係ない。特別な繋がりも、今はいらない。君がいて、ボクがいる。それだけでいい。それだけで、ボクの世界は完結する。
……なのにまだ、あいつらもいてほしいって、そう思うんだね、君は。流石のボクでも、耐えきれないことはある。パパ♡　がボクにとって最高のパパ♡　でも、許せないことはある。
いっそあいつらを、ボクのお人形にしてしまうのはどうだろう。普通なら無理だ。でもボクが最大で向こうが最悪なら、あるいは。
例えばそう、同じベッドで三人一緒だったあの時くらい、弱っていれば――
カリッ。脳裏に過ぎった記憶を掻き消すために、つい自分の唇を噛んでしまう。
いけない、いけない。パパ♡　の前では笑顔でいなくちゃ。君が最高のパパ♡　なら、ボクは最高の娘で当然。
悪いことは、隠さなくっちゃね。やるのは、今じゃなくていい。
ボクとパパ♡　の二人だけの世界――それを作ったあとでいい。
パパ♡　の胸に顔をうずめてそうほくそ笑んでると、急にパパ♡がボクを褒め始めた……♡
だ、ダメだよパパ♡　急にそんな、んぅ、やめてよ……♡　パパ♡

に褒められるの、ボクすっごい嬉しいんだからぁ……♡

ダメ♡　ダメダメ♡♡　そんな風に想っててくれてたなんて知ったら、もっと好きになっちゃう♡　パパ♡　のこと、ますます大好きになっちゃう♡

だからぁ、褒めちゃだめだよぉ、パパ♡　ボクたち、家族なんだよ……？♡　なのに、そんな熱心に口説かれたら……ボクもう、我慢できないよ……♡

いいよね……？♡　これはパパ♡　のせいだもんね♡　合意だもんね♡　ボク悪くないよね♡

ボクが悪い子でも、それはそれでいいよね♡　そしたらパパ♡　たくさん叱ってくれるもんね♡　だから、ホラ……♡　抵抗、しないで……♡

あいつらのことなんか、今は考えなくていいからさ……♡　もし見つかっても、ボクが守ってあげるから……♡

だから、受け入れて……♡　……もぅ、今日はいつになく強情なんだね……♡

でも、ボクがちょっと本気を出したら、パパ♡　は勝てないんだよ……♡♡　あは♡　ホラ、もっと頑張らないと、負けちゃうよ……♡

ざこ♡　ざぁこ♡　娘にも勝てないよわよわパパ♡　そんなパパ♡　も、大好き……♡♡　たくさんたくさん、愛し合おうね……♡♡♡

そうして、あとちょっとってところで、パパ♡　は急にボクに提案してきた。そんなのあと♡　って思ったけど、内容を聞いたら受ける気になった。

クイズ、出すんだって。ボクが勝ったら、パパ♡　は全部ボクのもの♡　あいつらが何言ってももう絶対なびかないって♡

その代わり、ボクが負けたらハーレムを認めなきゃいけないけど、些細なことだよね。だって、クイズだよ？　世界の叡智たるこのボクに、クイズで挑むんだよ？

絶対負けるわけないって思った。ボクに知らないことなんて何もないから。あるとすれば、それは人の心とか、あいつらに関わること

だけれど……たとえそれを出されたって、負けるわけない。
ボクは、そうあるべくして生まれた存在だから。世界の叡智、その根源、そしてそのものとして生まれたボクが、たかがクイズで負けるわけなかったんだ。
「じゃあ問題です。俺、フレッドリーツ・レアライヒにとって、ネスキスの一番性癖にぶっ刺さるところはなーんだ？」
……ぇ？
せ、せいへきに、一番ぶっ刺さるところ？　え？　聞き間違いじゃないよね？　確かに今、君はそう言った、よね……？
ボクの困惑をよそに、彼はサラサラと魔導で作った紙に答えを書いて伏せる。それを読み取れば、すぐに答えは分かるけど……流石にボクのプライドが許さない。
ふう、落ち着け。考えろ、考えるんだ。ボクに知らないことはない、この知識があれば答えを導き出せるはずだ。
せいへき。性癖。生まれついての拭えない癖。一般的に性的な、そう……こ、子作り♡　に関わる趣向のことを指す。
彼の、子作り♡　の癖。子作り♡　をする上での、趣向……？
ち、知識を、ボクの持つ叡智から引っ張り出すんだ。性癖、性癖……
えっ!?　な、なにこれっ!?
うわぁ……こんな、うわぁ……こんなへんた、いやいや変なや、いやいや……そ、その、特殊な人たちがいるの？　彼も、その一人……？
ええぇ……嘘でしょ、全然信じたくないんだけど……で、でも、彼がこうだとは限らないし……そ、そうだ！　聞いてみれば……！
そう思ったけど、ヒントになるからダメだって言われた。く、くそぅ、叡智の化身としてのプライドの手前、ヒントなんか貰えない……
ああクソ、人の心も読めれば良かったのに……！　個々人の心はボクの管轄外、その全貌を明らかにすることはできない。
どうしよう……いいや、何弱気になってるんだ、ボク！　ボクの叡智をフル活用すれば、これくらいのクイズ、なんてことないはず……

！

……

……

……

ああもう！　分かんないよぉ！　なんだよパパ♡　に一番ぶっ刺さる性癖って！　本当にそれボクの中にあるの!?

えっと、えーっと……そうだ！　さっきパパ♡　に褒められたところ！　たぶんその中に答えがあるはず！

褒められたのは、髪と、目と、自信満々なところと、娘みたいに可愛いところ……♡　よし、この四つから選ぶんだ！

ボクは考えた。考えて、考えて、考えて、答えを出した。

間違いない、これだ！　パパ♡　の性癖に一番刺さるのは――ボクの娘みたいに可愛いところだ！

だってボクはパパ♡　の娘だし、うん、間違いない！　どうだ！

これがボクの答えだ!!!

「あー……ざんねーん、ハズレー！　正解は、ネスキスのメスガキみたいに生意気なところでしたー！」

……え？

えっ。

え???

まち、がえた？　ボクが？　このボクが???

嘘だ、嘘だ嘘だ嘘だ!!!　ボクは慌てて彼の伏せた紙を引っ繰り返す。

そこには……『生意気なところ♡』って書かれていて……ボクは、現実を受け入れることができなかった。

そんな……何かの、これは何かの間違いだ。だって、ボクが間違えるわけないんだ。ボクは世界で神の次に賢くて、色んなこと知ってて、頭が良いんだ。

なのに、なのに、こんなのって……

――も、もう一回！　もう一回だよ！　今の無し、ナシナシナシ！

だってインチキだもん！　ボクの知らないこと、問題にするなんて

！　ちゃんとボクに分かる問題にしてよ！
　そうせがんだら、しょうがないなぁって彼は笑って。
「じゃあ、次の問題です。俺はネスキスが何番目に好きでしょう？」
　……い、一番！　一番だよね!?　ね、ね、ね!?
「ざんねーん！　ネスキスはまだ三番目でしたー！」
　う、うぅうっ……！　ひどい、ひどいよパパ!!!♡　ボクの口からそれを言わせようとするなんて、ひどすぎるよ！
　なんでイジワルするの！　普通に難しい問題でいいでしょ!?　ホラ、パパ♡　の証明した永久機関の原理とかさ！　ボク、一言一句違わず答えられるよ!?
「おー、そうかそうか。えらいぞー！　じゃあ次の問題、俺はネスキスが何をしたら一番喜ぶでしょう？」
　……い、いやだけど……ハーレムを認める、とか……？
「あー、それも嬉しいけど、正解は泣いちゃうことでしたー！　そう、今みたいにさぁ……絶対勝てるって自信満々なプライドをへし折られて泣きそうな顔、大好きだぞ♡」
　そう言って、呆然とするボクの顔を見下ろす彼の顔は、とてつもなく愉しそうで――
　それから何度も、ボクは彼に問題をねだった。
　彼はその度に問題を出して、けれどボクは全部間違えてしまった。
　信じられない。ありえない。息が荒くなる。頭がクラクラする。
　もう前も後ろも分からない。
　負けるの……？　ボクが、このボクが、世界の叡智たる統べる者が。
　彼に、大好きな人に、たった一人の大切なパパ♡　に、敗北するの……？
　無理だ。たとえパパ♡　でも、受け入れられない。認められない。
　絶対に、必ず、ボクは勝たなきゃいけないんだ!!!
「それじゃあ、最終問題だ。せっかくだし、ネスキスのために二択にしようかな。
　俺ことフレッドリーツ・レアライヒは、ネスキスの髪と瞳、どっち

が好きでしょう?」

彼が紙に答えを書いて伏せる。ボクはその瞬間、禁じ手を使う。

ボクは人の心までは分からない。けれどそれが世界に書き出されたのなら、その瞬間から知識として取得できる。

勿論、ボクのプライドはズタボロになる。でも今の時点で似たようなものだ、恥の上塗りをしてでも、ボクは勝利を選ばないといけない。

接続する。世界からボクへ、この問いの答えが流れ込む。

それは――

『答えは瞳だ、ネスキス。だが、好きな方を選ぶといい』

ドクンと、心臓が跳ね上がった。

ドッと汗が流れる。恐る恐る、彼を見る。

彼は、笑っていた。ニヤニヤと、心底今を愉しむように。震える瞳で、髪を揺らして、呆然とするボクに、彼は気持ち良くなっている。

『好きな方を選ぶといい』

手元の紙の文字がリフレインする。

ねえ、嘘でしょ? 嘘だと言ってよ。まさか、そんな……ボクに、選ばせるつもりなの……?

勝って君を手に入れるんじゃなくて――ボクが自分から負けて君のハーレムに入ることを選ばせるつもりなの?

そんな、そんな……そんなこと……

呼吸が荒くなる。息が熱い。汗が滴って、ボクの体を濡らしていく……

やだ……やだよ……そんなのやだ……♡ 君に、負けたら、認めなくちゃいけないのに……♡ 君の、ハーレム……♡ あいつらと一緒に愛されるってこと、受け入れなくちゃいけないのに……♡

やめてよ……そんな目で、見ないで……♡ ボクが、自分から、負けを認めちゃうの……求めないで……♡ あっ♡ やだ♡ やだやだやだやだ♡ 嫌だよう♡ 負けたくないよう♡

腕、掴まないで♡ 近い♡ 近いよパパ♡ 答えはどっちって、今答えられるわけないじゃないか♡ 答えたら、答えたら……♡♡

♡

……――パパ♡　が好きなのは、ボクの、髪、です……♡♡♡

ああ……言っちゃった……♡　自分から敗北♡　認めちゃった……♡

もう、逃げられない……♡　ボクはパパ♡　のハーレムに入っちゃうんだ……♡　あいつらとおんなじになって、これからずっと……ずっとずっと、幸せにされちゃうんだ……♡♡♡

こうして、ボクは負けてしまった。一度も負けたことのなかったボクの、最初で最後の敗北だ。

後悔がないと言えば嘘になる。本当は、ボク一人だけで良かった。その思いは今も変わらない。

けれど……しょうがないよね。だってパパ♡　が、あんなに嬉しそうな顔でボクを見つめていたんだから。

残酷で、悪どくて、遠慮なんか一切ない、子供みたいに純粋な笑み。ただ、気持ちよくなりたいって……ボクを幸せにする気満々の顔をされたら、抗えない……♡

ああ……そうか。ボクは最初から負けてたんだ。

ただ、気づかなかっただけで、ボクはずっと前から負けていた。彼を、君を、パパ♡　を好きになったその時から、もう勝ち目なんかなかったんだ……♡

これからボクは、色んな後悔をするだろう。けれど、そんな未来に不満はない。

だって、君と一緒なら、どんな未来だって笑って歩いていけるから。

だから、これからもよろしくね♡　ボクの、たった一人のお父さん♡♡♡

【ＶＳ・】ワイが世界の命運を賭けてハーレムを作るスレ【覇界聖王】

１０１：フレッドリーツ
よお、お前ら
無事にネスキスがハーレム入りを認めたんでな
次はエウラリア攻略していくぞ

１０２：名無しのアブノーマル
来た！

１０３：名無しのアブノーマル
きちゃー！

１０４：名無しのアブノーマル
待ってたイッチ！

１０５：名無しのアブノーマル
代理人の監視を掻い潜りながらの保守……長かった……！

１０６：名無しのアブノーマル
やっと報われる……！　さあイッチ、聖王様を攻略するんだ！

１０７：名無しのアブノーマル
世界の命運はお前にかかっている！　ＧＯイッチ！　ＪＵＳＴＤＯ　ＩＴ!!!!

１０８：フレッドリーツ
あー　そのことなんだけどさ
実はもう終わってんだよね　エウラリアの攻略

１０９：名無しのアブノーマル
は？

１１０：名無しのアブノーマル
え？

１１１：名無しのアブノーマル
なんですと？？？

１１２：フレッドリーツ
いやぁ、ずっと裏でエウラリアと二人でスレ回してたんだけどさ
あっちから提案があっていいねそれ！　みたいなノリで受け入れちゃってさ
まあ詳しくはエウラリアと話しながら書くわ　ちょい待ち

１１３：名無しのアブノーマル
裏というと、あのスレ？

１１４：名無しのアブノーマル
聖王様とイッチ専用スレ

１１５：名無しのアブノーマル
今どこまで進んで……アイエエエエエ!?　１００スレ超えてるぅううう!?

１１６：名無しのアブノーマル
いつの間にこんな進行してんだよ

１１７：フレッドリーツ
エウラリアがひたすらレス飛ばしてくるからな

頭の片隅で対応してたらいつの間にかこんなんなった

１１８：名無しのアブノーマル
はえ＾～

１１９：名無しのアブノーマル
四六時中スレに張り付く聖王様……な、泣きたくなりますよ……

１２０：名無しのアブノーマル
知りとうなかった　そんな聖王様知りとうなかった

１２１：名無しのアブノーマル
これが現実だ……あきらメロン

１２２：フレッドリーツ
で、受け入れたエウラリアの提案なんだけどさ
二番目でも愛人でも浮気相手でもセフレでもいいってさｗ
なんか正妻には拘らんらしい　正直今でもホンマか???　って思ってる

１２３：名無しのアブノーマル
えっ

１２４：名無しのアブノーマル
どゆこと

１２５：名無しのアブノーマル
もしやこれは……

１２６：名無しのアブノーマル
聖王様、都合の良い女ムーブ

127：名無しのアブノーマル
しかし、なぜ？

128：フレッドリーツ
分からん　分からんけど向こうがそれで話持ちかけてきたのは確かや
まあワイにとっちゃすげー好都合やしなｗ　普通にＯＫ出したでｗ

129：名無しのアブノーマル
うーん……どう思う？

130：名無しのアブノーマル
嫌な予感しかしない

131：名無しのアブノーマル
その心は？

132：名無しのアブノーマル
だって聖王様……ここの住人だぜ？

133：名無しのアブノーマル
ｏｈ……

134：名無しのアブノーマル
それは、何よりも説得力のある言葉

135：名無しのアブノーマル
とりあえず詳細聞き出してみるか……おーいイッチ、聖王様とのやり取りくれ

聖王様はこのスレ見れんけどどうせコピペしてんやろ？　こっちにもそうしてくれや

136：フレッドリーツ
お、ええよ　お前らも完全プライベートのこっちのスレ気になるだろうしな
ちょい待ち、まとめてくるわ

137：名無しのアブノーマル
いてら

138：名無しのアブノーマル
さて　この間に聖王様の真意を予想してみるか

139：名無しのアブノーマル
何のための都合の良い女ムーブなんやろ　前はハーレム無理って言ってたのに

140：名無しのアブノーマル
それなんだよな　翻意させる何かしらがあったのは間違いないけど、それが分からん

141：名無しのアブノーマル
とりあえず都合の良い女として振る舞う利益考えてみるか

142：名無しのアブノーマル
……ある？

143：名無しのアブノーマル
個人的な満足感以外に考えつかない

１４４：名無しのアブノーマル
しかも相手はイッチ　クズの中のクズ　キングオブクソカス鬼畜外道クズ

１４５：名無しのアブノーマル
こんな悪い男に都合の良いムーブしたって食い物にされるだけなんだよなぁ……

１４６：名無しのアブノーマル
うーん……やっぱり分からん　聖王様の真意は何や？

１４７：名無しのアブノーマル
イッチを待つか　それで答えが、出るといいなぁ……

１４８：フレッドリーツ
よっしゃ、まとめたで
早速ペタペタしていくやで

１４９：名無しのアブノーマル
お、来たか

１５０：名無しのアブノーマル
待機待機

１５１：フレッドリーツ
ざっと経緯を書き出すとこんな感じ
ワイとエウラリア、謎ダークウエブを通してめっちゃ対話する
←
急に態度を改めたエウラリア　ワイのハーレムに甘んじる
←
ハーレム内の地位も二番目でいいし、なんなら最後でもいい

とにかくワイの好きにしていいよとお墨付きをもらう
←
ワイ、疑う　しかしエウラリアに裏の思惑があること以外は分からず
←
まあええか　受け入れたろ！　ワイはなんか致命的な餌に飛びついた（気がする）
という感じやね　パパっと詳細も貼るぞ―

１５２：名無しのアブノーマル
やばい　なんか怖くなってきた

１５３：名無しのアブノーマル
何を考えてるんだ聖王様……？

１５４：フレッドリーツ
じゃ、詳細書くで
例の代理人にスレ立てしてもらったあと、ワイとエウラリアはそれはもう語り合った
まあ半分以上エウラリアの一方的なレスだったんやけど、それは置いといて
色々と話していった結果、エウラリアは急に黙ったあと、俺にこう提案してきたんや
『旦那様♡　私を愛人にする気はありませんか？♡』
ワイは正直困惑した　エウラリアからそんな提案が出てくるとは思わんかったからや
でもまあワイにとって都合が良いし、話だけでも聞いてみることにしたんやで

１５５：フレッドリーツ
エウラリアの言い分はこうやった

ワイにとっての一番はヴァルガリエ　それが変わることはおそらくない
なら最初から二番手に落ち着いて、愛人としての立場を確立したい
勿論エウラリアにとっては気に食わない立場ではある
けれどそれでワイを手放すことになるくらいなら、もう三人で囲った方がいい
そんな感じらしい　なお、その裏には当然やけど何らかの思惑がある

１５６：フレッドリーツ
ここからはワイの推測　エウラリアの思惑について
多分やけど、まず立場を固めたいのは間違いなさそう
その上で他の二人から公認されるという過程を重要視してるっぽい
ヴァルガリエやネスキスの不満を溜めるのが目的っぽい？　なんかマウント取りたそう
ワイの中での何らかの立場を狙ってる感じがする　何かは知らんけど
以上やで　さて、エウラリアの思惑はなんやろう？
ワイの予測やと、実はエウラリアは両刀でヴァルガリエとネスキス狙ってると見てるで

１５７：名無しのアブノーマル
それはない

１５８：名無しのアブノーマル
ないない絶対ない

１５９：名無しのアブノーマル
極めて中性的な美貌の聖王様やけど、それだけはずっと否定してるからな

160：名無しのアブノーマル
聖王様に恋して敗れた乙女は数知れず

161：名無しのアブノーマル
そもそもお前親衛隊団長としてずっと側で見てきただろ　聖王様が申し訳無さそうに告白断るところ

162：フレッドリーツ
そうやった　でもサンプルが数えるほどしかないで？

163：名無しのアブノーマル
そりゃお前、聖王様に告白なんて歴史上に記されるレベルに勇気いるぞ

164：名無しのアブノーマル
傾国の女王、とある大貴族のご令嬢、世界を股に掛ける敏腕女社長など、歴史に名立たる偉人ばかり

165：名無しのアブノーマル
そんな、言うなれば（千年紀最高の科学者としての）イッチレベルの人しか告白せんかったからな

166：名無しのアブノーマル
まあ夢破れたあと、聖王様に浄化されて親衛隊になるんですけどね

167：名無しのアブノーマル
親衛隊の女性率は異常やからな……そういや今の団長も女性騎士やっけ？

168：名無しのアブノーマル

せやせや　かなり若い人狼系の知性体やったはず
聖王様の前ではもっぱら【わんこ騎士】やけど、戦場ではどこまでも敵を追跡し屠り去る【幽谷の死狼】なんて恐れられてる

169：名無しのアブノーマル
所詮は三界の主を除いた井の中の蛙たちの話やけどな
そういや前団長、エルフイツチにも異名あった気がする

170：名無しのアブノーマル
なんだっけな……【天の雷絶】やっけ？

171：名無しのアブノーマル
それは覇界大戦の頃の話やろ？　最新は【去りゆく影の守り人】やったはず

172：名無しのアブノーマル
なんだかんだ【聖王の右腕】が一番有名やろ　これ以上はスレチだからぶった切るぞ
んでイツチ　そこまで話を進めてるのになんでここに書いてるんや？
聖王様自ら愛人になる言うてるなら攻略終わったも同然やろ

173：フレッドリーツ
うーん、それがなぁ
エウラリア、ハーレムは認めない言うねん

174：名無しのアブノーマル
ん？

175：名無しのアブノーマル
は？

176：フレッドリーツ
次点には甘んじるし、ハーレムも今は受け入れるって
でも最終的にワイを独占するのはエウラリア一人だけ
何を捨ててでも、それだけは譲らんて
どゆことやろな???　正直ワイにはチンプンカンプンやで

177：名無しのアブノーマル
本当にどういうことや……

178：名無しのアブノーマル
いや　愛人、公認、最終的な独占……

179：名無しのアブノーマル
これつまり、そういうこと？

180：名無しのアブノーマル
聖王様、なんて遠回りをするつもりなんや……

181：名無しのアブノーマル
でもまあ、分からんでもない　雁字搦めにできるからな
さながら蜘蛛の巣でもがく蝶のごとくな

182：フレッドリーツ
さっきからなんやその思わせぶりな態度
なんか分かったならさっさとワイに教えろドブカス

183：名無しのアブノーマル
いやです

184：名無しのアブノーマル

いいです

１８５：名無しのアブノーマル
教えましょう　いやだねクソカスゥ！

１８６：名無しのアブノーマル
世界の命運のために教えたい欲求とイッチの力になりたくない欲求が争ってる……

１８７：名無しのアブノーマル
まあＮＧされたくないんでな、俺は答えるで
イッチ、よく聞け　聖王様はイッチ自ら聖王様を逃げ場所にすることを望んでるんやで

１８８：フレッドリーツ
???

１８９：名無しのアブノーマル
つまりや、ハーレムの修羅場に耐えきれなくなってイッチが逃げ出した時、横からかっさらって一人勝ちを狙ってるんや

１９０：名無しのアブノーマル
愛人でも浮気相手でもセフレでもいいって話はそのためやな、絶対

１９１：名無しのアブノーマル
まずハーレム内で二番目、次点という立場を甘んじる　その上でイッチに愛人としての聖王様を受け入れさせる

１９２：名無しのアブノーマル
女帝様は当然面白くないやろけどイッチが一番、つまり正妻に据えるのはほぼ確実

娘ちゃんは本当にイッチの娘ちゃんになっちゃったから立場が競合しない

１９３：名無しのアブノーマル
でもまあ女帝様は不満を募らせてイライラするだろうし、娘ちゃんは家庭内に愛人という異物を持ち込むイッチにギリギリする

１９４：名無しのアブノーマル
イッチのハーレム、相当修羅場るやろうなぁ　でもそこで聖王様だけは怒らず騒がず、イッチの癒しになるんや

１９５：名無しのアブノーマル
女帝様という正妻から逃げる場所としての愛人という立場
正妻にも愛人にも敵意剥き出しの娘ちゃんに私は貴方も受け入れますよムーブする聖母の仮面

１９６：名無しのアブノーマル
この二つを使い分け、あるいは同時にぶっ込んでハーレム瓦解、最終的な勝ちを得るための戦略を練ったんやね

１９７：名無しのアブノーマル
すごく残念な言い方をすると、サークルクラッシャーならぬハーレムクラッシャーになろうとしてる

１９８：名無しのアブノーマル
聖王様だけが都合の良い女ムーブしたら、他二人よりイッチの心象良くなるしかないもんな

１９９：名無しのアブノーマル
それが聖王様の狙いや　心優しいお顔の下にはイッチを赤ちゃんにしたいド変態聖母が隠れてるんやで

２００：名無しのアブノーマル
たぶんそう　間違いなくそう　絶対そう
それがワイらの結論　イッチ、これを聞いてどう思う?

２０１：フレッドリーツ
うーん……本当にエウラリアがそんなこと考えてるんか?
スレでの会話だけやけどそんなこと考えてるようには見えんかったで
むしろネスキスと一緒に出てきた時、怒るヴァルガリエとは対象的にめっちゃニコニコしてたで
ネスキスがワイの娘になったって話も普通に喜んでたし、なんか意味深な目でヴァルガリエとネスキス見てたし
やっぱりエウラリア両刀なんとちゃう?　ちょっと聞いてみるか
丁度今話し合うって名目でエウラリアと二人っきりやしな

２０２：名無しのアブノーマル
ファッ!?

２０３：名無しのアブノーマル
おい待てイッチ、完全否定された地雷をなぜ踏みに行く!?

２０４：フレッドリーツ
え?　だってないって否定するだけで止めなかったじゃん

２０５：名無しのアブノーマル
お前さぁ!!!　それはイコールでやめとけって意味に決まってるだろ!!!

２０６：名無しのアブノーマル
ここにきてスレ民の心が分からないムーブやめろ!!!

２０７：名無しのアブノーマル
仮に聖王様が切れたら冗談じゃすまないんだぞ!!!　いやマジで!!!

２０８：フレッドリーツ
あ、そうなん？　メンゴメンゴ、謝っとくわ
だってもう聞いちゃったもんね☆

２０９：名無しのアブノーマル

２１０：名無しのアブノーマル

２１１：名無しのアブノーマル

２１２：フレッドリーツ
あ、回答きた
『……私が旦那様以外を生涯のお方として愛することは有り得ません。無論、治める民を思う博愛は持ち合わせておりますが。
それより旦那様？　どうしてそのような質問をされたのでしょう？　よろしければお聞かせ願えませんか？』
らしいで　菩薩の微笑みやけどなんかすっごいオーラ放ってる
これは……怒りの感情じゃな???
あ、質問したのはお前らのせいってことにしたで　後でエウラリアに怒られても許してちゃいミ☆

２１３：名無しのアブノーマル
イッチィ!!!

２１４：名無しのアブノーマル
ふざけんなお前!!!

２１５：名無しのアブノーマル
　聖王様に怒られるとかそれどんなご褒美!!!

２１６：名無しのアブノーマル
　よくやったイッチ!!!　でも怒られるの怖いから死ね!!!

２１７：名無しのアブノーマル
　マジでお前ちょっとだけでもいいから真面目にやってくれホント!!!

２１８：フレッドリーツ
　こっちは大真面目やで　なんせハーレム作るつもりやからな
それはそれとして、まあ悪かったで　エウラリアもワイの嘘に今更騙されませんよって笑ってるしな
　あ、でもお前らの予想伝えたら一瞬だけ能面みたいになってたですぐ戻ったけど

２１９：名無しのアブノーマル
　ッスーーーー

２２０：名無しのアブノーマル
（ヤバイ）

２２１：名無しのアブノーマル
（聖王様にとって余計な知識吹き込んだのバレた）

２２２：名無しのアブノーマル
（ま、まあアブノーマル板を渡り歩くのがちょっと怖くなっただけだから……ん？　なんか窓に手ｇ）

２２３：名無しのアブノーマル
!?

２２４：名無しのアブノーマル
ヤバイ、ヤバイヤバイヤバイ!!!

２２５：名無しのアブノーマル
助けてイッチ、助けて!!!　それだけは、それだけはぁ!!!

２２６：名無しのアブノーマル
うあああああああああああああああああああああああ

２２７：フレッドリーツ
……ん？　なんか急に進行遅くなったな　エウラリア、なんかした？
何もしてない、と。じゃあええか、進めていくで

２２８：名無しのアブノーマル
何も良くないんですがそれは

２２９：名無しのアブノーマル
息を潜めて低みの見物してたＲＯＭ勢のワイ、出ざるを得ない

２３０：名無しのアブノーマル
たぶんさっきまでアクティブだった連中、みんな『慈愛の手』に引っ張られたな……南無三

２３１：名無しのアブノーマル
『慈愛の手』の届かない場所マジでないからね　本来は全てを救うための権能なんやけど……

２３２：名無しのアブノーマル
……正直今は、どこに連れて行かれたか考えるのが怖い

２３３：名無しのアブノーマル
……ヨシ！　全部なかったことにしよう！　その方がええやろ（震え声）

んでイッチ、どうすんの？　聖王様追求する？

２３４：フレッドリーツ
追求してもええけど、煙に巻かれそうやなぁ　そもそもワイの理解が足らんからそこをつかれるとまず丸め込まれる
というかエウラリア、ワイへの理解がかなり進んでる　これもう最初から勝ち目ないな
ここはもう、アレを言うしかないやね

２３５：名無しのアブノーマル
アレ？

２３６：名無しのアブノーマル
アレとは

２３７：名無しのアブノーマル
イッチ、まさかの秘策あり？

２３８：フレッドリーツ
まあ秘策ってわけでもない　どうせ言ったところでエウラリアの思惑は変わらんだろうしな
ただ一つ、エウラリアが勘違いしてることがある　それを伝えるだけや
なあ、エウラリア……俺ってさ、それでも楽しめるんだよ

２３９：フレッドリーツ
ヴァルガリエとネスキスを煽って俺との不和を狙う？　有りだ
耐えきれなくなった俺がエウラリア、お前を逃げ場にする？　有りだ
だが結果は、きっとお前の望むものと違う
なぜなら俺は――楽しめる
ヴァルガリエとの修羅場だろうが、ネスキスとの親子喧嘩だろうが――エウラリア　お前との愛憎劇でもいい
なんでもいいんだ　お前たちさえ俺を求めてくれるなら
俺だけを求める、俺だけの女たちであれば、どんな形でも構わないんだ
むしろその中でこそ、俺は最高の快楽を享受できるだろう
だから……諦めてくれるなよ？　是非実践してくれ
その時はヴァルガリエもネスキスも――当然、お前も俺の膝下で屈服させてやるよ

２４０：フレッドリーツ
ということを伝えたやで　まあそれだけの話なんやけど
エウラリア、すっごい嬉しそう　『それでこそ私の旦那様です♡』って喜んでるわ
その上で『いつか私だけの赤ちゃんにして差し上げますから、何度でも、私の挑戦を受けてくださいね♡』って言われた
可愛い　正直今すぐ押し倒したい　でもまだヴァルガリエいるからな……今は我慢しよ、我慢

２４１：名無しのアブノーマル
……えーと、これは？

２４２：名無しのアブノーマル
……丸く治まった、のか……？

２４３：名無しのアブノーマル
何ていうか、うん……

２４４：名無しのアブノーマル
聖王様……あんたもう、イッチの立派な嫁だよ……お似合い夫婦だよ……

２４５：名無しのアブノーマル
お互いに性癖を貫こうとしてる……その上でどっちが勝ってもどっちも勝利に持ち込んでる……

２４６：名無しのアブノーマル
これがホントのウィンウィンですか……いや、どうなのよそれ……

２４７：フレッドリーツ
いいんじゃね？　だってエウラリアさ、こんなに可愛い顔してんのよ？
【中性的な美貌を乙女のような微笑みで彩る、心の底から幸せそうな聖王の画像】

２４８：名無しのアブノーマル
かわいい

２４９：名無しのアブノーマル
かわいい

２５０：名無しのアブノーマル
かわいい

２５１：名無しのアブノーマル
家宝にします　いや無理やった　ここの情報外に持ち出せないわ

２５２：名無しのアブノーマル
じゃあアブノーマル板を我が家にしろ　そうすれば家宝にできる

２５３：名無しのアブノーマル
天才　今日からアブノーマル板に住みます　よろしくねみんなｂｙ無名の悪性腫瘍系情報知性体

２５４：名無しのアブノーマル
なんかやべーの住み着いてね？

２５５：名無しのアブノーマル
気にするな　端末上に保存したお宝を全世界にバラまくだけの有害な無害知性体だ

２５６：名無しのアブノーマル
有害か無害かはっきりして

２５７：名無しのアブノーマル
正直めっちゃ有害だけどことアブノーマル板に限っては外に出た情報は漏洩者の性癖ごと完全抹消されるから何の心配もない

２５８：名無しのアブノーマル
万が一アブノーマル板の情報拡散しても神がどうにかする　なので有害だけど無害

２５９：名無しのアブノーマル
どんな性癖持ちかは知らんがよろしくな
じゃ、イッチの話に戻すか

２６０：名無しのアブノーマル

結局イッチの目的はどうなったん？　ハーレム作るって話はさ

２６１：フレッドリーツ
おおむね達成？　でええんやない？
エウラリアは多分隙あらばハーレム崩しにかかるけど、できなかった場合はハーレム続行に甘んじるみたいやし
まあ正直スレ立てる前に終わってたんや　専スレでめっちゃ話したからなぁ

２６２：名無しのアブノーマル
んじゃ、聖王様もクリア？

２６３：名無しのアブノーマル
世界の命運を賭けたハーレム計画その2、始まる前に終了

２６４：名無しのアブノーマル
結果はイッチの勝ち、と……勝ちと呼べるのか、これ……？

２６５：名無しのアブノーマル
まあイッチと聖王様は楽しんでるみたいだからな……ありなんじゃね

２６６：名無しのアブノーマル
聖王様なら世界が壊れないようほどほどの修羅場にしてくれるだろうし

２６７：名無しのアブノーマル
せやな　信じよう　ワイらの聖王様を

２６８：名無しのアブノーマル
えーっと、じゃああとは……女帝様一人？

２６９：名無しのアブノーマル
　ついにか……

２７０：名無しのアブノーマル
　絶対ハーレムなんか許しそうにないお方ナンバーワン

２７１：名無しのアブノーマル
　正直イッチに屈服させられる前フリにしか見えんけど、女帝様だけ未だに抗ってるんよね

２７２：名無しのアブノーマル
　メス堕ちしてるとはいえ矜持まで堕ちてはいない　かつてない強敵となるだろう

２７３：名無しのアブノーマル
　さて、イッチはどうするのか……そろそろ移動するか

２７４：名無しのアブノーマル
　イッチもいなくなったみたいやしな　解散解散

２７５：名無しのアブノーマル
　残るやつはほどほどにイッチのためのスレを存続しろよー

２７６：名無しのアブノーマル
　ではなー

２７７：名無しのアブノーマル

２７８：名無しのアブノーマル

２７９：名無しのアブノーマル

２８０：名無しのアブノーマル

２８１：名無しのアブノーマル

２８２：名無しのアブノーマル
……よ、ようやく戻ってこれた

２８３：名無しのアブノーマル
怖い　聖王様怖い　怖い怖い怖い怖い

２８４：名無しのアブノーマル
何あの空間……何???

２８５：名無しのアブノーマル
あまりにも、あまりにも……

２８６：名無しのアブノーマル
冒涜的過ぎる　まだ舌が足りぬのだ

２８７：名無しのアブノーマル
空を見よ　宇宙はそこにある　我々は授けられた

２８８：名無しのアブノーマル
聖王様を讃えよ　聖王様こそ唯一の救世主

２８９：名無しのアブノーマル
語り明かそう　この蒙なる世界が啓くまで

２９０：名無しのアブノーマル

さあ、時は満ちたり

２９１：名無しのアブノーマル
聖王様、万歳

２９２：名無しのアブノーマル
聖王様万歳！　聖王様万歳!!　聖王様万歳!!!

２９３：名無しのアブノーマル
聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!

２９４：名無しのアブノーマル
聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!

２９５：名無しのアブノーマル
聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!

２９６：名無しのアブノーマル
聖王様万歳!!!『うふふっ』!!!　聖王様万歳!!!

２９７：名無しのアブノーマル
聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!

２９８：名無しのアブノーマル
聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!

２９９：名無しのアブノーマル
聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!　聖王様万歳!!!

３００：ルール遵守絶対遂行代理人
ＮＧ登録します　聖王様、その手法はルールスレスレなのでほどほ

どにお願い致します

【覇界聖王】の性癖

いつからでしょう。己の内側に解き放つべきではないものが巣食うようになったのは。

いつからでしょう。その獣の牙が、私が最も信頼するあの人に向けられるようになったのは。

ああ、それは意味のない思考です。なぜならばそれはずっと……そう、この世に生誕したその時から、私と共にあったのですから。

あの人がハーレムを作ると宣言した時、正直殺してやろうかと思いました。

だって魂に関する権限は私が一番上ですからね。とりあえずサクッと逝去して頂いて諸々の事情を片付けたあと、旦那様♡　を私の愛の巣に永遠に縛り付けたほうが手っ取り早いと思ったのです。それに巻き込まれる民草の悲哀を思えば、真っ先に却下せざるを得ませんでしたが。

いつの世も簡単に、思い通りに物事が進むなんてありえません。地道な努力こそ実を結ぶ、これまで歩んだ生の道のりを思い出し、私は早速行動を開始したのです。

私は旦那様♡　との対話を試みることにしました。場所はもちろん、我らが主、ユラウツァバク様が創りたもう楽園、「なぞだーくうぇぶ」なる場所です。

そこには独特の文化が根付いているようで、私は旦那様♡　からたくさんのことを教わりました。それはそれでとても楽しく興味深かったのですが、これは旦那様♡　のお心を絡め取るための仕込みでもあります。

私の腹心、右腕であったあの人とは異体同心の関係でありました。たとえ仮初めであったとしても、その全てが嘘であると判断する理由はありません。

本当の旦那様♡　と共通する部分は確かにあり、それを探り、当てはめ、その心の姿を見極めるのに大した時間はかかりませんでした。

旦那様♡　は……はっきりと申し上げれば他人の心が理解できないお方です。共感性の欠如や精神構造の畸形というよりは、本当の意味で対等と呼べる存在がいないのでしょう。

無辜の人々は言うに及ばず、私たち三界の主と称される世界の頂点であっても、旦那様♡　にとっては愛玩動物も同然なのかもしれません。

良いか悪いかの話ではないのです。生まれ持った性質を曲げることなどできないのですから。旦那様♡　がそうであるように……私もまた、自らの浅ましい欲望をもうなかったことにはできないのです。

さて。改めて旦那様♡　の人となりを理解した私は、まず自分に正直になることにしました。

旦那様♡　を誰にも渡したくない。これは本当です。世界でただ一人、私だけを見てくださるのであれば、他の何にも代えられない至上の幸福であるのは間違いありません。

その上で旦那様♡　が永遠に赤ん坊であってくれれば言うことなしです♡　一人では何にもできない旦那様♡　に精一杯尽くして差し上げる……ああ、それはなんと甘美な悦楽であることか……♡

私は旦那様♡　にこの胸にあふれる愛情のすべてを注ぎ込みたいのです♡　骨抜きにしたいのです♡　一杯甘やかして、甘えさせて、私なしではなぁんにもできない情けない大人になって欲しいのです♡♡♡

一方で、私は旦那様♡　の途方もない欲望に身を任せるのも悪くないと考えています。

悪くない……いいえ、良い。それはとても良いことでしょう。だって旦那様♡　の、その身に滾る欲の大きさといったら……♡　想像しただけで壊れそうです♡　私なんてもう、ひとたまりもないのですから♡

旦那様♡　になら乱暴されても構いません♡　むしろもっとしてくださいとはしたなくお願いしたいくらいです♡　それをぶつけて下さるのであれば、私の性癖なんてポイしても構いません♡　むしろ

どんと来いです♡♡♡

ああ……そうです。そうなのです。ここにきて私は悟りの境地へと至りました。

――気持ちよければそれで良い♡　私の性癖でも、旦那様♡　の性癖でも、お互いに幸せであるならば何の問題もないのだと♡

勿論、【煌天女帝】や【主羅統娘】のことは忘れてなどいませんよ？

私とあの方々は相容れぬ存在。慈悲や言葉ではなく、剣を取らねばならない強大にして対等の王。

共に轡（くつわ）を並べ、旦那様♡　の女として共生するなど土台無理な話です。それができるのであれば、端から私たちは三界の主などと畏れられません。

しかしまあ、今となってはどうでもいい話でしょう。だって気持ちよければそれで良いのですから♡　あの方々がいようがいまいが、私はただ旦那様♡　との幸せな生活を追い求めるのみです♡

というわけで、私は早速旦那様♡　に一つ提案してみることにしました。

それは、ひとまずこの状況を受け入れること。そして私は旦那様♡の都合の良い女になること。

その上で決して、旦那様♡　のハーレムに屈服しないと申し出たのです♡

ああ、旦那様♡　は疑うでしょう。私の真意、私の本命、一体何を狙っているのかと。

そして、それでも受け入れてくださるでしょう。だって旦那様♡は人の心が分かりませんから♡　疑わしいけど都合が良いからコロリと楽な方へ転がってくださると思います♡　可愛いですよね、たまらないです♡　頭脳明晰であるのに甘やかされると思考を放棄するところ、最高です♡　ドロドロに溶かして差し上げたくなります♡♡

おっと、いけないいけない。妄想ではもう満足できないのですから、ほどほどにしておかないといけませんね。後でいくらでも、そういくらでも、実践♡　する機会はあるのですから♡

旦那様は疑いの目を向けつつも受け入れてくださいました。チョロいですね♡　キュンキュンします♡

あとはじっくり事を進めていくだけです。これから先、長い長いハーレム生活が私を待っているでしょう。

その中で私は慎ましく、時にはしたなく、時に許しをもって誠心誠意旦那様♡　の女として都合よく振る舞うのです。

そうすればいずれ【煌天女帝】は屈辱に耐えきれなくなり、あるいは【主羅統娘】が暖簾に腕押しの私に不満を募らせるでしょう。

いくら旦那様♡　であっても、そのような状況が一生続けば逃げ出したくもなるというもの……というかこれまで散々逃げていたのですからそうなるに違いありません。

そこで私が旦那様♡　の唯一の癒しとなれば……もう勝ちです♡　ビクトリーです♡　絶対生涯何があろうとどう泣き喚こうと逃しません離しません捕まえます♡♡♡

とまあ、そんな迂遠なやり口を実行しようとしているのですが……旦那様、何を勘違いされたのか、私が【煌天女帝】と【主羅統娘】を性的に狙っているのかと尋ねてきました。

……。

ふう。許しましょう。こんなことで目くじらを立ててもしょうがないです。

ええ、私は同性を意図せず惑わしてしまいますからね。聖王たる振る舞いにおいてこのようなたおやかさは不要ですし。自然と言葉は鋭くなり、私の容姿も相まって夢見る乙女の心を撃ち抜くことも何度も何度もありました。

しかし私がそれに応えたことなど一度もないと、旦那様も分かっているでしょうに。本当にこの方は、人の心が分からないのですね……ちょっと本気で襲いかかりたくなりました。性的に。

そもそも【煌天女帝】も【主羅統娘】も女性ですから、私の趣味じゃないんですよね。同性とのスキンシップに抵抗はありませんが、性的にぬっちょぬっちょすることにまず興味が湧きません。

仮に旦那様がそれを望んだとしても、事務的以上の対応はできないでしょう。しょうがないですよね、性癖に合わないんですもの。この話題、思いの外旦那様♡　に共感されて大変盛り上がったのが記憶に新しいです。

とかく、この一件について旦那様♡　を責めるつもりはありません。おそらくは私の怒りの本質を理解できないでしょうから。時に諦めも大事ですよね。

しかし余計な言葉を吹き込んだ方々には……ちょっと優しくしてあげましょうか。大丈夫ですよ、怖くないですよ。ちょっとだけ、ちょーっとだけお招きするだけですからね。

私の権能たる『慈愛の手』を因果応報に従い展開して、旦那様♡　のハーレム計画に加担するすれみんの一部に優しくしてあげました。これで少しは慈しむ心を知ることができるでしょう。

そんな風に旦那様♡　との会話を楽しむ裏で密やかなお茶目をしていると、不意に旦那様♡　が真剣な眼差しで、けれど猛々しく笑みを浮かべました……♡

そうして私に堂々と、全てを受け入れた上で屈服せしめると宣言したのです♡

どのような形になろうとも――絶対に気持ちよくなれるという確信をもった表情で♡♡♡

ああ……それでこそ私の旦那様♡　私が唯一、この受け入れがたい欲望をぶつけても良いと思えるお方……♡

これは愛なのでしょう。恋なのでしょう。性欲でもありますし、知性体が持ちうる欲望の塊であるのでしょう。

私は聖王として、自らを戒めて参りました。苦しんでいる誰かを助けたい、救いたいという願いが、私の原点だからです。

他ならぬ私自身の浅ましさで、誰かを傷つけることなんてあってはならない……そう思ったからこそ、この欲望から目を背けていました。

けれど……貴方はそれを受け入れてくれる。願いのために押し殺してきたこの思いさえ、掬い上げて楽しんでくれる。

誰かを救いたいと願いながら、誰かを犠牲にしなければ得られない快楽を、私は両方手に入れることができるのです。

何に憚るものですか。それこそを幸福と呼ばずして、一体何が幸せだと言うのでしょう！

私は【覇界聖王】エウラリア・カリエントゥス。

その名に恥じぬよう、努めて生きて参りました。それはこれからも変わることはありません。

我が身は無辜の人々のために。誰かの幸福、安寧を願い、そのために全てを捧げる所存です。

その上で、ただ一人の女として。私は貴方に尽くしましょう。

貴方と私の幸福のために。貴方と私の快楽のために。

ああ、それこそが――私の性癖であるのならば。

共に歩み、共に生きて――一緒に幸せになりましょうね♡　旦那様♡♡♡

……ところで、このまじっくみらーごうというものは何でしょうか？　いえ、大したことではないのですよ？　ただの興味本位ですから……フフフ……♡

【ＶＳ・】ワイが世界の命運を賭けてハーレムを作るスレ【煌天女帝】

３０１：フレッドリーツ
んじゃ、ぼちぼちやってくかー
ヴァルガリエの攻略するぞするぞするぞ！

３０２：名無しのアブノーマル
ついにか……

３０３：名無しのアブノーマル
ようやく来たか

３０４：名無しのアブノーマル
半年ぐらい待たされた気分だわ

３０５：名無しのアブノーマル
そんな経ってないやろｗｗｗ
経ってないよな？

３０６：名無しのアブノーマル
知らね　じゃ、イッチ　方針よろ

３０７：フレッドリーツ
あいよー　つっても指針らしい指針はねえ
なぜなら相手はヴァルガリエ・ディエラ・ドゥン・リエンジスカ
下手な小細工は通用しねえ　ガチンコで説き伏せなきゃあかんのじゃ

３０８：名無しのアブノーマル

まあ女帝様だしなぁ

３０９：名無しのアブノーマル
力こそパワーとでも言いたげな言動行動

３１０：名無しのアブノーマル
こいつ怪しいな？　ってちょっとでも思われるとまず指クイによる謎パワーで全裸にされて尊厳破壊から始まる

３１１：名無しのアブノーマル
基本姿勢が闘争なんよ　勝てば官軍を地で行くからな

３１２：名無しのアブノーマル
ある意味究極のパワー厨　それが女帝様

３１３：名無しのアブノーマル
勝ち目あるんかイッチ？

３１４：フレッドリーツ
なんもねえよ　でもなんとかするしかねぇ
なぜなら今ヴァルガリエに組み敷かれている真っ最中
このままおっ始めると外のエウラリアとネスキスが乱入して世界崩壊待ったなしなんや

３１５：名無しのアブノーマル
おまっ、まだ作戦立案中かと思ったら絶体絶命じゃねーか!!!

３１６：名無しのアブノーマル
どうして初手で王手ぶち込まれてんですかねぇ（震え）

３１７：名無しのアブノーマル

とりあえずフォックス！　……は世界滅亡エンドだからダメやんけ!?
どうすんだよイッチ!?　ここに来てハーレムエンド見届けられないなんていやだぞ!!!

３１８：フレッドリーツ
それが思いつかないから聞いてるんだが　頭悪いんかお前ら？

３１９：名無しのアブノーマル
なんでここで煽り入れるんだてめえはよ!!!

３２０：名無しのアブノーマル
そういうとこやぞ！　ほんまそういうとこやぞ!!!

３２１：名無しのアブノーマル
色々言いたいが時間の無駄や!!!
とりあえずイッチ、状況を事細かに説明しろ!!!　実況してワイらに情報を差し出せ!!!

３２２：フレッドリーツ
あーせやな　とりあえずそれでいいか
時系列順に書くでー
エウラリアとの対話を終えたあと、めっちゃムスってしてるヴァルガリエと二人きりで入室
初手押し倒される　ワイが何言ってもお構いなし　ヴァルガリエ、全裸モード
「負けぬぞ♡　絶対負けぬからな♡」って言いながらワイの下半身にめっちゃ腰ぐりぐりしてる
こっちはネスキスの魔力服着てるから脱げないけどさぁ、メスの匂いがもうすごいのなんの
正直辛抱たまらんです　このままじゃワイが暴走するのも時間の

問題
　こんなとこかな　ワイのカスみたいな理性が働いているうちに打開策をくれ

３２３：名無しのアブノーマル
　分かった、ちょっと俺の息子に聞いてみるわ

３２４：名無しのアブノーマル
　誘い受け発情女帝様はありですか？　なしですか？

３２５：名無しのアブノーマル
　有りよりの有り！　……って、こんなことしてる場合じゃねえ!!!

３２６：名無しのアブノーマル
　いや女帝様がぐうシコなのはガチなんだけどここから勝つ方法フォックス！　しかねーじゃねーか！

３２７：名無しのアブノーマル
　パワーで勝てません　すでに捕食寸前　勝つには性的に食べるしかない

３２８：名無しのアブノーマル
　でもフォックス！　したら世界崩壊って、マジでどうすんだよ!!!

３２９：フレッドリーツ
　ひらめいた

３３０：名無しのアブノーマル
　お!?

３３１：名無しのアブノーマル

やっとか！

３３２：名無しのアブノーマル
何を思いついたイッチ!?

３３３：フレッドリーツ
もう一発ヤッて世界壊れてから説得しよう

３３４：名無しのアブノーマル
ざけんなやこの野郎!!!

３３５：名無しのアブノーマル
俺らを犠牲にハーレムを作ろうとするなや!!!

３３６：名無しのアブノーマル
このクズ!!! カス!!! 外道!!!

３３７：名無しのアブノーマル
もうそれしかないならせめて実況して俺らの最後を彩れ!!!

３３８：名無しのアブノーマル
真っ白な無数の命になってお前の子供になってやらぁ!!!

３３９：フレッドリーツ
えー 思いの外不評
しゃあないなぁ、じゃあ一旦言葉責めして腰砕けにしてくるわ
時間稼ぎにしかならんし問題の先送りだからやりたくなかったけど

３４０：名無しのアブノーマル
手段あるじゃねえか!!!

３４１：名無しのアブノーマル
マジでクソ野郎だなイッチ!!!　さっさとやれや!!!

３４２：名無しのアブノーマル
はーもうほんま腹立つ　股間が苛立つわ

３４３：名無しのアブノーマル
責任取ってイッチのすけべ画像貼ってもろて

３４４：名無しのアブノーマル
もっと気持ちよくさせろ!!!

３４５：フレッドリーツ
いやです

３４６：名無しのアブノーマル
ヴぁあああああああ!!!

３４７：名無しのアブノーマル
怒らせちゃったねぇ!!!　俺らのこと怒らせちゃったねぇ!!!

３４８：名無しのアブノーマル
もう許さねえぞオイ!!!

３４９：フレッドリーツ
はい、ヴァルガリエ撃沈　ふにゃふにゃになったんでとりあえずソファに座らせて終了
めっちゃ不満げに見てくるけど俺の方が不満だからな？
早くハーレム認めろ　そしたら可愛がってやるから
……なんか「やじゃやじゃ！　いーやーじゃー！」って駄々こね始

めたんだけど
【3メートル近い恵体で子供のようにジタバタする女帝の画像】

３５０：名無しのアブノーマル
かわいい

３５１：名無しのアブノーマル
かわいい

３５２：名無しのアブノーマル
迫力満点　だがそれがいい

３５３：名無しのアブノーマル
横で困った風に座ってるイッチの体格差がいい味出してる

３５４：名無しのアブノーマル
あの女帝様がロリっ子みたいに……勲章ものですよクォレハ

３５５：名無しのアブノーマル
家宝が増えたわ　ここは家宝が多くていいね

３５６：フレッドリーツ
気は済んだか？　お前ら

３５７：名無しのアブノーマル
なんかあったっけ

３５８：名無しのアブノーマル
すごく重大なことを考えていた気がするけど全部忘れちった

３５９：名無しのアブノーマル

股間がギンギンに目覚めていることだけが今のすべて

３６０：フレッドリーツ
そか　じゃ、改めて聞くで
どないしよ？

３６１：名無しのアブノーマル
うーむ

３６２：名無しのアブノーマル
難しい問題やね

３６３：名無しのアブノーマル
娘ちゃんは敗北をプレゼントして勝利　聖王様は始まる前に終了

３６４：名無しのアブノーマル
ここまでの経験、女帝様に通用するか？

３６５：名無しのアブノーマル
しませんねぇこれねぇ！

３６６：名無しのアブノーマル
そもそもなんでガチンコなん？　絡め手通用せんの？

３６７：フレッドリーツ
ヴァルガリエはたぶん体は堕ちてるけど心は堕ちてないんよな
というかなまじメスの喜びを教え込んだばかりに意固地になってる気がする
その心の柱、言うなれば最後の誇りを折らんとハーレム認めさせるのは土台無理
そしてその誇りはワイの完全勝利、つまりヴァルガリエの完全敗北

でしか折れん気がするんやな

３６８：名無しのアブノーマル
　おお……珍しくイッチが人の心を理解してる

３６９：名無しのアブノーマル
　解釈一致　いや解釈イッチ

３７０：名無しのアブノーマル
　ワイらもそう思うで　で、具体的にどうするんや

３７１：フレッドリーツ
　それを考えろと言うてるやろドブカスども

３７２：名無しのアブノーマル
　そう言われましてもね

３７３：名無しのアブノーマル
　我々から女帝様に完全勝利する方法が出るとでも？

３７４：名無しのアブノーマル
　そんなの聖王様とか娘ちゃんでも無理なんだよなぁ

３７５：名無しのアブノーマル
　過度な期待はしないでもろて

３７６：フレッドリーツ
　あっそ　分かったわ　じゃあワイの好きにするからな
　世界滅んでも文句言うなよ

３７７：名無しのアブノーマル

これだよ

３７８：名無しのアブノーマル
フー……発想がワンパターンだよね

３７９：名無しのアブノーマル
そろそろ世界崩壊シチュにも飽きてきた　新しい展開やって？

３８０：名無しのアブノーマル
永遠に同じオカズじゃ満足できないんだよなぁ

３８１：フレッドリーツ
急にどうしたお前ら？　賢者にでもなったか???

３８２：名無しのアブノーマル
知性体は慣れる生き物

３８３：名無しのアブノーマル
ワイらもこの事態にようやく適応して冷静さを得たんだね

３８４：名無しのアブノーマル
イッチという世界最高の頭脳とワイらアブノーマル板の変態脳
この二つが合わさればできないことはない

３８５：名無しのアブノーマル
せやな……いや後半いるか？

３８６：名無しのアブノーマル
いらん　と言ったら悲しくなるやろ

３８７：名無しのアブノーマル

正直状況を認知していることが神の奇跡（ガチ）でしかないレベル
でちっぽけやからなワイら
それでも無力でない以上やれることはやるんや

３８８：名無しのアブノーマル
正直世界の命運とかどうでもええねん　ただ性癖を満たしたい

３８９：名無しのアブノーマル
ワイらはそのためだけにここにいる　せやからイッチに協力するんやで

３９０：名無しのアブノーマル
まぁそういうこと　で、早速思いついたんだけどさ
あえて女帝様を完全敗北させる必要なくね？

３９１：フレッドリーツ
んん？　どゆこと？

３９２：名無しのアブノーマル
いやぁ、だってイッチの性癖的に女帝様は表面上だけでも抵抗してくれた方が色々はかどるやろ？

３９３：フレッドリーツ
そりゃね？　勿論ワイにメロメロのヴァルガリエも大歓迎やけど
正直口だけでも誇り高い方がすこすこのすこよ？
でもそれやったらどないしてハーレム認めさせるねん

３９４：名無しのアブノーマル
そりゃまあ簡単……かは知らんけど、方法なくもない
躾けや

３９５：フレッドリーツ
　ＳＨＩＴＳＵＫＥ???

３９６：名無しのアブノーマル
そう、躾け　まあぶっちゃけペット教育とも言い換えてええけど
そもそもの話、女帝様が反抗するのは天の川レベルにぶっといプライドが原因やろ？
イッチには負けない!!!　ゆるさない!!!　みたいな感じらしいし、何度襲いかかっても折れんのなら素直に諦めた方がええで
その代わり、しっかりかっちり躾けるんや　さながらペットに芸を覚えさせるみたいにな

３９７：名無しのアブノーマル
イッチの望むハーレム生活の障害になるのは女帝様の反抗心だけや
それは消せないし折ることもできない　なら「我慢」を覚えさせればええ
パワーで喧嘩しない、順番を守る、横取りしない
最低限これくらい我慢させれば多分いけるんとちゃう？
聖王様や娘ちゃんとの致命的な関係悪化さえ防げば、適度なワガママはむしろ極上のスパイスになるやろ
どうやろかイッチ　まあ意見の一つとして考えてみてくれや

３９８：フレッドリーツ
……完全勝利に比べれば遥かに低いハードルだ　俺の性癖とも合致する
検討に値するな　真剣に考えてみよう

３９９：名無しのアブノーマル
おお……イッチが素の口調になっとる

４００：名無しのアブノーマル
もしや、天才現る???

４０１：名無しのアブノーマル
お前ただの変態じゃないやろ　どこの高名な変態や

４０２：名無しのアブノーマル
普通のブリーダーやで

４０３：名無しのアブノーマル
あっ　本職の方でしたか……

４０４：名無しのアブノーマル
一体何を育てるブリーダーなんですかねぇ……

４０５：名無しのアブノーマル
だから普通のブリーダーやて　豚とか黒子とか女王育てる系の一般業者や

４０６：名無しのアブノーマル
変だな……豚以外ブリーダーが育てるような品種じゃないぞ……？

４０７：名無しのアブノーマル
そもそも品種なのか　というか絶対ＳＭ系職業の従事者やろ

４０８：名無しのアブノーマル
違うぞ　ワイの女王様になってくれる至高の豚とその助手を育てたいだけだぞ　勿論本職の隙間を縫うようにこっそりやってるけどな
これ以上はスレチだから切る　ＢＡＮされたくない

４０９：名無しのアブノーマル
普通の変態だった　んでイッチ、結論は出たか？

４１０：フレッドリーツ
んー、まあこれでええんとちゃう？　他に方法もないやろうし
ワイ、躾けは大好物やからな　駄々の勢いでワイを羽交い締めにして連れ去ろうとしてるヴァルガリエにいっちょカマしてやるで
【たぶんこっそりしてるつもりの大胆に抱きつく女帝と妙にキリッとした男の画像】

４１１：名無しのアブノーマル
草　バカップルかよ

４１２：名無しのアブノーマル
変なところで決め顔キメるのやめてもろて

４１３：名無しのアブノーマル
たゆんたゆんの胸に埋もれるイッチイイゾ＾～コレ＾～

４１４：フレッドリーツ
よし　じゃあヴァルガリエの躾け、早速やっていこうか！
まずはピンポイント爆撃で抵抗の余地を奪います
【敏感な部分を刺激して女帝を腰砕けにする男の画像】

４１５：名無しのアブノーマル
えっっっ

４１６：名無しのアブノーマル
女帝様のあられのない部分を！　まずいですよ!!!

４１７：名無しのアブノーマル
今回は画像貼りまくるね　いいぞもっとやれイッチ

４１８：名無しのアブノーマル
末代までの家宝にします　ほうら子供たち、ご飯でちゅよー

４１９：名無しのアブノーマル
悪性腫瘍系情報知性体くん繁殖してて草

４２０：名無しのアブノーマル
レスでバレバレなの草　それはそれとして画像たすかる

４２１：フレッドリーツ
「やめろぉ……♡　負けぬぞぉ……♡♡♡」と口だけ女帝になってますが無視します
ここで頭をナデナデしながら暗示をひとつまみ……
「我慢は気持ちいいぞ、ヴァルガリエ」

４２２：名無しのアブノーマル
それはそう

４２３：名無しのアブノーマル
実際、我慢は気持ちいい

４２４：名無しのアブノーマル
禁欲なくして解放のエクスタシーはありえねぇ

４２５：名無しのアブノーマル
これを機に女帝様も覚えちゃいましょうね～

４２６：フレッドリーツ

ヴァルガリエ、理解できない様子
そりゃあ今まで我慢なんかしたことないもんな？　欲しい物ぜーんぶすぐに手に入れてきたもんな？
俺が教えてやるよ　手に入らないからこそグツグツに煮え滾る快楽もあるってことをな
※ＮＴＲ癖をつけるとマズいのでほどほどに手加減します
【聖王や娘ちゃんのアレやコレやの映像を見せつけながらお顔真っ赤の女帝を諭す男の画像】

４２７：名無しのアブノーマル
あー　そういう方向ね

４２８：名無しのアブノーマル
聖王様とか娘ちゃんとのイチャイチャ♡　の時、怒りで発散させずに自分を慰めさせるんやね

４２９：名無しのアブノーマル
こっそり覗き見しながら性欲を高める女の子、控えめに言って最高です

４３０：名無しのアブノーマル
そのままドアガチャして見下ろしてニヤニヤしたい　そして手を取ってベッドに引っ張りたい

４３１：名無しのアブノーマル
いいよね……理想のシチュ

４３２：名無しのアブノーマル
三界の主でそれやるのかぁ　見てえな～俺もな～

４３３：フレッドリーツ

気が向いたら配信してやるよ

４３４：名無しのアブノーマル
……え？

４３５：名無しのアブノーマル
はあっ!?
!!??!

４３６：名無しのアブノーマル
マァジでぇっっっ
!!??

４３７：フレッドリーツ
俺気づいたんだ　露出って最高だって
まあ許可は取るしそれ以前に無事にハーレム達成できればだけど

４３８：名無しのアブノーマル
待つわ　寿命が尽きるその時まで待つわ

４３９：名無しのアブノーマル
寝たきり老人のワイ、転生を決意

４４０：名無しのアブノーマル
人生と引き換えにしてでも見たいのか……そりゃそうだよな

４４１：名無しのアブノーマル
俄然やる気が出てきた　俺らの力が必要ならいつでも言え

４４２：フレッドリーツ
おう　虫けらの自切で千切れた歩脚の動きくらいには当てにしてやるよ
話戻すか　ワイの記憶映像を見せてヴァルガリエに我慢を教えて

るんやけど、中々上手くいかんな
まだ数分しか立ってないのにワイの太ももにめっちゃ腰へコへコさせてる
まあ生まれて初めての我慢だろうしな、しょうがないか
変な癖がつかんよう気をつけて躾けるで
【自分より背の低い男に抵抗しつつも無意識に媚びる女帝の画像】

４４３：名無しのアブノーマル
うーん、えっち

４４４：名無しのアブノーマル
どうして長身女性のメス全開モードはこうもエロいのか

４４５：名無しのアブノーマル
女の子にモテモテの男装の麗人をメスに落とす瞬間がたまらんのよなぁ

４４６：名無しのアブノーマル
まあワイらは全部妄想でしかやったことないんですけどね

４４７：名無しのアブノーマル
そりゃお前……犯罪だろうがよ

４４８：名無しのアブノーマル
社会通念を守って合意の上でメス堕ちさせろ

４４９：名無しのアブノーマル
イッチみたいになるなよ　普通こんなにはならんからな

４５０：名無しのアブノーマル
まあやろうとしても未遂で聖王様に断罪されるだけなんですけど

ね

４５１：名無しのアブノーマル
　そうやって数多のスレ民が消えていったものじゃ……（ネット老人）

４５２：フレッドリーツ
　よし、ようやくちょっとだけ我慢を覚えたな
　いい子だ、ご褒美をやるぞ～　でもちょっとだけな
　もっと我慢すればもっともっとご褒美もらえるからな　頑張って覚え
　あっ、やべ

４５３：名無しのアブノーマル
　ん？　イッチ？

４５４：名無しのアブノーマル
　やらかしたか？

４５５：名無しのアブノーマル
　緊急事態宣言出す？

４５６：フレッドリーツ
　ヴァルガリエがブチ切れた
「なぜ妾が我慢などせねばならぬ！」って押し倒された
　抗えねえ　やべえ

４５７：名無しのアブノーマル
　まーた世界崩壊の危機ですか

４５８：名無しのアブノーマル

もう何回目だよ

４５９：名無しのアブノーマル
頑張って切り抜けてイッチ　配信するまで世界こわすな　やくめでしょ

４６０：名無しのアブノーマル
お得意の頭脳プレーで回避してもろて

４６１：フレッドリーツ
本当に慣れたんやなお前ら　まあ頑張るわ
なんかヴァルガリエ言いたいことあるみたい
これは……うん、ちゃんとしっかり聞くべきだな

４６２：フレッドリーツ
「なぜ妾だけでは足りぬのじゃ！」

４６３：フレッドリーツ
「認めがたい！　ああ認めがたいとも！　じゃが妾には、妾にはお主しかおらぬ！」

４６４：フレッドリーツ
「お前様しかおらぬのじゃ……！　この狂おしい、身が張り裂けそうな想いをぶつけられるのは！」

４６５：フレッドリーツ
「だと言うのに、お前様は他の女も必要だと言う！　あの女、あの小娘！　妾の邪魔ばかりするあやつらこそが必要だと嘯く！」

４６６：フレッドリーツ
「何故じゃ……どうしてお前様は応えてくださらぬ……妾はいやじゃ

……他の女に現を抜かすお前様を見るなど、耐えられぬ……」

４６７：フレッドリーツ
ヴァルガリエ、大泣きしてる　ワイの胸に顔埋めて泣いてる
……だよなぁ　普通、そうなるよなぁ　俺が身勝手でクズなのは、誰よりも分かってるよ

４６８：フレッドリーツ
ごめんな、ヴァルガリエ　それでも俺は、お前たちを求めるしかない
一人じゃ駄目なんだ　お前たち全員でないと……俺は、お前を壊してしまう

４６９：フレッドリーツ
お前を愛しているから、お前だけを選べないんだ
お前の幸せを願っているから……俺はお前を、傷つけるしかない

４７０：フレッドリーツ
最低だろ？　それでももう、決めたんだよ
ヴァルガリエ　俺はお前を幸せにしてみせる　絶対に不幸になんてしてやらない
エウラリアも、ネスキスも、全員まとめて背負ってやる
そのためなら俺は、俺の全部をくれてやるさ　だから、ヴァルガリエ
――俺を信じてくれないか？

４７１：フレッドリーツ
「……お前様は、ずるい男じゃ……そんな戯言ですら、妾は受け入れてしまうと分かっているだろうに……」

４７２：フレッドリーツ

「ああ、嘆かわしい……こんな男に心奪われてしまうなぞ、妾も焼きが回ったものじゃのう……」

４７３：フレッドリーツ
「……良いじゃろう。その言葉、信じてやろうぞ、お前様。我が身の全てを、捧げてくれる」

４７４：フレッドリーツ
「じゃから――絶対に幸せにしてたもれよ？　フレッドリーツ・レアライヒ♡」

４７５：フレッドリーツ
　ああ、勿論だ　ヴァルガリエ
　……お？　なんか綺麗にまとまったっぽくね？

４７６：名無しのアブノーマル
　お前の最後の一言で台無しだよ

４７７：名無しのアブノーマル
　感動を返せこの野郎　おめでとうこの野郎

４７８：名無しのアブノーマル
　幸せにしてやれよイッチ　その言葉をずっと待ってたんだ俺たちも

４７９：名無しのアブノーマル
　ようやく……ようやく、終わったんやなって……

４８０：フレッドリーツ
　いやいや、まだヴァルガリエの躾け終わってないじゃん

４８１：名無しのアブノーマル
うん？

４８２：名無しのアブノーマル
へ？

４８３：フレッドリーツ
じゃあ改めて、ヴァルガリエ　我慢の仕方覚えような
え？　もう認めるから大丈夫だって？　それはそれ、これはこれだ
幸せにするって約束したろ？　我慢を覚えれば絶対気持ちよくなれるからさ
おいおい、逃げるなよ　俺を押し倒したのはそっちだろ？　ほら、こっち来いよ
……いい子だ　いい子だな、ヴァルガリエ　じゃあ、俺と一緒に頑張ろうな……
【男に頭を抱かれて極上の期待と致命的な間違いで板挟みになる、幸せそうな笑顔の女帝の画像】

４８４：名無しのアブノーマル
……続けるのか……（困惑）

４８５：名無しのアブノーマル
せっかく綺麗だったのに　あーもうめちゃくちゃだよ（白目）

４８６：名無しのアブノーマル
やっぱりイッチはイッチ　何も変わりはしないんだね

４８７：名無しのアブノーマル
……まあでも？　女帝様、幸せそうだし？

４８８：名無しのアブノーマル

これは純愛だな、ヨシ！

４８９：名無しのアブノーマル
呪術猫やめろ

４９０：名無しのアブノーマル
終わったか……やっと、明日がやってくるんやなって……

４９１：名無しのアブノーマル
あれ？　でもこのあと、三界の主と向き合うんだよねイッチ？

４９２：名無しのアブノーマル
まあ修羅場らない……いや修羅場るだろ

４９３：名無しのアブノーマル
それぞれが認めてもいざ顔合わせでとんでもないことになりそう

４９４：名無しのアブノーマル
それでもイッチならどうにかしてくれるでしょ

４９５：名無しのアブノーマル
せやな　なにせマジで三界の主落としたからな

４９６：名無しのアブノーマル
アブノーマル板にこんな偉人が現れるとは思ってなかった

４９７：名無しのアブノーマル
さて、そんじゃラスト一戦見に行こうかねー

４９８：名無しのアブノーマル
移動しよ移動

４９９：名無しのアブノーマル
　頑張ってね女帝様

５００：名無しのアブノーマル
　ではなー

【煌天女帝】の屈服

妾にとってフレッドリーツ・レアライヒとはどのような存在か。

憎らしい男じゃ。悩ましい男じゃ。妾を縛り、弄び、好き勝手に食らった獣（けだもの）。

されど妾に敗北を与えた、唯一の存在。あやつと契約してからというもの、一度たりとも思いを馳せぬ日はなかった。

ああ、なぜお主は斯様（かよう）に妾を怒らせる。斯様に妾を狂わせる。

お前様と出会ってからというもの、知らぬ妾が増えていくばかりじゃ。

耐えられぬ。堪えられぬ。ああ――許せるものではなかろうが。

フレッドリーツ・レアライヒ。天に立つ妾が見上げる、ただ一人の男よ。

その瞳の求める先が、妾だけであれば良かったのにのう……

小娘と父子の飯事（ままごと）を行い、女とは何やら得体の知れぬ絆を築いておる。

そんなあやつに連れられて、二人っきりになった妾が真っ先に行ったのはあやつを押し倒すことじゃった。

仕方なかろう？　ああ、仕方ないのじゃ。あのような下劣で、はしたない、妾という女をドロドロに溶かすような接吻をしながらこうも放置されたのだぞ？

体が熱くて仕方ない。胎の奥が今にも火を吹きそうじゃ。それを鎮め、いや消し去るには、こやつに勝負を挑むしかない。

許さない。許さぬとも。妾をこんな体にしておいて、何を一人で楽しそうにしておるのじゃ……！

「くっふっふっ……然しものお前様♡　であろうとも、この妾に組み敷かれては抗うことなどできぬか……♡」

「さぁ、勝負じゃ♡　今度は負けぬぞ、負けぬからな♡　お前様♡　に勝って、妾こそが格上なのだと知らしめてやろう♡」

「ほれっ♡　ほれっ♡♡♡　妾を貪った気概はどこへやった？♡
わ、妾が乗っただけでこうも、た、滾らせよって……♡♡♡」
「負けぬぞ♡　絶対負けぬからな♡　勝つのは妾じゃ♡　妾なのじゃ
♡♡♡　お、お前様♡　などにっ♡　二度とっ♡　負けはっ♡　せ、
せぬぞっ♡♡♡」
　矮小な男に我が肉体の偉大さを知らしめながら妾は嗤う。服？
そんなもの暑いからとっくに脱ぎ捨てたわ。
　今の妾の体には、途方もない熱が溢れ出るように巡っておる。肌を
包むだけの布など着ていては燃えてしまうであろう。
　こやつもそうに違いあるまい。さっさと剥ぎ取って雄々しい姿を
あらわに……くっ、そうじゃった。今は小娘の力で縛られておった
な。
　まあ、それもこやつの意志一つ、匙加減はどうとでもなろう。その
証拠に、妾が腰を下ろすその場所からは……
「くうっ……♡♡♡　あ、熱いぞ、お前様♡　な、なんじゃ、妾の肢体
に見惚れてしもうたか？♡♡♡」
「そうじゃろう♡　そうじゃろうなぁ♡♡♡　お前様♡　は、妾のこ
と大好きじゃもんなぁ♡♡♡　でなければあんな真似、するはずもな
いからなぁ♡♡♡」
「じゃが、妾が上♡　妾が上じゃ♡♡♡　今度こそお前様♡　に勝っ
て、妾こそが唯一の覇者に……なっ、何をっ♡♡♡」
　男の肩を押さえて妾が舌を舐めずっていると、こやつは不意に妾に
愛を囁いてきおった。
　な、何じゃ急に、そんなこと……！　「愛してる」じゃの、「好き」じゃ
の、「綺麗だよ」じゃの……今更そんな言葉で怯むはずもなかろうが！
「やっ、やめろぉ……♡　やめるのじゃぁ……♡♡♡　そ、そのよう
な、くぅん♡　上っ面の言葉ごときで、妾が負けるわけなかろうがぁ
……♡♡♡」
「わ、妾が上なのじゃぞぉ……♡　こ、ここは妾が♡　お前様♡　に♡
　立場♡　というのを♡　分からせるところじゃろうがぁ……♡♡
♡」

「きゃうんっ♡♡♡　な、なぜ妾の頬に触れられるのじゃあ!?♡　お前様♡　の腕は、確かに妾が押さえて……♡」
「か、簡単に動かせたじゃと!?♡　そ、そんなはずない！♡　こんなの幻想じゃ♡　まやかしじゃぁ♡♡♡　ど、どうせお前様♡　がまた妙な手を使ったに違いあるまい♡♡♡」
「……わ、妾から勝手に手を放していたじゃと!?♡　そんなわけが……ああっ!?♡♡♡　ち、違う♡　き、期待なぞ、期待なぞしておらぬぅ……♡♡♡」
「……あぁっ!?♡♡♡　い、いつの間に、こんな……♡♡♡　だ、ダメじゃぁ♡　ダメじゃダメじゃダメじゃぁ♡♡♡　そ、そんな目で見つめられたら……妾は……妾は……♡♡♡」
　気がつけば、妾は逆に押し倒されておった。
　……いや、そんな生易しい状態ではない。あやつの腰の上に乗っていた妾は、上半身を起こした男に優しく押され、コロリと体を引っくり返された。
　妾は今、平伏した犬のような格好であやつに見つめられておる。胡座をかいた男の肩に脚を引っ掛け、あやつにしか許しておらぬ場所を見せつけるようにしながら、無様に仰向けになって寝っ転がっておる。
　く、屈辱！　屈辱じゃ！　このような恥辱、絶対に許さぬぞ！　妾は渾身を込めてあやつを睨みつけた。
「くっ……！♡　このような恥を曝（さら）した程度で妾がどうにかなるとでも……やぁっ!?♡♡♡」
「ま、待てっ！♡　持つな！♡　妾を持つな！♡♡♡　こ、このような、童話の乙女のように横抱きにするなぞっ……♡♡♡　ど、どこにそんな力が……♡♡♡」
「不敬♡　不敬じゃぞぉ♡♡♡　あぅっ♡♡♡　こ、この妾をソファになんぞ座らせてどうする気じゃ！♡♡♡　ど、どうせ好き勝手貪るつもりなのじゃろうが、屈するものか♡　妾は屈さぬぞぅ♡♡♡」
「さぁ、来るが良い、お前様♡♡♡」
「……んん?」

「これでやっと話ができる？　危ないところじゃった？　発情されて参った参った、じゃと？」
「……」
「……」
「……」
「……っ♡♡♡」
妾はそれはもうじっと見た。じっとりと睨んだ。穴が空くほどあやつを見つめてやった。
何じゃ何じゃその態度は。まるで妾だけが盛り上がっていたようではないか。ふんっ、お前様♡　がそんな態度ならこちらにも考えがあるぞ。話し合いなんぞしてやるものか。
そう不貞腐れておると、急にあやつは視線を絡めてきた。その目には、底のない欲望の海が荒れ狂っておって……
……ドキッとなんぞしとらんぞ！　胸がキュンキュンするのは錯覚じゃ！　妾はそんな安い女ではないからな！　なっ!!!!
あやつが「ハーレム認めたら可愛がってやるから」などとほざきおったから、むず痒い恥ずかしさを紛らわすように妾は暴れてやった。何笑っとるんじゃ！　お主のせいじゃからな、こんな気持ちになっとるのは！
「まったくお前様♡　というやつは……いっそこのまま連れ去ってしまおうか？」
「どうせあの女や小娘はハーレムなんぞに甘んじるのじゃろう？　なれば妾のおこぼれ程度でも満足できるじゃろ」
「うーむ、考えれば考えるほど名案な気がしてきた。じゃが、派手にやるとこやつ逃げるしな……」
「……こっそりやるか。そう、こっそりと……だ、抱きしめるふりでもすれば騙されるじゃろ……」
何やら己の知能指数が著しく低下している気がするが無視する。恋に溺れる女は愚かというが、よもや妾がそうなるはずもないじゃろし？
妾はあやつに抱きつくふりをする。も、勿論疑われぬよう、こ、恋

人同士のようにだな……やはり良い体じゃのう。妾の好みにぴったりあっておる。

……もうちょっと……もうちょっとだけ……拐うのはいつでもできるのじゃ、どうせこやつに抗う術はないのじゃし……

そう侮っておったのがいかんかった。思わず見惚れてしまう顔をしておったあやつは、急に妾に手を出してきたのじゃ。

「??!!♡♡♡　おっ、お前様っ!?!!♡♡♡　何を急にそんなっ、ダメじゃっ!!!♡　それはダメじゃっ!!!♡♡♡」

「あぅうっ……♡♡♡　そっ、そこは敏感なのじゃぞ……!?♡♡♡　何のために鱗が生えとると思ってっ……!♡♡♡」

「あっ!?♡　どっ、どうしてお前様♡　はいつもそうやって妾の弱いところばかりを……!♡　少しは真っ向から挑んで来んかっ……!♡♡♡」

「じゃあお言葉に甘えてって、あっ!?♡　ダメじゃぁ♡♡♡　それはっ♡　それはぁっ!!!♡♡♡」

「〜〜〜〜〜〜っっっ!!!♡♡♡♡♡」

……妾はすっかり疲れ切ってしもうた……ああもぅ、どうしてお前様♡　はそんなにも妾の弱点を知り尽くしておるのじゃ……♡

全身の力が抜けて荒い息ばかり繰り返すという目も当てられぬ有様の妾に、あやつは指を肌にゆっくり滑らせながら囁く。

『我慢は気持ちいいぞ、ヴァルガリエ』

その言葉だけで軽く……してしまう妾であったが、とても同意できる内容ではなかった。

我慢じゃと？　何が我慢じゃ。絶対強者、もはやその資格なき妾であろうとも、我が意志を阻めるものなぞ存在せん。

神であろうとも、妾は妾を押し通してきた。唯一ただ一人、お前様♡　を除いてはな。

なればこそ、妾に我慢なぞできぬ。してはならぬ。新たなる妾へと至るため、全身全霊を懸けて妾はお前様♡　に挑まなければならないのじゃ。

妾ははっきりと宣言した。どれほどお前様♡　に翻弄されようと

も、この矜持だけは決して手放さぬと。
　するとあやつはゾクゾクする笑顔を浮かべて……妾を抱き寄せて、目の前に魔力で生成された映像を流し始めたのじゃ。
　そこには、お前様♡　と――あの女が、あの小娘が、分不相応にも振る舞う姿があった。
　妾は激怒した。
「なっ……なんじゃこれはっ!!!」
「このような忌々しいものを、よりにもよって妾に見せつけるなぞ！　見損なったぞお前様!!!♡」
「このようなっ、このような……」
「……こんなことまで、しておるのか……？」
「あ、あの女……涼しい顔をして、陰ではなんと淫乱な……お前様♡も、それを満足そうに眺めおって……」
「こ、小娘めっ！　妾ですらお前様♡　を自由にしたことなどないというのにっ！　そもそもそんな優しく、妾はされたことなぞ……」
「……」
「……お、お前様？♡　その、なんじゃ……そろそろ我慢できぬであろう……？」
「元より我慢なぞできぬから、妾を襲い貪ったではないか……妾とて鬼ではない……お前様♡　から再戦を申し出るのであれば、吝かでは……」
「……が、我慢じゃと!?♡　お前様♡　はできなかった癖に、妾には強要するのか!?♡」
「な、なればこの手を放すが良い！♡　妾が逃れられぬよう首に腕を回して、指先を動かしておきながら……！♡　あっ!?♡　どうして妾の手を縛るのじゃっ!?♡♡♡」
「じ、自分で慰められないようにじゃとっ……!?♡　そ、そのようなことするはずがなかろうが！♡　侮るのも大概にせよ、お前様！♡♡♡」
「んっ!?♡♡　んぅ……♡♡♡　……終わり、か……？♡♡♡」
「もっと我慢できれば、もっと気持ち良くしてやるなどと……♡♡♡

あぁ、後生じゃ……堪忍してたもれ……♡♡♡　妾は原初から、そのようには構成ておらぬのじゃぁ……♡♡♡」

妾の怒りを、あやつは当たり前のようにいなす。そして妾の口から、思ってもいないことを吐き出させる。

悔しい。血が沸騰する。浅ましい。こんなこと、絶対に許せない。

それでもお前様♡　は、我慢しろと何度も何度も妾に言い聞かせた。お前様♡　に縋るのも、自らの手で衝動を抑えるのも……

……そして、お前様♡　のハーレムに加わるのも、我慢しろ、と。

「……いやじゃ……」

「……嫌じゃ……！」

「お前様を他の女に明け渡すなど、絶対に嫌じゃ!!!」

妾はあやつを押し倒した。そうして、胸の内を曝け出した。

それは、絶対強者であった妾であれば決して行えぬ諸行であった。

そうじゃろう？　強者とは、弱さを持たぬ者。たとえそれを隠していたとしても、それさえも強さに変える者。

ましてその強者が絶対であるのならば。その存在に――妾に弱さなど、許されぬのじゃ。

ああ、けれども。今こうしてあやつに浴びせる言葉は、すべて妾の弱さそのもの。

対等ではない、下等ですらない、塵芥でしかないはずの男の全てを欲する、強欲が聞いて呆れる浅ましき願望。

妾は弱くなった。絶対強者ではいられなくなった。

妾は、妾には……お前様が必要なのじゃ。

他の誰でもなく、どこにも代わりなぞ存在しない。ただ一人だけの、ちっぽけなお前様が。

お前様という、誰よりも大切な愛するお人が――妾を満たしてくれるのじゃから。

「……ずるい男よな、お前様は……」

「……そんなお前様に惚れてしもうた妾の敗けであるのは、逃れられぬ真実か……」

どこまでも自らを押し通すお前様に、フレッドリーツ・レアライヒ

に、妾は屈服した。
ああ、それはもう、そう呼ぶしかない。あやつが上で、妾は下。序列は今、決まってしもうたのじゃから。
惚れた弱みと、言うやつなのじゃろうなぁ……よもや妾が、そうなるとは思わなんだが。
――ああ、それでも、構いはすまい。
惚れた男に、身を委ねる。
存外に、それは心地よく。幸せであるのじゃから――

「……っ!?♡♡♡」
「おっ、お前様っ!?♡♡♡　なっ、何をいきなり……!♡♡♡」
「……し、躾けの再開……?♡　ここで我慢を覚えさせる……?♡」
「あ、後でで良いじゃろう、後でで!♡　ほれ、あの女と小娘も、お前様♡　を待って……!♡」
「あっ……♡　あぁ、あぁあ、あああぁ……♡♡♡　卑怯、じゃぞ……♡　お前様……♡♡♡」
「妾が逆らえぬと分かって、そのような……♡」
「あぁ……まったく♡　本当に仕方ない、男子(おのこ)じゃのう……♡♡♡」

【ＶＳ・】ワイが世界の命運を賭けてハーレムを作るスレ【三界の主】

４０１：フレッドリーツ
さぁてと　最終ラウンドだ
ヴァルガリエ　エウラリア　ネスキス
三人同時に相手にしていくぞ

４０２：名無しのアブノーマル
三人同時に相手（意味深）

４０３：名無しのアブノーマル
三人組手（幻聴）

４０４：名無しのアブノーマル
プラクティスだから！　これプラクティスだから！
４Ｐｒａｃｔｉｃｅしてもええぞ

４０５：名無しのアブノーマル
御託はいらねぇ　突っ走ってもろて

４０６：フレッドリーツ
待て待て待て　気が早いでお前ら
ハーレムはもう達成されたも同然　せやけどまだ決めなきゃならんがあるやろ

４０７：名無しのアブノーマル
決めなきゃならないこと？

４０８：名無しのアブノーマル

せやな　イッチの配信でテクノブレイクキメなきゃ

４０９：名無しのアブノーマル
はよ配信して　許可もぎとって

４１０：名無しのアブノーマル
ハチミツください　やくめでしょ

４１１：フレッドリーツ
だーから気が早いっての
そもそも論、具体的にどうハーレム生活するか決めなきゃいかんやろ

４１２：名無しのアブノーマル
あ、そうか　そりゃそうだよな

４１３：名無しのアブノーマル
場所とかルールとか順番とか、色々あるよね

４１４：名無しのアブノーマル
そりゃね？　必要だけどね？　必須だけどね？
もう待てないんすよこっちは

４１５：名無しのアブノーマル
オォン！　アァン！　オォオオオオオオオン！（クッソ汚い叫び）

４１６：名無しのアブノーマル
お前は満足かもしれないが俺らは何も満足していない

４１７：名無しのアブノーマル

抱けえっ!!　抱けっ!!　抱けーっ!!　抱けーっ!!

418：フレッドリーツ

先走りが過ぎるでお前ら　まあちょっと落ち着け

落ち着いてこの【音声】を聞いてみろ

――再生――

「まずは順番を決めようと思うんだが、意見を聞こうか。

俺が決めてもいいんだが、意志確認は大事だろう？　俺は好きにしたんだ、ぜひ好き勝手言ってくれ」

「相変わらず上から目線じゃのう……まあ良い。当然最初は決まっておる。

妾じゃ。お前様♡　に最初に愛されるのは妾をおいて他にあるまい。異論は聞かんぞ。お前様♡　であろうともな」

「あー出た出た。トカゲおばさんっていっつもそうだよね。世界で一番自分が偉いとでも思ってるの？

あっ、ごめんね。ホントにそう思ってる可愛そうなお・ば・さ・んだったね。ボクのいない世界でずっと威張り散らかすのは楽しかったかい？

クスクス♡　ホント情け(なつさ)ない♡　上には上がいるって素直に認めた方がいいよー？　見苦しいからさ♡　ねえ、トカゲおばさん？」

「……殺されたいならそう言えば良いものを。一々癇に障る小娘よな」

「キャー♡　こわーい♡　ボクみたいな子供相手に本気になるなんてダッサ♡　パパー♡　トカゲおばさんがボクのことイジメるよー♡　助けてー♡」

「っ!?　このっ、ドサクサに紛れて抱きつくでないわ！　せめて妾に平身低頭許可を取ってからにせよ！」

「えー？　ボクのパパ♡　に甘えるのにトカゲおばさんの許可なんかいらないもんねー♡　ねーパパー♡　頭ナデナデしてー♡」

「くぅっ!?　お、お前様！♡　妾も、妾もじゃ！　何を笑って見ておるのか！　妾の主人であるならば、言わずとも察して然るべきじゃろう

！」

「あらあら……お二人とも、大変仲が良さそうで何よりですね。旦那様♡　のハーレムに入った後も、これならば恙無く過ごせるでしょう」

「……女。お主だけ視点がおかしくないか？　何を余裕ぶっておる」

「余裕ぶるも何も、私は旦那様♡　のお心に寄り添うだけですから♡　別に二番目でも三番目でも構いませんよ？　貴方がたがどうあれ、私は全てを受け入れるつもりです。それが旦那様♡　に愛される者の務めでございましょう♡」

「うーわ……クサすぎて鼻に付くんだけど。見た目だけの真っ黒なお腹で考えてること丸分かりだよ？　そんなんだから勘違い女なんだよ、君は」

「私に疚しい思いなどありません。疑うのであれば我が心の全て、如何様にも曝け出して差し上げますよ？【主羅統娘】」

「いーよ別に。誰が好き好んで真っピンクなお花畑を見るってのさ。意地汚くパパ♡　にすり寄るメス犬の癖に、自分の姿を鏡で見てみたら？」

「おや、これは異なことを。私が旦那様♡　のハーレム、すなわち伴侶であるならば、貴方は私の娘です♡　何も拒みはいたしませんよ、どうぞ母とお呼びくださいな♡」

「……本気でゾッとするからやめてよね、それ」

「フフフ、反抗期の娘というのは可愛いものですね♡」

「……どうしたんじゃこやつは。昔から清廉潔白が趣味の気色悪い女じゃったが、今は輪をかけてひどくなっておるぞ」

「はいはい、やめやめ。いやぁ見ててすげー気持ちいいけどさ、話進まないから。

　ヴァルガリエが一番、ネスキスが二番、エウラリアが三番ってことで。じゃあ、次の話にいってみようか」

――終了――

４１９：名無しのアブノーマル

４２０：名無しのアブノーマル

４２１：名無しのアブノーマル

４２２：名無しのアブノーマル
……ふぅ……

４２３：名無しのアブノーマル
……なんなのだこれは!?　どうすれば良いのだ!?

４２４：名無しのアブノーマル
考えるな、感じろ　下半身でビンビンに摂取しろ

４２５：名無しのアブノーマル
ハーレム内のマウント合戦……なにこれ、至高じゃん

４２６：名無しのアブノーマル
女の子が男を巡って争ってるんですよ!?　どうやったって気持ちいいに決まってるでしょ!!!

４２７：名無しのアブノーマル
神暦史に永久保存すべき神音声でしょこれ

４２８：フレッドリーツ
まあこういうことやな　本番は勿論気持ちいい　けどこの味わい深さは今しか味わえへん
この愛くるしいワイの女たち……存分に楽しむべきとちゃうか?

４２９：名無しのアブノーマル
そうです

４３０：名無しのアブノーマル
　べきです

４３１：名無しのアブノーマル
　何一つ否定する材料がない

４３２：名無しのアブノーマル
　満場一致でスタンディングオベーションするレベル

４３３：名無しのアブノーマル
　投票率１００％、お前が大統領だイッチ

４３４：フレッドリーツ
　無事スレの国家元首になったところでね、次の【音声】イクゾー
　――再生――
「定住する場所も決めないといけないな。女の家をハシゴするのは正直好きじゃない。
　住むなら全員で、だ。さあ、どこがいい？　俺はどこでもいいぞ」
「当然っ、ボクの世界たる「王道楽土アマノウツロイ」に決まってるじゃないか！
　古めかしいばかりのおばさん家、堅っ苦しくて面白みのない勘違い女のとこより、ボクの世界の方が遥かに優れてる！
　インフラ、サービス、景観、技術！　ボク以上にすごい統治者なんていないんだから、パパ♡　がボクの世界に住むのは必然だよね！」
「うーん……【主羅統娘】の意見に賛成したいところではありますが、王道楽土は少しばかり無秩序が過ぎますからね……。
　住まいとは心休まる場所。見栄よりはやはり本質を取るべきでしょう」
「……それってボクが見栄っ張りだって言ってるの？　本当に見栄っ張りなのはそっちでしょ、親衛隊とか言って美男美女囲ってる癖に

さ」

「ああ、申し訳ありません。怒らせるつもりはないのです、【主羅統娘】。お気に召されないのであれば何でも言ってくださいな。

　旦那様♡　の娘……ああ、私の娘よ♡　母の愛を疑うのも無理ならぬこと、されど私は全てを受け入れましょう♡」

「……うーわ、本気で鳥肌立っちゃった……本当にどうしたのさ、勘違い女は。何か悪いものでも食べちゃったの？

　正直怖いんだけど……仮にもこのボクに匹敵するだなんて言われてるんだから、それ相応の恥ずかしくない態度取ってよね……」

「放っておけ小娘。この女、以前とは明らかに異なっておる。有り様が変質しておるわいな。根本は何も変わっておらんじゃろうが……むしろそれ故に厄介か。

　とかく、妾も場所などどうでも良い。反対する者がおらんのなら、小娘の意見を採用して良かろうて」

「ああ、ＯＫだ。じゃあネスキスの要望通り、家は王道楽土に建てるってことで」

――終了――

４３５：名無しのアブノーマル

……素晴らしい　これ以上の芸術は存在し得ないでしょう

４３６：名無しのアブノーマル

困惑娘ちゃんかわいい　仲悪いのに聖王様の心配してるところがベネ

４３７：名無しのアブノーマル

聖王様的には一人勝ち狙ってるんだろうけどムーブが露骨過ぎて警戒されてるの草なんだ

４３８：名無しのアブノーマル

というか暴力なしで三界の主が会話してるって神暦史上初なので

は？

４３９：名無しのアブノーマル
　まあ見敵必殺レベルで出会えばワールドデストロイヤーしかねないからそれぞれが世界統治してバチバチ外交やってたわけだしな

４４０：名無しのアブノーマル
　お互いに絶対防御持ちだからね……身は守れるけど世界こわれちゃ＾～うだったからこその現在がある

４４１：名無しのアブノーマル
　それももう変わりゆくのだよなぁ　まさに今

４４２：フレッドリーツ
　いっそのこと三界統合するか

４４３：名無しのアブノーマル
　は?????

４４４：名無しのアブノーマル
　まーたイッチがデタラメなこと言ってる

４４５：フレッドリーツ
　だってそれぞれの世界の王がみんなワイの女やもの
　支配者たちが一同に住むんだから三界も統合しときゃ面倒事も少なくなるだろ

４４６：名無しのアブノーマル
　三界統合が一番の面倒事なんですがそれは

４４７：名無しのアブノーマル

信じられるか？　こいつ自分のハーレム作ったついでで世界統一しようとしてんだぜ？

４４８：名無しのアブノーマル
しかも主目的じゃないから達成されなくてもいいという　これもう訳わかんねえな

４４９：名無しのアブノーマル
スナック感覚で世界征服するのやめてもろて

４５０：フレッドリーツ
いいんだよ　どうせワイが王になるわけじゃないから
まあヴァルガリエたちが必要とするなら当然補佐はするけどな
この話題、お前らにいってもしゃーないし直接聞いてみるわ

４５１：名無しのアブノーマル
聞くのか……

４５２：名無しのアブノーマル
まあ実際大事なことだからね

４５３：名無しのアブノーマル
ヒャッハーしかいない王道楽土に自分の支配者が移り住むとか現実を疑うレベルだからな

４５４：名無しのアブノーマル
煉獄郷と流星海嘯の民、迫真の宇宙猫

４５５：名無しのアブノーマル
（三本の三本目に到達した一般市民たちが）見える見える……

４５６：名無しのアブノーマル
クソ強ナメクジ量産しないでもろて

４５７：名無しのアブノーマル
所詮ナメクジだから宇宙ナメクジ程度のイッチにすら及ばんよ

４５８：名無しのアブノーマル
覚醒カタツムリの蔑称は伊達じゃない

４５９：名無しのアブノーマル
三界の主の遥か後方を這いずるだけの三界の主を全員落とした奴

４６０：名無しのアブノーマル
ほんとやべーやつだよな、イッチは

４６１：名無しのアブノーマル
ワイはイッチ派です（古参面）

４６２：名無しのアブノーマル
アブノーマル板でしかできない無駄なマウントやめな

４６３：フレッドリーツ
まーたワイの話題で勝手に盛り上がっとる　蓼食う虫やでお前ら
ほれ、新鮮な【音声】じゃ　しっとりと味わえ
――再生――
「ふと思ったんだが、これを機に三界を統合するべきじゃないか？
統治論なんぞ俺は知らないが、四六時中愛し合いたい身としては離れ離れになる時間は作りたくないものでね」
「まあ！　なんて素敵な提案なのでしょう！　流石は私の旦那様♡です♡♡
そうですよね！　みんな仲良くが一番ですもの！　ええ、そうしま

しょう！　すぐにしましょう！　我らが主の下、世界はようやく一つになるのです！」

「勝手に盛り上がるな痴れ者め。神を持ち出すのも不愉快じゃ。

三界制覇、それ自体に文句はない。いずれ果たされる未来を早めるだけじゃからのう。が、女主導というのは気に食わん。

貴様に任すくらいなら小娘がやった方がマシじゃ。まあ当然、妾が頂きに立つのが世の理というものじゃがな」

「【煌天女帝】、こうなっては上下関係なんて無いに等しいではありませんか。

我らは皆、旦那様♡　のハーレム♡　旦那様♡　の愛する女たちなのです♡　いがみ合うより協力すべきでしょう♡　ええ、そうするべきです♡」

「甘ったるい喋り方をするでない！　ああ、砂糖を吐いてしまいそうじゃ……。

良いか、女。妾たちは何も理に抗って対峙していたわけではなかろう。各々に利があったからこそ、我らは三界の主なんぞに甘んじた。

変化とは痛みを生む。軽々しく変えては、世に蔓延（はびこ）る有象無象どもが哀れじゃろうて」

「へー、トカゲおばさんって一応統治者の自覚あったんだ。ワガママばっかりの更年期おばさんだと思ってたよ」

「声だけ聞かせれば民は潤うと考えておるお主が一番統治者の自覚がないぞ、小娘。まったく、お主の適当な政策に幾度ため息を吐いたことか……」

「……そうですね。流石に洗脳催眠で皆幸福論は私も擁護できません。【主羅統娘】、母として貴方を叱ります。メッ♡　ですよ♡」

「本当にやめて気色悪い。というかさ、別にもうボクたちが統治する必要なくない？

だってボクたちを支配してるのって実質パパ♡　じゃん」

「それは……」

「確かに……」

「だったらパパ♡　を王様にしようよ。ボクのパパ♡　だし、一応君

たちの……お、夫でもあるんだから、さ……♡」
「……ふむ。検討の価値は十分にあるな。妾も常々思っておった。お前様♡　は能力と地位が釣り合っておらぬと」
「その通りだと思います。旦那様♡　は一科学者の範疇に納まるお人ではございません。三界統合の後、新たなる王として君臨して頂くのが筋かと」
「……ん？　あれ？？？　ちょっと君たち？　なんで俺を王にしようって話になってんの？
　俺嫌なんだけど。いや君たちが望むなら喜んで引き受けるけどさ、普通に嫌なんだけど。ねえ、なんで俺を無視して話進めてるの？　ちょっ、マジで？　いやいやちょっと待」
――終了――

４６４：名無しのアブノーマル
　草

４６５：名無しのアブノーマル
　草

４６６：名無しのアブノーマル
　草草の草

４６７：名無しのアブノーマル
　適当な思いつきでとんでもない重責背負ってて草

４６８：名無しのアブノーマル
【朗報】イッチ、アブノーマル板名誉大統領にして世界王になる

４６９：名無しのアブノーマル
　どうしてこうなった　草

４７０：名無しのアブノーマル
　性癖に正直に生きてたら王様になったんだが

４７１：名無しのアブノーマル
　そんなことありゅ???

４７２：名無しのアブノーマル
　あるんだよなぁ

４７３：名無しのアブノーマル
　イッチのこういうとこ、ほんまかわいい♡　すき♡

４７４：名無しのアブノーマル
　ちょっとおじさんと硫酸風呂に入ってもろて
　身も心も溶け合おうや

４７５：名無しのアブノーマル
　申し訳ないが体ミキサーにかけて血液化して相手の血管巡る以外の猟奇プレイはＮＧ

４７６：名無しのアブノーマル
　やっぱイッチ人気やね　あぶない写真集だしてホラホラホラホラ

４７７：フレッドリーツ
　出すかボケェ！　どうしてお前らはほっとくとワイをオカズにし始めるんや
　……あー、色々抗ったけど世界王になりましたイッチです　改めてよろしく

４７８：名無しのアブノーマル
　草

479：名無しのアブノーマル
草

480：名無しのアブノーマル
棚ぼた世界王、草

481：名無しのアブノーマル
こんなのがワイらの王様なんか……うーん100点！〉（。▽^ｄ）

482：名無しのアブノーマル
手始めに就任会見公開ソロプレイしてもろて

483：名無しのアブノーマル
開幕から積極的に名を落としていけ

484：フレッドリーツ
俺で遊ぶのやめーや　あーもうしゃーない　切り替えた
次だ次　ハーレム内のルール決めるぞ

485：名無しのアブノーマル
お

486：名無しのアブノーマル
待ってました！

487：名無しのアブノーマル
っぱ女たちのハーレム協定は必須よな！

488：名無しのアブノーマル
抜け駆け……横取り……最高です

４８９：名無しのアブノーマル
　ルールがあるから穴をつく楽しみができるんやなって

４９０：フレッドリーツ
　んー　結構かかりそうかも　まあルール作りやしな　少し長くなるぞ……
　つーわけで小出し【音声】　適宜追加していくわ
　――再生――
「とりあえず王様の件はおいといてさ、そろそろハーレム内での決まり作らないか？
　ルールはいいぞ。規則があるから破る楽しみも裏をかく楽しみも増えるわけだからな」
「端から守る気ゼロではないか。まったくお前様♡　は、規律をスパイス程度にしか考えておらんじゃろ」
「旦那様♡　らしいですが、あまり常態化させるのはダメですよ？　ここぞという時に破ってこそ、気持ちいいですからね♡」
「お主はお主でズレておるぞ女。普段約束を守れだの民草を想えだの囀（さえず）るお主がその様とは、まったく嘆かわしい……」
「はいはーい！　ボクが寝る時はパパ♡　と一緒じゃなきゃいけないってルール追加しまーす♡」
「なぬっ!?」
「……それは少々、勝手が過ぎるのでは？　【主羅統娘】」
「キャー、こわーい♡　やっと化けの皮が剥がれたね勘違い女。その能面みたいな笑顔が君にはお似合いだよ」
　――終了――

４９１：名無しのアブノーマル
　バチバチしてますねぇ

４９２：名無しのアブノーマル

冷えっ冷えの微笑み聖王様としたり顔の娘ちゃん……ぜひ映像で拝みたかった

４９３：名無しのアブノーマル
やっぱ女のマウント合戦は最高やなって

４９４：フレッドリーツ
続きいくよー【音声】

――再生――

「待たんか小娘！　これは無秩序を許容せぬためのルールであろう！　何を勝手なことをほざいておる！」

「そんなことパパ♡　が言ってた？　パパ♡　は楽しみが増えるって言ってたじゃん。

つまりはさ、そういうことなんだよねトカゲおばさん。パパ♡　はただ、自分が気持ちよくなりたいだけなんだよ♡

あっ、ホラ！　ボクのルールＯＫだって♡　やった♡　これでパパ♡　と一緒に寝る権利はボクのものだもんね～♡」

「っっっ!!!　お前様！♡　ルール追加じゃ！　お前様♡　の子種は全部妾の物!!!♡♡♡」

「雑ですよ【煌天女帝】。ほら、案の定ダメではありませんか。こういうのは如何に独占せず、自らに有利なルールを作るかが肝要なのです。

というわけで旦那様♡　寝起きの奉仕は私が担当したいのですが、いかがでしょう♡　……まあ♡　よろしいのですね♡　感無量です♡♡♡」

「女ァ!!!　抜け駆けしおって、罷り成らぬぞ!!!　くっ、なぜ妾が我欲を抑えねばならぬのか……！

……仕方あるまい。お前様♡　ルール追加じゃ。妾が求める時は、いついかなる時でも応えよ。

……順番は別に最後でも良い。それくらいならば我慢してやろう。ただ……一度火がついた体を持て余すのは、耐えられぬのじゃ……

――良いのか!?　そうか、そうか！　そうであろうな！　であれば、御寝(ぎょしん)してようが奉仕中だろうが妾が混じっても問題あるまいな♡」

「あっ!?　ずるい！　何しおらしいフリして捩じ込んでるのさ！　ボクとパパ♡　の間に入ってこないでよ！」

「フハハハハハハ！　案ずるな小娘、そう何度もはやらぬ。じゃが、先に手を出したのはお主であろう？

　喧嘩を売るのであれば、早まったな。ルールとは後から言ったもん勝ちなのじゃよ！」

「……う～～っ！　パパ♡　撤回してよ！　こんなのズル！　インチキ！　パパ♡　の隣はボクだけのものなのにぃ～～～っ！」

【煌天女帝】と奉仕ですか……うーん、やっぱり趣味じゃないんですよね。旦那様♡　が望むなら吝かではありませんが」

「お主は本当にどうしたんじゃ、女。さっきから欲望に忠実過ぎるのではないか？　そんな明け透けではなかったであろうに」

「私は最初からこうでしたよ？」

「箸にも掛からぬ戯言を吐くでないわ」

――終了――

４９５：名無しのアブノーマル
うーん、えっち

４９６：名無しのアブノーマル
えっちですねぇ

４９７：名無しのアブノーマル
お三方とも自分の一番したいこと主張してイイゾ～

４９８：名無しのアブノーマル
娘ちゃんは添い寝がしたい♡　聖王様は奉仕がしたい♡　女帝様はとにかくヤりたい♡

４９９：名無しのアブノーマル
　妄想が捗るんだね　もうＮＴＲとかＢＳＳとかどうでもいいや

５００：名無しのアブノーマル
　イッチ含めて押せる　これはもう箱推しの域なんだね

５０１：名無しのアブノーマル
　むしろイッチ以外いる???

５０２：名無しのアブノーマル
　いる（鋼の意志）

５０３：名無しのアブノーマル
　三界の主が性癖じゃないならスレから出てってどうぞ

５０４：ルール遵守絶対遂行代理人
　不穏な気配を感じたので５０３をＮＧ登録します

５０５：名無しのアブノーマル
　争いはダメ、絶対

５０６：名無しのアブノーマル
　波風立たない程度に喧嘩していけ

５０７：フレッドリーツ
　ホイ、次の【音声】
　――再生――
「各々が乱雑に提案すると切りがないので、一人一つずつルールを追加していきましょうか。旦那様♡　それでよろしいですか？　はい、畏まりました♡

それでは、どなたからルールを追加いたしましょう？」
「……先にやれ、小娘。特別に譲ってやる。妾直々の譲歩ぞ、栄光に打ち震えて受け取るが良い」
「ふん！　もうそんな手に引っかかるもんか！　今回はボクが最後だよ！　トカゲおばさんと勘違い女からやればいいじゃないか！」
「おや、そうですか。ではお言葉に甘えて……旦那様♡　私、聖務に励む時も旦那様♡　の猛々しい熱を感じていたいのです♡　ですから、聖務の前に必ず……よろしいでしょうか？♡
　まあ♡　良いのですね♡♡♡　ありがとうございます♡　旦那様♡♡♡」
「なっ!?」
「えっ!?」
「くぅっ、その手があったか！　抜かったわ！」
「ボ、ボクも！　ボクだって毎日配信で皆にボクの声を届けてあげないといけないんだよ！　だから、その時も……え？　同じルールはダメ？　そんなぁ……」
「お主は最後で良いと言ってたじゃろ小娘！　横入りするでないわ！
　んんっ……お、お前様？♡　妾は覇者、高みの極みに属する者であるが……その、だな。た、たまには、幼子のように、甘えたい、時も、あってだな……
　じゃから……んんっ♡　やっ♡　そんな優しく、撫でるなぞ……♡
　たまに、じゃからな？♡　たまになら、許してやるから……約束じゃぞ♡　お前様♡♡♡」
「ああーっ!?　ズルいズルいズルい！　それボクの特権だったのにぃ！　トカゲおばさんの癖に卑怯だよ！
　ねっ、ねっ、パパ！♡　ボクからもお願い！♡　パパ♡　ボクにだけずっと優しいでしょ？　ボクだってね、トカゲおばさんとかみたいにさ、激しくされたいんだ……♡♡♡
　……ホント!?　これルールだからね！♡　もう撤回しないでよね！♡　あっ……もしボクが壊れそうになったら、優しくしてくれるんだ……♡　やっぱりパパ♡　大好き♡♡♡」

――終了――

５０８：名無しのアブノーマル
ドスケベ全開ルール要求……支配者の姿か？　これが……

５０９：名無しのアブノーマル
こちらも抜かねば……無作法というもの……

５１０：名無しのアブノーマル
イ　き　恥

５１１：名無しのアブノーマル
お労しい民ワラワラで草

５１２：名無しのアブノーマル
僕は兄上が姉上にＴＳして弟にメス堕ちする話が大好物です

５１３：名無しのアブノーマル
近親相姦実質ホモメス堕ち好きとかもう訳分かんねぇな

５１４：名無しのアブノーマル
ＴＳはホモではない（無言の腹パン）

５１５：名無しのアブノーマル
実際心（ソフト）は男だけど体（ハード）が女ってどうなの？　教えてエロい人

５１６：名無しのアブノーマル
普通に病気なので性転換しましょう　安心安全のイッチ印の薬があります
仮に不可抗力で女になってメス堕ちした男がいたとしても女が好きであれば単なる異性愛、もしくは両性愛です

医学的に性同一性障害と異性愛・同性愛・両性愛は別の話なので混同しないようにね！（大人の約束）

５１７：名無しのアブノーマル
はぇ～　勉強になるわ

５１８：フレッドリーツ
知ってて損はないから調べることを推奨するゾ（一科学者）
じゃ、これ続きね【音声】

――再生――

「……少しばかり欲に走り過ぎたな。これではいかん。
規律は大事じゃ。我らが再びお前様♡　を巡って争うことのないよう、抜け駆けに対する補償を提案する」
「おや、貴方にしては品行方正な提案ですね」
「茶化すな、女。妾は抜け駆けせぬ自信はあらぬ。が、抜け駆けを許せる性分でもない。
であれば何処ぞで相殺せねば、やがて瓦解するじゃろう。それはお前様♡　が最も望まぬところ。ならば芽を摘む規律は必要じゃろう」
「確かに。それでしたら、私は必要な場合にのみ、旦那様に魂の分割を要求するルールを提示します。
正直に言えば我々三人であろうとも、旦那様♡　に勝つことはできないでしょう。まして同数になってしまえば完全におしまいです♡
ですが、それとこれとは話は別。ハーレムであっても、時に二人だけの時間を望むのは女の性。それを解決する手段があるのであれば、旦那様♡　にも苦労を背負っていただかなくては」
「うむ、それが良かろう。で、小娘。お主はどうする？」
「ボ、ボクは……認めたけど、認めたけどさ！　……別に、ハーレムなんて壊れてもいいし……」
「あらあら、そうですよね。私も支持しますよ、【主羅統娘】。貴方は貴方のお好きになさい。きっと旦那様♡　も、それを望んでいるでしょうからね♡」

「や、やめろぉっ！　パパ♡　みたいに頭を撫でるな！　……う～～～……しょ、しょうがないなぁ！　だったらボクもルール追加だ！
パパ♡　は、ちゃんとボクたち三人を平等に扱うこと！　パパ♡の好みで勝手に差をつけたりしないでよね！　ボクを喜ばせた時は、ちゃんと他の二人も喜ばせるんだよ！
これでいいでしょ！　トカゲおばさん！　勘違い女！」
「そうじゃな。なんじゃ、やればできるではないか」
「良い子ですね、【主羅統娘】。母が褒めてあげましょう♡」
「んにゃあっ!?　もお、二人がかりで子供扱いするなぁ～～～っ!!!」

５１９：名無しのアブノーマル
てぇてぇ

５２０：名無しのアブノーマル
てぇてぇ

５２１：名無しのアブノーマル
まさか三界の主でてぇてぇが見れるなんて

５２２：名無しのアブノーマル
末期の体に効いた　三界の主のてぇてぇは寿命が伸びる

５２３：名無しのアブノーマル
地底人になって１３０年、そろそろ地上に戻ろうと思っていたがあと１０００年は頑張れそうだ
待ってろよ理想の形状変化

５２４：名無しのアブノーマル
地底人ニキは１３０年続いてる獣狩りの夜を終わらせてもろて

５２５：フレッドリーツ

これで締めかな　ほらよっと【音声】
――再生――
「あらかた出尽くしたか？」
「そうですね。細かいルールは後々定めていけば良いですし、修正することもあるでしょうしね」
「今はこんなものでいいんじゃないかな。最低限これだけあれば、きっとパパ♡　のハーレムは上手くいくと思うよ」
「お、じゃあルールはこの辺りで締めとくか。
　その前に、俺からもルールを一つ追加させてもらおう」
「ほう？　お前様♡　からか？」
「なぁに、パパ♡」
「私は何でも受け入れますよ♡」
「なぁに、難しいことじゃない。
　お互いにファーストネームで呼び合うこと。それがルールだ」
「……」
「……」
「……」
「……だ、そうじゃが。できるのかお主ら？」
「そ、そういうトカゲおばさんこそどうなんだい!?　一番（いっちばん）ワガママの癖に！」
「勿論できるに決まっておろう。……小娘」
「できていないじゃないか！」
「コホン。私は構いませんよ。ヴァルガリエもネスキスも、今や同胞と言って差し支えないのですから」
「女!?　我らの確執、斯様に簡単に洗い流せるものではなかろうが！」
「それはそうですが、全ては旦那様♡　のお心のままに。貴方とて、嫌な気分はしないでしょう？　ねえ、ヴァルガリエ」
「……そう、だな……以前ほど殺意も……いや、殺意すら湧かぬ。思うところは当然あるがのう、エウラリア」
「それで良いのでしょう。相容れぬなりに交流はできていたのですし、それに……変わらぬものなどないのですから」

「で、あるか。そら、ネスキス。お主も覚悟を決めよ」
「えっ、えぇえっ!?!」
「お前様♡　たっての望みじゃ。受け入れる他あるまい。それともなんじゃ、気がかりでもあるのか？」
「だ、だって……力だけで見れば、ボクが一番弱っちいし……パパ♡だって、ボクは三番目だって……」
「知るか。妾も、エウラリアも、お主を侮ったことなど一度もない。我が好敵手、対等の王よ。なればこそ今は――友のように振る舞うのも、一興ではないか」
「あ……うん、分かったよ……ヴァルガリエ。エウラリアも、それでいいよね……？」
「ええ、勿論です。何ならエウラリアママ♡　と呼んでくださってもいいですよ♡　ウェルカムです♡」
「それは流石に嫌かな」
「妾も正直そのお主は気持ち悪いと思うぞ」
「ああ、つれないお言葉……んぅ、結構気持ちいいかもしれませんね」
「えー、ひっどい反応」
「エウラリアはもう駄目かもしれんな……」
――終了――

５２６：名無しのアブノーマル
てぇてぇんだけど聖王様草

５２７：名無しのアブノーマル
順調に変態として成長してる　はっきり分かんだね

５２８：名無しのアブノーマル
しかしまあ、あの三界の主がこうなるとはなぁ

５２９：名無しのアブノーマル
バチバチに世界情勢争ってた頃が懐かしいよ

５３０：名無しのアブノーマル
　いやまぁ現実じゃついに世界崩壊レベルまで決裂したかって感じなんですけどね

５３１：名無しのアブノーマル
　もうアブノーマル板は平和ムードだよ

５３２：名無しのアブノーマル
　そろそろ世の中の健全な皆様に世界は守られたと報告するべきでは？

５３３：名無しのアブノーマル
　せやな　おーいイッチ

５３４：フレッドリーツ
　呼んだ？

５３５：名無しのアブノーマル
　話まとまってからでいいんだけどさ、そろそろお三方に支配者として声明を出してほしいんよね

５３６：名無しのアブノーマル
　そっちはもう和気藹々のキャッキャウフフだろうけど現実は悲壮感で満ち溢れてるんよ

５３７：名無しのアブノーマル
　聖王様の威光でどうにかなってるけど、そろそろ暴発するかも

５３８：名無しのアブノーマル
　ちょっとだけ世界を気にかけてほしいな

５３９：フレッドリーツ
あー　そうだな　何ならワイ世界王になるしな
うし、ちょっと言ってくるわ

５４０：名無しのアブノーマル
おいよー

５４１：名無しのアブノーマル
これで健やかな人々も落ち着くだろう

５４２：名無しのアブノーマル
お、来た

５４３：名無しのアブノーマル
早速来たねぇ！

５４４：名無しのアブノーマル
ああ、夜が明ける……なんて綺麗な暁なんだ……

５４５：名無しのアブノーマル
女帝様の声が脳に直接響く　他はどう？

５４６：名無しのアブノーマル
聖王様の声も聞こえるわ　世界にあの方の力が満ち満ちていくのを感じる

５４７：名無しのアブノーマル
なんて清廉な空気なんだ……もう変態になってしまわれたけど

５４８：名無しのアブノーマル

王道楽土でも娘ちゃんの配信が始まった　珍しくウィスパーボイスの効果切ってるね

５４９：名無しのアブノーマル
まあヒャッハーどもは関係なしにヒャッハーしてるんですけどね

５５０：名無しのアブノーマル
ほんま人生楽しんでるなあいつら

５５１：フレッドリーツ
お願いしてきたで　どやろかお前ら

５５２：名無しのアブノーマル
ようやく終わった　って感じかな

５５３：名無しのアブノーマル
長かったねぇ　イッチのやらかしの余波

５５４：名無しのアブノーマル
千年紀最高の科学者とはいえ、まさかこんな事態を引き起こすとはな

５５５：名無しのアブノーマル
控えめに言って、ワイらはイッチのことを四番目だと思ってるで

５５６：フレッドリーツ
ふーん　どうでもいいわ

５５７：名無しのアブノーマル
草

５５８：名無しのアブノーマル
そりゃそうだよな

５５９：名無しのアブノーマル
イッチ的には性欲に振り回されるだけの人生だったしな
でももうこれからは違うやろ？

５６０：名無しのアブノーマル
三界の主でハーレム作ったんだ　誇れよイッチ　お前がレジェンドだ

５６１：名無しのアブノーマル
数多の変態が現れては消えていったアブノーマル板でもイッチ以上の奴はもう現れないだろうよ

５６２：名無しのアブノーマル
チャンピオン　殿堂入り　お前がナンバーワン

５６３：名無しのアブノーマル
最高やったでイッチ　また気が向いたらスレ立ててくれや

５６４：フレッドリーツ
お、そうだな（無関心）

５６５：フレッドリーツ
……いや　ここまで付き合ってくれた君たちに、こんな言葉では不義理が過ぎるか

５６６：フレッドリーツ
ロクでもない同類たちよ　改めて礼を言わせてくれ

５６７：フレッドリーツ
　俺は生まれた時から自分の性癖を知った　それに抗えないことも、薄々は悟っていた

５６８：フレッドリーツ
　クソみたいな人生だったさ　正直、死ねるものなら死にたかった

５６９：フレッドリーツ
　そんな時はいつも、アブノーマル板を見ていたんだ

５７０：フレッドリーツ
　神が与えたこの場所は、俺にとっては生きる希望になる場所だったんだ

５７１：フレッドリーツ
　いつかここに、自分の性癖を達成した報告をしてから死にたい　俺の人生の目標はここだったのさ

５７２：フレッドリーツ
　まあ、今は違うけどな　俺には本当にもったいないくらいの、最高の女たちがいる

５７３：フレッドリーツ
　それを得られたのも、君たちのおかげだ　本当に、本当に……感謝している

５７４：フレッドリーツ
　ありがとう、同類たち　君たちがいたから、この結末に辿り着けた

５７５：フレッドリーツ
　だから、君たちも絶望なんてしないでくれ

５７６：フレッドリーツ
　こんなクソみたいな俺たちでも、受け入れてくれる人は必ずいる

５７７：フレッドリーツ
　俺の足跡を見守ってくれた君たちなら　きっと、そう信じてくれる
だろう？

５７８：フレッドリーツ
　だから……ありがとう　ありがとうよ　お前ら

５７９：名無しのアブノーマル
　イッチ……

５８０：名無しのアブノーマル
　イッチ……

５８１：名無しのアブノーマル
　……

５８２：名無しのアブノーマル
　……そういうのいいから早く配信してくれない？

５８３：名無しのアブノーマル
　俺たちは……見たいんだ……三界の主のあられもない姿を……！

５８４：名無しのアブノーマル
　そうだ！　見せろ!!　配信しろ!!!

５８５：名無しのアブノーマル
　感謝してるなら誠意を見せるべきだよなぁ!?　そうだよなぁイッ

チ!?

５８６：名無しのアブノーマル
配信!!!　配信!!!　配信!!!

５８７：名無しのアブノーマル
溜まりに溜まったこの欲望……ぶちまけさせてくれ全部!!!

５８８：名無しのアブノーマル
勿論イッチも映せよ!?　お前も俺らの性癖の対象なんだからよぉ!!!

５８９：フレッドリーツ
……クッ　ハハハハハハハッ!!!

５９０：フレッドリーツ
本当にブレないなお前ら　安心したわ

５９１：フレッドリーツ
分かった分かった　配信したる
色々面倒事を片付けたら、ワイのハーレム生活を存分に自慢したるわ

５９２：フレッドリーツ
指くわえて目ぇかっぽじって見ろよ?
ま、指くわえてる暇があるかどうかは知らんけどな!

５９３：名無しのアブノーマル
言質はとったぞ

５９４：名無しのアブノーマル

それでこそイッチや

５９５：名無しのアブノーマル
我々の性癖の牙城、三界の主は攻略されてしまった

５９６：名無しのアブノーマル
だがしかし、これからは更なるオカズを手に入れることができるのだ！

５９７：名無しのアブノーマル
世はまさに、大白濁時代!!!

５９８：名無しのアブノーマル
クソみたいな性癖に生まれてよかったって思えるくらいの最高のやつを頼むでイッチ！

５９９：名無しのアブノーマル
楽しみだなぁ、楽しみだなぁ！　ワクワクして夜しか眠れねぇ！

６００：名無しのアブノーマル
お三方と末永く幸せになりながら毎秒配信しろ

エピローグ

【リア充】伝説のイッチことフレッドリーツ・レアライヒの会見を見守るスレ【爆発しろ】

５０１：名無しのアブノーマル
お、そろそろ始まるか

５０２：名無しのアブノーマル
キタ――――（゜∀゜）――――!!

５０３：名無しのアブノーマル
たかが会見でこんなに待ちくたびれたの初めてだわ

５０４：名無しのアブノーマル
そりゃなぁ　神暦史上に絶対残る歴史的会見だからな

５０５：名無しのアブノーマル
低性能知性体でもすぐわかる会見理由
「三界の主が激突した末に世界が崩壊しかかって結果三界が統一された原因は私ことフレッドリーツ・レアライヒ世界王なので説明します」

５０６：名無しのアブノーマル
草

５０７：名無しのアブノーマル
草

５０８：名無しのアブノーマル
こいつの行動ほんま草しか生えない

５０９：名無しのアブノーマル
　世界壊れそうになった原因は私ですってしれっと会見始める科学者おる???

５１０：名無しのアブノーマル
　おそらくどんなマッドサイエンティストでもやったことないと思うわ

５１１：名無しのアブノーマル
　しかも世界王名乗ってて三界の主全員が了承してる時点で意味不明過ぎる

５１２：名無しのアブノーマル
　こいつマジで何やったんだよフレッドリーツ・レアライヒぃ!?　てのが世間一般の反応

５１３：名無しのアブノーマル
　考察スレと陰謀スレが大盛り上がりよな　そんで全部間違ってるのが草草の草

５１４：名無しのアブノーマル
　いやいや一体誰が予想できるんだよこんなの

５１５：名無しのアブノーマル
　正解は、性癖で世界壊しそうになって統一した男

５１６：名無しのアブノーマル
　こんなの導き出せるやつおらんやろ……

５１７：名無しのアブノーマル

いたらここの住人だわ　俺のサイドアへ顔がそう言ってる

５１８：名無しのアブノーマル
頭二つ以上あるくせに知能低そうだなおい

５１９：名無しのアブノーマル
お！　来たぞ来たぞ来たぞ！

５２０：名無しのアブノーマル
会場にフレッドリーツ入場！

５２１：名無しのアブノーマル
当たり前のように三界の主もついてくる！

５２２：名無しのアブノーマル
三界の主の前を堂々と闊歩するフレッドリーツにマスコミ呆然としてるんだが

５２３：名無しのアブノーマル
フラッシュ炊くことすら忘れてんの面白いねぇ！

５２４：名無しのアブノーマル
ざわざわが支配する会場で一人だけお辞儀して座って普通に会見始めようとするフレッドリーツ草なんだ

５２５：名無しのアブノーマル
あの……もうちょっと理解のための時間与えてもろて……

５２６：名無しのアブノーマル
流石人の心が分からないことに定評のあるフレッドリーツ
至極まじめな顔で娘ちゃんを膝にのせ隣に座る聖王様と腕を組ん

で後ろから女帝様が腕回してもたれかかってるのに何の説明もなし

５２７：名無しのアブノーマル
　こんなん初見で見たら訳も分からず脳破壊されるパターンじゃん

５２８：名無しのアブノーマル
　誰しもが憧れる三界の主　初恋はお三方のどなたかと相場が決まっている

５２９：名無しのアブノーマル
　それが世界崩壊という混乱の末こんなビジュアルでぶん殴られたら死にたくなりますよ

５３０：名無しのアブノーマル
　なんかもう全世界相手にＮＴＲやってるようなもん　あ、フレッドリーツよく見ると笑ってやがる

５３１：名無しのアブノーマル
　こいつ今なお性癖で動いてやがんな

５３２：名無しのアブノーマル
　その鋼の性根だけは恐れ入るわ

５３３：名無しのアブノーマル
　お、マスコミが再起動し始めたな

５３４：名無しのアブノーマル
　フレッドリーツの「質問をどうぞ」からたっぷり十分、記者の一人が手を上げる

５３５：名無しのアブノーマル

記者「ど、どうして三界の主である御方がたをそのように侍らせているのですか？」
フレッドリーツ「私が三股をしたからです」

５３６：名無しのアブノーマル
草

５３７：名無しのアブノーマル
草

５３８：名無しのアブノーマル
草生い茂る

５３９：名無しのアブノーマル
もう森なんよその回答は

５４０：名無しのアブノーマル
まず説明してフレッドリーツ？　どうして質問からさせるの？

５４１：名無しのアブノーマル
絶対性癖で動いてるからだゾ　現在進行系で気持ち良くなることしか考えてないゾ

５４２：名無しのアブノーマル
（一様に顎を落としてポカーンとするマスコミに爆笑する内心のフレッドリーツが）見える見える……

５４３：名無しのアブノーマル
他の健全板覗きながらこっちいるけどスレの加速と急停止の緩急が全部一致してて面白すぎる

５４４：名無しのアブノーマル
　他スレの阿鼻叫喚最高よな　それワイらも通ってきた道なんやで
＾＾

５４５：名無しのアブノーマル
　できることなら記憶を消して体験したかったくらい愉快な地獄

５４６：名無しのアブノーマル
　フレッドリーツの気持ちが今ならよく分かるわ　追い詰められた他人の無様さは絶頂に値する

５４７：名無しのアブノーマル
　まあほどほどにな　人様に迷惑をかけずひっそりと楽しむんやで

５４８：名無しのアブノーマル
　おお!?　ここにきて同行していた聖王様の親衛隊団長がぶっこんできたぞ!?

５４９：名無しのアブノーマル
　わんこ騎士ちゃん！　わんこ騎士ちゃんじゃないか！

５５０：名無しのアブノーマル
　親衛隊団長「三股とはどういうことですか!?　貴方は聖王様に一体何をしたんですか!?」
　フレッドリーツ「えー、私は魂を三分割した上でそれぞれを三界の主の下へ送り込んで肉体関係を築いていました」

５５１：名無しのアブノーマル
　フレッドリーツ「ヴァルガリエ麾下（きか）の宮廷科学者長フレッドリーツ・レアライヒ
　　エウラリア直属元親衛隊団長アウレリオス・ウォー

グレイラグ　　ネスキス第一の下僕筆頭執事ラスターハイル・ヴェイルマンズ
それ全部私です」

５５２：名無しのアブノーマル
フレッドリーツ「久しぶりだね、アマリリアス。元気にしていたかい？（アウレリオス声）」
親衛隊団長（アマリリアス・キルカ）「（絶句）」

５５３：名無しのアブノーマル
おい、わんこ騎士膝から崩れ落ちたぞ

５５４：名無しのアブノーマル
茫然自失　虚ろな目でフレッドリーツと聖王様見ながらぶつぶつ言ってる

５５５：名無しのアブノーマル
情報の暴力で殴られて精神崩壊してるのかわいそう

５５６：名無しのアブノーマル
今にも失禁しそうな勢いのわんこ騎士、正直興奮します

５５７：名無しのアブノーマル
聖王様、幸せそうに小さく手を振ってないで助けてあげてください……

５５８：名無しのアブノーマル
いやめっちゃ可愛いんだけどさ　わんこ騎士変な性癖に目覚めるぞそんなことしたら

559：名無しのアブノーマル
いつかここに来たら面白いよな　まっ、そんなことあるわけないけどな！

560：名無しのアブノーマル
聖王様の一声による反射行動で団長共々退陣した親衛隊のことはおいといて
次の質問をするやつはおらんのか？

561：名無しのアブノーマル
フレッドリーツの口からでる言葉が一々情報過密過ぎてほとんどがついてけてないね

562：名無しのアブノーマル
今の回答だけでもとんでもない大事件だからな　本来は

563：名無しのアブノーマル
神の摂理に逆らってるわけだからな……フレッドリーツは本当にやば過ぎるお方

564：名無しのアブノーマル
いっそもう敬称をつけるべきか？　女帝様とか聖王様とか娘ちゃんに倣って

565：名無しのアブノーマル
素直にイッチでええやん

566：名無しのアブノーマル
草　それもそうやな

567：名無しのアブノーマル

やーっとまた一人現実に帰ってきたよ　次の質問くるぞー

５６８：名無しのアブノーマル
記者「あ、あの……結局何があってあのような未曾有の事態が引き起こされたのですか……？」
フレッドリーツ「良い質問ですね。全ては私が死んで三股をなかったことにしようとしたのが原因です」

５６９：名無しのアブノーマル
草

５７０：名無しのアブノーマル
やめろ草

５７１：名無しのアブノーマル
ついに地獄の真実がまろびでる　草

５７２：名無しのアブノーマル
深淵の底を覗く準備はいいか？　大草原

５７３：名無しのアブノーマル
フレッドリーツ「端的に言うと、私は三界の主と三股をしている真っ最中に寿命が来てしまいました
寿命を伸ばすこともできたのですが、三股がバレる前に死んだ方がいいかなと思ったわけです
しかし結果は失敗　死んだ後に三股がバレて私は強制蘇生され、三界の主による奪い合いが始まりました
それが世界崩壊の危機に繋がったのです　これに関しては本当に申し訳ないと思っていますね
その後話し合いの場を持ち、私は三界の主と和解しました

責任をとって全員を妻に娶り、三界が統合された世界の王として君臨することとなったのです
以上が事の経緯ですね　他に何か質問はありますか？」

５７４：名無しのアブノーマル
草草の草

５７５：名無しのアブノーマル
「他に何か質問はありますか？」じゃねえんだよ馬鹿野郎　樹海降誕

５７６：名無しのアブノーマル
生い茂った草で前が見えねぇ

５７７：名無しのアブノーマル
これですら大分薄めたマイルドな表現というのが本当に草生える

５７８：名無しのアブノーマル
こんなんもう全世界革命レベルだよ　ふざけんなよイッチ　草

５７９：名無しのアブノーマル
もしイッチが殺されたら盛大に草を生やして祝ってやろう

５８０：名無しのアブノーマル
三界の主がバックについてる以上そんなことは有り得ないけどな

５８１：名無しのアブノーマル
さて、マスコミ及びＳＮＳ等の民衆の反応はどうだ？

５８２：名無しのアブノーマル
そりゃお前、この世に顕現した地獄ですよ

５８３：名無しのアブノーマル
さっきも書いたけど冷静さを保ててるやつが一人もいない

５８４：名無しのアブノーマル
世を儚んで自殺してる連中も多数いる模様

５８５：名無しのアブノーマル
まるでフレッドリーツが性癖達成自慢しに来た時のスレ民みたいだぁ

５８６：名無しのアブノーマル
まあ聖王様が自動蘇生してるんで誰も死ねないんですけどね

５８７：名無しのアブノーマル
つらい現実で生きなきゃいけない健全な人々かわいそうだね♡
もっと苦しんで♡

５８８：名無しのアブノーマル
ワイらは糞溜めの糞なんでな　悪いが楽しませてもらおう

５８９：名無しのアブノーマル
ＦＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯ!!!　尊厳破壊は気持ちいいＺＯＹ!!!

５９０：名無しのアブノーマル
全世界オナニーとか最高ですよ　性癖には合わんけど中々の心地よさ

５９１：名無しのアブノーマル
もっと楽しませてくれ　地獄で踊れ健全な人々よ!!!

５９２：名無しのアブノーマル
……ん？

５９３：名無しのアブノーマル
え？

５９４：名無しのアブノーマル
今この記者なんて言った？

５９５：名無しのアブノーマル
記者「信用できません」

５９６：名無しのアブノーマル
Ｗｈａｔ？

５９７：名無しのアブノーマル
信用できないって……なに言ってだてめぇ

５９８：名無しのアブノーマル
三界の主が認めてるのが最高の信用だろうがよ　それ以上があるか???

５９９：名無しのアブノーマル
あまりの現実に頭イカれたのかもしれんな……

６００：名無しのアブノーマル
……んん!?

６０１：名無しのアブノーマル
はぁっ!!??

602：名無しのアブノーマル
正気かこの記者!?
!!??!
!!

603：名無しのアブノーマル
記者「信用できません！　我々は確かな情報を得るべく、今この場での三股の再現を要求します!!!
!!!」

604：名無しのアブノーマル
記者「具体的にぐっちょりと！　ええねっちょりと！　カメラの前でヤッてください!!!
!!」

605：名無しのアブノーマル
はあああああああああああああ～～～～～～～っっっっ
!!??!?
!!

606：名無しのアブノーマル
マジで狂ったんじゃないか???　そんな要求飲むわけないだろうが

607：名無しのアブノーマル
いくらイッチでも最低限の常識は弁えてるんやぞ　三界の主は言わずもがな

608：名無しのアブノーマル
フレッドリーツ「分かりました　ヤります」

609：名無しのアブノーマル
ファッツッツ!!
!!??!?!
!!??

610：名無しのアブノーマル
おいっっっ!!??　イッチィッツッツ!!??!?
!!

611：名無しのアブノーマル
何いそいそと服脱ぎだしてんだてめえは!!! お前までおかしくなるんじゃねえよ!!!

612：名無しのアブノーマル
何だよコレ……意味分かんねぇ……なんでマスコミ全員が賛同してるんだ……？

613：名無しのアブノーマル
他スレもSNSもやべぇ ヤれ！ ヤれ！ の大合唱……

614：名無しのアブノーマル
何だよそれ 有り得ねえだろ だってそんなの……

615：名無しのアブノーマル
……アブノーマル板みたいじゃねえか……

616：神
フフフ……

617：名無しのアブノーマル
!?

618：名無しのアブノーマル
神ィ!?

619：神
ウフフフフフ……
フハハハハハ……
アーッハッハッハッハッハッ！

６２０：名無しのアブノーマル
何しに来やがったてめぇ!!!

６２１：神
あへええ!!!!!!!!!!

６２２：神
……ふぅ
騒ぐことはありません　愛しい我が子たちよ

６２３：神
これもすべて我が計画の内……
私の世界は今この時をもって、ようやく完成を迎えるのです！

６２４：名無しのアブノーマル
なっ……

６２５：名無しのアブノーマル
Ω　ΩΩ＜　ナンダッテー!!!

６２６：名無しのアブノーマル
まさか、神!?　何かやらかしたのか!?

６２７：神
あひょっひょひょひょひょひょおっへええええええええええええええええええええ!!!!!

６２８：神
……ふぅ
その通りです　今をもって私は権能を解放し、すべての子供たちか

ら自制心を解き放ちました

６２９：名無しのアブノーマル
!?

６３０：神
知性体は皆、内に秘めたる性癖を持つもの……私がそのように創ったのです、例外はありません
この楽園を認識できる子は、より強い性癖を持つというだけのこと……貴方たちとそれ以外の子を別つのは、ただ性癖の強弱に過ぎないのです

６３１：名無しのアブノーマル
マジかよ……

６３２：名無しのアブノーマル
そんな事実初めて知ったゾ……

６３３：名無しのアブノーマル
……って、じゃあまさか、お前の目的は!?

６３４：神
おほっおほほおおおおおおおおおおおおのぉほほぉのほぉおおおおおおおおおおおお!!!!!

６３５：神
……ふぅ
貴方の知性が導き出した答え、正答ですよ
そう、私の目的は最下級天使であった頃からただ一つ――
――あらゆる性癖が許される世界、性癖世界セクシャリアンドラウンズの創造だったのです!!!

６３６：名無しのアブノーマル
ばっ……!!!

６３７：名無しのアブノーマル
バカかよ神ぃ!!!　お前そんなことのために世界創ったのかよ!!??!?

６３８：神
その通りですよ？　というか他に世界を創造する理由がありますか???

６３９：名無しのアブノーマル
いやそれは創造神のお前の自由だけどさぁ……!!!

６４０：名無しのアブノーマル
やめてくれよ……やめてくれよ……!!!

６４１：名無しのアブノーマル
昔てめぇの創世神話聞いた時すら吐きそうだったのにもう頭メチャクチャだよ!!!!!

６４２：名無しのアブノーマル
どうしてくれんだよ!!!　そんな世界嫌だぞ俺ら!!!!!

６４３：神
おや、なぜですか？
性癖世界ではあらゆる性癖が許されます　当然、貴方たちが苦しみ、向き合ってきた性癖であろうとも……
それが楽園でなくて、何が楽園だというのでしょう？

６４４：名無しのアブノーマル

馬鹿野郎!!!　俺たちはなぁ、ひた隠しにしてるからこそ気持ち良いんだよ!!!!!

６４５：名無しのアブノーマル
誰にも認められないからこその快楽があるんだ……!!!　バレたら一巻の終わりだからこそ、瞬間瞬間を必死に生きていられるんだ!!!

６４６：名無しのアブノーマル
全員が変態の世界なんか望んでねぇ!!!　俺たちは、健全な世界でこそヘドロの底で輝けるんだよおおおおおおおおっっっ!!!!

６４７：神
おや、まあ……フフフ　とても良いですね

６４８：神
私の創りし子どもたち　私の力を超えないけれど、いつだって想定を上回ってくれる……

６４９：神
だからこそ知性は面白く、愛おしい……創造主として、これ以上の快楽はありません
みんな、立派になりましたね……

６５０：名無しのアブノーマル
うるせぇ!!!!

６５１：名無しのアブノーマル
今創造神面するな!!!　欠片も敬えねえんだよ!!!!!

６５２：名無しのアブノーマル
早く戻せよ!!!　世界を戻せ!!!　俺たちの世界を返してくれ!!!

６５３：神
　それは嫌ですね　せっせと種を蒔き、大切に育ててきた世界がようやく実を結んだのですから
……おや？　フフフ、抗うのですねヴァルガリエ　流石は私の最高傑作です

６５４：名無しのアブノーマル
　なにっ!?

６５５：名無しのアブノーマル
　おい見ろ!!!　女帝様が!!!

６５６：名無しのアブノーマル
　苦しんでおられる……!!!　けれど聖王様と娘ちゃんの三人でフレッドリーツを止めてる……!!!

６５７：名無しのアブノーマル
　抗ってるんだ、三界の主も!!!　こんな世界は認めないって……!!!

６５８：神
　ああ、エウラリア　ネスキス　もはや、私の権能が完全に届くことはありませんか
　そして、フレッドリーツ　貴方もまた抗うのですね　その知性をもって……
　ああ……すごく興奮してきました　ちょっと席を外します

６５９：名無しのアブノーマル
　一生帰ってくんなやこのダメ神が!!!

６６０：名無しのアブノーマル

イッチもか!?　あのフレッドリーツですら、性癖に振り回されまいとしているのか!??

661：名無しのアブノーマル
当たり前だろ……!!!　フレッドリーツにとって、イッチにとってはそれがすべてだったんだからな!!!

662：名無しのアブノーマル
なら……俺たちがやるべきことは、一つだけだ……!!!

663：名無しのアブノーマル
何だ!?　何か手があるのか!?

664：名無しのアブノーマル
――神を、倒す……!!!!!

665：名無しのアブノーマル
!?

666：名無しのアブノーマル
ほ、本気か!??

667：名無しのアブノーマル
もうそれしかねぇ……狂っちまったこの世界を戻すには、神を倒して戻させるしかねぇ……!!!
やるんだよ!!!　俺たちで!!!　健全な世界を取り戻すんだ!!!

668：名無しのアブノーマル
で、でもどうやって!?

669：名無しのアブノーマル

神はクソ雑魚ナメクジだ!!!　俺らが必死に考えて知性的レスをすれば耐えきれずにアヘるはず!!!

６７０：名無しのアブノーマル
そうか!!!　神を屈服させるのか!!!　さながらイッチがやったように!!!

６７１：名無しのアブノーマル
うおおおおおおお……滾るぞ、滾ってきたぞぉ!!!

６７２：名無しのアブノーマル
すごい一体感を感じる　今までにない何か熱い一体感を
風……なんだろう吹いている確実に、着実に、俺たちのほうに

６７３：名無しのアブノーマル
やってやろうじゃねえか!!!　神を屈服させ、健全なる世界を取り戻す!!!!!

６７４：名無しのアブノーマル
聖戦だ!!!　いや性戦だ!!!　神のクソ野郎に一発かましてやろうぜ!!!!!

６７５：神
戻りましたよー　とっても気持ちよかったです

６７６：名無しのアブノーマル
来たな神ィ!!!

６７７：名無しのアブノーマル
俺らの変態力を見せてやる!!!

６７８：神
おやおや……フフフ　そう来るのですね

６７９：神
いいでしょう　来なさい、愛しい我が子たちよ

６８０：神
我が身を堕とし、辱め、意のままに力を振るいなさい
我が子たちよ……今こそ、私を超える時です……！

６８１：名無しのアブノーマル
おぅよ!!!

６８２：名無しのアブノーマル
やってやろうじゃねえか!!!

６８３：名無しのアブノーマル
とりあえず三レスでアへれ!!!　この神野郎!!!

６８４：神
フフフ……

６８５：名無しのアブノーマル
!?

６８６：名無しのアブノーマル
ば、馬鹿なっっっ!?!!!??!!

６８７：名無しのアブノーマル
そういえば途中から、アへってねえ!!!

688：神
侮りましたね　私も日々進化するのです
もう即堕ちなんてしませんよ　さあ、思う存分知性をぶつけて来なさい！

689：名無しのアブノーマル
1たす1は2いいいいいいいいいいい!!!!!

690：神
あへえええ!!!!!

691：名無しのアブノーマル
即堕ちしてんじゃねーか!!!!!

692：神
……ふぅ
今のはちょっと油断しただけです　もう私に隙などありません
持てる限りの知性を尽くしなさい　でなければ私に勝つことはできませんよ？

693：名無しのアブノーマル
……おい、お前ら

694：名無しのアブノーマル
ああ、分かってる　やるぞ

695：名無しのアブノーマル
見せてやるよ神　俺たちの知性の力をな

696：神

フフフ　それは楽しみです

６９７：名無しのアブノーマル
１たす１はぁ――――

６９８：神
またですか？　それはもう克服しましたよ

６９９：名無しのアブノーマル
――田んぼの田アッッッ!!!!!
!!??!?!?!?!!!???!?!!???!?!!??!!??

７００：神
♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡

・・・・

こうして、私は子どもたちに敗れることと相成りました。
ああ、あんなにもたくさんの子どもたちから知性責めされるなんて……これは永久保存版ですね。何度でも楽しめそうです。

非常に残念ですが、性癖世界セクシャリアンドラウンズの創造は防がれました。私は権能を用いてすべてを戻し、元の世界へと回帰させたのです。

まあ、諦めたわけではありませんから、機会があればまたやりましょう。フフフ……その時、私が勝つのか敗けるのか。今から楽しみですね。

おっと、これは失礼を。それでは事の顛末を話しましょうか。

今回の話の主役であるフレッドリーツ・レアライヒは、無事に我が世界の王となりました。

今は王としての政務に勤しんでますが、ヴァルガリエにダル絡みされてますね。

おや、エウラリアが注意しに来ました。フレッドリーツの頭越しに険悪な空気です。まあ、それもフレッドリーツの一撫でで沈静化するのですが。

ネスキスは可愛らしいですね。ドサクサに紛れてフレッドリーツの膝に陣取っています。ちゃんと政務を手伝って理由付けしている辺り、強かですよね。

ああ、フレッドリーツ。ハーレムとは苦難の道、私の最高傑作たちを御するのはさぞ骨が折れることでしょう。

けれど、今の貴方は本当に幸せそうです。それを私は、心から祝福いたしましょう。

フレッドリーツ・レアライヒ。私の目的のため、最高の頭脳を与えし傑作よ。

貴方はその性癖に苦しみながらも生き抜き、性癖を貫き、ついには幸福を手にしました。

いつしか私もそうなりたいものです。この願いは、今は秘め……静かに貴方たちを見守りましょう。

さあ、皆様。これにて終幕でございます。

語り部は今は名もなき世界の神、ユラウツァバクがお送りいたしました。

不思議ですか？　フフフ……私ですら見通せぬ掲示板を見れたで

しょう？　すべての物事には理由があるのです。
いつの日かまたお会いしましょう。その時は、貴方がたの世界の話をお聞かせください。
異なる世界の貴方がたが築きし性癖の話……是非とも、お待ち申しております。
それではご静聴、ありがとうございました――――

おまけ

【煌天女帝】の憂鬱

妾は激怒した。

必ず彼の主様♡　婬虐暴戻（いんぎゃくぼうれい）の輩に反逆してやろうと誓った。

……まあ、別にどうということはない。

今日は妾の日であったのに、主様♡　が小娘を優先させたのがすべて悪いのじゃ。

「はぁ～～～……つまらん。つまらんのう……お前様♡　のおらぬ景色は、すべてが色褪せて退屈じゃ……」

主様♡　のおらぬ執務室にて、妾は主様♡　の椅子に腰掛けてグレておった。

できることと言えば、主様♡　の私物を手慰みに弄ぶ程度……流石に使いはせんがな。妾はあの女のように特殊な趣味はあらぬ。

「退屈そうですね、ヴァルガリエ。今日も平和そうで何よりです」

噂もせぬのにひょっこりと顔を出したのはあの女じゃ。妾は一瞥をくれてやることもせず、ギシリと椅子にもたれかかった。

「何の用じゃ、エウラリア。妾は見ての通り機嫌が悪い。貴様の座興に付き合う暇はないぞ」

「まあまあ、そう尖らないでくださいな。旦那様♡　の気紛れに振り回される者同士、たまにはお茶でも飲み交わしましょう。ちょうど良い茶葉が手に入ったのですよ」

「いらぬ。失せよ」

「お菓子も用意しましたからね。少々お待ち下さい」

「……」

勝手にテーブルで茶の用意を始めた女を無視する妾じゃったが、何が楽しいのか女はニコニコ笑っておる。

……そういえば対等に付き合える相手が欲しかったなどと言っておったな。茶の用意を終えて妾が来るのを待っている女の笑顔に根負けして、ため息を吐きながらも妾は付き合うことにした。

「……ん。美味い。その腕だけは認めてやろう」
「ありがとうございます。フフッ……貴方とこんな穏やかな時間を過ごす日が来るなんて、分からないものですね」
「……じゃな」
それだけを交わして、しばし静かな時間が流れる。気に入らぬが、茶も菓子も確かに美味い。行き場のない怒りがゆっくりと解されていくのを、妾は感じておった。
「……して、何用か。まさか妾と茶を飲みたいがためにわざわざ来たわけじゃなかろう？」
「え？　それだけですが、何か？」
「……」
きょとんと首を傾げる女をジト目で睨んで、妾は憮然と言葉を続ける。
「主様♡　に蔑ろにされた妾の愚痴に付き合っても良いのではないかと聞いておるんじゃが」
「ああ、そういうことですか。ええ、構いませんよ。これを機に旦那様♡　への不満を思いっきり愚痴りましょう♪」
やけに楽しそうな女を付き合わせる形で、妾はダラダラと不満を述べる。
すると出るわ出るわ、主様♡　の至らぬ部分。妾たち三人でハーレムを築いて数ヶ月、問題点なんぞ挙げれば切りがない。
「全く、本当に主様♡　には困ったものじゃ。今日は妾の日であろうに、事もあろうかネスキスを優先するなぞ。いくら記念日じゃと言っても、小娘に言わせれば毎日が記念日じゃろうが」
「本当にその通りです。私もつい先日順番を飛ばされてしまいました。ひどい話ですよね、おかげで欲求不満です」
「それはお主が配信とやらをしておるネスキスの部屋に母親面で入って余計なことをしまくったせいじゃろうが」
「そういう貴方こそネスキスが「パパ♡　と一緒に食べるんだー♪」と楽しみにしていたケーキを根こそぎ平らげた罰じゃないですか」
「……」

「……」
「……この話はやめておくか」
「ですね。不毛な気がします」
お互いに誤魔化すように茶を含み、妾はエウラリアへ問いかける。
「それでお主、いい加減妾たちと共にする奉仕には慣れたのか？」
「え？　全く慣れませんよ？　だって旦那様♡　にはとても興奮しますけど、貴方たちは全然子宮に響かないんですもの」
「で、あるか。仮にも三界の主と呼ばれた妾たちの肉体美に反応せんとは、狂った奴じゃのう」
「あ、それいいです♡　言葉責めなら大歓迎ですよ♡」
「……本当にどうしてこうなってしもうたのか……」
口癖のような罵倒で頬を染めるエウラリアに妾は嘆息する。
エウラリア・カリエントゥス。こやつとは長い付き合いじゃ。幾度となく妾の邪魔をされ、幾度となく戦場で爪を交えた。
品行方正、清廉潔白が趣味の気色悪い女。妾には到底理解できない神への信仰心で動く女であったが、こうして共に暮らしてみると増々分からなくなった。
『ヴァルガリエ？　興奮してるのは分かりますけど、本当に趣味じゃないんですよ』
『えぇー。嫌ですって。キスくらい構いませんけど、貪るようにされるのはちょっと』
『分かりました、分かりましたから。旦那様♡　少々お待ち下さいね♡』
以前、主様♡　と三人で褥（しとね）を共にした時のエウラリアの台詞がこれじゃ。
妾ですら興が乗った時はエウラリアやネスキスの美しい肢体に思わず欲情してしまうというのに、こやつの冷めた態度と言ったらひどいものじゃった。
その後は淡々と、冷静に、流れ作業のように妾へ指を伸ばしてきおった。あの時の屈辱、忘れておらぬからな……おかげで癖になってしもうて主様♡　にこっそり事務プレイを要求したのは内緒じゃ。

「はぁ～～～……やめじゃややめじゃ。いくら愚痴を言ったところで、根本的な解決にならん。征くぞ、エウラリア」
「おや。どちらへですか？　ヴァルガリエ」
「決まっておろう。主様♡　の処にじゃ」
茶を飲み干して立ち上がる妾に、エウラリアは苦笑する。
「今日はもうネスキスの番じゃありませんか」
「口実なんぞいくらでもあるじゃろう。小娘の企んだ悪行を見逃した数、よもや指を折る程度で賄えると思うておるのか？」
「まあ、そうですね。私もそろそろ我慢の限界ですし、ここは旦那様♡に存分に苦労して貰いましょうか♡」
指を振る仕草で茶会の始末をしたエウラリアは、妾に迷わず賛同した。
妾たちは確かに規律を定めたが、結局はこうなると決まっておる。主様♡　と同じように己が欲望に突き動かされる妾たちは、迷わず主様♡　の元へ突撃したのじゃ。
勿論、それを小娘が許すはずもなく、軽く世界が崩壊しかけたのじゃが……主様♡　を怒らせてしまった妾たちのその後は、語るべくもないじゃろう。